

ベキ金額ハ、合計四億六千三百萬圓ト相成ルノデアリマス、更ニ大正十年度中ニ償還期限ガ到著
 ラシテ、借換ヲ要スルモノヲ合セテ三億七千二百萬圓ニ及ブ、之ヲモ相合シマスレバ大正十年度ニ
 於テ公債ヲ募集シ若クハ借換ヲシナケレバナラヌ金額ハ、八億三千六百萬圓ト相成ルノデアリマ
 ス、大藏大臣ハ當議場ノ御演説ニ於テ、十年度ノ豫算ニ於ケル公債募集ハ、金融市場ヲ壓迫スルガ
 如キ虞ナシト明言セラレテ居リマスガ、併シ此八百萬圓ノ公債ガ左様ニ容易ニ募集シ得ラル、デ
 アリマセウカ、尤モ此中借換ニ屬スル三億七千二百萬圓ダケハ姑ク之ヲ除イテ見ル、サウスルト
 其差引ノ高ハ四億六千三百萬圓、此四億六千三百萬圓ヲドウスルノデアリマスカ、臨時軍時費ニ
 屬スルモノハ必要ニ應ジテ、借入又ハ公債ニ依ルノデアルカラ、新ニ發行スル公債ノ中ニハ加ヘ
 ナイデモ宜イヤウナ議論ガゴザイマスガ、併シ此臨時軍時費ノ狀況ハ、今日如何ヤウニナッテ居ル
 カ、大正三年九月カラ大正十年三月マデノ豫算總額、臨時軍時費ガ七億四千二百八十五萬二千九
 百五十七圓デアッテ、大正九年十二月マデノ仕拂命令發行濟ニナリタル金額ハ、六億二千四百三
 十五萬八百九十八圓デアリマシテ、差引仕拂命令發行ノ未濟額ガ、一億千八百五十二萬二千五
 九圓ニ相成ッテ居ルノデアリマス、是ハ臨時軍時費ノ現在ノ計算デアル、今日デモ約六千萬圓許リ
 ハ一般會計デ立替ヲシテ居ルノデアアル、此一億千八百萬圓ト云フ未濟額ハ、本年三月マデノモ
 デゴザイマスカラ、此六千萬圓許リノ立替金ト共ニ、是ハ何時マデモ長ク未拂ノ儘デ放任シテ置
 クコトハ出來ナイ勘定ニナラウト思フ、大正十年度分ノ一億圓ハ姑ク是ハ仕拂延期ガ出ルト致
 シマシテモ、八年度分九年度分ノ未拂ノ分ニ對シテハ、是ハ恐クハ大正十年度内ニハ、必ズ公債
 ヲ募集シナケレバナラヌ結果ニナルデアラウト思フ、サウシテ見マスナラバ、大正十年度ニ於ケ
 ル一億萬圓ダケハ假リニ之ヲ延期スルト見テモ、公債ノ募集スベキ金額ハ、大正十年度ニ於テ二
 億六千萬圓ト云フコトニ相成ルノデアリマス、一億萬圓ヲ除イテ見テモ三億六千萬圓ト相成ル
 ノデアリマス、大正九年度ニ新ニ發行セラレタル公債ノ金額ハ、大藏大臣ノ御報告ニナリマシタ
 如ク二億三千五百萬圓、大正九年度スラモ一億三千五百萬圓ニ止ッテ居ル、新ニ募集シタル公債ノ
 金額ハ三千五百萬圓ニ止ッテ居ル、然ルニ大正十年度ニ於テハ、大正九年度ヨリモ一億三千萬圓許

リモ多額ナル公債ヲ募集シナケレバナラヌト云フコトニナリスマレバ、之ガ果シテ容易ニ出來ル
 デアリマセウカ、私ハ今日以後ノ財界ヲ想像シテ、全ク無算當無計畫デアルト斷言スルノデアアル、
 成程不景氣ノ時代ニ銀行ノ預金ナドガ頗ル多イト云フコトヲ奇貨トシテ、利廻リノ好イ公債ヲ
 募集スルコトニ相成リマスレバ、一時ハ之ヲ募集シ得ラレルコトハアリマセウ、併シ是ハ其實全
 ク變態的ノ現象デアアル、經濟社會ニ資金ノ需要ガ起ツタ場合、其需要ニ應ズルコトガ出來ナイヤ
 ウナ境遇ニ陥ルコトガアリマシタナラバ、是ハ即チ經濟界ノ壓迫ニ外ナラヌデアリマセウカ、
 大正九年度ニ於テモ、公債募集ノ爲メニハ確ニ財界ニ對シテハ直接間接ノ壓迫ヲ感ゼシメテ居
 ル、少クトモ財界安定ノ妨害ヲ爲シテ居ルト私ハ思フテ居ルノデアリマス、大藏大臣ハ大正九年
 中ノ地方債ヤ社債ヲ募集シタ、成績ヲ擧ゲラレテ、更ニ株式拂込二十一億圓ト云ヘル金額ヲ高唱
 セラレテ、國民ノ實力ハ斯様デアアルカラ、大正十年度ノ公債ノ募集ハ、決シテ困難デナイト結論
 ヲシテ居ラレルノデアリマスケレドモ、元來大正九年度中ノ株式拂込ト云フモノハ、是ハ全ク前
 年若クハ前々年カラ持越シタ所ノ、經濟上ノ一ノ反照デアルト同時ニ、現ニ今日ニ於テハ、事業
 會社ガ日ニ月ニ倒レテ行クト云フコトハ、吾々ノ眼ニ映ジテ居ルノデアリマス、唯ダ一部株式拂
 込ガ多カッタト云フ一ツノ反照ノ此現象ヲ捉ヘ來ッテ、此事實ガアル以上ハ、將來又頗ル安全デア
 ルト言ハル、ニ至ッテハ、私ハ實ニ大藏大臣ノ常識ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、更ニ之ニ
 關シテ將來ノ公債政策ヲ如何ニスルカト云フ問題ニ就キマシテハ、大藏大臣ハ全ク要領ヲ得タ
 ル御答ヲナサラナイ、我黨ノ濱口君ガ本會議並ニ豫算會議ニ於テ質問ヲ致シテ居ラレル其趣意
 ハ、今後五年間大正十四年マデヲ通ジテ、償還期限ニ到達スベキ公債ガ九億八千六百萬圓、ソレ
 カラ臨時國庫證券ノ整理ヲ要スルモノガ五億三千三百萬圓、而シテ十年度ニ募集スベキ公債四
 億六千萬圓ヲ合セテ、合計十九億八千三百萬圓、是ガ大正十四年度迄ニ整理ヲ要スル公債ノ金高
 デアル、而シテ此外ニ年々二億五千萬圓位ヲ公債募集ヲスルトスレバ、大正十四年度迄ニ新ニ
 十億ノ公債ヲ募集シナケレバナラヌ、整理ヲ要スルモノ約二十億圓、新ニ募集ヲ要スル公債約十
 億圓、此整理ノ方法ヲ如何ニスルカ、逆モ現金償還ナドハ思モ寄ラヌコトデゴザイマスカラ、大

藏大臣トシテハ、此整理ノ方法ニ就テ一ツノ御考ガナケレバナラヌ、是ガ濱口君ノ御尋ノ要領デアッタノデアリマス、大藏大臣ガ本議場ニ於テ答ヘテ居ラレル、私ハ大藏大臣ノ答ヲ讀上ケル「將來ハ困難デアアル、將來ハ困難デアアルト云フコトハ、同感デアアル」全ク此公債ノ整理ガ頗ル困難デアアルト云フコトハ、吾ミト御同意ノ意見ヲ持ッテ居ラレル、流石ニ大藏大臣モ此公債ノ整理ニ就テハ、將來洵ニ行詰ルデアラウト云フコトハ御承知デアアルノデアリマスガ、併シ之ニ對シテハ當局者ノ責任トシテ、之ヲ如何ニスルカト云フ一ツノ方策ガナケレバナラヌ等デアアル、其方策ナシト致シマスレバ、矢張財政ノ基礎ガ破壊セラレルト云フコトヲ默認スルニ陥ルデアアリマセヌカ、尤モ大藏大臣ハ此公債ノ整理ニ關シテ、何カ別ニ名案デアアルガ如クニ言ハレタノデアリマス、本議場デア述ベラレナイガ、一ツノ案ガアルト云フコトヲ言ハレタノデアリマス、併シ結局何等ノ御名案モ無イ、御名案ガ無イト云フコトハ、豫算委員會ニ於テ質問應答ノ結果洵ニ明ニナッテ居ルノデアリマス、唯ダ一ツ大藏大臣ノ御言葉ノ中ニ、短期ノ公債ヲ長期ノモノニ乗替ヘルト云フ斯ウ云フ御言葉ガアッタ、是ガ大藏大臣ノ一ツノ御名案デアアルカモ知レヌノデアリマス、併シ私ハ是ニ於テ大藏大臣ニ申ス、四十二議會ノ當時大正九年ノ二月デアリマス、豫算委員會ニ於テ大藏大臣ガ言ッテ居ラレル、「長期ノ公債ニ乗替ヘルト云フコトハ、頗ル困難デアアル、若シ強テ長期ノ公債ニ乗替ヘルト云フコトニナレバ、利息ハ一割以上一割五分位ヲ拂ハナケレバナリマセヌ」斯ウ云フコトヲ言ッテ居ラレルノデアリマス、サウシテ見ルト、大藏大臣ノ御名案ト云フモノハ、長期ニ乗替ヘタ公債ニ向ッテ高イ利息ヲ拂フト云フコトガ、大藏大臣ノ御名案デアアルカモ知ラナイ、洵ニ驚クベキ御名案デアアルト謂ハナケレバナラヌノデアリマセヌカ、國家ノ前途ヲ念ハズ、國民ノ利害休戚ヲ念ハザルノ甚シキモノト私ハ斷言スルノデアリマス、斯ウ云フ間違ッタ考ヲ以テ、大切ナル財政計畫ヲ立テ、行カウト云フノデアリマス、吾ミハ斷ジテ此無責任、此無誠意ヲ詰責セズシテ已マナイノデアリマス、斯ノ如ク歳入豫算ニ關シテハ、全ク無責任ナル計畫ヲ立テ、居ラレルノデアリマスルガ、儲テ一方歳出ハドウ云フ鹽梅ニナッテ居ルカ、是ハ又洵ニ放漫ヲ極メテ居ルノデアリマスルカラ、將來ニ對シテハ、益、大ナル危険ヲ包藏スルコトニナッ

テ來ル、歳入ヲ過大ニ見積ッテアルト同時ニ、其割合ニ歳出ナルモノハ、寧ロ過小ニ見積ッテアルノデアアル、將來ニ於ケル膨脹ヲ抑制スルト云フ策ヲ執ラナイノデアリマスカラ、此前途ニハ洵ニ憂慮スベキモノガ多クアルノデアリマス、此前途ノ危険ト云フコトニ對シマシテハ、私ハ爰ニ財政計畫表、即チ大正十年度以降ノ此歳入歳出ノ概計表ニ就テ、議論ヲシナケレバナラヌノデアリマス、簡單ニ申シマシテモ、此十一年度以降ノ歳出ノ中ニハ、先ヅ第一ニ物價騰貴ニ基ク經費ノ増加ト云フモノガ、殆ド計算ノ外ニ置カレテ居ルノデアリマス、物價ハ下落スルデアラウト云フノガ政府ノ此見込ラシイノデアアル、併シ或程度マデハ下落スルコトガアルト致シマシテモ、十年度以降ノ財政計畫ヲ立テルニ當ッテ、物價騰貴ノ經費ト云フモノヲ見積ッテナイト云フニ至ッテハ、如何ニモ杜撰極マルデアナイカ、假令物價ガ或ル程度マデ下落シマシテモ、既ニ増加シタル經費ノ中ニハ、ドウシテモ之ヲ減ズルコトガ出來ナイノデアアルノガ當前デゴザイマスカラ、此計畫以上ノ十一年度以降歳出ノ膨脹スルト云フコトハ、無論明ニ判ッテ居ルコトデアリマス、現在ヲ以テ將來ヲ推シテ見マシレバ、一例ヲ舉ゲテ申ス、繼續費ノ中デ、唯ダ一ツノ軍艦製造費ノミニ就テ申シマシテモ、十一年度以降ニハ、物價騰貴ノ爲メニ多キハ一億五千萬圓、少クトモ一箇年七八千萬圓ノ増加ヲ要スルト云フコトハ、之ヲ想像スルニ難カラヌノデアリマス、乃チ其外ニ於テモ新規ノ事業ガ加ッテ參リマスレバ、歳出ノ増加ト云フコトハ之ヲ否認スルコトハ出來ナイノデアリマス、幾ラ少ナク見積ッテモ、一億五六千萬圓ノ歳出ノ増加ト云フコトハ、之ヲ認メナケレバナラヌニ拘ラズ、概計表ノ中カラ全ク此歳出ノ増加ノ計算ハ、取除イテアルノデアリマス、行政整理ヲ行フ、財政ノ大整理ヲ行フト云フ御意見ガアルナラバ、格別デアリマスガ、此財政計畫ノ立方ハ全クヤリ放シデアアル、ソレデアアルカラ將來ノ歳出入ノ不均衡ハ、愈、甚シクナッテ來ルノデアリマス、歳入豫算ガ愈、不確實デアアルト同時ニ、歳出ノ豫算ガ斯ノ如ク不確定デアアルト致シマスレバ、我が財政ノ前途ハ洵ニ危険甚シキモノト謂ハナケレバナラヌデアリマセヌカ、概計表ニ依ッテ見マシテ、十一年度ノ歳入不足ノ金額ガ是ハ、收入ガ不足スル——歳出ニ比較シテ不足スル金額ハ五千八百萬圓、十二年度ニナレバ二千萬圓、十三年度ニナレバ一千四百萬圓ト云フ計算ニナッテ居ルノデアリ

マス、併シ之ニ對シテ唯今申ス一方ノ歳出増加ノ見込額、一年七八千萬圓乃至一億五千萬圓ヲ加算シテ見ナケレバナラヌ、忽チ大正十一年度ニ於テハ一億七八千萬圓ノ不足ヲ生ズルト云フコトハ、洵ニ明デアリマス、大正十四年度ニ至レバ一寸此表ヲ見レバ十四年度ニハ五百幾十萬圓ノ餘裕ガ生ズル、十五年度ニハ四百幾十萬圓ノ餘裕ガ生ズルト云フコトニナツテ居リマス、是モ矢張歳入ノ増加ハ見積ッテ居ラス、一ツ私ハ例ヲ申シマス、海軍ニ要スル軍艦ノ補充費ノ如キモノハ、當然財政計畫ノ中ニ加ヘテナケレバナラヌニ拘ラズ、此軍艦ノ補充費ノ見積ハ全ク此既計表カラ除カレテ居リマス、大藏大臣ニ之ヲ質問スレバ、ソシテ私ハ知ラナイト言ッテ居ル、全ク無責任ノ極ト私ハ思フノデアリマス、惟フニ大正十三年以降ハ、此軍艦ノ補充費ノミニ就テモ一箇年ニハ三千万圓以上ノ増額ヲ要スルト云フコトハ、今日デハ明ニ之ヲ認メルコトガ出來ルノデアル、然ルニモ拘ラズ斯様ナル無算當ナル財政計畫ヲ立テ、之ガ十一年度以降ノ財政計畫デアルト稱ス、尤モ大藏大臣ハ、嘗テ此表ハ有害無益デアルト言ハレタノデアリマス、自分ガ表ヲ作ッテ置イテ、此表ハ有害無益ダト言フノデアリマス、此點ニ就テモ大藏大臣ノ誠意ナキコトヲ證據立テルコトガ出來ルト思フ、即チ將來ニ於キマシテ歳出ハ愈々増加スル傾ガアル而シテ歳入ハ愈々減少スルト云フ結果ニナルノデアリマスカラ、如何ニシテモ此財政ノ按排ヲスル上ニ於テハ、二進モ三進モ行カナクナルト云フコトダケハ明デアル、大藏大臣ハ此事ニ關シテ豫算委員會デ國民黨ノ大口君ノ質問ニ對シテ答ヘテ居ラレル如何ニモ、行詰ルト云フコトハ御認メナツタヤウデアリマス、ソレヲドウスルカト云フ質問ニ對シテ大藏大臣ノ御答ハ頗ル曖昧デアアリマスケレドモ、或ハ事業ノ繰延ヲ行ハナケレバナラヌカモ知レナイト云フ御言葉ガアル、或ハ増収ヲ圖ラナケレバナラナイカモ知ラナイト云フ御答ガアル、流石大藏大臣モ此點ニ於テハ本音ヲ吐イテ居ラレルト私ハ思フノデアリマス、事業ノ繰延ヲ行フト云フヤウナコトハ、流石ハ御殊勝ノコト、私ハ存ズルノデアリマスガ、併シ此上増稅ヲ行フト云フ御考ガアリマスレバ是ハ洵ニ由々シキ大問題デアル、此上更ニ公債ノ募集金額ヲ殖スト云フ御考デアラナラバ是モ亦由々シキ財政上ノ大問題デアル、大藏大臣ノ御答辯ハ追窮スレバ追窮スル程判ラナクナルノデア

リマス、先ヅ要領ヲ掴メバ左様デアッタ、是ハ愈々以テ無謀ノ甚シキモノデハゴザイマスマイカ、全ク財政ノ前途ノ行詰ト云フコトヲ自白シテ居ラル、ノデアリマス、尤モ更ニ之ヲ詰責スレバ大藏大臣ハ相變ラズ逃ヲ打ツテ、イヤ將來ノ事ハ判ラヌ、ソレハ其時ノ事ダト云フ意味ヲ御答ニナツテ居ルノデアリマス、斯ウナツテ見レバ愈々以テ大藏大臣ノ誠意ヲ疑ハザラ得ナイ、大藏大臣ノ責任上ソレガ御尤デアルト申上ゲルコトガ出來ルノデアリマセウカ、私ハ一月二十三日ニ於ケル本議場ノ大藏大臣ノ演說ヲ更ニ此所デ朗讀セザルヲ得ナイ、其御演說中ノ一節ニ「大正十年度豫算ノ編成ニ關シテハ時恰モ戦後ノ反動時機ニ際會致シマシタガ故ニ、當ニ目前ノ豫算編成ニ就テ填重ナル注意ヲ要スルノミナラズ、將來ノ財政計畫ニ對シマシテモ今日ニ於テ深甚ナル考慮ヲ費ヤサネバナラス次第」云々、將來ノ財政計畫ニ就テ深甚ナル考慮ヲ拂フ又大藏省ガ示サレタル豫算編成ノ中ニ、ハッキリ書イテアリマス「政府ハ專ラ將來ニ於ケル財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルヲ念トシ」云云ト書イテアル、何所ニ將來ヲ慮ッタ述ガアリマスカ、大正十年度ノ豫算ハ斯ノ如キ綱縫手段ヲ以テ之ヲ行フトコトガ出來ルト致シマシテモ、私ガ列舉致シタル點ニ於テ將來ノ財政計畫ト云フモノハ洵ニ危険ヲ包藏シテ居ルデハナイカ、斯様ナ將來ニ注意シテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルト唱ヘナガラモ無責任ナル財政ノ基礎ヲ破壊スル如キ計畫ヲ立テ、而シテ此無謀ナル豫算ニ協贊ヲ與ヘルト云フコトヲ言フノデアアル、寧ロ言語道斷ナリト謂ハナケレバナリマセヌ、吾々ガ爰ニ此豫算ノ編成替ヲ爲セヨト絶叫シマスルノハ、決シテ偶然ニ出デタルモノニ非ザルコトヲ知ルニ足ルデアリマセウ、全ク實行不可能ノ豫算デアリマス、財政ノ基礎ヲ破壊スル所ノ豫算デアリマス、之ニ對シマシテハ區々タル修正ヲ加ヘタ所デ、決シテ前途ノ危険ヲ除去ルコトハ出來マセヌガ故ニ、吾々ハ爰ニ根本ノ計畫ヲ立テ直セヨト要求スルモノデアリマス、大體ニ於テ之ヲ申シマスレバ、先ヅ政府ハ行政上ノ大整理ヲ行フベシト吾々ハ要求スル、國民ノ負擔ヲ更ニ増加スルガ如キ計畫ヲ改メヨト吾々ハ要求スル、公債ノ政策ヲ根本ヨリ改メテ、將來ニ禍根ヲ貽スルコト勿レト吾々ハ要求スルノデアリマス、是等ノ要求ニ基イテ財政ノ整理ヲ行ヒ、併セテ又稅制ノ整理ヲ行フ

ト云フコトハ、今日ノ局ニ當ル者ノ責任デアリマス、若シ此責任ヲ果ス能ハザルガ如キ者ハ、斷
 ジテ今日ノ局ニ立ツコトヲ許サナイ、吾々ハ或意味ニ於テ、現内閣ノ無能、現内閣ノ無責任、現内
 閣ノ無誠意ヲ糺彈スル者デゴザイマスガ、若シ政府ニシテ速ニ此吾々ノ要求ニ應ズルノ誠意ガ
 アルト致シマスレバ、現内閣ノ過去ノ罪業ノ一部分ダケハ之ヲ消滅スルコトガ出來ルノデア
 終リニ私ハ此臨時軍事費ノ豫算ニ關シテ一言ヲ致シテ置キマス、此臨時軍事費ノ豫算ノ追加、是
 ハ西伯利ノ撤兵ヲ急ニ行フト云フコトニ相成リマスレバ、此經費ニ節減ヲ加ヘルト云フコトハ、
 實ニ容易ナ事デアアルノデアリマスカラ、其意味ニ於テ、全然此豫算ノ編成ヲ改メヨト云フコトヲ
 要求スルノデアリマス、西伯利ニ撤兵ヲ行ツテ臨時軍事費ニ節減ヲ加フベシ、而シテ又此臨時軍
 事費豫算ト云フ形式ハ、全ク之ヲ收メルノ必要ガアル、臨時軍事費ハ、丁度此戰爭ニ關シテ起ツタ
 一ツノ特別會計デアアル、戰爭終テ後、臨時軍事費ノ名ヲ以テ豫算ヲ要求スルト云フコトハ、甚ダ
 妥當ヲ缺クト私ハ思フノデアリマスカラ、此形式ハ無論之ヲ改メナケレバナラヌ、政府ハ速ニ之
 ヲ改メテ、全ク其編成ヲ改メテ、更ニ此議會ニ提出スルト云フコトガ、政府當面ノ責任デアルト
 私ハ信ジテ居ルノデアリマス

鈴木梅四郎君ノ趣旨辯明

諸君、私ハ大正十年度ノ豫算全部ヲ返付シテ、更ニ編成替ヲ求メマス動議ニ對シテ、聊カ説明ヲ
 試ミヤウト思ヒマス、吾々同志ハ毎年ノ議會ニ於テ、政府ニ警告ヲ與ヘテ居ッタノデアリマス、警
 告ノ種類ハ幾多アリマシタガ、第一ニ最モ重キヲ置キマシタル、警告ハ、此世界ノ形勢ノ變化、日
 本内地ノ人心ノ變化、此變化ニ順應スベキ所ノ財政計畫ヲ立テネバナラヌガ、是ハ吾々ガ屢、當局
 ニ警告ヲ與ヘタノデアリマス、然ルニ大正十年度豫算ヲ見マスルト云フト、現政府ハ世界ノ形勢
 ヲ觀ルコトガ出來ズ、内國民ノ要望ヲ察知スルコトガ出來ズシテ、相變ラズ、舊套ヲ追ツテ、其日暮
 シノ財政計畫ヲ立テタト云フコトニ就テ、先ツ第一ニ吾々ハ非常ナル不滿ヲ抱ク者デアリマス、
 私ハ此豫算ニ就テ第一ニ擧ゲテ言ハナケレバナラヌ問題ハ、豫算其モノ、形式ト云フモノニ於

テ、既ニ時代錯誤デアルト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌノデアラマス、何故ニ其形式ニ於テ時代錯
 誤デアルカ、凡ソ一國ノ財政ヲ計畫シマスルニ當ツテハ、其政費ノ按排ト云フモノデ以テ、當局ノ
 施政ト云フモノ、大體ガ分ル、即チ此形式ノ上ニ於テ、一見シテ果シテ此時代ニ順應シテアル計
 畫ヲシテ居ルヤ否ヤト云フコトガ、直チニ分ルノデアリマスガ、残念ナガラ大正十年度ノ現政府
 ノ計畫ト云フモノハ、全ク此點ニ觸レテ居ラヌノデアリマス、時代錯誤ト申スノハ即チソレデア
 ル、言葉ヲ換ヘテ申シマスト財政計畫ハ、武ニ偏シタル所ノ財政計畫、偏武的財政計畫ノ極極
 メテ居ルト申シテ宜イト思フノデアリマス……私ハ先進國デアリマス、英國ノ今年度ノ財政計畫
 ヲ參考ニ取ツテ見マス、流石ハ先進國デアアル、吾々ガ多年此議會創始以來、模範トシテ居ッタ所
 ノ英國ノ豫算ヲ見マス、確ニ非常ナ差ガアルト云フコトヲ發見シタノデアリマス、ドウ云フ所
 ニ差ガアルカト云ヒマスレバ、英國ノ今年度ノ總豫算ハ百十八億何圓ニナツテ居リマスガ、其中
 デ國債關係ニ使ヒマスル歳出ノ費用ハ三十四億餘ト云フモノデ、總歳出ノ二割九分一厘ト云フ
 モノニ當ツテ居ル、サウシテ海陸軍ノ經費、マダ英國ハ此戰後ノ始末ヲシマス爲メニ、相當ニ海陸
 軍ニ金ヲ使ツテ居リマスガ、ソレニシテモ總歳出ノ一割九分何厘ト云フコトニナツテ居ッテ、殘リ
 五割一分何厘ト云フモノガ、他ノ一般ノ政務ヲ處理シテ行ク費用ニナツテ居リマス、所デ其中ニ
 教育費ガ五分何厘ヲ占メテ居リマシテ、是ガ六億五千萬圓、ソレカラ社會政策的施設ト云フモノ
 ニ對シテハ約二十九億圓ノ金ヲ使ツテ居ル、是ハ全體ノ二割四分五厘ニ當ツテ居ル、斯様ナ財政計
 畫ヲシテ居ルノデアリマス、殊ニ最モ吾々ノ注意スベキ問題ハ、社會政策ノ見地カラ、此二十九
 億圓ノ費途ハドウ云フモノニ使ツテ居ルカト云フ事ヲ見マス、養老院ニ二億五千九百萬圓、救
 濟ニ十二億三千餘萬圓、保健衛生ノ方ニ三億四千萬圓、ソレカラ勞働問題ニ二億五千萬圓、地方
 團體ノ社會政策ニ三億六千萬圓、殊ニ食糧ノ補助、食糧ノ價ヲ戰前ノ價ヨリモ餘リ高クシナイト
 云フ爲メニ、常ニ執リ來ッタ所謂食糧補助、之ニ四億五千萬圓ヲ使ツテ居ル、併セテ此社會政策的
 施設ニ二十九億圓以上ノ金ヲ使ツテ居ルノデアリマス、所デ此比較ヲ取ツテ見マスと云フト、我國
 ハドウナツテ居ルカト云フト、即チ國債關係ニハ一億六千三百何圓ヲ使ツテ居リマスカラ、全體ノ

一割ニ當ッテ居ル、然ルニ海陸軍ノ費用ハドウデアアルカト申シマス、七億六千七百七十八萬圓ト云フノデアアリマシテ、租税全體ヲ海陸軍ニ投ジテ、尙ホ一千萬圓程足ラヌ程ノ大豫算ヲ出シテ居ルノデアアル、サウシテ此二ツノ費用ノ外ノ殘リノ四割ト云フモノガ、内政一般ノ政費ニ充テラレテ居ル、所デ此中デ教育費ニドノ位使ッテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見マス、文部省全體ノ經常臨時ヲ合セマシテ五千四百何ボデアリマスカラ、三分何厘ニシカ當ッテ居ナイ、ソレカラ社會政策的ノ諸費ハ何ノ位アルカ、唯今豫算委員長ハ、現政府モ社會政策ノ事ニ就テハ、最モ熱心デアアルト云フコトヲ證明セラレル爲メニ、色々御題目ヲ爰ニ臚列サレマシタ、デゴザイマス、シタケレドモ斯ノ如キ社會政策ハ、殆ド先進國ニ於テハ地方團體デヤッテ居ル小サナ仕事デアリマス、我政府ハドウ云フ事ヲヤッテ居ルカト申シマス、全體ノ經費ガ僅ニ三百十九萬圓デアリマスカラ、全體ノ總豫算ニ對シテハ分ニ當ラナイ、厘ニモ當ラズシテ、僅ニ二毛ニ過ギナイノデアアリマス、斯様ナ計畫デアリマスカラ、此形式ノ上ニ於テ既ニ現政府ハ世界ノ大勢ヲ知ラズ、日本帝國ノ多數國民ノ要望スル所ヲ知ラヌデ、唯ダ舊來ノ形ニ拘泥シテ、其日暮シノ財政計畫ヲ立ツタニ過ギナイト云フコトヲ私ハ斷言シテ憚ラナイノデアアリマス、殊ニ遺憾ニ存ジマスノハ、我國ハ世界五大強國ノ一トシテ、國際聯盟ノ有力ナル一員トシテ、世界ニ國際的ノ王道主義ヲ主張スベキ立派ナ位置ヲ占メテ、世界各方面カラ、殊ニ有色人種カラシテ絶大ノ希望ヲ囑セラレテ居ル所ノ帝國ニシテ、斯ノ如キ偏武的財政計畫ヲ立テ、居ルト云フ其事ガ、既ニ我が國歩ニ非常ナ困難ヲ與ヘルモノデアアルト私ハ信ズルノデアアリマス、今日世界ノ各方面カラ排日ノ運動ガ非常ニ起ッテ居ル、其口實ハト申シマス、日本ハ軍國主義デアアル、第二ノ獨逸デアアル、斯ウ云フコトガ常ニ聲明サレテ居ルノデアアリマス、之ニ對シテハ政府當局トシテ、十分ニ帝國ノ其本旨デナイコトヲ説明シ、宣傳ヲシナケレバナラヌノデゴザイマスガ、宣傳モ多少ハシテ居ルカモ分リマセヌガ、併ナガラ斯ノ如キ偏武的財政計畫ヲ致シマシテハ、如何ニ宣傳ヲシ、辯明ヲシテモ、斷ジテ此惑ヲ解クコトハ出來ヌ、即チ此偏武的財政計畫ト云フモノハ、將來ノ外交上ニ就キ、國歩ニ一層ノ困難ヲ與ヘルモノニ過ギナイト云フコトヲ私ハ附加ヘテ置キマス、第二ノ理由ハ豫算編成

ノ内容ニ就テデゴザイマス、豫算編成ノ内容ハ、一言ニシテ申シマスレバ、杜撰孟浪ヲ極メテ居ルト云フコトヲ申シテ宜イ、即チ歳入ハドウ云フコトニナッテ居ルカト申シマスレバ、減債基金ト云フモノヲ其儘繰入レテ中止シテ使ッテ居ル、又自然増收ト云フモノヲ過大ノ見積ラシテ居ル、其上ニ金額ハ小サイケレドモ、地方ノ事業ニ對シテ補助ヲ與ヘルコトノ如キハ、皆ナ之ヲ後年ニ繰延ベテ——總テ後年度ニ見送ッテ、今日ノ急ヲ防イデ居ルト云フ窮態ヲ現ハシテ居ルノデアアリマス、歳出ノ方面ヲ見マス、其半ハ所謂國防充實ト云フモノニ向ケテ居リマスガ、其國防費ノ基礎ト云フモノハ、非常ニ薄弱ナル計算ヲ立テタ爲メニ、物價騰貴ノ爲メニ非常ナ喰違ヲ來シテ、茲ニ一億何千萬圓ト云フ大キナ金ヲ追加シナケレバナラヌト云フヤウナ羽目ニナッテ居リマス、是等ハ今年度限りノ財政計畫トシマシテモ、最モ失態ノ甚シイモノデアリマス、殊ニ私ハ甚ダ奇異ノ感ヲ懷キマスノハ、陸軍省ノ物件費ノ補足ト云フモノニ一千万圓ノ金ヲ出シテ居リマスガ、此形式ハ今迄ノ豫算ニ無イ放漫ナル所ノ支出ヲシテ居ル、即チ陸軍大臣ヲシテ所謂其裁量ニ委セテ、勝手放題ニ使ッテモ宜イト云フヤウナ形ニ於テ、之ヲ要求シテ居ルノデアアル、斯ノ如キコトデ歳入モ歳出モ其ニ杜撰孟浪ヲ極メテ居ル點カラ、今年度ダケノ財政計畫トシテモ全ク今日主義ヲ唯ダ帳尻ヲ合セテ、漸ク纏メタト云フニ過ギナイ所ノモノデアリマス、色々之ニ就テ詳シク説明ヲスル必要ハゴザイマセヌ、先刻早速君ガ事細カニ御説明ニナリマシタカラ、私ハ是デ止メテ置キマスガ、是ガ第二ノ理由デアリマス、第二ニハ國防充實ノ計畫ガ根柢カラ崩壊シタト云フコトヲ私ハ斷言シ得ルト思フ、國防充實計畫ニ就テハ、政府ハ盛シニ自分ノ功績ヲ聲明シテ居リマスガ、昨年ノ七月ニ於キマシテ、非常ナ多額ナ金ヲ要スル國防計畫ヲ致シマスニ就テ、其財源ハ恆久的ナラザルベカラズト云フノデ、所謂所得稅ノ社會政策的意味ヲ合ンダ増收、酒ノ稅ノ増收、此一ツヲ以テ恆久的財源トシタノデアリマス、此恆久的財源ニ依ルト云フノハ一應尤ナ事デアアル、併ナガラ私ハ昨年ノ議會デ此壇上ニ於テ、此二ツノ財源ニ依ルト云フノハマダ危險デアアル、恆久的財源ヲ此二ツノミニ求メタノハ危險ガアルト云フコトヲ聲明シテ、反對シタコトハ御記憶デゴザイマセウガ、今日カラ見マスト確ニソレヲ證明シテ居ル、即チ恆久的財源ヲ拵エテ計畫

シタ所ノ國防計畫ハ、ドウデアアルカト申シマスレバ、一番肝腎要メナ物價ト云フモノヲ見積ル上ニ就テ、非常ナ勘違ヲシテ居ル、即チ政府ハ物價ノ騰貴ト云フモノハ、一時的ノ變態デアアルト云フ見地カラ、戰前ノ物價ヲ基礎ニシテ國防充實計畫ヲ立ッタノデアアル、是ガ抑ノ間違デアアル、此度ノ歐洲大戰ノ餘響ヲ受ケタ、經濟界ノ變動ノ初ニ於テコソ、物價ノ騰貴ハ一時的ノ變態デアッタノデアリマス、併ナガラ歐洲ノ大亂ノ爲メニ世界中ノ財政狀態ガ變化シ、殊ニ我が日本帝國ノ財政狀態ニ非常ニ變化シタノデアリマスカラ、物價ノ騰貴シテ居ルト云フ方ガ寧ロ常態トナッテ居ル、今日物價ノ問題ニ就テハ、民間ニモ中々色々ニ研究シテ居リマスガ、ドウ考ヘテ見マシテモ、我國ノ諸物價ト云フモノハ、戰前ノ倍以下ニ下ルコトハ、當分ノ間ナカルベシト云フコトガ殆ド識者ノ間、一般ノ經濟界ニ於テ認知サレテ居ルコトデアリマス、シテ見レバ此物價ノ騰貴ト云フコトハ、モウ常態ノ事デアアルカラ、此物價ノ騰貴ト云フモノヲ第一ニ見込ンデ、此計畫ヲ立テルト云フニ非ザレバ、眞ノ計畫トハ云ハレナイノデアアル、即チ政府ハ此常態デアアルベキ物價ヲ變態ト見テ、戰前ノ物價ヲ基礎トシテ立テタ爲メニ、先刻申シマスル通り、今年度ニ於テスラモ既ニ一億五千萬圓以上ノ物價騰貴ノ追加ヲスル、就中國防計畫ニ於テ、此既定ノ年割額ニ於テ、海陸軍合セマシテ、一億九千萬圓——約二億圓ニ對シテ、一億二千七百萬圓ト云フ此大數字ノ追加ヲシナクテハナラヌコトニナッタノデアアル、所ガ唯今御話シマスル通り——騰貴ト云フモノヲ一時ノモノニ見タモノデアリマスカラ、來年モ來々年モズツト引續イテ、此國防計畫ニハ物價騰貴ト云フモノガ伴ウテ來ルノデアリマスカラシテ、即チ折角政府ハ、酒ト所得稅ト此二ツノ稅カラ恆久的財源ヲ得テ此計畫ヲ立テマシタケレドモ、物價ヲ斯ノ如ク誤ッテ觀察致シマシタ爲メニ、此計畫ト云フモノハ根本カラ崩壊シテ居ルノデアアル、モウ昨年ノ七月カラ是ハ實ニ成ッテ居ラナイ所謂計畫デアルト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌノデアアル、今後モ繰返シ繰返シテ矢張此物價騰貴——所謂政府ノ物價騰貴、吾々ハ物價騰貴トハ言ハヌ、是ハ今日、日本帝國ノ自然ノ物價デアアル、物價騰貴デハナイ此費用ノ爲メニ年々歳々多額ノ追加ヲヤッテ行カナケレバナラヌ、既ニ此年度割ヲ定メテ計畫ヲスル事業ニ於テ、斯ノ如キ多額ノ追加ヲシテ行クト云フノハ根本ニ於テ既ニ其計

畫ガ間違ッテ居ルト云フコトヲ證明スルノデアアル、此物價騰貴ハ別物トシテ、其高ハドノ位大キクテモ、無理ヤリニ國民カラ之ヲ取ッテ之ヲ補充シテ行クト云フヤウナ計畫デアラナラバ、ソレハ眞ノ計畫トハ云ハレナイノデアアル、是ハ議會ヲ欺キ國民ヲ欺イテ唯ダ一時ノ時局ヲ胡麻化ス爲メニ計畫ヲ立テタモノデアルト斷言シテ私ハ憚ラナイ、ソレ故ニ若シモ此通りニシテ置キマシタナラバ、今後吾々ハ物價騰貴已ムヲ得ザルト云フ一點カラ、此國防計畫ノ爲メニ非常ナル多額ノ金ヲ取ラレバ公債其他ノ借金ヲシナクテハナラヌ、ソレガ出來ナケレバ結局事業ノ繰延ト云フコトニナルノデアリマスカラシテ、此昨年七月ニ立テマシタ、吾々ノ反對致シマシタ此國防充實計畫ト云フモノハ全ク根柢カラ崩壊シ去ッテ、既ニ是ハ今日ハ存在ノ價値ヲ認ムルコトノ出來ナイ計畫デアルト云フコトヲ、私ハ申スノデアアル、斯様ナ見地カラシテ吾々ハ斯ノ如キ根本カラ崩レタル此計畫ト云フモノハ修正ノ仕様が無い、如何ニ修正スルカ、折角政府ガ恆久的財源ヲ得テヤッダト云フ其仕事ガ、斯ノ如キ喰違ヲ生ジ、實行スルコトガ出來ヌト云フナラバ、此計畫ハ根本的ニ崩壊シタノデアアル、崩壊シタモノヲ之ヲ修繕セントスルコトハ甚ダ容易デナイ、寧ロ是ハ一切御止メニシテ、改メテ計畫ヲ立テルト云フノガ、寧ロ順當デアルト吾々ハ確信スルノデアアル、此意味ニ就キマシテ吾々ハ此今年度ノ豫算ト云フモノヲ政府ニ返付シ、直チニ時代ニ相應スル所ノ計畫ヲ立テヨト云フノ希望ヲ提出スル次第デゴザイマス、吾々ハ此豫算ヲ返付シテ、再編成ヲ要望シマスニ就キマシテハ注文ガアリマス、私ハ七箇條ノ注文ヲ爰ニ提出致シマス、其第一ハ何デアルカ、第一ハ早速君モ言ハレマシタガ、行政ノ根本的整理、之ヲ要望致シマス今日マデ行政ノ整理ト云フト、局課ノ廢合ナドヲヤリマシテ、少シ儉約ヲスルト云フノガ今日マデノ行政整理デアリマスガ、吾々ノ行政整理ハ左様ナ意味デハナイ、無論經費ヲ節減スルト云フコトモ目的ノ一ニハ相違アリマセヌケレドモ、今日ノ諸官署ノ事務ノ扱方ト云フモノハ、昔太政官以來ノ舊習ヲ其儘遵奉シテ居ルモノデアリマスカラ、今日ノ進ンダル世ノ中カラ見マスルト云フト、實ニ成ッテ居ラナイト申シテ宜シイ、進ンダル民間ノ銀行會社等ノ事務ノ取扱振カラ云ヒマスルト云

フト官廳ノ事務ト云フモノハ、五十年モ遅レテ居ルト申シテ宜シイ、即チ此意味ニ於キマシテ根本的ノ行政整理ヲヤツテ所謂事務的ニ各省ノ事務ヲ簡潔ニ敏速ニ行フト云フコトノ趣旨ヲ以テ、行政整理ヲヤルベシ、是ガ第一、第二ハ税制ノ根本的整理デアリマス、是モ政府當局者ハ、臨時財政經濟調査會ニ此税制整理ノ案ヲ出シテ、今取調中デアルト云フコトヲ申シテ居ラレマスガ、速ニ私ハ此税制ノ根本的整理ヲスルコトヲ要求スルノデアアル、政府ハ口ヲ開ケバ常ニ取調中、中々根本的ノ税制整理ハ容易ナ問題デナイト云フコトヲ申シテ、イツモ調査會ニ掛ケテアルカラト云フ答辯ヲシテ一時遁レテ致シマスガ、是ハ誠意ノ無イ事デアアル、各國共ニ戰後隨分税制ヲ改メテ居リマスガ、中々左様ナ悠長ナ事ヲシテ居リマセヌ、時ノ政府ニ立ッテ責任ヲ負フ所ノ政治家ハ、此大問題ヲ解決スルニ就キマシテ、ソレヲ何時迄モ委員會ニ付シテ居ルト云フヤウナ悠々緩々タル態度ヲ以テヤルベキモノデナイト、晝夜兼行デ勉強シテヤリマスレバ、私ハサウ多クノ月日ヲ經ズシテ、之ヲ實行スルコトガ出來ヌコトハナイト思フ、即チ現内閣ガ税制ノ整理ヲシナイノハ、爲スコトガ出來ナイノデナイト、能ハザルニ非ズシテ爲サルナリト私ハ斷言スルノデアアル、即チ税制整理ノ根本的實行ヲ行フ、誠意ガ無イモノデアルト云フコトヲ私ハ斷言スル、誠意ヲ以テヤレバ速ニ是ハ解決ガ出來ル問題デアアル、第二ハ産業立國ノ新施設ヲ十分ヤルベシト云フコトデアリマス、御承知ノ通り國費ノ前途ヲ考ヘテ見マスルト云フト、中々國防バカリデハゴザイマセヌ、時代ニ相應スベキ所ノ新ナル費用ハ、中々多ク目ノ前ニ見エテ居ルノデアリマス、今日唯今デモ既ニ大ナル支出ヲセネバナラヌ問題ガ澤山アル、而シテ國家ガ此時勢ノ進連ニ應ズル政費ヲ得マスル爲メニハ、國富ヲ増進シナケレバナラヌ、國富ヲ増進スルト云フニハ、ドウシテモ産業ヲ旺ニスルト云フコトガ最モ肝要デアアル、所ガ此豫算ヲ見マスルト云フト、其邊ノ事ニ就テハ最モ重キヲ置クト言ヒナガラ、甚ダ其施設ハ貧弱ナルモノニナッテ居ルノデアリマス、之ヲ十分ニヤツテ行カナクテハナラヌ、吾々ハ多年唱道致シテ居リマスルガ、近來ノ産業ト云フモノハ、此理化學ノ學理ヲ實際ニ應用スルコトノ、上手カ下手カト云フコトニ於テ岐レルノデアアル、産業ノ盛衰ハソレニ依ッテ岐レル、所デ我國ニ於テハ此研究、理化學ノ學理ヲ實際ニ應用スルコトノ出來ナイト云フ

ノハ、何デアアルカト申シマスレバ、ソレハ完全ナル理化學研究所ノ無イ爲デアアル、即チ産業ヲ今後ノ産業ヲ發達セシムル、先ヅ第一ノ出發點トシテ、必要デアアルモノハ何デアアルカト申シマスレバ、完全ナル理化學研究所ヲ拵ヘテ、總テノ産業ヲ學理ヲ基礎トシテ、之ヲ應用シテ行クト云フコトカラ出發シナケレバナラヌ、此意味ニ於テ吾々ハ此理化學研究所ノ完全ナルモノヲ立テルコトヲ先ヅ第一ニ提唱スルノデアリマス、第四ハ何デアアルカト申シマス、普通教育ノ振興及改善デアリマス、現政府ハ教育ノ普及ヲ以テ、四大政綱ノ一トシテ居リマスルガ、僅ニ高等ノ學校ヲ拵ヘタダケデアリマス、所謂普通教育ト云フモノニ對シテハ、今日全國カラ種々ナ要望ガアリ、囂々トシテ此普通教育ヲ旺ニスルコトニ就テノ希望ガ出テ居リマスガ、政府ハ殆ド之ヲ顧ミルコトガ出來ナイ窮境ニ陥ッテ居リマス、是ハドウシテモ旺ニシテ、普通教育ハ是非共完全ニシナクテハナラヌ、即チ對世界的ノ競争ト云フコトニナリマスルト云フト、吾々日本國民ノ一人ト、先進國ノ國民一人ト取組ヲ致シマシテ、何人デモ先進國ニ負ケレバ即チ我國ハ負ケルノデ、即チ國ハ國民ノ集合體デアアル爲メデ、此意味カラ我ガ同盟國タル英國ノ如キハ、戰爭中ニ此普通教育ヲ改善シナクテハナラヌト云フ見地カラ、非常ナ大改革ヲ致シマシテ、先刻御話シマシタ五億六千萬圓ト云フヤウナモノヲ、此「エジュケーション」ニ使ッテ居ル、ドウシテモ之ヲヤツテ行カナケレバナラヌ、第五ハ社會政策ノ施設、勞働問題ノ解決、是ガ又必要デアリマス、此問題ニ就テハ、先刻武藤君ハ色々述ベラレマシタガ、社會政策ノ根本ニ觸レテ居ラヌ、アレハ地方ノ自治團體等ガヤルベキ仕事デアツテ、國家トシテ爲スベキモノハ、今些ット大キナ仕事、今些ット金ヲ要スル仕事、防貧救貧ノ事カラ、此社會政策ノ實施ニ伴ッテ、隨分色々ナ計畫ヲシテ行カナクテハナラヌ、各種ノ社會政策ハ是非共ヤツテ行カナクテハナラヌ、之ヲドウシテモ解決シテ行カナケレバナラヌ、第六ハ何デアアルカト云フト、陸軍國防計畫ノ變更ト私ハ申シマス、此事ニ就キマシテハ、私ハ國民黨ガ多年主張シテ居リマスル所ガアリマスルカラ、爰ニ少シク細カニ説明致シテ見タイト思ヒマス、過日來政府ノ當局者ニ質問シ、其答ヘル所ヲ聽キマスルト云フト、現政府ハ日本帝國ノ今日ノ地位ヲ十分ニ理解シテ居ラヌト云フコトヲ、私ハ斷言シテ憚ラナイノデアリマス、

御承知ノ通り今日ノ我が陸軍ノ計畫ト申シマスルモノハ、日露戰後ニ立テラレタ其計畫其儘デアル、想定敵國ヲ露西亞トシテ、之ニ對シテ露西亞カラ復讐戰ヲシテ來タナラバ、ドウスルカト云フ見地カラ立テラレタ計畫アル、シテ見マスレバ今日ハ既ニ歐洲大亂ノ結果トシテ、露西亞ハ彼ノ如キ形勢ニナツテ、今後如何ナル變化ガ來ルカ判リマセヌ「レニン」政府ハ何時迄續クカ、此後如何ナル變化ガ來ルカ、是ハ言明スルコトハ出來マセヌケレドモ、露西亞ガ帝政ニ戻ツテ武力ヲ以テ立ツ所ノ國ニナラヌデ、平和的ノ共和政治デアルト云フコトダケハ、何人モ是ハ疑ハヌ所デアリマス、シテ見マスレバ露西亞——武國露西亞ノ現存シテ居タ時代ノ國防計畫ト云フモノハ、ドウシテモ改メルコトガ必要ニナツテ居ル、此見地カラシテ、吾々ハ此陸軍國防計畫ニ就キマシテハ十分ニ改革ヲシテ見タイ、多年我黨ガ主張シテ居リマスル一年兵役ノ論ヲ、實際ニ實行スベキ時機ガ來タト思フ、吾々ハ此陸軍ノ國防計畫ニ就テ三ツノ方針ヲ立ツテ居リマス、第一ハ何デアアルカト申シマスレバ、兵卒ノ在營期ヲ短縮シテ、其定員ヲ減少スルコト、第二ハ兵卒待遇ヲ向上スルコト、第三ハ兵器製造所其他ヲ全然民間ニ解放シテ、民間ノ事業ニ移スト云フコト、此三ツノ大方針ヲ以テ進ミタイト思フノデアリマス、之ニ就テハ細カク説明致シマセヌデモ、賢明ナル諸君ハ御判リデゴザイマセウガ、此今後ノ戰爭ハ昔トハ違フノデアリマスカラ、在營年月ト云フモノヲ短縮シテ少シモ差支ヘナイ、又兵卒ノ待遇ノ如キハ、日本程虐待ヲシテ居ル國ハ無い、是ハドウシテモ今後此待遇ヲ改メテ行カナケレバ、忠勇義烈ノ軍隊ヲ養フテ置クコトハ、事實ニ於テ出來ナイト云フコトニナリマスカラ、是ハドウシテモ、待遇ヲ改メルコトニシナケレバナラヌ、第三ノ此兵器製造所ノ解放、是ハ今日ノヤウナ事ニシテ置キマスレバ、イザト云フ時ニナツテ到底此軍事動員ヲ致シマシテモ、目的ヲ達スルコトハ出來ナイノデアリマス、デアアルカラシテ是ハドウシテモ開放シテ、民間ニ十分ニ此兵器製造ノ事業ヲ練習セシメ、熟練セシメテ置クト云フ必要カラ、ドウシテモ之ヲヤラナケレバナラヌ、此三ツノ主義ヲ實行シヤウト云フノガ、我黨ノ主張デアリマス、殊ニ此一步ヲ進メマシテ、此在營——兵役ノ在營ノ年月ヲ縮小シテ一年ニスルト云フコトニ就テハ、聊カ研究シタ案ガアリマスルカラ、爰ニ其大要ダケヲ申シテ置キマス、一ハ

歩兵以外各兵士ノ在營期間ハ現行ノ通り、是ハ二箇年トシテ置ク、歩兵ノ在營期間ハ一箇年トシテ、徵集人員ハ今日ノ半數ニ止メテ置ク、併シ十二月末ヨリ三月末マデ四箇月間ハ、若干ノ歩兵ヲ殘留セシムル、ソレカラ右殘留兵ノ員數ハ、新兵教官ノ助手、衛兵勤務ノ要員ト戰時下士ノ要員トヲ顧慮シテ之ヲ定メル、兵士ノ教育ハ成レク分業式ニヤル、ソレカラ教育ハ絶對ニ此射撃ト戰鬪動作ダケヲ盛ンニヤラセル、兵士ノ雜役ヲ廢シ、演習時間ヲ増加スルコトヲヤル、又定員減少ノ爲メニ部隊ノ教練ガ困難ニナラバ、臨設部隊ト云フモノヲ合セテ之ヲ行フ、又ハ編成ヲ併合シテ之ヲ行フ、又ハ編成ヲ改メテ、例ヘバ步兵聯隊六箇中隊編成トシテ大隊ヲ廢スルヤウナ仕方ヲヤル、又動員ヲセズシテ出征若クハ派遣部隊ヲ編成スルニ當リマシテハ、二箇以上ノ部隊ヲ以テ一部隊ヲ編成スル、例ヘバ二箇師團ヲ編成スルヤウニシヤウ、兵卒待遇改善ハ先ヅ其一例ヲ舉ゲマスレバ、給料ヲ増加スル、即チ各兵士ヲ通ジテ、初年度ハ平均一箇月六圓、二年ニハ一箇月九圓位ノ少クトモ給料ヲ與ヘル、彼等ノ地位ヲ高メ、待遇ヲ改善スル上ニ於テ俸給ヲ増額シ、名實共ニ將校ト共通ニ進級セシメルヤウナ近代ノ方法ヲ執ルベシ、將校ニ科學的智識ヲ要スルコトガ段々多クナツテ來マスニ於テハ、高等學校卒業程度ノ者ヲズンク採用シテ、軍事専門ノ學問ヲ教込ンデ、立派ナ將校ヲ造ル爲メニ其待遇ヲ大ニ改善スル、ソレカラ隨ツテ幼年學校、軍馬補充部等ハ全廢スル、之ガ我黨ノ研究シマシタ所ノ案デゴザイマス、陸軍國防計畫ノ變更ハ是非共ヤラネバナラヌ、第七ハ何ガアル、第七ハ海軍經費ノ整理デゴザイマス、海軍ニ就キマシテハ、我國何人ト雖モ相當ノ程度マデ、今日ノ八八艦隊マデハ之ヲ完成シナケレバナラヌト云フト、海軍ハ全國一般ノハ、異議ハナイノデアリマス、サリナガラ海軍ノ爲ス所ヲ見マスルト云フト、海軍ハ全國一般ノ海軍ヲ擴張スベシト云フノ同情ニ狎レテ、聊カ放漫ニ失スル嫌ハナイカト云フト、私ハ斷言スルノデアリマス、其意味ニ於キマシテ海軍經費ハ所謂整理ヲ要スル、即チ今日既ニ用キベカラザル所ノ老朽船ト云フ物ヲ盛ンニ使ウテ居リマスガ、斯ノ如キハ一日モ早ク整理シテ、經費ノ節約ヲ圖ラナケレバナラヌ、尙ホ其他ニモ經費ヲ十分節約シ得ベキ範圍ハ、思切ツテ節約ヲスルト云フコトデアリマス、私ハ此七箇條ノ條件ヲ附シテ、大正十年度ノ豫算ハ返付スベシト云フト

動議ヲ提出シタ次第ゴザイマス、尙ホ終リニ臨ミマシテ一言申上ゲマス、致友會ノ諸君ハ此豫算返付ト云フコトニ就テ何カ、批評ヲ爲シテ御在デノヤウデアリマス、或ハ無責任デアルトカ、或ハ憲法上ノ所謂豫算審議權云々ト云フヤウナ御論ガアルヤウデアリマスガ、私ハ其事ニ就テ一言申シテ置ク、吾々ハ此豫算審議權ヲ最モ大切ト存ジマス爲メニ、斯クノ如ク十年度ノ豫算ヲ解剖シ、批評シ、サウシテ是ハ到底手ヲ著ケテ修正スベカラザル所ノ計畫デアルト云フコトヲ見抜イタ爲メニ、之ヲ返付スルノデアリマス、返付ハ修正以上ノ大ナル意義ヲ持ッテ居ルノデアリマス、吾々ハ議員タルノ職責ヲ以テ、之ヲ返付ト云フコトヲ致シマスルノデアリマスルカラ、是ハ御承知ヲ願ヒタイ、

副議長ハ豫算返付ノ動議ハ先例ニ依リ本案ノ大體議ト併セテ討論ニ付スル旨ヲ告ケ討論ニ入ル

山本悌二郎君、東武君及三輪市太郎君ハ原案ニ賛成シ動議ニ反對、紫安新九郎君及大口喜六君ハ豫算返付ノ動議ニ賛成ノ演説ヲ爲ス

山本悌二郎君ノ豫算返付反對演説

本員ハ唯今憲政會ノ早速君、國民黨ノ鈴木君ニ依ッテ提出サレタル所ノ、豫算返付ノ動議ニ反對ヲ致シマシテ、委員長ノ報告ニ賛成ヲ致シマスル、早速君及鈴木君ノ、豫算ヲ返付スルト云フ御議論ヲ傾聴致シマシタガ、一モ本員ヲシテ首肯セシムルノ理由ヲ發見致シマセヌ、早速君ハ政府ノ提出セル所ノ豫算ハ、無謀デアルト云フコトヲ申サレマシタガ、此豫算ヲ一括シテ返付セントスル所ノ此意見ハ、寧ロ甚シキ無謀デアルト信ズルノデアリマス、申スマデモナク豫算審議權ハ我帝國議會ニ與ヘラレタル所ノ權能ノ中最モ重大ナルモノデアリマス、殊ニ衆議院ニ對シテハ、此豫算ノ先議權ヲ與ヘルト云フコトハ、偶、以テ衆議院ガ其豫算ニ對スル所ノ、審議ノ責任ノ重大ナルコトヲ語ルモノデアリマス、此重大ナル審議權ニ對シテ、之ヲ用キルコトヲ爲サズシ

テ、此豫算案ニ對シテ何等ノ修正、何等ノ削除ヲ施スコトモナク、唯ダ之ヲ一括シテ返付セントスルガ如キハ、自己ニ附與サレタル所ノ其審議權ヲ、輕ンズルノ甚シキモノデアルト私ハ信ズル者デアリマス、諸君ハ法令其他ノ結果トシテ、手ヲ著ケルコトノ出來ナイモノガ多イガ故ニ、一旦之ヲ政府ニ返却スルノデアルト申サレマスケレドモ、ソレハ今日ニ始ッタコトデハナイデアリマセヌカ、法令其他ニ依ル所ノ支出ハ昨年モアリ、一昨年モアル、諸君ハ昨年モ大分御不平御不滿ガアッタヤウデアアルガ、昨年ハ嘗テ豫算返付ノ御議論ハ聞カナカッタノデアアル、殊ニ此豫算ヲ返付スルト云フ其理由ト致シテハ、更ニ編成者ヲ要求スルノデアルト申サレテ居ル、而モ國民黨ノ鈴木君ノ如キハ是ニ附帶シテ、殆ド一「ダース」程ノ御注文ヲ發セラレテ居ルノデアアル、議會ノ會期ニハ限ガアル、豫算ニハソレ「」期限ガアル、此期日ノ内ニ於テ、其期限内ニ於テ、斯ノ如キ根本ノ組替、若クハ鈴木君ノ要求サレルガ如キ、各種ノ施設ハ是ガ何トシテ出來マセウカ、出來ナイコトハ判リ切ッテ居ルノデアアル、其出來ナイコトガ判リ切ッテ居ルニモ拘ラズ、之ヲ要求スルト云フコトハ、要スルニ返付ノ名ノ下ニ隠レテ、其審議權ヲ拋棄スルモノト謂ハナケレバナラヌノデアアル、諸君、此豫算ノ中ニハ、各種ノ國家ニ必要ナル施設ニ對スル經費ヲ包含シテ居ルノデアアル、諸君ハ此豫算ニ對シテ御不滿ガアルナラバ、諸君ニ與ヘラレタル所ノ此審議權ニ依ッテ、十分ニ之ヲ削除修正スルコトガ出來ルノデアアリマセヌカ、然ルニソレヲ爲サズシテ、一括シテ、之ヲ返上スル、其返上ト云フコトハ名ハ即チ美ナリト雖モ、實ニ於テハ此豫算ヲ否決スルト云フコトデアアル、其否決ノ結果ハ何デアアルカト云ヘバ、即チ此豫算中ニ包含サレタル所ノ時代ノ要求ニ應ズル各種ノ施設ヲシテ、一年間延期スルノ止ムヲ得ザルニ立至ラシムルノデアアル、今日此場合ニ於テ斯ノ如ク國政ニ滯留ヲ來サシメ、施設ニ遲滯ヲ來スガ如キ事ヲ爲スト云フコトニ於テ、其責任ハ抑、誰ニ歸スルデアリマセウカ、我輩ハ斯ノ如ク自己ノ重大ナル審議權ヲ拋棄シテ、而モ國政ニ滯留ヲ來サシムルガ如キ此返上論——此無責任ナル返上論ニハ、斷ジテ之ニ反對セザルヲ得ナイノデアリマス、述ベラレタル此返付論ノ理由、先ヅ國民黨ノ鈴木君ノ御議論ヲ承レバ、早速君ノ理由トスル所ト一致スル點ガ多イノデアリマスルガ、一ツ特殊ノ理由トシテ承リマシ

タノハ、即チ此豫算ハ片務田デアルト云フコトデアアル、而シテ其立證材料トシテ、各國ノ總豫算額ニ對スル所ノ陸海軍ノ國防費ノ割合ヲ御話ニナリマシタ、如何サマ其通りデアリマセウ、併ナガラ之ヲ以テ、直チニ我國ノ此豫算ハ片務的ナリト斷定スルニ至ッテハ、我輩斷ジテ之ニ同意スルコトハ出來ナイノデアアル、抑、國防ナルモノハ——我國ノ少クトモ國防ナルモノハ、自衛的の必要ナル程度ノ國防デアアリマセヌカ、此自衛的の必要ナル國防、之ヲ即チ豫算ニ計上シタルガ如キ理由ノ要スルノデアアル、其割合ヲ總豫算金額ニ割當テ、見レバ、ソレハ英國、ソレハ米國其他ニ較ベマシレバ、確カニ割合ハ高クナッテ居リマセウ、居リマセウガ、元來我國ノ歲計其モノガ英國ニ比シ、米國ニ比シテ甚ダ貧弱ノモノデアアルト云フコトハ、遺憾ナガラ告白シナケレバナラヌノデアアル、此僅少ナル歲計ノ其頭ノ上カラ計算ヲ致スカラシテ、隨ッテ我國國防費ノ割合ハ大ナラザルヲ得ナイノデアアル、併ナガラ大ナリト雖モ、ソレガ即チ我が帝國ノ自衛的の必要ナル國防費ナリトスレバ、ソレヲ減ラスト云フコトハ、即チ自衛的國防ヲ減少スルト云フコトニナルノデアアル、事此ニ至レバ最早豫算ノ問題デハナイノデアアル、抑、我が國防ノ此二十一箇師團、此八八艦隊ナルモノハ最少限度デアアルカ、將又是ヨリ以上減ラシテモ宜イノデアアルカト云フコトハ、此國防ノ根本ノ問題ニ立返ラナケレバナラヌノデアアル、併ナガラ幸カ不幸カ我國ノ國防ハ、今日此決定シタル、而シテ是ヨリ行ハントシ、アル所ノ此國防ノ充實、是ガ即チ我が帝國ヲ防衛スル所ノ最少限度ナリト云フコトハ、國民ノ一致シタル所ノ議論デアアル、此意味ニ於テ豫算ヲ返却セント云フ此理由ハ、我輩此豫算ヲ討議スル際ニ於テハ、是レ以上論議ヲ認メナイト信ズルノデアアル、早速君及鈴木君カラ述ベラレタル所ノ理由ト致シテハ、此豫算ノ歲入ガ餘リ過大ニ見積ッテアル、是ハ必ズ實行上左様ナ収入ガ取レルモノデハナイノデアアルカラ、隨ッテ豫算ノ實行ガ困難ニ陥ルデアラウ、是ガ一ノ理由デアリマスガ、早速君ガ大正十年ノ經常歲入ガ大正九年度ノ實行豫算ニ比シテ、約一億圓程增收ヲ見込デアアルト云フコトヲ楯ト致シテ、非常ニ御非難ガアリマシタガ、成程實行豫算ニ比スレバ、約一億圓ニ近イ所ノ增收ニナッテ居ル、ソレニ相違ハアリマセヌケレドモ、併ナガラ大正九年度ノ實收見込額ニ比シテハ如何デゴザイマセウ、是ハ豫算總會ニ於テ既

ニ屢、當局者ヨリ説明ガアリマシタガ、之ニ比較致セバ少シモ増加致シテ居ラナイ、即チ九年度ニ比シテ少シモ増加致シテ居ラナイノミナラズ、寧ロ數千萬圓ノ減額ヲ見積ッテ居ルデアアリマセヌカ、即チ大正十年度ノ豫算ハ、大正九年度ノ實收見込額ト云フモノハ既ニ確實ニナッテ居ル、此實收見込額ニ比スレバ、租稅收入ニ於テ三千五百萬圓ノ減ヲ見込デ居ル、印紙收入ニ於テ約六百萬圓ノ減額ヲ見込デ居ル、官業及官業財產收入ニ於テ、約二千二百萬圓ノ増加ヲ見込デアリマスケレドモ、此ト彼トヲ差引イテ、結局歲入ノ全體ノ上ニ於テ約千九百萬圓、即チ二千萬圓ノ減額ト云フモノヲ見積ッテアルノデアリマス、早速君ハ成程所得稅モ減ッテ居ル、酒稅モ營業稅モ、減ッテ居ルガ、其歩合ハ五分デアアル、或ハ一割ニ過ギナイデヤナイカト云フ御説モ承リマシタ、更ニ又豫算總會ニ於テ憲政會ヲ代表セル濱口君ノ御説モ承リマシタガ、減ッテ居ルカモ知レナイ、大正十年度ノ豫算ハ九年度ノ實收額ニ比スレバ、減額ヲ見積ッテアルカモ知レナイ、ソレハ租稅收入ダケヲ計算シテ見レバ、僅ニ四分五厘位ニ當ッテ居ルノデナイカト云フ御説モ承ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ諸君、是ハ要スルニ九年度ノ財界ト、十年度ノ財界ト云フモノ、見様次第ニ依ルコトデハアリマセヌカ、諸君ハ十年度ハ九年度ヨリ更ニ惡イモノデアアルト斯様ニ御觀察ニナッテ居レバコソ、其結論トシテ御議論ガ出ルノデアアル、私ハ左様ニ信ジナイノデアアル、九年度ハ丁度年度ノ初リ、即チ四月ガ御承知ノ大恐慌ノ襲來シタル時デアアリマセヌカ、此大恐慌ノ爲メニ、我國ノ商業產業總テノ生産業ハ非常ナル打撃ヲ被ッテ、一時全然中止ノ状態ニナッタト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアアル、而シテ今日ハ漸ク將ニ恢復セントスル曙光ハ示シテハ居リマスケレドモ、此一年間ノ生産界ニ及ボシタ打撃ハ、容易ナラヌモノデアッタノデアリマス、此非常ナル恐慌時代、不景氣時代、此時ニ於ケル收入ヨリハ、來年度ノ收入ガモット惡イト云フコトハ、是ハ憲政會、國民黨ノ諸君ハサウ信ジラレルカ知レマセヌカ、世間ノ識者ハ左様ニハ信ジテ居リマセヌ、私共ハ寧ロ十年度ノ經濟界ハ、多少ノ恢復ヲ見ルガ故ニ、九年度ニ較ブレバ多少ノ良好ナル狀況ヲ呈スルト信ジマスケレドモ、假リニ是ガ九年度以上良クナラナクテモ、少クトモ九年度ヨリモット惡イト云フ御觀察ハ、ソレハ餘リニ悲觀ニ過ギハセヌカト信ズルノデアリマス、既ニ九年度ノ經

濟界ト、十年度ノ經濟界ガ略ボ相均シイモノトシマスレバ、即チ政府ノ見積リナルモノガ、九年度ノ實收額ヨリ幾ラカ減ラシテアル、二千萬圓許リ減ラシテアル、此見積リガ何トシテ左様ニ不穩當デアリマセウカ、元來歳入ノ見積リガ過大デアアル、必ズ實際ノ上デハソレ程取レナイト云フコトニナツテ、行詰リデアラウト云フ此議論ハ、是ハ反對黨諸君ノ年中行事ト申シテ宜シイノデアアル、毎年々々此議論ハ御繰返シニナルガ、此御豫想ガ嘗テ一回モ的中シタコトガナイノデアアル、此點ハ前議會ニ於テ、私ガ指摘シテ諸君ノ反省ヲ促シタコトガアリマスルガ、最近ノ分ヲ見マシテモ、例ヘバ八年度ノ經常收入ノミニ就テ之ヲ見マシテモ、當時此收入ハ、豫算ノ高ダケハ決シテ取レナイゾト諸君ハ仰シヤッタニ拘ラズ、今日其決算ヲシタ所ノ實蹟ハ如何デアリマスルカ、即チ豫算ニ較ベテ二億二千四百萬圓ノ增收ヲ得タデアリマセヌカ、更ニ又本年度九年度ノ豫算ニ於テハ如何デアアルカ、是亦悲觀說ヲ屢、反對黨ノ諸君カラ耳ニ致シマシタケレドモ、今日既ニ此年度ヲ終ラントスル時ニ於テ確定セル所ノ收入ハ、之ヲ豫算ニ比較シテ見マスルト、九年度ノ租稅收入ノ豫算額ガ六億四千八百萬圓デアッタノデアアル、之ニ對シテ實收見込ハ幾ラデアアルカト云フト、約六億七千八百萬圓、即チ差引三千萬圓ノ増加ヲ來シテ居ルデアアリマセヌカ、私共ノ見ル所ニ依レバ此歳入——此租稅歳入ハ六億七千八百萬圓ト見積ッテアリマスルケレドモ、事實ハ是以上ノ收入ガアルト信ジテ居ルノデアアル、斯ノ如ク常ニ餘リニ悲觀ニ過ギテ、而シテ其實際ノ結果ハ常ニ諸君ノ豫想ヲ明ニ裏切ッテ居ルノデアアル、故ニ本年ノ此歳入ニ對シテモ、此歳入ノ見積リハ過大ナリト諸君ハ仰セラル、ガ、一年先キへ行ッテ諸君ノ申サル、所ノ說ガ確カデアッタカ、ソレトモ吾々ノ主張ガ確デアッタカト云フコトガ、確ニ證明サレル日ガアルト思フ、且又私ハ諸君ニ謹ンデ問ハントスルノデアアル、諸君ハ歳入ガ過大ナリト仰セラル、歳入ガ過デアルナラバ、歳出ヲ削減修正シテ、諸君ノ意中ニ在ル歳入ト其權衡ヲ保タシムルコトガ、豫算審議ニ當ル者ノ責任デアアリマセヌカ、然ルニ歳入ハ過大デアアル——過大デアアルト言フノミデ、是ト相對スベキ歳出ニ向ッテ何等手ヲ觸レナイト云フコトハ、抑、何タル事デアリマセウカ、更ニ又財政ノ將來ガ頗ル不安心デアアル、將來ニ對スル財政計畫ガ頗ル不確實デアアルト云フコト、是ガ御非

難ノ一デアアル、其理由トシテ政府ノ提出サレタル概計表ニ依ッテ見レバ、將來ニ起ル所ノ物價騰貴ニ對スル増額ト云フモノガ少シモ見込デナイ、併ナガラ物價騰貴ハ決シテ止ムベキモノデナイ、少クトモ物價ハ、此以上甚シク低落スルモノデアアルカラシテ、先キへ行ケバ此費用ガ非常ニ膨脹シテ來ルニ相違ナイ、之ニ對シテ剩餘金ナルモノハ、世間ノ不景氣ト共ニ歳入ノ減ズル結果トシテ、剩餘金ハ今日ノヤウニ出テ來ナイノデアアル、サウスレバ財政ハ行詰マルヨリ外ハナイノデアハナイカト云フノガ御議論ト承ツタ、諸君、成程物價ハ戰前ノ物價ニハ恢復致シマスマイ私モ左様ニ信ズル、併ナガラ是ガ如何ナル程度ニ於テ安定ヲ得ルモノデアアルカ、即チ何割以上下落シタナラバ、ソコガ即チ最低デアアルカ、斯様ニ將來ニ對スル物價ノ安定ノ程度ト云フモノハ、何人カ今日之ヲ的確ニ豫想スルコトガ出來マスカ、現在ノ狀況ヨリ推シテ將來ノ計畫ヲ立ツル上ニ就テハ、先ヅ大抵ノ所ニ見當ラ付ケテ、ソレダケノ増額ヲ見込デ置イテ、而シテ其年度ニ至ッテ、物價騰貴ノ爲メニ尙ホ増額ヲ要スルト云フ場合ニ立至ッタナラバ、其年度々々ニ於テ更ニ增收ノ計畫ヲ立テ、其必要ニ應ズルヨリ外ハ、何人ガ此概計表ヲ作り、將來ノ財政計畫ヲ立ツルニシテモ、是レ以上ノ方法ハ斷ジテ無イノデアリマス、政府ハ御承知ノ如ク將來ノ國防費ニ對シテ、戰前ニ較ベテ約二割ノ増額ヲ見込デ居ル、諸君ハソナ事デハイカヌ、大ニマダ物價ハ下落シナイノデアアルカラ、此増額ハ非常ニ龐大ナルモノニナルト仰シヤルガ、然ラバ諸君ハ尙ホ何割此上増額シテ置イタナラ宜イト仰シヤルノデアリマスカ、不幸ニシテ此點ニ就テハ、唯ダ十分ニ物價騰貴ヲ見積ッテナイト云フ御非難ノ聲ヲ聞クノ外ハ、具體的ニドノ程度マデ見積ルガ相當ト云フ御意見ヲ承ラナイノデアアル、政府ハ斯様ナ立方ニ依ッテ概計表ヲ作ッタノデアリマスガ、今申ス通りソレ丈デハイカナイト仰シヤルケレドモ、然ラバドレダケノ増額ヲ茲ニ計上シナケレバナラヌモノデアハナイカト云フ、具體的ノ御意見ヲ承ツタコトガ無イ以上ハ、即チ諸君ノ御意見デハ、悉クハ今日ノ物價ヲ以テ、此標準ヲ以テ、ナゼ將來ノ財政計畫ヲ立テナカッタト云フコトデアラウト私ハ思フノデアリマス、又左様ニ論結シナケレバナラヌノデアアル、倍テ諸君、若シ左様デアッタナラバドウ致シマセウ、一面ニ於テ諸君ガ申サル、通り、剩餘金ト云フモノハ、

少シモ出テ来ナイト假定シテ、而シテ一面ニ於テ將來ノ此國費ニ對スル所ノ經費ハ、現在ノ物價ヲ以テ増額ヲ見積ルト云フコトニナッタナラバ、ソレハ歲計上非常ナル不足ヲ生ズルコトハ明カデアル、此不足ハドウシテ補填シナケレバナラナイカト云ヘバ、今カラ的確ナル財源ヲ備ヘテ、之ニ對應スルト云フコトデアッタナラバ、増稅デモスルヨリ外ハ無イデアリマセヌカ、諸君ハ今ヨリ増稅計畫ヲ立テ、此將來ニ對スル所ノ物價騰貴ニ備ヘントスルノ此決心ガアルノデアリマスカ、斯ノ如ク將來ニ對スル所ノ此物價騰貴ガ見積ッテナイト云フ以上ハ、ソレヲ見積ルニハ相當ノ財源ヲ備ヘナケレバナリマセヌカ、此財源ハ増稅デモスルヨリ外ナイト云フコトハ、當然自明ノ理デアリマセヌカ、更ニ諸君ニ御尋シタイノデアアル、假リニ斯ノ如キ計畫ヲ立テタトシテ——假リニ増稅ノ計畫ヲ立テ、ソレノ財源ニ依ッテ、將來ノ物價騰貴トノ權衡ヲ保ツベク財源ヲ備ヘテ概計ヲ立テタトシテ、儲テ實際ニ當ッタナラバドウ云フコトニナリマセウカ、茲ニ現在ノ物價ヲ以テ計上シテ、ソレダケノ入用ノモノヲ増稅ニ仰ギ、新ナル計畫ヲ立テタ、而シテ將來其年度ニ至ッテ見ルト、物價ハ更ニ下落ヲシテ、ソレダケノ經費ハ要ラナイト云フコトニナッタナラバ、諸君ハ將來不用ナル財源ノ爲メニ、増稅ヲ國民ニ強要スルト云フ結果ヲ生ズルノデアリマセヌカ、斯ノ如キ未知數ニ屬スル所ノ此數字ノ爲メニ、今ヨリシテ斯ノ如キ増稅計畫ナドヲ立テルト云フコトハ、到底出來ナイト云フコトハ、是ハ明カデアリマセヌカ、既ニ諸君モ恐クハ増稅ト云フコトハ厭ヤデアリ、又左様ニ御考ニナッテ居ルノデアリマスマイ、アリマスマイガ、併ナガラ將來ノ物價騰貴ヲ見積ッテナイト云フノハ何故デアルカ、剩餘金ガ無イノデアリマスカ、斯ウ云フヤウニ結局何カニ依ッテ茲ニ財源ヲ備ヘナケレバ、貴方ガタノ御議論ノ歸著點ヲ見ルコトガ出來ナイデアリマセヌカ、將來ノ事ハ洵ニ測リ知ルベカラザルモノデアッテ、殊ニ我國ノ今日ノ如ク、經濟界ニ非常ナル激變ヲ來ス所ノ場合ニ於テ、將來五年十年ニ涉ル所ノ的確ナル歲計ヲ立テルト云フコトハ、抑、無理ナノデアアル、平時ニ於テ五年十年ニ對スル所ノ確カナル計畫ヲ立テルト云フコトハ、何人モ出來得ベキコトデアリマセヌカ、況ヤ又我國ニ於テ此數年來ノ經濟界ノ變動ト云フモノハ、如何ナル急激ノ步調ヲ以テ動キツ、アッタト云フコトハ御承知

ノ通りデアアル、斯ノ如ク物價ノ騰落、經濟界ノ盛衰ノ非常ナル時ニ於テ、五年十年先キノ事ヲ的確ニ作レ、作ラナケレバ即チ財政ノ將來ハ不安固デアルト云フガ如キハ、吾輩識者ト共ニ決シテ之ヲ認メルコトハ出來ナイノデアアル、左様ニ將來ノ事ヲ皆サンハ入釜シク申サレルガ、一例ヲ舉ゲテ諸君ニ問ヒタイノデアアル、大隈内閣ノ當時ニ於テ、即チ當時軍艦製造ノ費用ヲ議會ニ要求サレタトキニ、其年度ダケノ經費ヲ計上シタニ止ッテ、其以後ノ經費ノ計上ト云フモノハ一ツモナカッタノデアアル、其時ニ議會ヨリシテ、將來此軍艦ノ完成竣工ニ至ル迄ノ費用ハドウスル積リデアルカ、之ニ對シテハ少シモ財源ヲ備ヘテハナイデアリマセヌカト云フ質問ヲシタトキニ、確カ其當時ノ大藏大臣ハ武富君デアッタト記憶スル、武富君ハ之ニ對シテ、政府ハ最善ノ力ヲ盡シ、最善ノ努力ヲシテ、此財源ヲ作ル積リデアルト仰セラレ、其時ニハ何等具體的ノ數字ヲ示サレナカッタデアリマセヌカ、斯ノ如キ事ガアルノデアリマセヌカ、併ナガラソレハ必ズシモ無理テナイカモ知レヌ、實際其財源ヲ明カニ舉ゲルコトハ、其當時出來ナイ事情ガアッタカモ知レナイ、左様ニ實際ノ局ニ當レバ即チ左様ナ事モアルノデアアル、況ヤ今日此急激ナル變化ヲ經濟界ニ來シタル場合ニ於テ、五年十年先キ迄辻褄ガ合ハナケレバ承知ガ出來ナイ——左様ナ事ハ實際ノ政府ニ當ッテ居ル人ハ之ヲ申シマセヌカ、唯ダ議論ノミヲ爲サレテ居ル人ハ、左様ナ事モ宜イカモ知レヌト思フノデアリマセヌカ、更ニ又公債政策ガ甚ダ不安心デアルト云フコトモ申サレテ居ル、併シ之ニ對シテハ早速君ハ、豫算總會ニ於ケル所ノ濱口君ノ意見マデモ引用シテ、我國ニ於ケル國債、是ハ三十億以上ニモ達スルモノガアル、之ヲ僅々ノ年間ニ於テ整理ヲシナケレバナラナイ、其上更ニ十億ニ垂ントスルモノヲ、矢張此五六年ノ間ニ新ニ募ラナケレバナラナイ、斯様ナ御議論デ非常ニ此公債ト云フモノガ將來増加シ、是ガ即チ我國ノ大ナル累ヲ爲スモノデアルト云フガ如キ御説ヲ承リマシタ、イカサマ公債ノ徒ラニ増加スルト云フコトハ、吾々決シテ之ヲ喜ブモノデアリマセヌ、併ナガラ之ト同時ニ諸君ノ言ハル、如ク、我國ノ公債狀態ハ非常ナル窮境ニ陥ッテ、右ニモ左ニモ動キガ付カヌヤウナ狀態ニ陥ッテ居ルト云フガ如キ悲觀ハ、ソレハ私ト諸君ト意見ヲ同ジタシナイノデアリマセヌ、殊ニ近年増加シタ所ノ此公債、是ハドウ云フ性質ノモノガ増加致シタ

カト云フコトヲ一瞥シマスレバ、即チ左様ナ悲觀ヲスル必要ハ私ハ無イト信スルノデアリマス、即チ大正三年ノ末ヨリ大正九年ノ末ニ至ル迄ノ公債ノ増加額ガ、十二億五千九百萬デアッタガ、此中デ臨時國庫證券ガ五億三千三百萬圓デアアル、而シテ事業公債ハ四億八千八百萬、臨時軍事費公債其他デ二億三千八百萬圓ト斯様ニナッテ居ルノデアリマス、所ガ臨時國庫證券ハ諸君御承知ノ通り、是ハソレノ財源ノ備ッテ居ル所ノモノデアッテ、唯ダ一時國庫金ノ流通手形ニ過ギナイノデアリマシテ、是ハ決シテ憂フベキ性質ノモノデナイノデアリマス、更ニ又事業公債四億八千八百萬圓ノ増加、是亦深ク憂フルニ足ラナイノデアアル、即チ電信、電話、其他鐵道ノ如キ、斯ノ如キ生産的ノ收入アル所ノ事業ニ向ッテ募ラレタル所ノ公債ガアル以上ハ、此公債ノ多額ナルコトハ必ズシモ、國家ノ爲メニ憂フルニ足リナイノデアアル、然ラバ殘ル所ハ臨時軍事費、其他ノ比較的ノ不生産的ノモノデアリマスルガ、之ヲ此十二億五千九百萬圓ト比例ニシマスレバ、僅ニ其一割七分ニシカ當ッテ居ナイノデアリマス、斯様ナ風ニ解剖シテ見マスレバ、我國ノ國債ガ今日三十億デアアルト云フコトハ、必ズシモ之ガ爲メニ我國ガ非常ナル窮境ニ陥ッテ居ルト云フガ如キ御觀察ハ決シテ之ヲ容スコトハ出來ナイノデアリマス、殊ニ英吉利、亞米利加、其他聯合與國ニ於テモ隨分多額ノ公債ヲ發行シテ、其中ニハ此公債ノ始末ニ困ッテ居ル國モアリマスルガ、我國ニハ幸ニシテ左様ナ状態ニ陥ッテ居ラナイノデアアル、寧ロ公債ノ状態ニ於テハ、各國中最モ良好ナル所ノ状態デアアルト云フコトヲ記憶シナケレバナラヌノデアアル、此際ニ於テ此財政ノ論議ニ與カル所ノ人々ガ、如何ニモ我國ノ公債ノ状態ハ此儘ニシテ置ケバ、終ニハ非常ナル状態ニ陥ルト云フ論議ヲナサルノハ、少シ御慎ミヲ願ハナケレバ、他國ニ對シテ我國ノ財政ノ信用ヲ傷ケルコトニナルノデアリマス、此公債ノ償還ト云フモノハドウデアアルカ、ソレハ中々思フヤウニ行クマイ、又之ヲ借換ヘルニシテモ容易ナコトデアアルマイ、必ズ先ニ行ッテ行詰ルニ相違ナイ、是ガ御議論ノ骨子デアリマスガ、要スルニ歲入ノ見積ガ過大デアアルカ過大デナイカト云フ議論ト同ジ事デ、銘々ノ見込ニ依ッテ異ルダケデアリマス、吾々ハ爾ク信ジマセヌ、例ヘバ此國債二十一億圓ヲ解剖シテ見マスレバ、十七億ハ内國債デアッテ、十四億ハ外國債デアアル、而シテ此十四億圓ノ中デ、

極メテ償還期ノ近キモノハ僅カニ一ツシカ無イデアアリマセヌカ、ソレハ即チ大正十四年度ニ期限ノ到來スル、四分半利附英貨公債三億五千六百萬圓、其外ニ佛貨國庫證券、是ガ大正十二年ニ償還期限ノ到來スルモノ、二千八百萬圓、兩方合セテ見テモ三億八千九百萬圓ノモノニ過ギナイ、而シテ之ニ對シテハ、前議會ニ於テ當局ヨリ説明サレタル如ク、若シモ其償還時期ニ至ッテ借換若クハ他ノ方法ニ依ッテ之ヲ爲スコトガ出來ナケレバ、預金部ハ其外國ニ所有スル所ノ在外正貨約三億九千萬圓ヲ以テ、此借換ニ應ズルコトガ出來ルト申シテ居ルデアアリマセヌカ、故ニ此外國債ノ借換若クハ償還ニ至リテハ、甚シク杞憂ヲ抱ク必要ハ無イ、十四億圓ノ中此一ツノモノヲ除ク殘リハ、最長期ノモノハ大正五十九年迄ノ期限デアアルノデアリマス、内國債ハ斯様デアアル、而シテ内國債十七億圓ノ中デ、期限ノ約十年ノ中ニ到來スベキモノガドレダケカト云フト、二十一年度迄ニ償還期限ノ到來スル分ガ、合計約六億九千萬圓アルノデアリマス、六億九千萬圓——之ヲ一度ニ償還若クハ借換ヲシナケレバナラヌト云フコトデアッタラ、是ハ應ヘルノデアリマス、併ナガラ平均シテ見レバ、是ガ即チ一箇年七千萬圓ニシカ當ラヌノデアリマス、尤モ是ハ早速君モ申サレ、又豫算總會ニ於テ憲政會ノ諸君ヨリ屢、申サレマシタガ、此後新ニ募ルベキ公債ガアルデハナイカト言ハレル、成程其通りニ相違アリマセヌ、大正十五年迄、年々一億五六千萬圓新ニ公債ヲ發行シナケレバナリマセヌ、之ヲ加ヘマシテモ一年ノ發行ニ係ルモノガ、借換ノ分ヲ含メテ見マシテモ、二億二千萬圓ヲ以テ十分デアアルノデアリマスカラ、我國ノ此状態ニ於テ、年々二億二三千萬圓ノ公債ノ發行ガ出來ルカ出來ヌカト云フコトガ問題デアリマス、諸君ハ六ヶシイト仰セラレルガ、私ハ今日ノ我が國力ニ照シテ、斷ジテ左様ニ困難デナイト存ジマス、固ヨリ私ト雖モ非常ニ樂觀シテ、是ガ易々行クトハ考ヘテ居リマセヌ、其間ニハ必ズ當局ノ頗ル機敏ナル働、手腕ヲ要スルコトハ申スマデアリマセヌ、併ナガラ其手腕ヲ用キ、其機智ヲ働カシテモ、今日ノ我が經濟ノ上ニ於テ、不可能デアルト云フガ如キ諸君ノ議論トハ、吾輩其論ヲ一ニスルコトガ出來ナイノデアリマス、例ヘバ既往ノ成績ニ徴シテ見マシテモ、我國ガ一年ニ一億五千ヤ二億ノ公債ヲ消化スル力ガアルト云フ其證據ハ、大正六年度ニ於テ豫定シタ一億一千二百萬圓ノ

事業公債、ソレニ五千百萬圓ノ借換、ソレガ一厘モ殘ラズ出來タデハアリマセヌカ、更ニ又七年
度ニ於テ約五千萬圓ノ借換、一億三千三百萬圓ノ新募集、是モ豫定ノ通りキチント募集濟發行濟
ニナツタデハアリマセヌカ、更ニ又八年度即チ昨年度ニ於テハ如何デアアルカ、總體ニ於テ四億六
百萬圓、此公債ハ殆ド全部發行濟ニナツタ、サウシテ餘ス所ハ僅ニ七千六百萬圓ノ軍事公債ダケ
ニ止ツテ居ルデハアリマセヌカ、併シ諸君ハ此七千六百萬圓ノ軍事公債ノモノデモ、ソレダケノ
モノガ殘ツタデハナイカト仰シヤルカモ知レマセヌカ、ソレハ其必要ガナカッタカラ募ラナカッタ
ト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、即チ臨時軍事費ハ其支拂ノ必要起ルニ從ツテ、一
面ヨリ其資金ヲ供給スレバヨイ組織ニナツテ居ルノデ、今迄支拂ノ必要起ラザル時期ニ先ダツテ
公債ヲ募集シ若ハ借入金ヲシテシマウ必要ハ無いデアリマス、故ニ此支拂ノ關係ヨリシテ、此
七千五百萬圓ハ募集セズシテ殘ツタニ過ギナイ、其他ノ四億數千萬圓ノモノガ全然總發行濟ニナ
タト云フコトハ、如何ニ我國力ノ底力ノ強イト云フコトヲ、諸君ハ御記憶ニナラナイケレバナラ
ヌ、大正九年度ニ於テ諸君ハ、其時代ハ非常ニ景氣ガ好イ時代ダカラト仰シヤルガ、諸君大正九
年度即チ其年度ノ初ヨリ經濟界ニ大恐慌ヲ起シタ所ノ——經濟界ヲ非常ニ不景氣ニ陥ラシメタ
所ノ此大正九年度ノ豫定ハ如何デアツタカ、大正九年度ニ於テハ、事業公債ノ豫定ガ一億八千八百
萬圓、鐵道公債二千四百萬圓ヲ加ヘテ、二億二千二百萬圓ノ發行ノ豫定デアツタモノニ就テ、ソレ
ガ今日迄二億一千萬圓ハ既ニ發行濟ニナツテ居ルデハアリマセヌカ、殘ル所ハ僅ニ一千萬圓、是ハ
マダ年度ガ一月半殘ツテ居ル、此間ニ於テ恐ラク此一千萬圓ト云フモノハ、募集シ得ルコト、信ズ
ルノデアリマス、次ニ非常ナル打撃ヲ受ケタル九年度ニ於テスラモ、此二億數千萬圓ノ此公債ガ、左
程苦痛ヲ見ズシテ其發行ヲ得タト云フコトハ、是モ同ジク我國ノ國力ヲ證明スルモノニ非ズシテ何
デゴザイマセウ、斯様ナ過去ノ事實ニ徴シテ見レバ、是ヨリシテ二億二千萬圓宛ノ借換、若クハ新
ナル發行ヲ要スルモノガアリトシテモ、ソレガ爲メニ我國ノ公債狀態ガ非常ニ窮境ニ陥ルト云フガ
如キ、左様ナ御悲觀ハ全然御無用デアルト信ズルノデアリマス、公債ノ將來ノ此整理借換償還等
ニ就テハ、當局ハ確タル成案ヲ持タナイト斯様ニ仰セラレマスケレドモ、過去ニ於テ歷代ノ内閣

ガ左様ナ計畫ヲシタ所ノ内閣ガアリマスガ、獨リ此内閣ノミヲ左様ニ御責メニナリマスケレドモ、
歷代ノ内閣ニ左様ナ計畫ヲ立テタモノハ一ツモ無いデアリマセヌカ、大隈内閣ノ當時ニ於テモ左
様ナ御計畫ハ無カッタノデアアル、今日ノ公債ノ總高ハ三十一億、大隈内閣ノ當時ノ大正三年大正四
年頃ノ公債ノ總額ハ二十五億位キデアツタノデアアル、若シモ國債ヲ償還スル所ノ財源ハ經常歲入ニ
依ルヲ原則トスルト云フコトデアツタナラバ國債ノ狀態ガ善イカ悪イカト云フコトハ其國ノ經常
歲入ノ高ト國債ノ高ト比較シテ見タナラバ、一番明カデアアルノデアアル、然ルニ大正三四年大隈内
閣ノ當時ニ於ケル其經常歲入ト公債ノ總高トノ其割合ト、今日ノ公債ノ總高トノ其割合ト今日ノ
公債ノ總高ト歲入ト此割合トヲ比較致シマス、今日ノ方ガ遙ニ良好ナモノデアリマス、即チ大
隈内閣ノ當時ニ於テハ、國債ノ總高二十五億ニ對シテ、經常歲入ノ高ガ五億二三千萬圓デアツタ
ノデアアル、今日ニ於テハ國債ハ増加シテ三十一億ニナツテ居ル、サリナガラ一面ニ於テ經常歲入
ノ高ガ十億ヨリ十二億ニ達シテ居ルデハアリマセヌカ、此總體ノ比例ヲ之ト比較シテ見マスケ
レバ、今日ハ我國ノ公債狀態ハ大正三四年ノ交ニ較ベテ、遙ニ良好ナ位置ニ在ルト云フコトヲ申シ
テモ差支ナイノデアリマス、然ラバ今日ヨリ不良ナル所ノ公債狀態ニ在ツタ其大正三四年ノ頃ニ
ハ、尙更此公債ノ整理ニ對シテ、確タル案ヲ當局ガ立テナケレバナラヌト云フ筋合ニナリハシマ
セヌカ、然ルニモ拘ラズ、大隈内閣ハ此公債ノ整理ニ對シテ、別段ノ案ヲ御提出ニナツタコトモ聞
キマセヌシナツタコトモ見ナイノデアリマス、故ニ斯様ナ事ハ必ズシモ現内閣ノミガ此案ヲ立テ
ナイカラ、將來ノ財政ト云フモノガ甚ダ不安デアアル、將來ノ公債ガ甚ダ不安デアルト云フ御結論
ニハ遺憾ナガラ服從致シ兼ヘルノデアリマス、要スルニ御議論ハ種々アリマセウ、大綱ハ要スル
ニ斯様ナモノデアアル、諸君ハ之ヲ一括シテ、之ヲ理由トシテ此豫算ヲ返附ナサルト申サレルケレ
ドモ、歲入ガ不確實デアアル、歲入ノ見積ガ過大デアアル、公債ガ憂慮ニ堪ヘナイ、先ノ財政ニハ物價
騰貴ガ見積テナイト、斯様ナ御議論ハ昨年モアツタノデアアル、昨年モ同様ニ矢張公債政策歲入將
來ノ財政計畫、之ニ對シテ御非難ガアツタノデアリマス、既ニ此三ツノ點ガ不安心デアアル、故ニ此
豫算ハ一旦返付シテ、此編成替ヲ要求シナケレバナラナイト云フノデアアルナラバ、何故ニ昨年既

ニ返付論ヲ御提出ニナラナカッタノデアラウト云フコトヲ怪ムノデアリマス、昨年モ同一ノ状態デアッタニ拘ラズ、昨年ハ相當修正ヲスルト云フコトニ御在デニナッタノデアリマセヌカ、然ルニ今年ニ至ッテ同一ナ狀況デアルニ拘ラズ、而シテ同一ナ御議論デアルニ拘ラズ、今年ニ限ッテ豫算ヲ一括シテ之ヲ返付セントスルト云フ御議論ハ、抑、私ニハ了解シ兼ネルノデアアル或ハ斯ノ如キ事ノ爲メニ、必ズ此返付論ナルモノハ實ハ返付ヲシテ、新ナル編成ヲ要求スルト云フケレドモ、此美名ノ下ニ隠レテ、實ハ此豫算ヲ以テ、政争ノ具ニ供スルモノデアアラウト斯様ニ評スル者ガアツテモ、諸君ハ之ヲ辯解スルコトガ出來ナイノデアアラウト思フ、斯ウ論ジ來リマスレバ、此豫算返付ノ理由トシテ、早速君並ニ鈴木君ヨリ縷々述ベラレタル所ノ説ハ、一モ其根據ヲ有セナイト云フコトハ明瞭ニナッタラウト考ヘルノデアリマス、吾々ハ斯ノ如キ時代ニ於テ、斯ノ如キ名義ノ下ニ豫算ヲ否決シテ、此時代ニ適應スル所ノ各種ノ施設ヲシテ、一年モソレ以上モ滯滞セシムルガ如キ此無責任ナル所ノ所謂返付論ナルモノニハ、斷然此席ニ於テ之ニ反對ヲ致シマスノデアリマス

紫安新九郎君ノ早速説賛成演説

諸君、本員ハ早速君ノ主張セラル、豫算返付論ニ賛成ノ意見ヲ述ベントスル者デアリマス、之ニ先ダッテ唯今山本君ノ御述ニナリマシタ御論旨ニ對シテ、聊カ反駁ヲ加ヘントスルモノデアリマス、山本君ハ斯様ナル御議論ヲナサツタ、豫算ノ審議權ハ本院ノ重大ナル權利デアアル、之ヲ拋棄スルハ無責任デアアル、又昨年ハ豫算返付論ヲ唱ヘナイデ、之ヲ修正シタニモ拘ラズ、今日其態度ヲ變ヘタト云フコトハ、是ハドウ云フモノデアアルカト云フコトヲ、前後ニ互ッテ力説セラレタノデアアル、又時日ノ無キニモ拘ラズ返付論ヲ唱フルト云フコトハ、返付ノ陰ニ隠レテ、審議權ヲ放棄スルモノデアアルト云フコトヲ申サレタ、ソレカラ之ヲ返付スレバ、此豫算中ニ包含セラレタル時代ノ要求ニ基ケルモノヲ、一箇年延期スルノデアアル、其責任ハ何人カ之ヲ負フカト云フコトヲ唱ヘラレタ、之ヲ私ハ一括シテ山本君ノ論旨ニ酬ユルノデアアル、昨年豫算返付論ヲ唱ヘナイデ、今

日返付論ヲ唱ヘルト云フコトハ、可笑シイデハナイカト云フノハ、是ハ山本君ガ大ニ見ル所ヲ誤ッテ居ラレルト思フノデアアル、吾々同志ガ何故ニ現政府成立以來、不本意ナガラモ豫算ニ對シテ修正ヲ加ヘ、返付論ヲ唱ヘナカッタト云フコトハ、現政府ハ兎モ角ニモ政黨内閣デアアル、故ニ此政黨内閣タル現政府ハ、必ズヤ從來ノ官僚内閣、軍閥内閣トハ大ニ其面目ヲ改メテ、國政ニ對シテハ其責任ヲ重ンズベキモノデアアルト云フコトヲ吾々ハ察シタノデアアル、故ニ現政府ニ對シテハ不本意ナガラモ、暫ク現政府ノ爲ス所ヲ見ントスルト云フ、此態度ヲ以テ豫算ニ對シテ返付論ヲ主張セザリシニモ拘ラズ、現政府ハ吾々同志ガ幾度カ警告ヲ與ヘタルニモ拘ラズ、之ニ對シテ依然トシテ放漫ナル財政政策ヲ執リ來ッタルデアアル、故ニ今日ニ於テ之ヲ看過スルコトハ、國家ヲ危険ニ導クモノデアアルト云フ此信念ヨリシテ、茲ニ從來ノ態度ヲ改メテ返付論ヲ唱フルニ至ッタルデアアル、又豫算ノ審議權ハ本院ノ重大ナル權利デアアルカラシテ、返付論ヲ唱フルト云フコトハ此審議權ヲ放棄スルト言ハレルノデアアル、是ハ私ノ甚ダ了解ニ苦シムモノデアアル、豫算審議權ヲ完全ニ實行スルガ爲メニ、此豫算審議權ヨリシテ流レ來ッタル結論ガ返付論トナルノデアアル、何等豫算審議權ヲ放棄スルモノデハナイノデアアル、又山本君ノ言ハレル通り、此審議權ヲ放棄シテ豫算ヲ返付スレバ、此豫算ノ中ニ含まレタル時代ノ要求ニ基ケルモノヲ一年延期セシムル、其責任ハ何人ガ負フカ、是ハ申スマデモナク現政府ガ負フト云フ、是ハ論ヲ俟タザル所デアアル、現政府ガ内外ノ情勢ニ鑑ミ、而シテ時代ノ要求ニ應ジタル豫算ヲ編成シ來ッタルバ、吾々同志ハ強チ之ニ對シテ返付論ヲ主張スル者デハナイノデアアル、然ルニ現政府ガ依然トシテ放漫ナル政策ヲ改メザル結果、茲ニ國家財政ノ前途ノ爲メニ、已ムヲ得ズ返付論ヲ主張セザルヲ得ヌ立場ニ立ッタルデアアル、故ニ此責任ハ現政府ガ負フト云フコトハ論ヲ俟タザル所デアリマス、ソレカラ又山本君ハ豫算實行不能ヲ反對黨ハ年中行事ト爲シテ居ルガ、何時モ的中シタコトハナイト云フコトヲ御述ニナツタ、是ハ山本君ハ本年度ノ實行豫算ガ、果シテ實行サレテ居ルノデアアルヤ否ヤト云フコトニ御氣付ガナイカラ、斯様ナ事ヲ御述ベニナツタノデアアラウト思フ、論ヨリ證據、鐵道ノ特別會計ノ状態ハドウデアリマスカ、鐵道ノ特別會計ハ昨年ノ臨時議會ニ於テ、政府ハ責任ヲ

以テ、決シテ不安定デナイト云フコトヲ主張シタニモ拘ラズ、政府豫期ノ通りノ收入ヲ舉ゲル能ハズ、而シテ支出ハ物價騰貴ノ爲メニ豫期以上ノ増加ヲ來シタノデアアル、此ニ於テ事業ヲ繰延ベルカ、然ラズンバ運賃ヲ引上ゲルヨリ外ニ途ナキ窮境ニ陥ッタノデアアル、ソコデ事業ノ繰延ヲスルコトハ、現政府ノ四大政綱ノ面目上、如何ニモ之ヲ爲スニ忍ビナカッタ見エテ、遂ニ世ノ非難ヲモ顧ミズ、鐵道運賃ヲ引上テ行ッテ、濱口君ノ所謂唯ダサヘ經濟界ノ不景氣ノ場合ニ、此不景氣ナル經濟界ニ向ッテ追撃戰ヲ試ミタモノハ、是ハ現政府ニ非ズヤ之ヲ以テモ尙ホ反對黨ハ常ニ豫算實行不能ヲ年中行事トシテ居ルニモ拘ラズ、一モ的中セルモノナシトハ、何ノ見ル所アッテ言ハレルノデアリマスカ、ソレカラ更ニ私ハ序ナガラ是ハ山本君ニ伺フノデス、政友會ノ諸君ハ、從來米價ハ此内閣ノ繼續中ハ、決シテ下落スルモノデナイト云フコトヲ寧ロ主張シテ居ラレタノデアアル、然ルニ今日ノ米價ノ状態ハ如何デアリマスカ、是ハ私ハ多言ヲ費サズシテ諸君ノ御胸中ニ當ルモノガアラウト思フノデアアル、ソレカラ又五年十年ニ互ル財政ノ計畫ヲ立テヨト云フコトハ、無理ナ注文デアラウト申サレル、五年十年先ニ互ッテ財政計畫ヲ立テラト云フコトハ、神ナラヌ身ノ何人モ實際ニ於テハ、困難トスル所デアリマス、然ルニ現政府ノ財政上ニ於テ爲ス所ヲ吾々ヨリ見マスレバ、五年十年ニ互レルニ非ズシテ、僅カ半年先ヲ見ルコトガ出來ナイノデアリマス、ソレハ何ヲ以テ言フカ、即チ海軍ノ既定繼續費年度額ヲ十年度ノ豫算ニ就テ御覽ニナレバ、能ク了解ガ參ルノデアリマス、海軍ノ既定繼續費年度額ハ、昨年ノ臨時議會ニ於テ、政府ハ相當ノ物價騰貴ヲ見込シテ提出シタモノト吾々ハ見テ、之ニ對シテ協贊ヲ與ヘタニ拘ラズ、半年後ノ今日ニ於テ、物價騰貴ノ爲メニ一億千五百萬圓ト云フ巨額ノ追加豫算ヲ要求シテ居ルデアリマセヌカ、其内譯ヲ見マス、大正七年度ノ計畫ニ屬スル既定年割額ノ物價騰貴ハ七割デアリ、大正九年度ノ計畫ニ屬スル既定年割額ノ物價騰貴ハ五割デアリマス、是ハ僅ニ半年經ッカ經タザルノ間ニ、是ダケ追加豫算ヲ見ルニ至ッタルデアリマス、山本君ノ所謂五年十年トハ問題ニナラヌノデアリマス、僅カ半年經ッカ經タザルノ間ニ、政府ガ財政上ニ於テ、經濟上ニ於テ、其見ル所ヲ誤ッテ居ッタ結果、十年度ノ豫算トシテ此所ニ現ハル、ニ至ッタルデアリマス、故ニ斯様ナ

勢ヲ以テ軍備補充ノ完成致シマスル大正十六年度マデ進ンデ參リマシタナラバ、財政ノ前途ハ全ク闇黒デアルト謂ハザルヲ得ヌノデアリマス、ソレカラ又山本君ハ公債ノ整理ニ就テ反對黨ハ非難攻撃ヲ加ヘル、此非難攻撃ノ爲メニ却テ外國ニ對シテ我國ノ耻辱ヲ曝スモノデアルト云フガ如キ意味ノコトデ御述ニナリマシタ、併ナガラ此三十一億ノ公債ノ償還ニ對シテ、的確ナル償還方法ヲ講ジテ居ラザル所ノ現政府ノ信用コソ、私ハ中外ニ對シテ耻入ラザルヲ得ヌト思フノデアリマス、先ヅ山本君ノ言ハレタ事柄デ反駁ヲ加フベシト信ズル點ハ、斯様ナ點ト信ジマス、山本君ノ御説ヲ拜聽致シマス、山本君ハ經濟界ノ前途ニ對シテ、一カラ十マデ樂觀説ヲ御持ニナッテ居ルヤウデアリマス、我國ノ經濟界ガ曩ニ熱狂時代ヲ演ジマシテ、國民ガ好景氣ニ酔ヒマシタル事ニ就テハ、現政府及現政府ヲ擁護シテ居ラル、政友會諸君ノ煽動與ッテ力アルコト存ジマス、併ナガラ之ガ爲メニ國民ノ多數ハ大ナル手傷ヲ負ウタルコトモ爭フベカラザル事實デアリマス、今ヤ經濟界ハ景氣ノ恢復曙光ヲ見ルニ先ダチマシテ、大ナル整理ヲ施サナケレバナラナイ時機デアルト思フノデアリマス、即チ今日ニ於テ又々樂觀説ヲ御唱ニナルト云フコトハ、之ガ爲メニ過ヲ再ビ重ヌルモノガナケレバ仕合デアルト私ハ思フノデアリマス、本員等ハ辛カ不幸カ、現政府及現政府ヲ擁護シテ居ラル、所ノ政友會諸君、諸君ノ如クニ未ダ帝國ノ財政ノ現狀及前途ニ對シテ、無條件ニ樂觀説ヲ唱フルコトハ出來ナイノデアリマス、ソコデ十年度ノ豫算ニ對シテ、本員等ノ虞ル、所ヲ一言ニシテ盡セバ、財政ノ基礎極メテ薄弱デアルト云フ事デアリマス、財政ノ基礎ト申シマスレバ、申スマデモナク國家ノ歲計ヲ支フル根柢ノ事實ヲ意味スルノデアリマス、此根柢ノ事實ハ即チ國民ノ經濟デアリマス、申スマデモナク租稅ヲ負擔スル者ハ國民デアアル、而シテ國民ノ租稅負擔力ハ、其經濟ノ活動ノ盛衰ニ依ッテ厚薄ノ度合ヲ異ニスルト云フコトハ、當然ノ事柄デアリマス、又公債ニ應募スル所ノ者モ國民デアアル、而シテ國民ノ公債應募ノ力モ、國民所得ノ多少如何ニ依リマシテ自ラ強弱ノ別アルコトモ、亦論ヲ俟タザル所デアル、財政ハ畢竟國民ノ經濟力ニ依ッテ建設セラレ、モノデアリマス、ソコデ國家ノ財政ト國民ノ經濟ト云フモノヲ喩ヲ以テ見ルナラバ、是ハ車ノ兩輪デハナイノデアアル、又鳥ノ兩翼デモナ

イノデアアル、是ハ併立スルモノニ非ラズシテ、本末ノ關係ヲ有スルモノデアリマス、國民ノ經濟ヲ以テ幹根ト致シマスレバ、政府ノ財政ハ即チ枝葉デアアルデアリマス、例ヘバ國民ノ經濟ハ三角塔ヲ成ス所ノ土臺デアツテ、政府ハ其三角塔ノ切先、即チ尖端デアリト謂ハヌケレバナラヌデアリマス、國民ノ經濟ガ振ハズシテ、政府ノ財政ガ獨リ振フト云フコトハ、是ハ謂レナキ議論ト謂ハザルヲ得ヌデアリマス、然ルニ今此財政ヲ建設スル所ノ國民ノ經濟力ハ如何ナル状態デアリマスカ、此點ニ就テ少シク諸君ノ清聴ニ訴ヘントスルモノデアリマス、今ヤ經濟界ノ反動不景氣ハ、事業界、投機界、金融界ヲ襲フテ居ルコトハ、諸君ノ普ク知ラル、所デアアル、而シテ此不景氣ハ先日モ濱口君ガ御述ベニナリマシタヤウニ、上層社會カラ中層社會ヲ通ジテ、下層社會ニ及ンデ居ルデアアル、之ガ爲メニ全國ノ各階級各方面ニ向ツテ都會ト言ハズ、地方ト言ハズ、不景氣ノ影響ハ今ヤ國民ノ生活ヲ脅カシテ居ルノデゴザイマス、私ハ決シテ空漠ナル理窟ヲ言フノデアアリマセヌ、殊ニ米價ハ暴落シテ、農民ハ米價ヲ維持スルガ爲メニ不賣同盟ヲ作ツテ居リマスカナレドモ、不賣同盟モ何ノ效果ガ無クシテ農民ハ非常ニ騒ギ立テ、居ルト云フコトハ、是ハ諸君ノ否ム能ハザル事デアラウト思フデアリマス、又生絲ノ不況ノ爲メニ繭ガ下ツテ、繭ガ下ツタガ爲メニ政府ハ蠶絲業救済ノ爲メニ、例ノ帝蠶會社ヲ設立セシメテ、興業銀行ノ手ヲ通ジ五千萬圓マデノ低利資金ヲ融通スルト云フ約束ヲ致シマシタ、サウシテ既ニ二千萬圓ヲ出シテ居ルデアリマスガ、之ガ爲メニ一部ノ資本家貿易業者ハ、或ハ救済セラレタカモ知レナイノデアリマス、併ナガラ全國二百萬戸ノ養蠶業者ハ、何ノ影響モ受ケテ居ラヌデアリマス、偶、帝蠶會社ガ生絲ノ賣止價格ヲ千五百圓ト爲セル爲メニ、横濱生絲市場ニ於キマシテハ、空廻リガ演セラレテ居ル間ニ、上海ニ停滯シテ居リマシタル支那ノ生絲ハ、續々亞米利加ニ入りマシタト云フ奇ナル現象ヲ呈シタノデアリマス、即チ帝蠶會社ノ爲セル所ハ、支那生絲ノ不況ヲ救済スルニ與テ力アリト云フコトハ言ヘマセウ、併ナガラ全國二百萬戸ノ我養蠶業者ニ對シテハ、何等救済ノ力ナカリシコトハ、是ハ爭フベカラザル事實デアルト謂ハザルヲ得ヌデアアル、此事柄ハ獨リ本員ノ一私言デハナイデアアル、養蠶生絲ノ事ニ精通セリトシテ世間ニ目セラレテ居ル所ノ大

森博士ガ、此間是同様ノ説ヲ述ベテ居ルデアアル、而シテ全國ノ養蠶業者ハ、本年ノ養蠶ハ如何様ニシタモノデアアルカト云フコトニ就テ、實ハ途方ニ暮レテ居ルデアリマス、是ハ私ハ農家出身ノ諸君ノ決シテ拒マザル所デアルト思フデアリマス、更ニ労働者ノ状態ハドウデアリマスルカ、日ヲ逐ウテ失業者ガ多クナルバカリデアリマス、私ハ餘リ時日ノ經ツタルコトハ申上ゲマセヌガ、今單ニ此二月ニ入りマシテ以來ハ、主ナル職工ノ業ヲ失ツタル者ヲ見マスルニ、大阪鐵工所ハ九百九名、播磨造船所ハ一千名、鳥羽造船所ハ千二百名ノ職工ヲ、何レモ本月ニ入ッテカラ解僱シテ居ルデアリマス、又北海道炭礦汽船會社ノ經營セル新夕張登川等ノ十三炭礦ニテハ、不景氣ノ爲メニ賃銀二割値下ヲ實行致シマシタノデ、之ニ從事スル坑夫一萬人ハ同盟罷工ヲ爲シテ居ルデアリマセヌカ、而シテ更ニ又政府ノ八幡製鐵所ハ今如何ナル状態ニ在ルデアリマセウカ、鐵價ノ暴落ガ續キマシテ、益、難境ニ陥ツテ、砲彈工場ヲ始メ第二小型工場鋼彈工場等ハ注文ガ皆無トナツテ、事業休止ノ已ムナキニ至レル際、海軍ノ八八艦隊材料註文ハ、本年度二十萬餘噸アリ、契約品納入時期ヲ迫リ居レルニ、是等ノ検査ガ八釜シク、不合格多キガ爲メニ、漸クニ八幡製鐵所ハ煙ヲ揚ゲテ居ルト云フコトデアリマスル、亦以テ昨今ノ労働者ノ状態ヲ知ルコトガ出來得ラル、ノデアリマス、然ルニ高橋大藏大臣ハ先日濱口君ノ質問ニ對シテ、斯様ナ事ヲ御答辯ニナツテ居ル、國民ノ仕事ガ殖エルニ從ツテ、使用シテ居ル所ノ資本モ非常ニ殖エル、隨ツテ所得モ殖エテ行クカラ、十年度ノ歳入豫算ガ増加シテ居ルト云フガ如キ樂觀說ヲ御述ニナツタノデアリマスルガ、成程國民ノ仕事ガ殖エルニ從ツテ、其使用シテ居ル所ノ資本ノ殖エテモ、不ハ是ハ何人モ議論ノ無イ所デアリマス、併ナガラ如何ニ國民ノ仕事ガ殖エ、資本ガ殖エテモ、不景氣ノ場合ニハ仕事ガ資本ヨリ生ズベキ收入ノ割合、所得ノ歩合ガ減少スルコトモ、亦覆フベカラザル事實デアリマス、國民ノ收入ノ割合、所得ノ歩合ガ減少スレバ、國庫ノ歳入ガ當然減少セザルヲ得ナイノデアリマス、故ニ政府ガ財政計畫ヲ豫メ立テルニ當リマシテハ、申スマデモナク其當時ノ經濟狀況ヲ慎重ニ鑑ミナケレバナラヌデアリマス、戰時非常ノ場合ハ論外デアリマスルガ、普通ノ場合ニハ、國民經濟ガ盛ナル場合ニハ、相當ニ大ナル計畫ヲ立テルガ宜シイ、併ナ

ガラ反對ニ民間ノ經濟狀態ガ不景氣ノ場合ニハ、之ニ伴ウテ相當緊縮ヲ加ヘナケレバナラヌト云フ事ハ、是亦議論ノ無イ所デアラウト思フノデアリマス、然ルニ現政府ノ十年度豫算ヲ見マスルニ、政府ノ財政ト國民ノ經濟トハ沒交渉デアルト云フガ如キ御考ヲ、御持ニナッタノデハナカラウカト云フヤウナ感ヲ吾々ハ抱カザルヲ得ナイノデアリマス、民間ノ不景氣ノ一端ハ前述ノ通りデアリマス、然ルニ十年度ノ豫算ハ好景氣ノ情勢ノ未ダ存シテ居リマシタル九年度ノ實行豫算ヨリモ、其金額ハ二億二千七百萬圓増加シテ居ルノデアリマス、即チ諸君ノ御承知ノ通り、歲入歳出各十五億六千二百餘萬圓ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、如何ニモ是ハ龐大ナル豫算デアリマス、而シテ此増加ノ金額二億二千七百餘萬圓ハ、租稅及印紙收入、官業及官有財産收入ヨリ得ントスル所ノ計畫デアリマス、此豫算ハ如何ニモ龐大デアアルガ、此龐大ナル豫算ニ依リテ政府ノ行政方針ニ何カ其面目ヲ新タニセルモノガアリヤト云ヘバ、唯ダ物價騰貴ノ影響ヲ受ケマシテ、爲メニ一億五千萬圓ヲ増加致シテ居リマス、残り七千萬圓ガ新事業トシテ各省ニ割當テラレテ居ルノニ過ギヌノデアリマス、先刻山本君ハ此豫算ヲ返附スレバ、時代ノ要求ニ基ケルモノデ一年延期シナケレバナラナイノデアアル、其責任ハ何人ガ負フノデアアルカト言ッテ大層此豫算ノ中ニ時代ノ要求ニ基ケルモノガ澤山アルガ如キ事ヲ御述ベニナリマシタガ、憫レムベシ豫算ハ龐大デアアル、併ナガラ物價騰貴ニ禍セラレテ、僅ニ七千萬圓ヲ新事業トシテ各省ニ割當テラレテ居ルニ過ギナイノデアアル、隨ッテ産業、教育、交通其他ノ文化政策ニ關スル新施設ニ至ッテハ私ハ十分ナリト云フコトハドウシテモ言ヘナイノデアリマス、吾々ノ信ズル所ヲ以テ見マスレバ、財政ノ要ハ歳入歳出ノ兩端ヲ喰合セルト云フ所ニアルダラウト思ヒマス、之ヲ喰合セルノニハ、積極的方法ト消極的方法トハ兩面ヲ見ナケレバナラヌデアリマス、積極的方法トハ、租稅ヲ増徴シテ確實ナル政府ノ歳入ヲ増加セシメ、依ッテ以テ歲計ノ缺陷ヲ補填スルト云フ事デアリマス、而シテ消極的ノ方法ト云ヘバ、租稅ノ増徴ヲ避ケ、専ラ歳出ノ緊縮ヲ圖ッテ以テ、歲計ノ缺陷ナカラシムルノデアリマス、而シテ此二ツノモノヲ併セテ用キレバ、一面ニ於テハ租稅ヲ増徴シテ確實ナル歳入ノ増加ヲ期シ、同時ニ他ノ一面ニ於テハ歳出ノ緊縮ヲ圖リマシテ歳出入ノ雙方

カラシテ此兩端ヲ喰合セルコトガ出來ルト思フノデアリマス所デ現政府ノ最近ノ財政上ニ執レル方法ヲ見マスルト云フト、現政府モ亦今私ガ申述ベマシタル此兩面ノ一ツデアアル積極的方法、即チ租稅ヲ増徴スルノ計畫ヲ立テタノデアアル、即チ所得稅酒造稅等ノ改正ヲ斷行シ、之ヲ國防充實ニ充テタノデアアルガ、遺憾ナル事ハ、財政經濟上最モ大切ナル所ノ物價ノ暴騰ヲ自然ノ成行ニ委セテ、通貨ノ收縮ヲ圖ラナカッタガ爲メニ、私ノ先刻申シマシタヤウニ、海軍ノ既定繼續費年割額ニ對シテ、半年ノ間ニ一億千五百萬圓ト云フガ如キ、巨額ノ追加豫算ヲ提出シナケレバナラナイ羽目ニ陥ッタノデアリマス、ソコデ現政府ガ昨年ノ臨時議會ニ於テ、所得稅酒造稅等ノ増稅ヲ斷行スルニ當リマシテ、國防計畫ノ爲メニハ、恆久的財源ヲ充當シナケレバナラナイト申シマシタル議論ハ物價調節ヲ誤ッタガ爲メニ、今ハ全ク此政府ノ主張ハ半年ナラズシテ破レタモノデアルト謂ハザルヲ得ヌノデアリマス、之ヲ要スルニ前段申述ベタル理由ニ依リマシテ、此行詰レル豫算ニ多少ノ斧鉞ヲ加ヘテ之ヲ是認スルガ如キハ、益、國家ヲ危殆ニ導ク無責任ナル誹ヲ免ル、コトハ出來ナイモノト思フノデアリマス、又現内閣諸公ガ廳ヲ冠ラ挂クルノ日ハ、破綻百出セル財政ヲ其後任者ニ譲リ、名譽アル諸公ノ徳ヲ傷ケルコトアルヤモ知レヌト云フコトヲ本員ハ併セテ虞ル、者デアリマス、仍テ十年度ノ豫算案ハ之ヲ政府ニ返付致シマシテ、根本的ニ編成替ヲ爲サシメルコトガ、國家ノ爲メニ深切デアリ又、適當デアルト私ハ信ズルノデアリマス、

東武君ノ豫算返付反對演說

私ハ大正十年度豫算ハ、總テ委員長ノ報告ニ賛成スルノ論旨ヲ申上ゲル等デアリマス、私ハ常ニ憲政會ノ諸君ノ財政論ニ就キマシテハ、敬意ヲ表シテ拜聽致シテ居ルノデアリマス、議會初期以來カラノ武富時敏君ノ如キ、或ハ當代ニ最モ噴々ノ名アル所ノ濱口雄幸君ノ演說ノ如キ、私共ハ深ク傾聽ヲ致シテ居ル、何時モ深刻正當ナ批評ノアルコトヲ私ハ敬意ヲ表シテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ私ハ遠キ既往ノ事ハ申シマセヌ、近ク此四十一議會以來、私ハ豫算委員ノ末席ヲ汚シマシテ、丁度四期繼續致シマスガ、其間諸君ノ論ズル事ハ殆ド千編一律デ、何等變化ヲ見ナ

イノデアアル、此點ニ就テハ甚ダ私ハ遺憾ニ思フ、四十一議會ニ武富君ノ論ジタ事モ、四十二議會ニ早速君、濱口君等ノ諸公ガ論ジタ事モ、昨年ノ四十三議會ニ論ジタ事モ少シモ變テ居ラヌ、是ハ國家ガ進歩シナイノデアアルカ、諸君ノ詰リ思想ガ進歩シナイノデアアルカ、何方デアアルカ、吾ハ甚ダ疑ナキ能ハズ、濱口雄幸君ノ如キ、若クハ若槻君ノ如キ、當代最モ名譽アル政治家ガ、斯ノ如キ論旨ヲ五年モ十年モ同ジ事ヲ繰返スト云フコトハ、如何ニモ國家ノ爲メニ私ハ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、裁判官ガ化石スルト云フ議論ガアルガ、憲政會ノ諸君ノ議論ハ殆ド化石同様デアアル、貴方ガタガ反對論ヲスルニシテモ、返付スルニシテモ、修正ヲスルニシテモ、議論ノ論點ハ少シモ變テ居ラヌ、速記録ヲ此所ニ持ッテ來テ、此速記録ヲ朗讀スレバ、去年モ、一昨年モ少シモ變テ居ラヌ、ソレカラ此返付論ニ對シテ色々議論ガアリマスガ、是ハ法律論ニ屬スル事デアリマスガ、私ハ此事ニ多ク論ジマセヌ、又後デ鳩山君杯ガ出ルカモ知レマセヌト思ヒマスガ、此返付ヲシテ貴方ガタハドウスルト云フノデアアルカ、政府ガ詰リ豫算ヲ提出スルノハ、憲法ノ命ズル所ニ依ッテ出シテ居ル、憲法六十四條ノ命ズル所ニ依ッテ出シテ居ル、是ハ勅裁ヲ經テ出シテ居ル、サウシテ、之ヲ政府ニ返付シテ撤回サセヤウト言ウタ所ガ、政府ハスル氣遣ハナイノダ、要スルニ豫算ニ對シテハ、修正デアアルカ、反對デアアルカ、否決デアアルカ、此三點ヨリ外ナイノデアアル、然ルニ返付ト云フ名ヲ藉ッテ之ヲヤルト云フコトハ、山本君ガ言フタ所ノ美名ノ下ニ隠レルト云フノデアアル美名ノ下ニ隠レテ、名ヲ街フト云フノニ過ギナイ、是ハ諸君ハ如何ニ考ヘルカ知リマセヌガ、衆議院規則ニ於テモ、或ハ議院法ニ於テモ、更ニ豫算會議ニ於テ審査ヲ要スル事ガアルナラバ、豫算委員ニ廻付ヲシテ更ニ審議サセルト云フコトスラモアル、若シ審議ニ未了ナ點ガアルナラバ、更ニ豫算委員會ヲ開イテ、サウシテ豫算ノ審議ヲサセルト云フダケノ事ガアルノデアアル、然ルニモ拘ラズ諸君ハ此審議ヲ少シモシナイ、豫算委員ガ議シタ事ニ就テモ尙ホ疑ガアルナラバ、尙ホ豫算會ヲ開イテヤル途ガアルノデアアル、此點ハ私ハ諸君ノ返付論ニ對シテハ、甚ダ遺憾ノ感ヲ持ッテ居ルノデアリマス、次ニ大正九年度ノ豫算ト本年度ノ豫算ヲ比較ヲシテ多少論ジヤウト思フ、貴方ガタハ本年度ノ豫算ガ、大正十年度ノ豫算ガ如何ニモ杜撰デアアル、如何ニモ缺

陥ガ多イト——諸君ノ言フ如ク眞ニ缺陷ガアリ、眞ニ不備ナ點ガアルナラバ、是ハ御互ニ大ニ論究スル必要ガアルノデアリマス、——是ハ本年ノ豫算デス、總額デス、十五億六千萬圓、本年ハ大正十年度ノ豫算デアリマスガ、九年度ノ豫算ハ十三億三千五百萬圓デ、本年度ノ豫算ト比較スルト二億二千七百萬圓ト云フ増加ガアル、是ハ明カナ事デアアルガ、此豫算ノ内容ニ審カニ立入ッテ考ヘテ見マシレバ、此二億二千萬圓ノ増加ハ、先程貴方ガタノ主張スル如ク、物價騰貴ト云フモノガ一億五千萬圓入ッテ居ル、サウスルト云フト、跡僅ニ四千萬圓許リノ新規要求シカ無イノデアリマス、四千萬圓許リノ新規要求シカ無イトシマシレバ、昨年ノ豫算ト本年ノ豫算ヲ論ズルニハ昨ダ物價騰貴ノ一ツアルノミデアアル、物價ガ騰貴シタノハ、政友會ガ惡イト云フナラバ、是ハ諸君ノ言フ通りノ説ニ從ッテ宜シイ、其説ニ從ッテ宜シイガ、如何ニモ諸君ノ豫算ヲ審議スルニ無責任デアアルト思フ、何トナレバ昨年貴方ガタハ第四十三議會ニ於テ、國防費ト云フモノニ就テハ貴方ガタハ御協賛ヲ與ヘタ、昨年ノ陸軍ノ國防費ハ四億八千六百萬圓海軍ノ國防費ハ八億五千萬圓併セテ十三億四千五百萬圓ト云フ國防費ハ本年極メルノデアナイ、十年度ノ豫算極メルノデアナイ、第四十三議會ニ於テ是ハ既ニ議院ガ協賛ヲ與ヘタ金額デアアル、諸君ハ此國防費ニ於テハ全然修正モシナイ、協賛ヲ與ヘテ置イテ、其國防ト云フコトニ就テハ諸君モ御同感デアラウト思フ加藤高明君ガ議會ガ閉會スルト同時ニ、精養軒ニ於テ如何ナル演說ヲシテ居ルカ、政友會ガ國防計畫ヲ立ッタト云ッテ非常ニ手柄顔ヲスルケレドモ、是ハ吾々ガ内閣ニ居ッタ時分ニ總テ八六艦隊ノ基礎ヲ造ッテ今日ノ八八艦隊ト云フモノ、基礎ガ出來タノデアアルト、斯ウ云フ事ヲ加藤總裁ガ言ッテ居ル、然ラバ此國防ト云フモノニ就テハ、諸君ハ反對ノ意見ヲ持ッテ居ラヌ、持ッテ居ラヌト致シマシレバ、此豫算ノ大體ニ於テ、本年ノ豫算全額十五億六千萬圓ト云フモノハ何ガ多イノデアアルカ、僅カ、物價騰貴ガ一億五千萬圓這入ッテ居ルト、新規要求額ガ四千萬圓許リニナッテ、本年ノ此豫算ト云フモノハ、昨年ノ國防費ヲ協賛シ、昨年ニ於テ諸君ガ協賛シタモノガ累進シタ結果デアアル、又貴方ガタガ昨年ハ鐵道ニ於テモ贊成ヲシテ居ル、政友會ノ積極政策ハ放漫デアアルト云ッテ居ルケレドモ、貴方ガタ鐵道ニ何一ツ修正ヲ加ヘマシタカ、鐵道計畫ニ皆贊成シテ居ル昨年

ノ鐵道計畫ノ金ハ幾ラデアアルカ、既定ノ繼續費ガ八億五千萬圓之ニ既定計畫ヲ合セ十四億何萬圓ト云フ鐵道繼續費ガ入ッテ居ル、然ラバ此鐵道ノ繼續既定計畫ヲ合セ七億何萬圓ト云フ豫算ニ入ッテ居ル、這ッ入ッテ居ルナラバ、此處ニ論ズル所ノ論點ハ何ガ殘ルカ、何ガ殘ルカト言ヘバ、新規要求額ノ四千萬圓ト云フモノガ、是ハ詰リ現政府ノ無責任ナリ、現政府ノ豫算ニ缺陷ガアルト云フ議論ノ論點ニナル、僅ニ殘ス所ハ新規要求ノ四千萬圓ノ金ヲ論ズレバ宜シイノデアアル、此點ニ於テ諸君ハ大ナル誤解ガアルト思フ、何故本年ノ豫算ガ不備デアリ大缺陷ガアルノデアアルカ、昨年ノ諸君ノ協賛シタ結果累進シタトスルナラバ、此ニ四千萬圓ノ事ヲ論ズレバ宜シイノデアアル、其レ以上ノ事ハ論ズル必要ハ無イノデアアル、本年ノ此新規要求額四千萬圓ハ豫算綱要或ハ豫算內示會ニ於テ現政府ガ其方針ヲ示シテ居ル、既定ノ繼續費ヲ確實ニ遂行スル、用ヲ節シ費用ヲ省キ、既定ノ繼續費既定ノ仕事ヲ確實ニ遂行スルト云フノガ今ノ政府ノ方針デアアル、其以外ニハ無用ノ費用ハ一厘一毛モ要求シテ居ナイ、其外ニ緊急國務ノ進行上已ムベカラザルモノ——國家ノ緊急必要ニ應ジテ已ムベカラザルモノヲ計上スルト云フコトガ即チ四千萬圓デアアル、其四千萬圓ガ貴方ガタガイカヌト云フナラバ、其イカナイ内容ヲ論議シナケレバナラヌ、私ハ甚ダ微細ニ入りマスケレドモ、大體ノ議論トシテ申サザルヲ得ナイ、本年ノ豫算ニ新規要求ニナッタ主モナルモノハ治水費ノ増加デアアル、此治水費ノ増加ハ五百七十何萬圓ト云フ金ガアルガ、其中ニハ渡良瀬川ノ改修費六十萬圓、信濃川ノ改修費五十一萬圓、高梁川ノ改修ガ百六十一萬圓、北上川ガ三十萬圓、木曾川ガ五十萬圓、荒川ガ百四十萬圓、九頭龍川ガ四十萬圓、淀川ガ二十九萬圓、最上川ガ十萬圓、江合鳴瀬兩川ガ七十四萬圓トナッテ居ル、總額ガ二千幾百萬圓ト云フ額ニナッテ居ル、諸君ガ論ズルナラバ、此點ガイカヌ、此治水事業ハ何處ガ惡イト云フコトヲ論ジナケレバナラヌ等デアアル、諸君ハ口ニ返付ヲ唱ヘルケレドモ、此豫算ハ否決スルト云フコトデアアルカ、此返付ト云フコトハ、名ハ返付デアアルケレドモ、其法律論ハ否決デアアル、之ヲ否決スルト云フナラバ、此中ドレヲ否決スルノカ、ソレヲ明示シナケレバナラヌ、況ヤ私ハ不幸ニシテ、治水委員會ノ委員ニナッタ所ガ憲政會ノ人ハ盛シニ私ノ所ヘ天龍川ノ改修ヲシテ吳レ、信濃川ノ改修ヲシテ吳

レト要求シテ來ルデハナイカ、丁度御座敷ニ於テハ襟元デ立派ナ額ヲシテ居ルガ、襟ノ下デハ手ヲ出シテ居ルト云フヤウナ事デアアル、之ガ事實デアリマス、又本年ノ治水ノ外ニ築港ノ計畫ガアル、横濱ノ築港ハ千三百七十五萬圓ノ計畫デアアル、是ハ横濱ハ憲政會ノ地盤デモ何デモアリマスマイアリマスマイガ、天下ノ港デアアルカラシテ、是ハ當然國家ガ經營スルノガ當リ前デアリマセウガ、横濱ノ築港ハ、此豫算ノ中ニ入ッテ居ル、下關ノ築港モ入ッテ居ル、ソレカラ清水港ノ築港モ入ッテ居ル、是ハ總額五百五十萬圓、サウシテ下關ハ詰リ三百六十何萬圓ト云フ計畫ガ入ッテ居ル、北海道ノ代リオ負ケニ私ノ所ノ北海道ノ拓殖費ガ二千八百四十六萬圓ト云フ計畫ガ入ッテ居ル、北海道ノ明示シテ居ル北海道ノ民族發展上大ナル經綸ヲ策シナケレバナラヌト云フ豫算綱要ノ大項目ニナッテ居ル、所ガ此中ニハ釧路川ノ築港計畫、留前ノ築港計畫、釧路川、十勝川、是ハ小池代議士ノ憲政會ノ盤地モ入ッテ居ル、斯ノ如キモノニ何ッテ反對ヲシテ居ッテ、諸君ハ國ニ歸ッテ我等ハ實際大ニ贊成シタト演說シテ歩クンデアアル、然ラバ此新要求額ノ四千何百萬圓ト云フモノニ何處ニ不當ナ所ガアル、何處ニ之ヲ削除シナケレバナラヌ所ガアルカ、ソレヲ明示サレタイノデアアル、若シ漫然抽象的ニ豫算ハ龐大デアアル、國防費ハ龐大デアアルト云フ議論ニナラヌ、何處ガ惡イト云フコトヲ明示スレバ、吾々モ考ヘル、内閣モ考ヘル、政府モ考ヘル、之ヲ何モ言ハズニ一ツモ之ニ手ヲ著ケズ之ニ一ツモ議論ヲシナイノデ唯ダ豫算ガ龐大——抽象論ト概括論バカリデハ國家ノ經綸ハ立テルコトハ出來ルコトハ出來マセヌ、事實ニ依ッテ一々論據ヲ示サナケレバナラヌ……ソレカラ公債政策、成程公債政策ニ就テモ、ソレハ濱口君ノ說モ、早速君ノ說モ、一種ノ議論トシテ吾々ハ傾聽スル、又我日本ノ公債ガ非常ニ多イコトモ、是ハ決シテ慶ブベキ事デナイ、慶ブベキ事デハナイガ、是モ前段同様ノ議論ト同ジ事デ、此公債ハ何カラ起ッタト云フコトヲ貴方ガタハ少シモ研究ヲシナイ、何ノ必要ガアッテ國家ガ公債ヲ起シタカ、政友會ガ積極政策ヲシテ濫費スル、ソレガ爲ニ公債ガ多クナルト云フヤウナコトヲ言フケレドモ、此公債ノ根源ト云フモノハ一ツモ論ジナイ、此公債ニハ生産的公債モアレバ、生産的ノ公債モアル、軍事公債、資本勘定ニ屬スル

公債モアル、サウシテ今日日本ノ三十億カラノ公債ハ、殆ド約半額ハ生産的ノ公債デアアル、本年特別會計ニナツテ居ル五千四百萬圓ト云フモノハ、是ハ何デアアルカ、鐵道會計ニ屬スルガ爲メ資本勘定ニ充テル公債デアアル、朝鮮或ハ樺太等ノ植民地ノ補充基金ニ入ル所ノ公債デアアル、サウシテ其他總テ是ハ必要ナルモノハ、備ハツテ初メテ公債ノ形ヲナシテ來ル、之ヲ一々租稅デヤル國ハ何處ニモナイ、公債ヲ以テ皆ナヤルノデアアル、唯ダ論ズルノハ、生産的カ不生産的カト云フコトヲ論ズレバ宜シイ生産的公債ナラバ公債益可ナリ、鐵道ヲ段々延長スルト云フナラバ、鐵道ニハ公債ヲ以テヤルト云フコトハ是ハ當然デアアル、サウシテ鐵道ガ架カレバ、一方ニ國力ノ發展民カト云フモノハ發達シテ來ルノデアアリマスカラシテ、生産的公債ナラ一向ニ差支ナイ、又此公債ニハ利廻ト云フモノハノガアル——伴ツテ來ル、本年ノ公債ノ利廻ハ一千五百萬圓カラノ金ガ矢張一般會計ニ入ツテ居ル、貴方ガタハ豫算ノ内容ヲ御覽ニナレバ分ル、一千五百萬圓ノ公債利子モ繰入レテアル、是ガ何デ悪イカ、鐵道公債ヲ募集スルノガ惡イト云フカ、鐵道公債ヲ募集スルト云フコトニ付テハ、貴方ガタハ色々議論ガアルガ、此鐵道公債ニ付テノ利廻ハ十分ニナツテ居ル、大正元年頃マデノ利廻ハ甚ダ少ナカッタ、三朱カ五朱デアッタ、五朱以下デアアリマセウ、併ナガラ最近ノ此鐵道ノ公債ノ利廻ハ大正元年ハ六朱二厘、大正三年ハ六朱一厘、大正五年——三年置キ平均ヲ取ツテ居リマスカ、大正五年ハ七朱二厘、大正七年ハ七朱八厘、八年ハ七朱七厘、大正九年ハ八朱、昨年ノ公債ハ八朱ノ利廻ニシテアル、八朱ノ利廻ニスルナラバ如何デアリマスカ、是位生産的ノ事業ハアリマセウ、今公債ヲ募集シテ、六朱若クハ六朱五厘ノ公債ヲ募集スルコトガ出來ルトシテ、八朱ノ利廻ニ行クト云フナラバ、公債ヲヤッタ所ガ貴方ガタノ言フヤウニ國ガ亡ビルトカ、破産スル、何處ニソシテ議論ガ出來マスカ、サウシテ公債ノ募集ガ困難ト云フコトニ就テハ、先程山本君カラシテ縷々辯ジマシタカラ、私ハ餘リ申シマセヌガ、八年度ニ公債ヲ募集シタ額ハ五億一千萬圓、其中新規ハ一億六千二百萬圓、借換ガ二億三千萬圓、九年度ハ新規ガ二億三千萬圓、借換ガ四億八千萬圓ヲ借換シタ、通計七億圓ノ借換ヲシタ、貴方ガタハ何モソシテ事ヲ心配シナクテモ宜

イ、大藏大臣ガチャント付イテ居ッテヤツテ吳レル……公債ノ事ハ山本君ガ色々御説明ガアリマシタカラ、私ハ敢テ此以上ハ論ジマセヌ、ソレカラ歳入ガ非常ニ過大デアルト云フコトノ議論ガアリマスカ、是モ矢張私ノ先程ノ議論ヲ敷衍スレバ宜シイノデアアル、貴方ガタハ歳入ガ過大ダト云フコトヲ頻ニ論ズルケレドモ、何處ガ過大デアルト云フコトハ一ツモ言ハナイ、何處ノ點ガ歳入ガ非常ニ惡イカ、是ハ皆大藏省ノ人ガ大正八年度前三箇年平均ノ、或ハ二割引或ハ三割引ヲシテ、サウシテ課目課稅ノ物件ニ依ツテ、皆ナハ割出シテアル、其割出ノ基礎ガ惡イカ此課目課稅ガ何處ガ惡イト云フ議論ヲシナケレバ豫算論ニハナラナイ、酒造稅ノ酒造ノ高ガ非常ニ多過ギルト云ツテ早速君ハ論ジマシタケレドモ、是ハ早速君ノ想像論デアアル、想像ヲ前提ニシテ議論ヲスレバ幾ラデモ出來マスケレドモ、酒造年度ハ大正七年度以前ノ三箇年平均ニ依ツテ、造石高ヲ計上シテ、ソレニ課稅シテアルノデアアリマスカラ、是モ大正七年ト云ヘバ五年六年七年ノ此三年ノ造石高ヲ標準ニシテ課稅シテアルノデアアル、是ハ詰リ大變多過ギルト云ツタ所ガ、一人前幾ラノモノダトカ云フヤウナ議論ニハ是ハ往カナイノデアアル、矢張課稅事件カラシテ此基礎ヲ割出サナケレバ、是モ議論ニナリマセヌ、ソレカラ十年ノ概計表ガ非常ニ不確實デアアル、今後五年十年ノ後ニハ日本帝國ハ亡國ダト云フ議論ハ度々私ハ諸君ノ御説ヲ聞クノデアアル、私ハ其事ニ付テ諸君ト此壇上デ應酬シタコトモアル、加藤政之助君ガ豫算討議ノ時分ニ貴方ハ二十年前カラ此議論ヲシテ居ルガ、日本ノ國家ハ亡ビテ居ラヌト言ツタ、今日モ矢張同ジ事デアアル、貴方ガタハ二十年前カラ國家ハ明日ニモ明後日ニモ亡ビルヤウナ事ヲ言フガ、國力ハ段々進展シ諸君ノ言ハ全部裏切ラレテ居ルノデアアル、サウシテ大正十一年度ノ豫算ハ編成ガ六ヶシイダラウ、十二年度ハドウデアアルト云フガ、茲ニ假ニ數字ノ上カラ諸君ニ御安心ヲ與ヘルコトガ出來ヤウト思フノデアアル、大正十年度ノ豫算ハ困難ニハ相違ナイ、實行不可能ト云フ事モ多少貴方ガタノ言フ議論デナイデハナイケレドモ、其概計表ニ依ツテ行詰ルト云フコトハナイ、行詰ルト云フコトハ大藏大臣モ言ツタ、大藏大臣ノ言葉ヲ借りテ言フト、行詰ルト云フコトハ、馬ヲ壁ニ乘リ付ケタト云フノガ行詰リデアアル、ケレドモ國家ノ狀態ハ決シテサウ云フモノデハナイ、國家ハ彈力ガ

アル、國民ハ富ヲ持ッテ居ル、幾ラデモ解決ノ途ガアル、行詰ルト云フコト、困難ト云フコトハ、餘程事情ガ違フノデアル、貴方ガタガ行詰ル、ト云フガ、決シテ行詰ルト云フ事實ハアリマセヌ、大正八年度ニ於テ使用殘額ノ剩餘金ト云フモノハ、大正十一年度ニ使用スベキ金額ハ九千八百萬圓ト云フモノハ、先程早速君ガ論セラレマシタ、九千八百萬圓ト云フ金ハ取ッテアル、ソレカラシテ大正七年度ニ豫算計畫中ニ係ル大正十一年度使用額八百五十萬圓ノ豫算ヲ充當シテアル、金額ハ少ナイケレドモ八百五十萬圓ト云フモノハ大正十一年度以後ノ財政計畫ニ備ヘル、準備金ニ取ッテアル、サウシテ又現在ノ大正九年度ノ自然増收額ハ幾ラアルカト云フト、大藏大臣ハ之ヲ明言シナイ、幾ラ豫算總會デモ豫算分科會デ質問シテモ明言シナイガ、私ガ内證デ聞クト一億八千萬圓位ハアルケレドモ、ソレナ事ヲ言ッタラ又ワイ、騷イデ金ガ餘ルト云フト八方カラ手ガ出ルカラ、ソレナ事ハ言ハレヌト大藏大臣ハ言フノデアル、私ハ一個ノ議員デアアルカラ之ヲ言ッテモ差支ナイ、責任ハナイ、一億五千萬圓ハ今後必ズ出ルニ相違ナイト云フコトデアアル、即チ大正十一年度以後ノ豫算ニ向ケルコトガ出來ル、豫算ニ於テハ自然増收ガ出ルト云フコトデアアル、サウスレバ大正七年度ノ豫算ニ於ケル剩餘金ノ殘額八百五十萬圓ト、大正八年使用殘額九千八百萬圓ト、大正九年度ノ自然増收見込額約一億五千萬圓ヲ合セテ十一年度以降ニ使用スベキ財源ハ約三億圓ト云フ金ガ出ルカラ、諸君ガ亡ビル行詰マル、馬ヲ壁ニ乘リ付ケルト云フヤウナ心配ハ、決シテ無イト云フコトハ御安心下サイ、又國民黨ノ諸君ノ議論ニ對シテハ、是亦私ハ非常ニ敬意ヲ拂フノデアル、産業立國軍備制限ト云フコトニ就テハ、私ハ衷心ヨリ諸君ノ議論ニ敬意ヲ拂フ、併ナガラ現在ノ日本ノ國狀ニ就テハ、是ハ一個ノ理想論トシテハ宜シイガ、實際ノ政治家ノ議論トシテハ、マダ大分縁ガ遠イト思ウテ居ル、成程此軍備ヲ制限スルト云フコトハ、非常ニ私ハ必要ノ事デアラウト思フガ、鈴木君ハ四十二議會——多分四十二議會ト思ヒマスガ、間違ッタラ御了承ヲ願ハナケレバナラヌガ、四十二議會ノ時ニ此國防計畫ヲ議スル時分ニ、日本帝國ハ世界四分ノ一ノ面積ノ勢力範圍ヲ持ッテ居ル、是ハ面積ハ亞細亞諸島日本ガ東洋ノ平和ヲ維持スル使命ヲ持ッテ居ル勢力範圍ト私ハ感じテ居ルノデアリマス、世界四分ノ一ノ面積ヲ持

チ、世界六分ノ一ノ海軍ヲ日本ノ勢力デ支配シナケレバナラヌ、故ニ國家歲計ノ膨脹シ、又國防ニ必要デアッテ、國民ガ過大ノ負擔ヲスルト云フコトハ當然デアルト云フ演説ヲ此壇上デ爲サレテ居ル、其四十二議會ト今日トドレダケ違ッテ居ルカ東洋ノ平和ヲ維持シ海洋ノ四分ノ一乃至六分ノ一ノ海洋ヲ持ッテ日本、世界ノ四分ノ一ノ陸地ノ面積ヲ持ッテ、此東洋ノ平和ヲ維持シヤウト云フコトノ使命ハ、誰ガ任ズル我ガ日本帝國一アルノミデアリマス、此點ニ於テ遠ニ軍備ノ制限ヲシヤウト云フコトハ、是ハ一個ノ理想論、學者ノ理想論トシテハ宜シイケレドモ、天下ノ經綸ヲ談ジ、實際問題トシテ政府ヲ論ズル壇上ニ於テ之ヲ論ズルノハ如何ニモ迂遠デアルト私ハ言ッタノデアリマス、ソレカラシテ尙ホ諸君ニ一ツ非常ニ大ナル、矛盾ガアル、矛盾ガアルト云フノハ貴方ガタハ軍備ヲ制限シ縮小シヤウト云フコトヲ論ジテ居リマスガ、其論ジテ居ル中ニ矛盾ガアル、國民黨ノ諸君モ傳統的ニ日本ハ國防ガ必要ダト云フコトハ屢々承ル、貴方ガタハ政友會ノ國防計畫ヲ以テ政友會無責任トスル貴方ガタモ、國防計畫ヲ熱心ニ主張シタ一人デアリマス、是ハ連帶責任デアアル、國防計畫ニ對シテハ連帶責任デ、一ツ此豫算ノ中ニ出テ居ル、今度國際聯盟ニ依ル所ノ臨時聯合委員ヲ派遣スル費用ガ七十八萬圓載ッテ居ル、此七十八萬圓ハ是ハ即チ軍備ノ制限ヲシヤウト云フ國際聯盟會ニ我ガ委員ヲ派スル費用デアアル、其費用ニ反對シテ軍備ノ縮小ヲシヤウト云フノハ大ナル矛盾デアリマス、是ハ事甚ダ小デアアルガ、諸君ガ眞ニ國家ヲ憂ヘタナラバ、是ハ政黨政派ノ感情ヲ拔キニシテ、諸君ガ眞ニ理想ヲ貫徹シヤウト云ヘバ政黨政派ヲ超越シテ、サウシテ元老モアレバ軍閥モアリ、貴族院モアル國民ノ國防計畫ト云フコトハ、所謂日本ノ軍國的ノ今日迄發達ヲシ來ッテ居ルノデアアルカラ、今日ニ軍備ヲ制限スルト云フコトハ、四圍ノ境遇ト同時ニ、我内國ニ於テモ上下一致、國民一致シテ此方針ニ掛ルト云フ諒解ヲ持ツナラバ、吾々ハ此事ニ就テ諸君ノ希望、諸君ノ理想ヲ實現スルニ遠クハアルマイト思フ、併ナガラ諸君ノ二十八人三十人ガ豫算偏武ト云フ理想ヲ掲ゲテ議論スルト云フコトデハ、到底此事ハ容易ニ出來ナイト思フ、眞ニ國家ヲ思フナラバ、モウ少シ雅量ヲ大キクシテ、政友會トモ提携シテ立派ニ此議論ノ根據ヲ立テタナラバ、日本ノ偏武的財政ト云フモノハ、吾々ハ甚ダ遺憾ニ思フ、此

現在ノ計畫ニ對スル所ノ費用ノ中デモ、一割ヤ二割ハ減ズル餘地モアル、是ハ大口君ト同感デア
 ル、サウ云フコトヲシヤウト云フナラバ、御互ニ政黨政派ヲ離レテ眞實國家ニ對シテ誠意ヲ以テ
 誠意ヲ披瀝シテ、サウシテ御互ニ諒解ノ下ニ之ヲ行ハナケレバ、決シテ諸君ガ十年議論シテモ此
 事ハ行ハレマイト思フ、私ハ此意味ニ於テ國民黨ノ諸君ニ敬意ヲ表スルト同時ニ御注意ヲ促シ
 テ置クノデアリマス、又諸君ハ此豫算全體ニ於テ甚ダ厯大デアルト議論シテ居ルガ、尨大デア
 ト云フ傍ニ曩ニ私ガ治水ノ事ヲ論ジタガ、貴方ガタハ今後追加豫算ガ出ルト、全部之ニ反對シ
 ケレバナラヌノハ勿論デセウ、本豫算ヲ返付スル——否決ノ態度ヲ執ッテ行ッテ、追加豫算ノ出
 時分ニ之ニ賛成スルコトハ出來マイ、サウ云フ論理ハアリマセヌ、然ルニ諸君ハ毎日米價ノ調節
 フ論ジ、常平倉ヲ設ケテ吳レ、低利資金ヲ融通シテ吳レト云フコトハ、諸君ハ吾々ト毎日運動シ
 テ居ルデハアリマセヌカ、若シ假ニ常平倉ガ出タラ、諸君ハ此問題ニ反對シナケレバナラヌト云
 フコトニナルカラ、少シク政黨ノ根性ヲ離レテ眞ニ國家ノ經綸ヲ論ズル眞面目ノ見地ニ立ッテ議
 論ヲ爲サツテ戴キタイト私ハ考ヘルノデアアル、要スルニ私ハ此意味ニ於キマシテ、全部反對黨諸
 君ノ返付論ニハ大反對、原案ニ賛成スル意思ヲ表明シテ此壇ヲ降ル者デアリマス

大口喜六君ノ鈴木説賛成演説

私ハ鈴木梅四郎君ヨリ提案サレマシタ所ノ動議ニ賛成ヲ致ス所ノ者デアリマス、即チ唯今議題
 ニ相成ッテ居リマス所ノ此豫算全部、勿論此皇室費ニハ及ビ得ベキモノデアリマセヌ、此豫算全
 部ヲ政府ニ返付致シマシテ、適當ナル修正ヲ爲サシムベシト云フ意見ヲ持ッテ居ル所ノ者デア
 マス、勿論是ガ一部修正致シマシテ濟ムモノデアラナラバ、私共勿論一部分修正シテ置クノガ宜
 イト思フノデアリマス、併ナガラ本年ノ豫算ニ對シテ根本ニ於テ既ニ吾々ハ宜シカラザルコト
 ヲ認メテ居ル者ガアリマス、ソレ故ニ之ヲ全體ニ互ッテ修正セントスレバ、勿論議院ノ權限ニモ
 及ブベキコトデアアル、即チ繼續費ニ關係致シテ居ルモノデアリマスルガ故ニ、繼續費ノ年度割等
 ヲ修正スルニ對シテハ、勿論議院ノ權限ニ及ブ事デアリマスノミナラズ、行政上ノ總テノ施設ト

密接ノ關係ヲ持ツコト、相成ルノデアリマスルガ故ニ是ハドウシテモ政府ニ返付シテ、再ビ政
 府ヲシテ適當ナル修正ヲ爲サシムルト云フコトガ相當ナル手續デアルト私共ハ考ヘテ居ルノデ
 アリマス、中ニハ豫算審議權ニ對シテ色々ノ御話モアリマシタガ、私共ハ衆議院ニ於ケル吾々ノ
 豫算審議權ヲ重ズレバコソ、此案ヲ出シタノデアリマス、吾々衆議院議員ハ何時デモ此豫算ヲ鵜
 呑ニスルト云フコトガ決シテ國家ニ忠ナル所以デアリマセヌ、修正スベクンバ修正スベシ、全
 部賛成スベクンバ賛成スベシ、而シテ根本ニ於テ其誤ガアルコトヲ信ジタル場合ハ之ヲ政府ニ
 返付シテ適當ナル編成替ヲ爲サシムルト云フコトハ、蓋シ吾々ガ憲法ヨリ與ヘラレタル所ノ權
 限デアルト信ジテ居ル、ソレカラ又唯今東君ハ何分ニモ吾々ガ此豫算全部ヲ否決シ、否認デモス
 ルガ如キ口吻ヲ以テ、色々此外國ニ出ス所ノ委員ノ費用ナドニモ反對スルガ如キ口吻ヲ以テ御
 論ジニナッタノデアアル、吾々ハ賛成スル事ハ澤山アル、此案ノ中ニモ賛成スル事ハアル、社會事業
 ノ如キ吾々大ニ賛成デアッテ、殊ニ五十萬圓許リノ支出ト云フコトハ寧ロ少キニ失シテ居ルト信
 ジテ居ル者デアリマス、其他教育費ニ於テ其通りデアアル、ソレ故ニ賛成シテ居ルモノハ澤山アル
 ガ、豫算ノ全體ト云フモノニ及ンデハ、吾々之ヲ改メナケレバナラヌト云フコトニナレバ、其中
 ニ賛成ナルモノアリト雖モ、此全部ヲ政府ニ返シテ適當ナル編成替ヲシナクテハナラナイ、斯
 ウ云フ趣意ニ於テ吾々ハ提案シテ居ル者デアリマスルガ故ニ、決シテ此豫算全部ヲ否決シヤウ
 ト云フ意味ハ持ッテ居ナイノデアリマス、是モ宜シク御諒承ヲ願ッテ置キタイト吾々ハ思フノデ
 アリマス、ソレカラ先刻鈴木君ノ言ハレタ所ノ、此片務的ノ豫算デアルト云フコトニ就テ、山本
 君カラ大分御攻撃ガアリマシタヤウデアリマスルガ、鈴木君ノ言ハレタ所ノ此片務的豫算ト云
 フコトハ、吾々ハ斯ウ解釋シテ居ル、凡テ此國防ト云フモノハ何所マデモ國ノ實力ニ伴ッタモノデ
 ナクテハナラヌト吾々ハ信ジテ居ルノデアリマス、國家ト實力ニ伴ハザル所ノ國防ハ、蓋シ國ヲ
 危クスルモノデアアル、是ハ世界ノ大戰デ明ニ判ッテ居リマセウ、獨逸ハ諸君何ノ爲メニ負ケタノ
 デアリマスカ、戰ハ始カラ終リマデ勝ッテ居ルノデアアル、併ナガラ獨逸ガ聯合國ニ屈服セザルベ
 カラザルニ至リシ所以ノモノハ、其國家ノ實力ガ聯合國ニ及バザリシ結果デアルト云フコトハ、

天下悉ク之ヲ認メテ居ル所デアリマス、吾々ハ決シテ國防ヲ否認スルモノデハナイ、唯今東君カ
 ラ御話ノアリマシタ如ク、吾々ハ決シテ國防ヲ否認スルモノデハナイ、相當ナル國防ハ唯今デモ
 必要ナリトシテ居ルノデアアル、即チ國家ヲ維持スルニ足ルベキ最小限度ノ國防ノ必要ハ、吾々唯
 今デモ明カニ之ヲ認メテ居ルノデアアル賛成スベキハ、必ず賛成スル、併ナガラ國家ノ財力ニ伴ハ
 ナイ、實力ニ伴ハザル所ノ國防ヲ計畫シテ、徒ラニ軍備ノ雄大ナルコトヲ世界ニ誇ッテドウナリ
 マスカ、是ハ吾々ハ諸君ト共ニ虚心坦懐ニ本年ノ如キ時ニ方ッテハ、能ク研究致サナクッテハ
 ナラヌト思フノデアリマス、又山本君ハ斯ウ云フ事ヲ言ハレタヤウニ思フ、吾々ガ今回ノ此豫算
 ニ對シテ、將來此物價騰貴ノ爲メニ餘程ノ追加ガ來ナクテハナラヌト云フコトヲ言フニ於テハ、
 唯今カラ増税ノコトヲ定メテ置カナケレバナラヌノデアアルト云フ意味ノコトヲ言ハレタヤウデ
 アルガ、是ハ吾々一言爰ニ辯シ置カナクテハナテヌ、又吾々ガ若モダ、山本君ガ將來此豫算ノ結
 果増税來ルモノナリトノ意味ヲ以テ御論斷ニナッタモノナラバ、此點ニ對シテ山本君ニ同意ヲ表
 スルモノデアアル、即チ吾々モ本年政府カラ出サレタ此豫算ノ如ク、此儘ニ維持シテ行ッタナラバ、
 遠キ將來ト云ハズ遺憾ナガラ近キ將來ニ於テ必ず増税來ルベキモノナリト信ズルガ故ニ、ソ
 レヲ信ジマスルガ故ニ、吾々ハ之ヲ政府ニ返シテ根本的ニ作成ヲ仕直セト云フノデアリマス、増
 税ヲ厭ヘバコソ、ソレヲサセタクナケレバコソ、爰ニ之ヲ論ズルノデアリマス、然ラバ如何ナル
 譯ニ依ッテ増税來ルベキカト言フカ、是カラ諸君ニ申述ベテ見タイト思フ、之ヲ論ジマスルニハ
 色々此豫算ノ内容ニ涉リマシテ、緻密ニ論ジナクテハナラヌノデアリマスルガ、甚ダ時間ヲ費ス
 ノ虞ガアリマスガ故ニ、此中デ最モ大ナルモノニ就テ論ズレバ、直チニ諸君ノ御了解ヲ得ルコト
 ガ出來ルト思フノデアリマス、唯今之ニ就テ東君カラ色々御話ガアッテ、四千萬幾許ト云フ御話
 ガアッタヤウデアリマスガ、此數字ニ對シテハ私ハ不服ノモノデアアル、此數字ハドウシテモ解ラ
 ナイノデアリマスルガ故ニ、私共ノ取ッテ居ル所ノ數字ニ就テ、之ヲ述ベテ見タイト思フノデア
 リマス、即チ我國ノ豫算ハ先程以來諸君ノ申述ベラレタガ如ク、此大正十年度ニ於テハ、十五億
 六千何百萬圓ト云フノデアリマシテ、其中陸海軍ニ要スル所ノ費用ガ、七億六千七百七十八萬餘圓

ト云フノデアリマスルガ、即チ總歲出ノ四割八分強ニ當ッテ居ルト云フコトハ、諸君ガ御承知ノ
 通りデアリマス、而シテ此陸海軍ニ要スル總計七億六千何百萬圓ノ中デ、其最モ大ナルモノハ何
 デアルカト云ヘバ、此國防費ノ年度割額デアリマス、其年度割額ハ幾許デアアルカト云ヘバ、諸君
 ガ御承知ノ如ク、之ヲ總計致シマスレバ三億七千五百五十五萬圓ト云フノデアリマシテ、頗ル多額ヲ
 占メテ居ルノデアアル、而シテ其中ニ於キマシテ、此既定ノ豫算額ト云フモノガ二億四千幾許デ
 アッテ、本年追加要求サレタモノガ一億二千九百十萬幾許アルノデアリマス、此費用ト云フモノハ
 ドウ云フ種類ガ主ナルモノヲ占メテ居ルカト云ヘバ、御承知ノ通り陸軍ニ於テハ國防充備費デ
 アリマス、海軍ニ於テハ軍備補充費、即チ其主ナルモノハ海軍ノ軍艦製造費デアリマス、而シテ
 今一ツハ海軍ニ於テ計畫サレテ居ル所ノ水陸整備費此三ツト云フモノガ、其主ナルモノヲ占メ
 テ居ルノデアリマスルガ、此追加豫算ノ出シ方ハ全體ドウナッテ居ルカ、之ヲ研究致シテ見マス
 ルト、本年提出サレタ所ノ此唯今申シマシタ追加豫算額、即チ一億二千九百十萬餘圓ノ中ニハ、
 一億二千六百三十四萬八千幾許ト云フモノガ、是ガ即チ物價騰貴ノ結果デアアルト云フコトニ相成
 ヲテ居ルノデアリマス、ソコデ此計畫ト云フモノガ、全體如何ヤウニナッテ行ハレテ居ルノデアアル
 カト云ヘバ、陸軍ニ關シテハ御承知ノ如ク大正二十四年迄ノ計畫ニ相成ッテ居ル海軍ノ方ハ大正
 十六年迄ノ計畫ト相成ッテ居ルノデアリマスルガ、其年度割ト云フモノハ、諸君ガ御承知ノ通り
 吾々ニ示サレ、唯今東君モ言ハレタ如ク、吾々ガ此議會ニ於テ既ニ之ヲ議決致シテ居ルノデアリ
 マス、所ガ其中ノ主ナルモノハ諸君ガ御承知ノ通り、昨年七月ノ臨時議會ニ於テ決メラレタル所
 ノモノデアアルガ、之ニ對シテ先刻紫安君カラモ御話ガアッタ通り本年ノミニ向ッテ唯今申ス一億
 二千六百餘萬圓ト云フ物價騰貴ニ因ル追加額ガ要求サレテ居ルノデアリマス、即チ既定豫算額
 二億四千萬圓ニ對シテ本年度ダケ物價騰貴ニ因ル追加要求額ガ一億二千六百萬圓デアアルガ故ニ
 之ヲ歩合ニスルト五割強ニナルノデアリマス、ソレハサウ云フ勘定ガ出ル筈デアアルノデ、海軍ノ
 方ハ戰前ノ物價ノ七割ヲ物價騰貴ト見込デ居ル、陸軍ノ方ハ戰前ノ物價騰貴ト見積ッテ居ルノ
 デアルガ、其中ニ於テ昨年七月ノ臨時議會ニ於テ決ッタモノニ對シテハ、二割ト云フモノ、物

價騰貴ヲ既ニ要求サレテ居ルノデアリマスガ故ニ、其中ニ於テ此二割ヲ差引カレテ居リマスカラ、海軍ノ方ハ平均六割強陸軍ノ方ハ平均四割強ト云フモノ此歩合ヲ以テ、戦前ノ物價ニ對シテ物價騰貴ヲ要求シテ居ル、是ハ紫安君ナドカラモ既ニ御話ガアッタデアリマスルガ、此物價騰貴ト云フモノハ、昨年ノ七月即チ臨時議會ニ於テ、此案ヲ政府ガ出サレタ時ニ分ツテ居ラナケレバナラヌ管デアアル、然ルニ此物價騰貴ト云フモノヲ、昨年ノ七月臨時議會ニ提案サレル場合ニ之ヲ要求セズシテ、僅ニ半年ノ後ノ今日ニ於テ突然此追加豫算、即チ物價騰貴ニ因ル追加額ヲ要求セラレタト云フコトハ、蓋シ如何ヤウナル譯デアアルカ、吾々ハ之ヲ解釋スルニ苦シムノデアリマス、殊ニ吾々ガ不審ニ思ヒマスルノハ、此物價騰貴ト云フモノヲ唯ダ大正十年度ニノミ要求セラレテ、大正十一年度以後ノ繼續費ニ對シテハ要求シテ居ラレナイト云フノハ、抑、如何ヤウナル譯デアアルノデアリマセウ、物價ガ海軍ノ方ニ於テハ六割見當、陸軍ノ方ニ於テハ四割見當ト云フモノハ、來年度迄ニ物價ガ下落スルト云フ確實ナル見込ガアルナラバ、成程此繼續費ニ對シテ物價騰貴ノ追加ヲ御要求ニナラナクテモ宜イ譯デアアルガ、我國ノ物價ガツレダケニ下ルト思ハレルデアラウカドウデアラウカ、是ハ吾々ガ蓋シ疑ヲ容レザルヲ得ナイノデアリマス、殊ニ陸軍ニ於テハ洵ニ正直デアリマス、吾々ニ與ヘマシタル所ノ此陸軍豫算綱領ノ中ニ、明ニソレガ書イテアルノデアリマス、即チ此綱領ノ五頁ニ於テ「既定繼續費年割ノ増減」ト云フ所ノ摘要欄ニ於テハ、既ニ大正十三年度ニ於テ、必ズ物價騰貴ノ増額ヲ要求スルト云フコトガ書イテ居ルノガ、整備費年割ノ中ニアリマス、ソレカラ又特種兵器製造、及試験費年割ノ如キハ、物價騰貴ノ要求ハ、最終年度ニ於テ致シマスト云フコトヲ明カニ書イテ居ルノデアリ、同シ政府ノ中デ、陸軍省ニ於テハ既ニ是カラ先キ——十一年、十二年、十三年、此カラ先キニ於テ、物價騰貴ハ要求スルト云フコトヲ書イテ居ルノニ、政府ガ吾々ニ出シテ居ル所ノ此繼續年度支出方法ノ年度割ニハ、大正十年度ダケニ對シテ、此物價騰貴ヲ要求シテ、其後ノ年割ニ對シテハ、一向計畫ガ無イト云フコトデアッテハ、此デ果シテ繼續費ト云フモノガ確實ニ遂行シ得ラレルト大藏大臣ハ御思ニナルデアリマセウカ、此位吾々ハ甚ダ不確實ナルモノハナイト云フコト

ヲ信ズルノデアリマス、即チ物價ガ十一年度以後ニ下落スレバ宜イノデアアルガ、下落ハ容易ニ致サナイ、假リニ多少下落スルトシタ所ガ、海軍ニ於テ六割、陸軍ニ於テ四割強ト云フモノガ下落シナカッタ場合ニハ、又々毎年海軍モ陸軍モ追加又追加ヲ以テ、物價騰貴ノ要求ヲサレネバナラナイコトニナルノデアラウト思フノデアリマス、此事ハ私ガ此豫算分科會ニ於テ承リマシタ時ニモ、流石陸軍大臣ハ武人デアラレルダケニ、正直ナル答辯ヲ私ニ與ヘテ居ラレル、實ハ本當ノ事デアアルカラ言フモ宜シイ、ソレハドウシテモ此物價ト云フモノ、騰貴ニ對シテハ、要求ヲシナクテハナラナイト思フ、斯ウ云フコトヲ答ヘテ居ラレル、海軍大臣ハ頗ル婉曲ニ答ヘラレテ、海軍省トシテハ貴方ノ言フ通りガ洵ニ宜シイ、併ナガラ政府全體カラ言ヘバ、吾々ハ物價ノ事ヤ經濟ノ事ハ知ラナイカラ、大藏大臣ニ御任セ申シテアル、斯ウ云フコトヲ答ヘテ居ラレル、現ニ此處ニ海軍大臣モ陸軍大臣モ聽イテ居ラレテ、私ガ僞ラザルコトハ御承知デアラウト思フ、是ハ海軍大臣モ、陸軍大臣モ大正十一年度以後ニ於テハ、相當ナ物價騰貴ハ來ルモノナリト云フコトヲ御自覺ニナッテ居ルノデアアルガ、同シ政府部内ニ於テ、大藏省ノ何カ御都合ガアリ、豫算編成ノ上ノ都合ノ爲メニ、大藏大臣ガ之ニ同意サレズシテ、唯ダ大正十年度ノミニ向ッテ、此物價騰貴ヲ追加要求セラレタモノデアルト云フコトハ、吾々ノ想像スルニ難クナイノデアアル、ソコデ大藏大臣モ割合ニ私ニ對シテハ正直ナル御答ヲ爲スツテ居ル、此點ニ對シテハ寧ロ私ハ大藏大臣ノ正直ナリシコトヲ私ハ喜ンデ居ル者デアアル、是ハ先刻早速君カラモ申述ベラレタヤウデアリマスガ、豫算總會ニ於テ私ハ此率ニ對シテ大藏大臣ニ質問ヲシタ、此事柄ハ大正十一年度以後ニ於テ完全ニ行ケサウニ思ハナイノデアアル、海軍ノ方ハ國防計畫ノ事業ト云フモノガ大正十六年度マデ續クノデアアル、此物價騰貴ヲ僅ニ大正十年ノミニ要求サシテ置イテ、若シモ是ガ大正十一年度以後不足トナッタラドウナナル御積リデアアルカト云フコトヲ、大藏大臣ニ質問致シマシタ所ガ大藏大臣ハ斯ウ云フ御答ニナッテ居ル、ソレハ私モ心配致シテ居ル——速記録ヲ御覽ニナレバ判ル、ソレハ私モ心配致シテ居ル、ドウシテモ此物價騰貴ト云フモノガ來タル以上ハ是ガ元ノ如クニ——戦前ノ如クニ物價ガ復サナイ以上ハ已ムヲ得ヌカラ、此經費ヲ節約スルカ、ソレデナケレ

バ自然増收ニ待ツカ、ソレデ行カネバ已ムヲ得ヌカラ事業ノ繰延ヲスルカ、然ラザレバ増徴ヲ圖ルヨリ仕方ガナイト云フ御答ニナツテ居ル、是ハ正直ナル告白デアルト思フ、然ラバ増徴トハ何ゾヤト云ヘバ、借入金ヲ爲スカ、然ザレバ増税ヲ爲スト云フコトニ歸著スルノデアリマス、斯ノ如ク大藏大臣ハ御答ニナツテ居ルガ、吾々ハ爰ニ先ヅ一言シテ見タイ、事業ノ繰延ト云フコトガ、結局出來ルト云フ御考ナラバ、今日唯今ニ於テ事業ノ繰延ヲ御計畫ニナツタラドウデゴザイマセウ、又事業ノ繰延ハ愈々仕方ガナイ時ニ、是ハスルノデアアル、他ノ經費ヲ節約シテ、相當ニヤツテ見ルト云フ御考ガアルナラバ、既ニ大藏大臣ハ本豫算ノ上デ多少ノ修正ヲ爲シ、削減ヲ爲シテ差支ガナイ斯ウ云フ事ヲ御認ニナツテ居ルモノト吾々ハ信ゼザルヲ得ナイノデアリマス、斯ノ如キ譯デアリマスルガ故ニ、本年提出サレタ所ノ豫算ノ中ニ於テ、最モ其大ヲ占メテ居ル所ノ此陸軍ノ費用、其中ニ於テ、極メテ大ヲ占メテ居ル所ノ國防計畫、其年度割ト云フモノニ於テ、一億二千幾ラト云フ大ナル追加要求ガアルノデアリマスルガ、此追加要求ト云フモノハ、決シテ本年度ダケデ行ケルモノデハナイ、十一年度ニモ、十二年度ニモ、十三年度ニモ、年々歳々來ルベキモノデアルト云フコトガ明カデアアルノニ、ソレヲ公然ノ事ヲ爰ニ祕シテ置イテ、大正十年度ダケニ於テ辻褄ヲ合セ、其後ハ又何トカ其時考ヘルト云フガ如キ事デ、是デ財政ノ基礎ガ強固ナリト言ハレルコトハ、是ハ吾々到底同意スルコトノ出來ナイ事デアアルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスルガ、試ニ吾々ガ考ヘテ見ルト、然ラバ將來大正十一年度以後ニ於テ此物價騰貴デ來タナラバドウ云フ金高ニナツテ來ルノデアラウカ、斯ウ云フ風ニ計算ヲシテ見マスルト、唯今申シマシタ所ノ三ツノ費用、即チ國防計畫費ノ中ニ於テ、陸軍一ツ、海軍二ツ、此事ニ就テ算盤ヲ立テ、見ルト、其年々ノ既定年度割ニ對シテ、先刻申上ゲマシタ通り海軍ハ平均六割、勿論水陸設備費ハ先刻申上落シマシタガ、是ハ矢張四割、陸軍ト同ジ事デアリマス、陸軍ノ方ハ四割強、之ヲ年度割ニ掛ケテ見ルト、其年度ノ終リマデニ於テハ、國防計畫費ニ對シテ尙ホ七億二千六百五十七萬七千五百九十圓ト云フ追加要求ヲ吾々ハサレルコトヲ、今日覺悟ヲシナクテハナラヌノデアリマス、之ヲ年度割ニ割ツテ見ルト、大正十一年度ニ屬スル分ニ於テ、一億四千七百二十萬五千六百三十一圓ト云フ追加

要求ヲ、物價騰貴ノ爲メニ受ケナクテハナラヌト云フコトヲ覺悟シナケレバナラヌ、ソレカラ大正十二年度ハ如何ニナルカ、是ハ二億三千九百五十四萬九千五百五十八圓ト云フモノガ、追加要求サレネバナラナクナル、大正十三年度ハ如何ニナルノデアアルカ、矢張是ハ二億百三十二萬九千八百五十一圓ト云フ、大ナル物價騰貴ノ結果トシテ要求ヲ受ケナクテハナラヌ、ソコデ我國ノ將來ノ經濟ハドウナルカ、此通リデ我國ノ經濟ハドウナルカ、之ヲ諸君ト共ニ穿鑿ヲ致シテ見ナケレバナラヌト思フノデアリマスルガ、先ヅ私ハ本年ノ豫算ニ於テ諸君ト共ニ御相談ヲシテ見タイト思フ、武藤委員長カラ色々御報告ニ相成リマシテ、本年ノ豫算ニ於テハ、政府デモ種々ナル事業ヲ致シテ居ル、唯今モ東君カラ述ベラレタガ、治水事業デアアルトカ種々ナル事ヲ述ベラレルノデアアルガ、成程事業ノ種類ハ頗ル澤山ニ掲載サレテ居ルノデアアル、併ナガラ之ヲ費用ノ上カラ研究致シテ見マスルト、一千萬圓以上ノ金ヲ昨年ノ豫算ヨリモ多ク計上サレタルモノガ幾箇アリマスカ、是ハ政府ガ出サレタ所ノ此總計豫算ノ初リニ於テ、明ニ判ツテ居ル事柄デアアル、即チ一千萬圓以上ト云フ金ヲ、昨年ヨリ多ク本年政府ガ要求シテ居ルト云フ所ノモノハ僅カニ六ツシカ無イノデアリマスルガ、其六ツノ中ニ於テ最モ多ク要求サレテ居ル所ノモノハ、物價騰貴ニ因ル所ノ繼續事業費デアツテ、唯今私ガ長シク論ジタ所ノモノデアアル、其金額ハ一億千五百三十八萬五千三百二十一圓、是ガ一億千萬圓ト云フ大ナル金ヲ要求サレテ居ル、其他ノ五ツノモノハ幾ラノ金高デアアルカト云ヘバ、洵ニ僅カナモノデアアル、大藏省ニ於テ要求サレテ居ル千五百八十餘萬圓ト云フモノハ、國庫整理基金ノ繰入増加デアアル、陸軍省ニ於テ經常費ニ於テ要求セラレタル千二百六十二萬幾ラト云フモノハ何デアアルカ、是ハ既定計畫ニ依ル物價騰貴デアアル、海軍ニ於テ經常費ニ於テ要求サレテ居ル所ノ一千萬圓ハ何デアアルカ、是モ既定計畫ノ物價騰貴デアリマス、ソレカラ臨時部ニ行ツテ陸軍省ガ要求シテ居ル所ノ千五百五十二萬幾ラモ、是亦物價騰貴デアリマス、ソレカラモウ一ツ陸軍省ハ、本年ニ限ツテ物價騰貴ニ因ル經費補足ト云フモノヲ要求致シテ居ラレマスガ、是ガ一千萬圓アリマス、此外ハ何モ無イ、アトハ悉ク一千萬圓以下ノモノデアリマス、即チ此一千萬圓以上ノモノハ、國債整理基金ノ繰入ヲ除クノ外ハ、悉ク物價騰

貴ニ就テ要求サレテ居ルモノデアッテ、一ツ飛出シタ所ノ一億一千五百萬圓ト云フモノモ、是亦繼續ニ依ル所ノ物價騰貴デアリマス、斯ノ如ク穿鑿シテ見マスレバ幾ラ數ヲ列ベテ見テモ數ハ澤山アルノデアリマスガ、結局今年ノ豫算ハ、物價騰貴ニ對シテノミ要求セラレタルモノデアルト云フヨリ外ナイノデアリマス、ソコデ將來我國ノ財政ハドウナルカ、斯ウ云フコトヲ考ヘテ見マスルト、今年ノ如ク推移シテ見マスレバ、來年ニ於テハ唯今申シマス通り、此陸海軍ノ國防計畫費ノ繼續トシテ一億何千萬圓十二年度以下ニ於テハ、二億圓以上ノ追加要求ヲサレナケレバナラヌコトハ明カデアアル、ソレノミナラズ陸軍ニ於テハ、師團ヲ他ニ移スヤウナコトガアレバ軍隊ノ入ル所ノ營舎ヲ造ルニモ、一師團ニ對シテ四千萬圓要ル、海軍ハ十三年度以後ニ於テ補充計畫ノ來ルコトハ、是亦明カナル事デアアル、而シテ政府ノ示ス所ノ概計表ニ依ッテ見ルト、大正十一年度ニ於テ既ニ五千八百萬圓ト云フ歲計ニ不足ノアルコトハ、政府自ラモ之ヲ認メテ居ル、ソコデ我國ニ於テ唯今ノ如キ剩餘金ハドウナッテ居ルカ、悉ク使ッテシマッテ、殘ル所ハ九千八百萬圓、是ダケハ後年ノモノニ殘スモノデアアルト云フコトヲ、吾々ニ示サレテ居ルノデアリマスガ、此剩餘金ヲ悉ク之ヲ國防計畫ノモノニ使ッテシマウト云フコトハ、是ハ出來ナイ事柄デアアルノハ明カナル事實デアリマス、サウスレバ結局大正十一年度ノ以後ニ於テ、我國ノ歲計ガ所謂行詰リヲ見ル、吾々ガ行詰ルト云フノハソレデアアル、我國ノ經濟ハ決シテ破綻ヲスルコトハ、吾々ハ想像ヲ致シテ居ラナイケレドモ、我國ノ經濟ト云フモノハ結局大藏大臣ガ心配サレル如ク、詰リ借入金ヲ爲スカ、然ラザレバ増稅ヲ爲スト云フコトニ相成ラナケレバ、我國ハヤッテ行ケナイト云フコトハ、明カナルコトニ相成ルト思フノデアリマス、ソコデ一言私ハ爰デ申述ベテ置キタイト思フノデアリマス、全體國防費ノ如キモノハ、恆久的財源ヲ有セナケレバナラヌト云フノハ、政府ノ主張デアリマシテ、僅カ半年前ノ昨年ノ臨時議會ニ於テハ、政府ハ吾々國民ニ對シテ増稅マデモ要求サレテ居ルノデアリマス、然ルニ僅カ半年後ノ今日ニ於テ斯ノ如キ豫算ヲ提出サレテ、追加豫算トシテ大正十年度ニノミ之ヲ要求サレルト云フコトハ、ドウシテモ財政ノ根據ト云フモノハ完全デナイ、不確實ナルモノデアアル、是ハ私ハ政府ニ於テモ認メナケレバナラヌモノデ

アルト思フノデアリマス、サウシテ政府ハ歲入ノ項ニ於テ、色々ナル見積ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、成程歲入ト云フモノニ對シテハ、一面ニ於テハ是ガ見積デアルト云フ議論ガアルノデアリマセウケレドモ、吾々ハ之ニ對シテ水掛論ヲ致サウトハ思ハナイノデアリマスガ、爰ニ如何ニシテモ政府ガ之ヲ否認スルコトノ出來ナイ證據ヲ、私ハ持ッテ居ルト思フノデアリマス、即チ政府ガ昨年七月ノ臨時議會ニ於テ、吾々ニ所得稅並ニ酒稅ノ増稅ヲ要求サレタ時ニ、大藏省ガ吾々ニ示シタ表ニ何ト書イテアルカ、大正十年度ニ於テ此増稅ノ結果——法律改正ノ結果、增收トシテ來ルベキモノハ一億一千九百二十八萬四千三百九十圓ト云フモノガ來ルノデアアル、斯ウ云フコトヲ政府ハ吾々ニ示シテ居ル、所ガ今回政府ガ提出サレタ所ノ此豫算ニ於テ、歲入ヲ調ベテ見ルト、是ガドウナッテ居ルカ、此政府ノ説明書ニ依ッテ吾々ガ之ヲ計上シテ見ルト、一億四百九萬四千六百八十七圓ト計上シテ居ルノデアリマス、此間ノ其差額ハ千五百十八萬九千七百三十三圓アル、即チ政府ハ昨年ノ七月ニ於テ法律改正ノ結果、増稅案ヲ實行スル結果ハ一億一千五百二十八萬四千三百九十圓ノ收入ガアルト見込ダモノガ、今回ハ僅ニ半年ノ後ニ於テ、一億四百九萬四千六百五十七圓シカナイト云フコトヲ、茲ニ表白セザルヲ得ナイノデアリマス、即チ政府ノ見積ッテ居ル歲入ト云フモノハ、決シテ政府ノ思フ通りニ入ッテ來ナイモノデアルト云フコトハ、吾々ニハ明カナル問題デアルト思フ、其當時政府ガ吾々ニ示サレタルモノニ就テ、大正十一年以後ヲ見ルト、大正十一年度ニ於テハ此増稅案ヲ實行スル結果、一億二千六百七十三萬六千五百八圓ノ收入ガアル、大正十二年度ニ對シテハ、一億三千五百四十九萬三千六百圓ト云フコトヲ吾々ニ示サレテ居ルノデアアルガ、是亦唯今ノ割合カラ言ヘバ、毎年々々一千五六百萬圓乃至二千萬圓ト云フ金ハ入ルコトガ少ナクナルト云フコトヲ、今日カラ豫期シナケレバナラヌノデアリマス、斯ノ如キ譯カラ段々論究シテ見レバ、我國ノ將來ノ經濟ト云フモノハ頗ル不確實デアッテ、大正十一年度十二年度ニ於キマシテハ、如何ニシテモ増稅ヲスルカ、借入金ヲ爲シテ一方ヲ彌縫シナケレバナラナイモノデアアル、是ハ明カナル事實ニ到著スベキモノデアルト私共ハ信ズルノデアリマス、唯今ノ大藏大臣ハ頻ニ財政ヲ樂觀サル、方デアルトシテ批評ヲ受ケテ居ルノデアアルガ、吾々

モ全體財政ニ關シテハ樂觀ガ好キデアリマス、濫リニ悲觀スルコトハ好マナイノデアリマスガ、併シ樂觀モ物ニ依リ時ニ依ルノデ、濫リニ樂觀シテ其年ヲ送リ其日送リヲ爲シテ財政ノ窮乏ヲ來シ、終ニハ増稅ヲ累ネナケレバナラヌト云フニ至ル迄、晏如トシテ之ヲ推移シテ行クト云フコトハ、ドウシテモ吾々ハ之ヲ贊成スルコトノ出來ナイ所ノ事柄デアアルデアリマス、斯ノ如キ事カラ論ジ來リマスナラバ、如何ニシテモ我國ノ財政ハ、將來必ヤ増稅ガ來ルモノデアアル、然ラザレバ借入金ヲ以テ一時ヲ彌縫シナケレバナラナイト云フコトハ、誰ガ考ヘテモ判ナラケレバナラナイ事柄デアアル、サウナレバ今日此豫算ヲドウスルカ、ドウ取扱フカ、將來如何ニ之ヲスルカ是ハドウシテモ諸君ト共ニ吾々ハ、國家ノ爲メニ茲ニ之ヲ研究シナケレバナラナイ所ノ事柄デアアルト思フノデアリマス、即チ先刻モ申述ベマスル如ク、私共ハ決シテ此國法ト云フモノヲ否認スル者デハナイ、國防ハ最小限度ニ於テ、出來ルダケノ事ハ致サナケレバナラナイモノデアアルト思フノデアリマスガ、此國防ト云フモノニ對シテモ、出來ルダケノ整理ヲスルト云フコトハ、是ハ當然ナ事デアラウト思フ、即チ陸軍ニ於テモ相當ノ整理ヲシ、此費用ヲ減ズルコトヲ致サナケレバナラナイ、即チ年限短縮ノ結果來ル所ノ結果トシテハ、常備軍ト云フモノヲ縮小シテ宜イト思フ、ソレデアツテモ戰時ニ募ルダケノ兵士ガ募レルコトニナレバ戰争ニ差支ナイ譯デアアル、即チ年限ヲ短縮スル結果ハ、之ニ由ツテ來ル所ノ兵員ノ増加ニ依リ、常備軍ヲ縮小シテ適當デアアルト思フ又海軍ニ於テモ所謂老朽艦隊ハ速ニ之ヲ整理シテ、而シテ其經費ノ節減ヲ圖ルノガ、吾々ハ當然デアアルト思フ、而シテ一面ニ於テハ此産業立國ノ主義ヲ明ニシテ、益々我國ノ國力ノ充實ヲ圖ラナケレバナラナイト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ此根本ハ何所ニ在ルカト云ヘバ、先ヅ吾々ハ此稅制整理ト云フコトガ極メテ必要ナ事デアアルト思フ、全體政府ニ於テハ、此稅制整理ニ對シテ如何ヤウナル事ヲシテ居ラレルノデアラウカト云フコトガ、吾々ハ極メテ疑問デアアルノデアリマス、政府ガ銳意熱心ニ此稅制整理ヲ圖ラレ、バ、何時カ此稅制整理ハ出來ナケレバナラナイ答デアアル、原首相ハ何ト云ハレタカト云ヘバ、昨年ノ議會ニ於テ吾々ニ對シテ、詰リ唯今ノ議會此四十四議會マデニ、稅制整理ト云フモノヲ必ズ議會ニ提出スベシトノ希望ヲ以テ、吾々ハ進ン

デ居ルト云フコトヲ言明サレテ、ソレヲ吾々ハ信ジテ居ッタノデアリマス、然ルニ此議會ニ相成リマシテモ一向稅制整理ノ案ハ此處ニ現ハレテ來ナイ、何故デアアルカト之ヲ總理大臣ニ伺ツテ見レバ、ドウ云フ譯デ調査會ハ此研究ヲ延引シテ居ルノデアアルカ、吾々ノ知ル所デアナイガ政府ガ銳意熱心ニ之ヲサントスレバ、必ヤ之ガ出來ナクテハナラナイ筈デアアル、然ルニ政府ガ之ヲ飽マデヤラウト思ハナイ結果ガ、遂ニ斯ノ如キ事ニ相成ルノデアラウト吾々ハ思フ、先ヅ宜シク此稅制ノ整理ヲ爲シ行政財政ノ整理ヲ爲シ、稅制ノ如キハ成ルベク統一ヲ圖レバ租稅ノ徵收費ダケデモ、我内國ニ於テ二千二百一萬二千五百五十圓ト云フモノガアル、而シテ此徵稅ノ爲メニハ、稅務署ノ役人モ困ツテ居レバ、國民モ頗ル困ツテ居ルノデアアル、宜シク此稅ヲ單一ニシ法律ヲ單一ニシテ手數ヲ省クコトヲ考ヘラレ、バ、徵收費ダケデモ吾々ハ相當ノ削減ハ出來ルモノデアアルト考ヘルノデアアル、斯ノ如ク考ヘ來リマスレバ、本年ノ豫算ト云フモノハ、ドウシテモ其基礎ガ不確實ナモノデアアルト云フコトハ、誰ガ考ヘテモ是ハ判ラナケレバナラナイ所ノモノデアアルト私ハ信ジテ居ル、而シテ大正十一年、並ニ十二年、十三年マデニ於テ此儘推移シテ行ケルカドウデアアルカト云ヘバ、唯今私ガ詳シク申述ベタ如ク、大正十一年度ニ於テモ一億數千萬圓ノ追加ガ來ル、大正十二年度、十三年度ニ於テハ國防ノ計畫費バカリデ二億圓カラノ追加ノ來ルコトハ明カデア

ル、而シテ一面ニ於テ國家ノ歲計ニハサウ云フ餘裕ハ無イ、故ニ今日ニ方ツテ整理スベキハ之ヲ整理シ——國防費ノ如キハ整理スベキハ之ヲ整理シ海軍ノ如キニ於テモ、唯今言フ通り整理スベキハ整理ヲシ減ズベキハ之ヲ減ズル、大藏大臣モ既ニ削減スル場合ハ、之ヲ削減シ得ルヤウニ明言サレテ居ルノデアリマスガ故ニ、今日ニ方ツテ相當ニ削減シ一方ニ於テ外國カラ軍國主義ト罵ラレテ居ル所ノ此主義ハ、明ニ我國ノ用キル所デアナイト云フ所ヲ明ニシ、一面ニ於テ産業立國——此根本義ヲ確立スル爲メニハ如何ニシテモ此豫算ノ根本カラ、之ヲ編成セラレナケレバナラナイト私ハ信ジテ居ルノデアアル、勿論吾々ハ斯ノ如キ大ナル問題ハ、一度ニ政府ニ要求シヤウトスル者デアリマセヌ、是ダケハ申述ベテ置キタイ、之ヲ一度ニ政府ニ要求シヤウトスルナラバ、是ハ唯今ノ内閣ガ百チニ之ヲヤラレルコトハ困難デアラウト思フ、少ナクトモ吾々ハ此主義

ヲ認メテ、此頭ダケヲ今年ニ於テ出シテ置クコトガ必要デアルト信ジテ疑ハナイデアリマス、殊ニ先刻山本君ノ御演説ヲ承ルト、左様ニ大ナル事ヲ唯今ノ内閣ニ要求シタ所デ、僅カナ日限ニ於テ到底ヤレルモノデハナイ、斯ウ云フコトヲ言ハレタノデアルガ、吾々ハ唯今ノ内閣ハソレ程ニ無能ナル内閣トハ思ハヌノデアリマス、餘リ山本君ノ御話ハ、己レ等ガ信ジテ居ラレル内閣ニ對シテ、侮辱ヲ加ヘタル所ノ言デアルト思フノデアリマス、此點ニ於キマシテ吾々ノ望ム所、此計畫ニ對シテ、其一部其大體ノ主義ダケヲ此豫算ノ上ニ現ハサルベク、政府ガ編成替ヲ爲サレルト云フコトハ、是ハ當然ナ事デアッテ、國家將來ノ爲メ、吾々ハ飽マデ之ヲ主張シナクテハナラナイノデアリマス、同時ニ吾々ハ此儘デ推移シテ行クナラバ、必ズヤ増稅ガ來ル、必ズヤ大ナル起債ヲシナケレバナラナイト云フコトヲ信ズル者デアリマスルガ故ニ、今日ニ方ッテ此豫算編成替ヲ根本ニ要求セントスル者デアリマス

三輪市太郎君ノ原案賛成演説

私ハ委員長ノ報告ニ同意ヲシ、即チ政府提出ノ豫算案ニ賛成ヲスル者デゴザイマス、(中略)此豫算ヲ返付スルト云フ御意見ノ諸君ノ御演説ヲ謹ンデ拜聴致シテ居リマスルガ、要スルニ歳入ノ分ニ於テ多ク議論ヲサレマスルガ、歳出ノ分ニ對シテハ、唯ダ杜撰孟浪トカ、若クハ將來膨脹スルト云フガ如キ抽象的ノ議論デゴザリマシテ、私ハ此豫算ヲ議スル上ニ於テハ、先ヅ以テ歳出ヲ研究スベキモノデアラウト思ヒマス、現在ノ此程度ハ、勿論我が日本國ガ今日五大強國ノ一ニ列シテ、將來ニ於テ此地位此國威ヲ保持セントスル上ニハ、或ハ此以上ノ臥薪嘗膽ヲモ忍バナケレバナルマイト思フノデアリマス、ソコデ若シ此歳出ノ分ニ對シテ削減ノ餘地アリトスレバ、國防費ヨリ外ニハ私ハアルマイト思フノデゴザリマス、私ハ憲政會ニモ一部ニ其説ガアッタト云フコトヲ聞キマシタガ、國防費ノ一割ヲ減ジテ、而シテ地租ヲ地方稅ニ移シテ、小學校教員ノ國庫補助費ニ充テルト云フガ如キ御説ガアッタト云フコトヲ承リマシテ、是ハ私ハ至極考慮スベキ問題デアラウト思ヒ、且ツ又一昨日尾崎君ノ軍備制限決議案ニ對シテモ、如何ニモ考慮ノ餘地アリト思

ヒマシテ、其當時其決議案ニハ反對ノ投票ヲ致シタカナレドモ、其以後果シテ今日ノ我國ノ軍備トシテハ削除シ得ラレルヤ否ヤト云フコトニ就テ、昨日以來不肖ナガラ調査ヲ致シテ見タノデゴザイマスカラシテ、ソレデ是ハ要スルニ私ハ此國防問題ナルモノハ程度問題デアッテ、而モ連日論セラレル如ク、國際聯盟ガ成立致シタ曉ハ兎ニ角、今日ノ場合ハドウデアアルカ、今日ノ場合我が國防トシテハ之ヲ實際削減シ得ラレル餘地ガアルヤ否ヤト云フコトニ就テ、我國ノ此國防費ト今日ノ五大強國、即チ日本ヲ除ク其餘ノ四箇國ノ軍事費トノ對照ヲ調べテ見タノデゴザイマス、ソコデ此五箇國ノ軍備費ハ日本ト對照上便宜ノ爲メニ、日本ノ單位ニ換算ヲ致シタノデアリマス、其換算ノ相場ハ普通從來稱ヘル所ノ英國ノ一磅ヲ十圓トシ、米國ノ一弗ヲ二圓トシ、佛國ノ一法ヲ四十錢トシ、伊國ノ一「リラ」ヲ四十錢ト云フコトニシテ、換算ヲ致シタノデアリマス、ソコデ此英國ノ日本ノ金ニ換算致シマシタル千九百二十年、即チ大正九年ノ軍備費ヲ爰ニ申上ゲルノデゴザリマス、英國ハ我國ニ直シテ二十億九千三百七十二萬八千圓トナルノデゴザリマス、米國ハ十六億九千三百六十二萬七千八百八十六圓トナリマス、佛國ハ二十億四千九百九十二萬九千二百圓トナリマス、伊太利ハ六億二千二百三十九萬二千四百圓トナリマス、之ニ對シテ日本ハ七億六千七百七十七萬八千七百七十圓デゴザリマシテ、之ト比較ヲ致シテ見タナラバ如何デゴザリマセウ、實ニ日本ノ此軍事費ナル國防費ナルモノハ、貧弱デハゴザイマセヌカ、更ニ此數字ヲ按分比例ニ致シマスレバ、英國ヲ假リ二百ト致シマスレバ、米國ハ八十八・八八八トナリマス、佛國ハ九十七・五トナリマス、伊國ハ二十九・七二トナリマス、日本ハ三十六・三五トナルノデゴザイマス、此數字カラ見マシタナラバ、我國ガ是デ軍國主義トカ、侵略主義トカ云フガ如キ誘ヲ受ケルベキ道理ハ毛頭無イノデゴザイマス、斯ノ如ク此軍備費ニ於テハ、我國ハ順位ハ第四位ニ在リト雖モ、之ヲ英米佛ニ比較シテ見タナラバ、殆ド三分ノ一強ニ當ルノデゴザイマス、僅ニ伊太利ヲ凌駕スルコト實ニ僅少ナルモノデゴザイマス、斯ノ如ク全ク日本ノ軍備ナルモノハ、漸クニ國防ニ足ルノミデゴザイマスルガ、偶、世界ノ誤解ヲ招イタ如キ場合ハ、是ハ畢竟日露、日清兩戰役ニ端ヲ開イタノデゴザイマスガ、又時ニ依ッテハ一部ノ政治家ノ人ガ、却テ我國ノ不利ヲモ願ミズ、政

争ノ具ニ供シタ時ニハ、武ニ偏シタ如クニ言ッテ内閣ヲ攻撃スルノ材料トシ、延テハ外國ニ宣傳シテ遂ニ我國ノ不利益ヲ招クニ至ッタノデゴザイマス、殊ニ又我國ノ軍事費ガ偏武ト云フノ御議論モ先刻來承リマシタガ、成程軍事費ノミヲ區別致シテ見マスレバ、或ハ我國ダケノ歳出ノ上カヲ見レバ、偏武ト云フノ嫌ガアルノデゴザイマスガ、大體各國ノ歳出ノ總額カラ割出シテ見タナラバ、決シテ偏武デナイ、外ノ各省ノ經費ガ、我が日本ノガ僅少ニ過ギルガ爲メニ偏武ニ見エラノデアアル、ソコデ歳出ノ部分ニ對シテハ、最早國防費トシテハ減少スベキノ餘地ナシ、其以外ノ各省ノ豫算ニ於テモ、反對サル、諸君ト雖モ、決シテ是ハ削減スルトカ修正スルトカ云フガ如キ餘地ハナイノデゴザイマセウ、尙又此歳入ノ部分ニ對シテ、豫算ノ見積ガ過大ニ失スル、到底不可能ノ豫算デアルト云フコトガ論點ニナツテ居ルヤウデゴザイマスガ、是ハ各々見様デゴザイマス、ソコデ吾々ト雖モ、國民ノ負擔ノ輕減ヲ爲サントスルコトハ、是ハ固ヨリ望ム所デゴザイマスガ、左リトテ必要缺クベカラザル施設ハ、決シテ拋棄スルコトハ出來マセヌ、ソコデ現在ノ此負擔ノ程度ナルモノハ、果シテ國民ニ堪ヘルヤ否ヤト云フコトモ、亦研究ヲ要スル問題デアラウト思フノデゴザイマス、是亦我國ト五大列強トノ對照ヲ調ベテ見タノデザイマス、是亦千九百二十年即チ我が大正九年ノ調ベデゴザイマシテ、英國ノ今日ノ富ノ程度ナルモノハ、是ハ戰前ヨリ調ベマシタガ、却テ複雑ニナリマスカラ、大正九年ニ該當スル即チ千九百二十年ヲ爰ニ申上ダマス、日本ノ數字ニ直シテ申上ダマス、英國ノ富ノ程度ハ千七百九十六億一千萬圓デゴザイマシテ、此英國ノ歳出額ガ百六十六億五千七百五十萬圓トナルノデゴザイマシテ、此按分比例ハ千分ノ九十二強ニナルノデゴザイマス、米國ハ五千三百四十四億六千萬圓ノ富ニ對シテ、歳出額ガ百七十三億八千八百五十萬四千圓トナルノデゴザイマシテ、是ハ千分ノ三十四強ニナルノデゴザイマシテ、佛國ハ千四百四十六億二千萬圓ノ富ニ對シテ、歳出額ガ百九十一億七千三百一萬五千二百圓トナルノデアリマシテ、是ハ千分ノ百三十二ニナルノデゴザイマス、ソレカラ伊太利ハ四百四十億九千萬圓ノ富ニ對シマシテ、歳出額ガ四十三億五千二百四十二萬二千四百圓トナルノデゴザイマシテ、是ハ千分ノ九十八、九トナルノデゴザイマス、我國ノ富ノ程度ハ色々ノ方面カラ調査ヲ

致シマシタル今日ノ状態カラ見マスレバ、四百九十七億二千萬圓ノ富ノ程度ニナルノデゴザイマス、之ニ對シテ今日ノ此出額ヲ割出テ見マスレバ、千分ノ二十六強ニヨリナライノデゴザイマシテ、此列強ト比較シテ見タナラバ、今日ノ負擔額ト云フモノハ、決シテ餘リ重イトハ言ハレナイノデゴザイマス、然レドモ此數字ガ現ハレルニモ拘ラズ、一部ニハ重稅ニ苦シミ、若クハ惡稅ト云フ聲モ屢、私モ耳ニスルノデゴザイマス、是ハ要スルニ矢張負擔ノ均衡ガ保テ、居ラナイ結果デアラウト思ヒマスルカラシテ、此稅制ノ整理等ヲ希望スルコトハ、諸君ト私モ同様デゴザイマス、然レドモ物ニハ順序アリ、現政府ニ於テ此問題ヲ等閑ニシテ居ルカト云ヘバ、原内閣成立以來、相當ニ此方面ニ努力ヲ致シテ居ルノデゴザイマシヤウカ、諸君ガ彼此反對センガ爲メニ反對ヲサレルガ、是ハ私共公平ノ見地カラ見マスレバ、全ク反對ノ意味ヲ爲サナイノデゴザイマス、何レ此豫算案ノ返付論ニ對シテハ、鳩山君ガ尙ホ述ベラレルサウデゴザイマスルガ、諸君ガ此返付論ヲ爲スガ如キ意見ヲ生ジタノハ、何時デゴザイマスカ、豫算ニ對シハ豫算内示會ガ、此開會以前ニ在ルノデゴザイマセヌカ、ソレヨリ今日マデ日ヲ算フルコト四十數日ニナルノデハアリマセヌカ、加之豫算總會若クハ豫算分科會等ニ於テ若シモ諸君ガ此數字ニ修正ヲスルトカ、若クハ此豫算案ノ根本ニ誤ガアルトスルナレバ、何故ニ今日マデ日ノ迫ラナイ先ニ早く其意見ヲ示サナイノデアアルカ、恰モ諸君ハ唯ダ言論ニ成功セントスルコトニ努メルノミデアッテ、國政ヲ眞ニ眞面目ニ研究スルト云フ考ガアルナラバ、政府ニ於テ之ヲ若シ諸君ノ意見ヲ是ナリト認メタ場合ニ、之ヲ修正シ得ラレル餘地ヲ何故與ヘナイノデアアルカ、最早今日ハ會期ノ……全ク議論ノ是非ハ措イテ、諸君ニ於テハ、眞ニ國政ヲ眞面目ニ料理スル考ハ無イ、眞面目ニ議論スルノ考ハ無イノデアアル、若シモ諸君ニ於テ軍備等ニ於テモ制限ノ意見ガアルナラバ、何故ニ在野黨ニ於テノ大多數黨デアリナガラ、一人トシテ贊成トカ反對トカノ意見ヲモ述ベラレナイノデアアル、總テ憲政會ノ執ラレル政策ハ、能ク譬ニ言フガ如ク、恰一羽ノ小鳥ヲ握ッテ、其生死ヲ人ニ問ウテ、若シモ死ンデ居ルト言ヘバ其儘生カシテ見ヤウ、生キテ居ルト言ヘバ殺スト云フガ如キ態度デアアル、實ニ黨略ニ過ギルト謂ハナケレバナラヌ、全ク諸君ガ如何ニ騒イデモ、諸君ノ良心ニ問ウテ御覽ナサイ、

政府ニ若シモ失政アリトスレバ、他ノ方法ヲ以テ糾彈スレバ宜シイデハナイカ、然ルニ屢、諸君ノ修正意見ナリ、豫算ノ杜撰ナルコトナリ總テ言フベキ機會ガアツテモ、其場合ニハ之ヲ避ケテ、而モ、分科會、若クハ豫算總會ニ於テハ、辯論ハ本會ニ讓ルト云フコトハ怪シカラヌ話デハナイカ、私ハ恰モ諸君ノ此言動ト云フモノハ、相撲デ云フナラバマルデ人ノ不意ヲ打ツテ、奇捷ヲ制セントスルガ如キ態度デアアル、正々堂々ト何故論議サレナイノデアアルカ、斯クノ如キ理由デ尙ホマダ僕ハ材料ガアルガ、却テ諸君ノ御倦意ヲ招キ、御迷惑ト思フカラシテ止メルガ、要スルニ我々ノ此贊成ノ意見ヲ表示スレバ足リルト思ヒマスカラシテ、是デ終リマス

高橋國務大 左ノ如ク政府ノ意見ヲ述フ

諸君、豫算返付ノ動議ニ就テ段々贊否ノ御演說ガアリマシテ、拜聽ヲ致シテ居リマシタ、是ニ於テ政府ハ簡單ニ此動議ニ對シテ一言申シタイト思フノデアリマス、要スルニ現内閣成立以來初メテノ即チ四十二議會ニ於テカ、四十一議會ニ於キマシテカ、其時ニ於テモ豫算ニ贊成ヲセラレタ、全部贊成ヲセラレタガ、其贊成ヲスル理由ノ一トシテハ、殆ド手ノ著ケヤウガナイト云フ口上モアツタト記憶シテ居ル、既ニ手ノ著ケヤウモナイト言ツテ甚ダ不十分ナ豫算ダト云フコトヲ言ハレタ、又四十二、四十三議會ニ於テハ憲政會諸君ハ修正ヲセラレタ、即チ豫算ノ削減ヲセラレタ、四十二議會ニ於テハ十二億以上ノ歳出ニ對シテ、千數百萬圓ノ削減修正ヲセラレタ、其次ノ臨時議會、——特別議會ニ於テハ、追加豫算ノ五億ニ對シテ七百萬圓許リノ削減修正ヲ主張セラレタ、而シテ今回ニ於テハ豫算ヲ返付スルト云フコトニ變テ來タノデアアル、政府ノ考デハ先刻カラモ應答ガアツタ通り、議會トシテハ豫算ニ對シ贊成ヲスルカ、否決ヲスルカ、或ハ修正ヲセラレテ然ルベキデアラウト思ヒマス、先ツソレハ後ニシテ、何ガ論議ノ要點デアアルカト云フト、歳入ノ見積方ガ過大デアアル、歳入見積ノ過大ト云フコトハ、現内閣成立以來豫算ヲ提出スル度毎ニ、憲政會諸君ガ唱フル所デアアル、然ルニ政府ニ於キマシテハ、如何ニシテ其歳入ヲ見積ルカト云フト、諸君ノ如ク達觀的ニ之ヲ見積ルノデハナイ、全國ニ在ル所ノ稅務署ニ就テ、時々ノ狀況、財界

ノ狀況ニ依ツテ、其徵收ノ成績等ニ鑑ミテ、報告書ヲ徵シテ居ルノデアアル、即チ定期ノ徵收ニ係ル所ノ稅目ニ就テモ、隨時收入ニ係ル所ノ稅目ニ就テモ、時々ノ狀況ニ依ツテ、何程ノ豫算ヲ立テ、宜イカト云フコトノ標準ヲ取ル爲メニ、又參考トスル爲メニ、全國ニ在ル稅務署カラ報告ヲ徵シテ、之ヲ考慮シテヤッタノデアアルカラシテ、一々其稅目ニ就テハ、徵收スル高ヲ豫算スル基礎ガチヤント決ツテ居ル、毎年是ガ決ツテ動カザルモノデハナイ、財界ノ狀況ニ依リ常ニ其基準ヲ改メテ居ル、然ルニ諸君ハ豫算總會ニ於テモ、豫算分科會ニ於テモ、左様ナ事ニハ一向頓著ナク、殆ド數字ニ就テノ論議ハ無カッタト謂ツテモ宜イ位ノモノデアアル、斯ノ如ク政府ニ於テハ、歳入過大デナイト云フ確信ヲ以テ提出シタル所ノ豫算ニ就テ、唯ダ抽象的ニ漫然ト諸君ガ過大ナリト云フコトハ、是ハモウ前々議會カラノ諸君ノ常套語デアツテ、而モ其事ハ何時デモ事實ニ依ツテ裏切ラレテ居ルノデアアル、一度タリトモ今日迄諸君ガ言ハレタ通り、歳入過大ニシテ歳入不足ヲ告ゲ、豫算實行不可能ナリト云フコトハ、無ク、第二ニハ公債ノ點デアアル、諸君ハ公債ガ澤山アル、多過ギル、ドウシテ此公債募集ガ出來ルカ、迪モ出來ナイ、若シ之ヲ募集スレバ財界ヲ壓迫スルト、エライコトヲ言ハレテ居ル、併ナガラ今日迄公債募集ノ不可能ナルガ爲メ、困ッタコトモナケレバ、又募債スルニ就テ、財界ヲ壓迫シタト云フコトモアリハシナイ、若シ公債ガ多イト云フナラバ、其本源ニ遡ツテ、具體的ニ此事業ガ必要ダカラ廢メロ、サウスレバ公債ガ減ル、是ニ於テ始メテ誠意ヲ以テ豫算ヲ審議スルモノデアアル、唯ダ公債ガ多イ、公債ガ多イト云フ想像論、空想論ヲ以テ此豫算案ニケチヲ附ケヤウト云フヤウナコトハ、甚ダ諸君ノ爲メニ我輩惜ムノデアアル、又昨年ノ九年中ノ實績ヲ見テモ、我國ノ財界ノ狀態、諸君ノ言フ通り甚ダ三月以來打撃ヲ受ケテ困難ハシテ居リマスケレドモ、併ナガラ其放資力ハ如何デアアルカ、三十億以上ノ放資力ヲ持ツテ居ツタ、其三十億以上ノ放資力ノ僅ニ六分ノ一位キヲ以テ政府ハ新タニ發行スルモノト乗換トヲ濟シテ、六億餘リモノガチヤント實行サレタノデアアル、國民ノ放資力ハ三十億以上アツタノデアアル、國民ノ放資力ノ三十億以上ニ對シテ、政府ノ新ニ發行スル所ノモノ大凡二億ヲ目安トシ、跡ハ貸替ニ用キルト云フコトハ、何等經濟界ヲ壓迫スルモノデナイ、又國民ガ之ニ應ズルコトガ出來ナイト

云フヤウナ高デハナイノデアアル、若シソレ公債ガ多イト云フナラバ、其多イ本ニ遡ツテ、是ガイケ
 ナイト云フコトヲ具體的ニ諸君ガ先ツ以テ言ハナケレバナラヌ、ソレハ一ツトシテ諸君ハ言ヒ
 得ナイデハナイカ、ソレカラ第三ノ主ナル點ハ、此物價騰貴ノ爲メニ後年ニ及ボス所ノ影響カラ
 シテ、政府ノ財政ノ前途ノ見込ガ確實デナイカラシテ、我國ノ財政ハ前途甚ダ不確實デアアルカラ、
 此豫算モ隨テ不確實ナリト云フヤウナコトニナル、是ハ國民黨ノ先刻大口君ガ言ハレタガ、是ハ
 結局私ノ邪推ニナルカモ知レヌケレドモ、國民黨諸君ハ軍備縮小論ヲ唱ヘル、己ノ理想ヲ此豫算
 ヲ返付シテ政府ヲシテ實行セシメヤウ、斯ウ云フヤウナ御考ダラウガ、是ハ國民ガ許サナイ、此
 際軍備縮小ト云フコトハ、ソレカラ憲政會諸君ガ此概計表ニ就テ、後年度ノ事ヲ頻リニ非難セ
 ラレルガ、是ハ判ラナイ成程物價騰貴ノ爲メニ、今年ハ一億數千萬圓ノ追加ヲ要シタ來年モ其
 通りデアラウ——勿論物價ガ此豫算ヲ編成シタ時ノ當時ノ物價ト少シモ變ラズニ、十一年度ノ
 豫算ヲ編成スル時ニ當ツテ、尙ホ依然トシテ總テノ經濟、物價、賃銀等ノ關係ガ變ラナイト見テ、
 而シテ其計畫ヲ遂行スル所ノ金額モ變ラヌト見レバ、矢張同様に追加ヲシナケレバナラヌ、其追
 加ヲスルニ對シテハ、政府ハ見込ガ立ツテ居ルト云フコトヲ私ハ委員會デモ言ウテ居ルノデアアル、
 併ナガラ之ヲ十六年度、十七年度ト數年先ニ互ツテ、確實ナル豫算ヲ立テロト云フ希望デアアルナ
 ラバ、ソレハ難題ト云フモノデアアル、若シ左様ナ事ヲ言フナラバ、第一第四十議會ニ於テ八六艦
 隊ト云フモノ、計畫ニ對シテ、諸君ハ協賛ヲ與ヘタノデアアル、八六艦隊——此八六艦隊ニ對シテ
 ハ、如何ナル諸君ハ調ベヨシタカ、戰前ノ物價ニ依ツテ豫算ハ計畫サレタノデアアツテ、物價騰貴ハ
 一錢タリトモ見込デハナイノデアアル、ソレ故ニ今年ノ十年度ノ豫算ニ對シテハ、四十議會ニ於
 テ協賛セラレタ所ノ八六艦隊ノ繼續費用ノ爲メニ、八千九百萬圓餘ノ物價騰貴ヲ計上シテアル
 ノデアアル、而シテ昨年國防充實ノ爲メニ新タニ増稅ヲシテ計畫ヲ立ツタノハ、一割ノ物價騰貴ヲ
 豫想シテアルノデス、若シ物價ノ事ヲ論ズルナラバ、最初其計畫ノ出來タ時ニ諸君ハ十分ニ是デ
 ハイカヌカラ、モット増稅ヲシトスウ言ハナケレバナラヌ、又大口君ノ言フヤウナ事ヲスレバ今
 日到底將來ニ對シテ、物價騰貴ヲ見込ムベキモノハ歲入ニ無イノダ、而シテ事實ハドウダト云フ

ニ物價ハ下ラヌカラ當然追加ヲ要スル、左様ナコトハイカヌカラ、立テ直セト是ウ云フナラバ、
 茲ニ一ツ考ヘテ貫ハナケレバナラヌ、國民ハ此國防充實ハ金デ仕切ツタカ計畫デ定メタカ、今日
 ノ狀態ニ於テ最モ少ナイ程度ニ於テ、國防上已ムベカラザル計畫ヲ國民ハ認メタノデアナイカ、
 此計畫ハ何トシテモ遂行シナケレバナラヌノデアアル、金デ仕切ツタ譯デハナイ、然ラバ國民黨諸
 君ノ言フ通り、此計畫ヲ遂行シテ行ク上ニ於テハ、恰モ増稅シト云フコトヲ勸メルノト異ナラ
 ス、成程政府トシテハ、今日ノ物價ヲ標準トシテ、尙ホ國防費ノ上ニ五割前後ノモノヲ計算シテ、
 此上ニ増稅ヲ國民ガ承諾シタナラバ、政府ハ豫算編成ニ是程樂ナコトハナイノデアアル、併ナガラ
 左様ニ歲入ガ十分ニナルト、自ラ政費ノ濫費ト云フ弊ヲ生ズルノデアアル、四十議會ニ於テ八六艦
 隊ノ計畫ヲ立ツテ諸君ガ贊成ヲ與ヘタ豫算ハドウデアアル、一文モ物價騰貴ヲ見込デ居ラナイ、
 ソレデスラ今日マデ之ガ爲メニ新ニ増稅モセズ、政府ハ此計畫ヲ遂行シテ來タデハナイカ、今後
 ト雖モ政府ノ所信ハ其所ニ在ルノデス、何ニ對シテ政府ハ此見込ヲ立ツテ居ルカト云ヘバ、自然
 増收ト云フモノガアルノデス、十一年ノ豫算ヲ立テルニ就テハ、決シテ政府ハ狼狽スル如キコト
 ハ無イ、諸君ガサウハ歲入ハ無カラウ無カラウト云ツタモノガ、中々増收ガ餘計アルノダ、國民黨ノ
 諸君ノ言フガ如クンバ、計畫ヲ延バセト云フヤウナコトモアルケレドモ、八八艦隊ノ計畫ノ如キハ、
 御承知ノ通り年限ニテヤント制限ガアル、之ヲ延バセバ八八艦隊ハ崩レテシマウ、延バサナイデ
 之ヲ十分ニシロト云ヘバ、今日ニ於テ將來ノ物價騰貴ニ豫想シテ、十分ナル増稅デモシロト云フ
 コトニ歸著スル、政府ハサウ云フコトハシナイ、成ベク國民ノ負擔ヲ重クセシメナイヤウニ、自
 然増收等ニ依ツテ、其時ノ物價騰貴ト云フコトヲ所辨シテ行クノデアアル、今日マデハソレヲシテ
 差支ヘタコトハ無イノデアアル、デ考ヘルニ段々憲政會ノ諸君並ニ國民黨ノ有志ノ御方ナドガ——
 從來此豫算ニ就テ政府ノ歲入ニ就テ論ジ、又財界ノ狀況ニ就テ論ズル所ヲ見ルニ、悉ク先ヅ俗ニ
 謂フ悲觀說デアアル、此悲觀說ノ因ツテ起ル所ヲ私ハ能ク考ヘテ見タガ、諸君ハ大正三年ニ先ヅ眠ッ
 テシマツテ、ソレカラ今日マデズツト寢テ來テ居ル、ソコデ大正三年カラ今日迄ニナルト子供ガ
 ——譬ヘテ見ルト諸君ハ大正三年ニ三ツニナル子供ヲ見テ、ソレカラズツト七箇年マルテ寢テシ

マッテ今日目ガ醒メタ所ガ、三ツノ子供ガ十歳ニナッテ辨當ヲ持ッテ學校へ通ッテ居ル、之ヲ見テ是ハ俺ノ子デナイト云フト同ジ事デ、世界ノ進歩ヲ見ナイ、國力ノ増進ヲ見ナイデ、何デモ好イ事ハ見ナイデ悲觀バカリシテ居ル、要スルニ今日ノ諸君ノ豫算返付ノ動議ナルモノハ、諸君ガ能ク謂フ所ノ諸君ノ行詰リダ、行詰ノ結果斯ウ云フコトニナッタノデ、豫算ヲ否決スルノ勇氣モナク、豫算ニ指ヲ一本染メル所ノ智識モ無イカラ修正モ出來ナイ、行詰ッタ結果無責任ナ返付論ヲ此所ニ出シタノデアアルカラ、斯ノ如キモノニ政府ハ同意ハ出來ナイノデアアル

小山松壽君ハ右高橋國務大臣ノ演說ニ關シ取消シヲ要求シ高橋國務大臣之ニ應答ス

小山松壽君ノ要求

私ハ茲ニ大藏大臣ノ唯今ノ御演說中、議員ヲ侮辱シタル言ナリト信ジマシテ、其取消ノ要求ヲ致シマス、諸君ハ御聽ノ通り、唯今大藏大臣ガ御演說ヲ將ニ終ラレルニ際シマシテ、諸君ハ智識ガ無イ、斯ノ如ク御言明ニナッタノデアリマス、確ニ大藏大臣ノ言ハ、議院法ニ依ッテ吾ミヲ侮辱シタルモノナリト斷言ヲ致シマス、大藏大臣ハ國務大臣ノ體面ヲ維持セラル、方ト思ヒマス、紳士トシテ大臣ヨリ宜シク御取消アラシクコトヲ茲ニ要求致シマス

高橋國務大臣ノ應答

唯今諸君ハ豫算ヲ修正スルノ智識ガ無イト言ッタノハ、如何ニモ言葉ガ惡ウゴザイマシタ、ソコデ私ハ智識ガ無イト云フコトヲ、雅量ガ無イト改メマス

此ノ時岩崎勳君討論終局ノ動議ヲ提出シ院議多數ヲ以テ討論ハ茲ニ終局ス

院議先ツ早速君及鈴木君ノ豫算返付ノ動議ニ付記名投票ヲ以テ表決ノ結果百三十二ニ對スル二百六十六ノ多數ヲ以テ右動議ヲ否決ス次テ各原案中皇室費ハ協贊ヲ要セサル費目ナルニ依リ之ヲ除

キ其ノ他全部ニ付起立表決ノ結果多數ヲ以テ各原案ノ通可決シ即日兩案全部ヲ貴族院ニ送付ス、同院ハ三月二十三日可決奏上シ三月二十九日公布セラル

四 (第一號)大正九年度歳入歳出總豫算追加案

豫算

第一條 大正九年度歳入歳出追加額ヲ各百拾五萬七千六拾壹圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲

號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 大正九年度歳出豫算追加中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌大正十年度ニ繰

越使用スルコトヲ得

甲 號

歳入臨時部

第十六款 前年度繰入金 一、一五七、〇六一

歳出臨時部

海軍省所管

第三十四款 外國派遣軍艦費 一、一五七、〇六一

五 (第一號) 大正十年度歲入歲出總豫算追加案

豫算

大正十年度歲入歲出追加額ヲ各參百貳拾六萬六千貳拾參圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

歲入臨時部

第十款 前年度剩餘金繰入

三、二六六、〇二三

歲出臨時部

海軍省所管

第十二款 外國派遣軍艦費

三、二六六、〇二三

右兩案ハ孰レモ十年二月十五日之ヲ提出ス

委員ハ直ニ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ二月十六日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月十七日再ヒ兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

唯今議題ニ供セラレマシタ第一號大正九年度歲入歲出總豫算追加、第一號大正十年度歲入歲出總豫算追加、此兩案ヲ豫算委員會ニ於テ審査ヲ致シマシタ、經過及結果ヲ謹ンデ爰ニ御報告ヲ申上ゲマス、此費用ハ皇太子殿下海外御旅行ノ爲メ、御乘艦及供奉艦トシテ軍艦二隻派遣ニ要スル經

費デアリマシテ、其總額ハ歲入歲出各四百四十二萬三千八十四圓デアリマシテ、是ガ支出ハ大正九年度ニ於テ百十五萬七千六十一圓、是ハ前年度ノ繰入金カラ支出ヲ致シマス、大正十年度ハ三百二十六萬六千二十三圓、是ハ前年度剩餘金ノ繰入金ノ中カラ支出ヲ致スコトデアリマス、之ニ對シマシテ政府ニ於テ原内閣總理大臣ヨリ説明ガアリマシテ、委員會ハ一ノ質問モ無ク、山本梯二郎君、早速整爾君、鈴木梅四郎君ノ發議ニ依リマシテ、皇太子殿下此度ノ海外御旅行ハ、曠古未曾有ノ御盛事デアラセラレ、吾々臣民ハ衷心ヨリ慶賀ニ堪ヘズ、一路ノ御平安ヲ祈リテ、御無事御歸還ノ程ヲ希ヒ奉リ、全員ハ敬意ヲ表シテ全員一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス

原國務大臣ハ政府ノ希望ヲ述フ

唯今議題ニ相成リマシタ所ノ豫算ハ、委員長ノ報告セラレマシタ通り、皇太子殿下海外御巡遊ニ就キ、御乘艦並ニ供奉艦ノ費用デアリマス、此費用以外ノ分ハ、皇室ニ於テ御支辨相成ルノデアリマス、尙ホ更ニ在外公館等ニ於ケル費用モ追テ御協贊ヲ仰グコトモアラウト存ズルノデアリマス、唯今委員長ノ報告セラレマシタ此御費用ハ、全ク御乘艦並ニ警備艦ノ費用ニ止マルノデアリマス、皇太子殿下三月三日ニ海外御巡遊ノ爲メニ御發程ニ相成ルコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、申スマデモナク各皇族殿下ニハ、是マデ屢、海外御巡遊ノ事モアリ、御留學等モ亦アルノデアリマス、併シ皇太子殿下ノ海外御巡遊ト申スコトハ、全ク今回ヲ以テ初メト致スコトデアリマス、而シテ此御巡遊ハ御見學ノ爲メデアリマス、同時ニ各國ノ元首並ニ大統領ヲ御訪問ニ相成ルコト、存ズルノデアリマス、其等ノコトハ先ヅ英國ヲ御訪問ニ相成リマシテ、彼地ニ於テソレノ他ノ諸國御巡遊ノコトヲ、御定メニ相成ルコト、存ズルノデアリマス、唯今申ス如ク、皇太子殿下御巡遊ノコトハ全ク初メテノ事デアリマス、將來御見學ノ結果トシテ、御參考ニ相成ル事モ甚ダ多キコトハ拜察致スノデアリマス、又陛下ニ於カレマシテモ、此御巡遊ヲ御許シニナタル大御心ヲ拜察致セバ、唯ダ國民感激ノ至リニ堪ヘヌ次第デアリマス、願クハ諸君ニ於テ滿場

一致此費用ヲ御賛成下サリ此場合ニ於テ國民ノ赤心ヲ表示セラレ、同時ニ殿下ノ御旅行中御平安ヲ祈ルト云フコトニアリタイモノト、政府ハ深ク希望スル次第デアリマス
院議全會一致ヲ以テ各原案ノ通可決シ即日兩案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ二月十八日可決奏上シ二月二十五日(四)三月二十九日(五)公布セラル

六 (第二號)大正九年度歳入歳出總豫算追加案

豫算

第一條 大正九年度歳入歳出追加額ヲ各五千八百參拾八萬六千參百貳拾六圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 大正九年度歳出豫算追加中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌大正十年度ニ繰越使用スルコトヲ得

甲號

歳入臨時部

第二款 雜收 入 九〇、〇〇〇

第十四款 戰時利得稅 十一、六三六、九九〇

第十六款 前年度繰越金 三六、六五九、三三六

歳入臨時部合計 五八、三八六、三二六

歳出經常部

外務省所管

第一款 外務本省 一五〇、〇〇〇

第二款 在外公館 三四〇、〇〇〇

外務省所管合計 四九〇、〇〇〇

内務省所管

第十一款 連帶支辨金及補助金 一、〇九八、一一八

大藏省所管

第五款 貴族院 二一三、〇一五

第六款 衆議院 一一、〇八〇

第十款 內國稅徵收費 八、九二一、五四〇

第十二款 諸拂戻及缺損補填金 二、三二七、六七九

第十六款 大諸支出金 三三三、〇四五

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案及豫算追加案 四百四十三

大藏省所管合計

三、三〇九、三五九

陸軍省所管

第二款 軍事費

八、七三二、一六七

第三款 憲兵費

一六、二五六

第五款 馬政局

二三〇、〇七七

陸軍省所管合計

八、九七八、五〇〇

海軍省所管

第二款 軍事費

二、八一九、〇七四

司法省所管

第二款 裁判所

二五八、九五一

第三款 監獄

三三六、五四三

司法省所管合計

五九五、四九四

文部省所管

第五款 大學及學校圖書館支出金

五八、五〇、〇〇〇

農商務省所管

五六、六五五、五三六

第十五款 諸支出金

三九、〇五六、三七五

歲出經常部合計

一九、三四六、九二〇

歲出臨時部

一〇、五六〇

外務省所管

第十二款 國際聯盟常設軍事委員會費

一二二、五四六

內務省所管

第十三款 傳染病豫防費

四九、三七七

第二十款 縣債利子補給

三四、二七二

第二十五款 災害費

七四〇、三一八

內務省所管合計

八二三、九六七

大藏省所管

第五款 特別會計經費補充金

二五〇、〇〇〇

第十九款 公債端金

五一、九八三

第二十七款 特設金庫諸費

二七、一三四

第二十八款 小額紙幣製造費

二六五、二四八

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

四百四十五

第三十五款 神戶稅關貨物臨時取 六〇三、四一〇

大藏省所管合計 六〇三、四一〇

陸軍省所管 二五三、三五六

第二十款 支那駐屯部隊費 四、七五五

第二十二款 大匪徒鎮定費 八九〇、〇〇〇

第三十四款 青島守備軍民政部費 一四三、〇〇〇

第三十七款 航空勤務遭難者保護 一五九、五〇〇

第三十八款 流行性感冒治療諸費 三三〇、六二一

陸軍省所管合計 三三〇、六二一

海軍省所管 三七、〇六六、七〇五

第六款 軍備補充費 一〇、五六七

文部省所管 九二、六〇〇

第十三款 臨時外國行諸費 一、三四六、二二〇

農商務省所管 九二、六〇〇

第六款 獸疫及害蟲費 九二、六〇〇

歲出臨時部合計 三九、〇三九、四〇六

歲出合計 五八、三八六、三二六

丙 號(省略) 正二、〇八〇

第七 (特第一號) 大正九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案 正五、二〇〇〇

各特別會計豫算 正五、二〇〇〇

大正九年度大藏省所管印刷局、朝鮮總督府、朝鮮醫院及濟生院、臺灣總督府、關東廳、賠償金文部省所管東京帝國大學、京都帝國大學、東北帝國大學、九州帝國大學鐵道省所管帝國鐵道ノ各歲入歲出追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ 一五三、八六二

大藏省所管 印刷局 八五二、八一二

第一款 印刷局作業收入 三六三、六六九

歲出 三三〇、九二〇

第一款 印刷局作業費 三三〇、九二〇

第一地 臨時部 事業費入 三六三、六六八

第五款 前年度繰越金 八五二、八一二

臨時部 歲出 四、七五五

經常部 歲出 九〇、〇〇〇

第三款 裁判及監獄入費 出費 一五三、八六二

第四款 大警業務費 入費 四、八一五

第五款 補助費 入費 五二一、〇五五

第八款 土木費 一二〇、〇〇〇

第三十五款 臨時警務費 五二、〇八〇

臨時部合計 五八、六九三、二三五

經常部合計 三六、八五二、八一二

朝鮮醫院及濟生院 歲入 二二二、八一四

經常部 歲入 一八、四三〇

第一款 朝鮮醫院及濟生院 歲出 三三三、二五五

臺灣總督府 歲入 二、二〇〇

經常部 歲入 一、一四〇

第一款 臺灣歲入 四八二、六三八

臨時部 歲入 八〇、九三七

第一款 官有物拂下代 一、七六五、五六六

第五款 前年度繰入金 一、八四六、五〇三

合計	二、三二九、一四一
歲出	八〇、三三三
經常部	七五、八四六
第二款 總督府	四八、一五一
第十款 醫院	二九二、八二一
第十五款 通信費	一、一四、二〇二
第十六款 鐵道作業費	一一一、二〇六
第十九款 營林局	六四七、四六五
第二十四款 諸支出金	六四七、四六五
第一項 諸支出金	二、二五〇、六九一
經常部合計	二、二五〇、六九一
臨時部	七八、四五〇
第二款 事業費	二、三二九、一四一
合計	
關東廳	

歲入	三、八〇〇
臨時部	一七八、五〇〇
第二款 前年度繰入金	二五〇、〇〇〇
第三款 補充金	四二八、五〇〇
臨時部合計	四二八、五〇〇
歲出	三、〇〇〇
經常部	二〇〇、〇〇〇
第七款 諸支出金	七、〇〇〇
臨時部	四〇八、五〇〇
第七款 ヘルス卜防遏費	四二八、五〇〇
合計	七〇、七四七
賠償金	
歲出	
第一款 賠償金支出	

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案及豫算追加案 四百五十一

東京帝國大學

歲入

經常部

第一款 東京帝國大學

七二、〇〇〇

歲出

經常部

第一款 東京帝國大學

七二、〇〇〇

京都帝國大學

歲入

經常部

第一款 京都帝國大學

三八、〇〇〇

歲出

經常部

第一款 京都帝國大學

三八、〇〇〇

東北帝國大學

歲入

經常部

第一款 東北帝國大學

五四、〇〇〇

歲出

經常部

第一款 東北帝國大學

五四、〇〇〇

九州帝國大學

歲入

經常部

第一款 九州帝國大學

五〇、〇〇〇

歲出

經常部

第一款 九州帝國大學

五〇、〇〇〇

鐵道省所管

帝國鐵道

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

收益勘定

歳入

第一款 鐵道作業收入

八、四〇〇、〇〇〇

歳出

第一款 鐵道作業費

八、四〇〇、〇〇〇

八 (追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件

一般會計

內務省所管

土木費借入金利子補給

山形縣ニ對シ土木費借入金利子補給トシテ總額四拾六萬九百九拾貳圓ヲ限リ左ノ年割ノ範

圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得(大正九年度金參萬四千貳百七拾貳圓、十年及十一年度各金貳萬七年度金貳萬五百四拾四圓、十八年度金貳萬六百六拾圓、十九年度金壹萬九千六百五拾六圓、二十年度金壹萬九千五百五拾貳圓、二十一年度金壹萬八千六百四拾八圓、二十二年度金壹萬八千四百四拾四圓、二十三年度金壹萬七千六百四拾四圓、二十四年度金壹萬七千六百參拾六圓、二十五年金壹萬六千六百參拾貳圓、二十六年金壹萬六千六百參拾八圓、二十七年金壹萬四千七百八拾四圓、二十八年金壹萬四千四百四拾四圓、二十九年金壹萬四千九拾六圓、三十年度金壹萬七千七百七拾六圓、三十一年度金九千四百八圓、三十二年度金八千六百六拾四圓、三十三年度金六千七百貳拾圓、三十四年度金五千參百七拾六圓)

圓、三十五年度金四千參拾貳圓、三十六年度金貳千六百八拾八圓、三十七年度金千參百四拾四圓)

説明ハ之ヲ略ス

九 (追第二號)豫算外庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件

一般會計

農商務省所管

蠶絲業救済貸付金補償

政府ハ日本興業銀行及日本勸業銀行カ帝國蠶絲株式會社ニ對シ資金ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ同會社ノ清算ノ際其ノ貸付金額ニ付辨濟ヲ受クルコト能ハサル金額アリタルトキハ金參千萬圓ヲ限リ左ノ條件ニ依リ其ノ損失ノ補償ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得(一)資金ノ貸付

式會社カ政府ノ命令ニ準據シテ事業ヲ執行スル場合ニ於テ必要トスルモノニ限ルコト、前項ノ貸付ハ左ノ各號ニ該當スル手形割引ノ方法ニ依ルモノナルコト(一)帝國蠶絲株式會社ノ振出又ハ裏書シタル手形割引タルコト(二)割引歩合ハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ定ムルコト(三)大正十年五月三十一日以前ニ生産セラレタル信州上一番格以上ノ生絲ニシテ輸出ヲ目的トスルモノヲ擔保トスルモノナルコト但シ政府ノ承認ヲ經テ擔保ノ引換ニ充テタル生絲ノ生産期日ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(四)擔保價格ハ政府ノ承認ヲ經テ之ヲ定ムルコト(五)生絲カ擔保價格以上ノ市價ヲ有スル場合ニ於テハ銀行カ手形ノ満期日同下擔保物ヲ處分スルコトヲ得ヘキ旨ノ契約アルモノナルコト三銀行ハ前二項ノ外國蠶絲株式會社ニ對シ新ニ資金ノ融通ヲ爲ササルコト、四銀行カ擔保物ヲ處分シ又ハ債權ヲ放棄スルニハ豫メ政府ノ承認ヲ受クルコト、五政府カ擔保物ノ處分其ノ他ニ關シ命令シタルトキハ之ヲ拒マサルコト、六銀行ハ帝國蠶絲株式會社カ法令、定款若ハ政府ノ命令ニ違反シ又ハ銀行トノ契約ニ違反シタルコトヲ認メタルトキハ直ニ之ヲ政府ニ申告スルコト、七政府カ帝國蠶絲株式會社ニ對シ資金貸付ノ停止又ハ制限ヲ命シタルトキハ銀行ハ之ヲ拒マサルコト、八銀行カ前各項ノ條件ヲ遵守

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

セサルトキハ政府ハ契約ヲ解除シ又ハ其ノ損失ノ全部又ハ一部ニ付補償ノ責ニ任セサルコトアルヘキコト、九銀行カ故意又ハ過失ニ因リテ受ケタル損失金ニ付テハ政府ハ其ノ全部又ハ一部ニ付補償ノ責ニ任セサルコトアルヘキコト

説明ハ之ヲ略ス

右四案ハ孰レモ十年三月四日之ヲ提出ス

委員ハ直ニ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月八日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ再ヒ四案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニ供セラレマシタ第二號大正九年度歳入歳出總豫算追加案外三案ノ委員會ニ於ケル審査ノ經過及成績ヲ御報告ヲ申シマス、委員會ハ三月五日ヨリ本日マデ三日間ニ互リマシテ質問應答ヲ重ネマシテ、可決ヲ致シマシタ、第二號大正九年度歳入歳出各五千八百三十八萬六千三百二十六圓デアリマシテ、是ガ歳入ハ青島事業ノ收入増加カラ求メマスモノガ九萬圓デアリマス、戰時利得税ノ増加カラ求メマスモノガ、二千六百六十三萬九千九百九十九圓デアリマス、前年度歳入金ノ増加ガ三千六百六十五萬九千三百三十六圓ニナツテ居リマス、又歳出ノ部分ハ各省ニ涉リマシテ主ナルモノハ、物價騰貴ニ關スル増加デアリマス、其中ノ主要ナルモノハ陸軍ニ於キマシテハ軍事費ノ増加、海軍ニ於キマシテハ裝艦費及職工給ノ増加デアリマス、大正九年度各特別會計歳入歳出豫算案ハ大藏省ノ所管ニ於キマシテ、印刷局ガ三十六萬三千六百六十九圓、朝鮮總督府ニ於キマシテ八十五萬二千八百二十二圓、朝鮮醫院及濟生院ガ三十一萬三千二百五十五圓、臺灣總督府ニ於キマシテ四十八萬二千六百三十八圓、關東廳十七萬八千五百圓賠償金七萬七百四十七圓、文部省所管ニ於キマシテ帝國大學ガ七萬二千圓、京都大學ガ三萬八千圓、東北大學ガ五萬四千圓、九州大學ガ五萬圓、鐵道省ノ所管ニ於キマシテ帝國鐵道ガ八百四十萬圓デアリマス、是ガ兩案ノ要求セラレマシタ金額デアリマシテ、之ニ對シマシテ質問應答ノ中、極メテ大切ノ部分

ヲ一二御紹介ヲ申上ゲテ置キマス、此海軍省ノ追加豫算ノ編成ニ就キマシテ物價ノ騰貴ハ昨年七月臨時議會ノ際ニ見積ツタモノガ七割デ、而シテ今回十割ノ増加ヲ見込ンデ居ル、僅ノ間ニ三割騰貴シタト云フコトハ、如何ナル理由デアルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ斯様ニ説明サレテ居リマス、此製艦材料ノ中デ、鋼材ノ騰貴ト職工給ノ増加ガ主ナルモノデアアルガ、昨年七月ノ特別議會ニ於ケル要求ヲシタトキハ、昨年ノ四月ニ豫算ヲ編成致シタモノデアッテ、サウシテ、此度ノ追加案ヲ編成シタノハ、本年ノ一月デアアルカラ、僅カ三箇月ノ間ニサウ物價ガ騰貴シタノデハナイ、殊ニ此製艦材料ノ鋼材ニ就テハ數百種ニナツテ居リマシテ、其時分下落ヲ見込ンデヤッタノデアアルカラ、此物價騰貴ノ追加要求ヲスルノ已ムナキニ至ツタト云フコトヲ答ヘラレテ居リマス、尙ホ豫算ノ編成ハ現在ノ物價ヲ以テ何故ニ基礎トシテナイカ、又日本銀行ノ指數調、即チ此物價ノ調ニ依ツテ見ルト、物價ノ騰貴ハ昨年ハ總テ二十一割ニナツテ居ルノデ、之ヲ七割ト見積ツタノハドウ云フ譯デアアルカ、之ニ對シマシテ政府ハ海軍ノ製艦材料ニ就テハ、只今申上ゲマシタ通りノコトヲ答ヘラレマシタ、殊ニ海軍ノ製艦材料ノ鋼材ノ騰貴ハ、市中ノ普通ノ物價ノ騰貴トハ其種類ヲ異ニシテ居テ決シテ一般ノ物價騰貴ト準ズルモノデアナイト云フコトヲ答ヘラレマシタ、殊ニ七割ノ見積ハ當時下落ヲ見越シタモノデアッテ、此度三割ヲ増シテ要求シタト云フコトガ其真相デアアル、又日本銀行ノ指數調ト云フモノハ參考ニハナルケレドモ、之ヲ以テ其通り行フコトハ出來ナイト云フ答辯デアリマシタ、次ハ追加第一號豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件、是ハ此大正九年度ノ追加豫算ニ相關聯ヲ致シテ居リマスルモノデアリマシテ、内容ハ山形縣ニ對シ、土木費ノ借入金ノ利子ノ補給トシテ、大正九年度カラ大正三十七年度迄四十六萬九千九百九十二圓ヲ補給スルト云フ案デアリマシテ、大正九年度ノ追加ニハ三萬四千二百七十二圓ニナツテ居ルノデアリマス、次ハ追加第二號豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件、是ハ蠶絲業ノ救濟案デアリマス、此案ハ蠶絲業ノ救濟ヲスル爲メニ帝國蠶絲會社ニ對シマシテ、救濟貸付金補償ヲ致スト云フ案デアリマシテ、大正十年ノ五月三十一日以前ニ於テ出來マスル輸出向キノ生絲ニ對シマシテ、是ダケノ貸付ヲ爲シ、又帝國會社ガ其株金ノ一千六百萬圓ヲ全部損失

シテシマッタトキニハ、此三千萬圓ヲ補償スルト云フ案デアリマス、之ニ對シマシテ質問ノ要點ハ、澤山ノ質問ノアリマス中デ其主ナルモノ二三申上ゲマスレバ、此方法ハ養蠶家ヲ救済スルコトガ出來ナイデハナイカ、製絲家輸出業者ヲ救済スルコトハ出來ヤウガ、全國二百萬ノ養蠶家ヲ救済スルコトハ出來ナイデハナイカト云フ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテ政府ノ絲價ヲ維持スルト云フコトヲ目的ニシテ、大正九年度ノ絲價現在アリマスモノ、又はカラ繭ヲ絲ニ挽キマスモノヲ、十萬圓以內ヲ買入レル力ヲ與ヘルモノデアリマシテ、此方法デ參リマスレバ、現在アリマスル横濱ノ在荷及地方ニ在ル生絲、又はカラ春挽繭ニ對シマシテ、海外ノ輸出ヲ見込ミ、又内地ノ地遣ニ用キマス物ヲ見込ミマシテ殘リマスモノガ、十萬圓以內ト認メル、之ニ對シテハ是ダケノ貸付及補償ノ方法ヲ執リマシタナレバ、絲價ヲ維持スルコトガ出來ルノデアアルカラシテ隨テ絲價ガ維持ガ出來マスレバ、全國二百萬ノ養蠶家ハ此絲ノ價デ繭ヲ得ルコトガ出來ルノデアアル、養蠶家ニ此救済ガ出來ナイト云フコトハナイト云フ答デアリマス、次ハ消費者側ニ對シテ此方法ヲ講ズルニ、何ガ故ニ此使フ方ノ側ヲ顧ミナイカト云フ質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ政府ハ——消費者側ト申シマスレバ、内地ノ消費者外國ノ消費者モアルノデアリマスルガ、亞米利加ニ於キマシテハ、絲ノ價ヲ相當ニ維持ヲシテ貫ヒタイト云フコトハ、亞米利加ノ機業家ノ一般ノ要望デアアル、又内地ノ機業家、即チ織物製造業者ニ於キマシテモ、昨年ノ帝國蠶絲會社ガ出來マシタ當時ハ、全國ノ織物業ハ木綿ト毛ト絹織トヲ問ハズ、殆ド梭ノ音ハ無ク、煙突ハ煙ガ立タナカッタノデアリマスガ、昨年ノ九月以來今日ニ至ル迄内地ノ機業ハ一變ヲ致シマシテ、盛況デハアリマセヌガ、稍、回復ノ緒ヲ今日認メテ居ルノデアリマシテ決シテ消費者側ノ織物業者ト雖モ顧ミナイノデハナイ、斯ウ云フ答辯デアリマス、ソレカラ又千五百圓ノ值極メニ就キマシテ是ハ高過ギルデハナイカ、此千五百圓ノ值段ハ成行ニ委シテ置イタナレバ、總テヲ壓迫シナイデ宜イデハナイカト云フ質問ガ出マシタガ此千五百圓ヲ決メルト云フコトニ就キマシテハ、昨年ノ養蠶ノ生産費及絲ノ生産費等ヲ考慮致シマシタ結果、全國ノ蠶絲業ノ大會、又ハ其機關ニナッテ居リマスル全國ノ蠶絲業同業組合ノ總會等ノ決議ニ依ッテ、此標準ガ出來

タモノデアリマシテ、當時ハ此議論ガアリマシタガ、信州上一番ヲ千五百圓ト值極メラシタノハ相當デアルト云フ答辯デアリマシタ、次ニ大正十年度ノ養蠶及製絲ニ是ガ及バナイノハドウデアアルカ、此案ハ五月三十一日迄ノ九年度ノ古いモノヲ買入レル方法デアリマシテ、十年度ノ養蠶製絲ニハ關係ハ有チマセヌガ、此案ガ實行サレマスルト、隨テ絲價ガ保タレマスルカラシテ、養蠶家モ、出來タ繭ハ千五百圓ト云フ標準デアリマスレバ、六圓五錢乃至七圓ニ七十掛ケト致シマスレバ、買ハレマスル價ガ出マスルカラ、此價デアリマシタナラバ養蠶家ガ息ガ吐ク、又帝國蠶絲會社ガ是ダケノ力ヲ以テ買ッテ居リマシタナラバ、之ニ對シテ古い絲ヲ以テ市場ヲ壓迫シ、金融界ノ梗塞ヲ妨ゲナイカラ、此蠶絲會社ニ就テハ行ク見込デアルト云フ答辯デアリマシタ、之ヲ要スルニ此四案ニ就キマシテノ主ナル質問ハ、海軍ノ追加ノ増加ト此蠶絲救済ノ案ニ就キマシテ、質問應答ガ澤山アッタノデアリマスルガ、大要右ノ次第デアリマス、サウシテ本日討議ニ移リマシタ、國民黨ノ大口喜六君憲政會ノ早速整爾君ヨリハ、此案ニハ贊成デアアルガ、追加豫算案ニ對シマシテハ、豫算編成ニ關シ、又物價ノ見積追加要求等ニ對シマシテハ贊成デアアルガ、警告ヲセナケレバナラナイ、其警告ノ說明ハ本會議ニ於テ之ヲ述ベルト云フコトデアリマシテ、採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ可決ヲ致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス

湯淺凡平君及早川龍介君ハ質疑ヲ爲シ山本國務大臣之ニ應答ス
湯淺凡平君ノ質疑

本員ハ極メテ簡單ニ製絲業救済ニ關シテ二三ノ質疑ヲ致シマス、而シテ此答辯ハ政府ヨリ與ヘラレテ貫ヒタイノデアリマス、蠶絲業ハ救済セザルベカラザルモノデアリマス、併シ政府ノ是迄執ラレマシタ所ノ救済方法ハ、若シ救済方法ト言ヒ得ルナラバ、單ニ製絲業者ノミニ施サレテ、所謂養蠶家ニハ其救済ガ及ンデ居ラヌノデハナイカト思フノデアリマス、昨年養蠶家ニ向ッテ低利資金ノ供給ノ方法ヲ講セラレタ、併ナガラ其時期ヲ失シテ居ルコト、並ニ其借入ヲ爲スコトノ

手續ノ非常ノ煩雜デアアルガ爲メニ、其目的ハ達セラレテ居ラヌデアリマス、次ニ起リマシタノハ帝蠶會社デアリマス帝蠶會社ナルモノハ、其會社ガ活動ヲ爲シマスル時ニ於テハ、既ニ養蠶家ハ其生産シマシタル所ノ繭ノ量ヲ、全部賣盡シテ居ッタデアリマスカラ、帝蠶會社ノ爲メニ、養蠶家ハ殆ド何等ノ利益ヲ得テ居ラヌデアリマス、而シテ帝蠶會社ノ失敗致シタル所ノ事實ハ、今日最早蔽フコトノ出來ナイデアリマス、而シテ此失敗ヲ償フガ爲メニ、今回更ニ豫算外國庫ノ負擔ニ屬スル契約ヲ締結サレマスルガ爲メニ、三千萬圓ノ金ヲ融通サレルト云フコトデアリマス、是モ大正九年度ノ繭ニ對シテ、此九年度ノ既ニ養蠶家ノ手ヲ離レタ所ノ繭ヲ、絲ニ製造スルガ爲メニ用キラル、所ノ金デアリマスカラ、養蠶家ニ對シテハ、何等ノ利益ヲ與ヘルモノデナイ但シ先刻委員長ヨリ御報告ノアリマシタル通り、大正九年度ノ絲ヲ相當ニ買入レルナラバ、之ニ依ッテ十年度ノ繭ト云フモノモ、間接ニ救済サレルモノデアルト云フ御議論ヲ承リマシタガ、多少ノ效果ハアルデアリマセウ、併ナガラ大正九年度ノ繭ニ限ッテ之ヲ融通サレルモノデアアルナラバ養蠶家ハ此デ非常ナ覺悟ヲシナケレバナラヌ、又製絲家モ非常ナ覺悟ヲシナケレバナリマセウ、若シモ之ガ大正九年度ニ救済ノ目的ヲ達セラレナイデ、十年度モ尙且ツ救済サレルト云フコトデアアルナラバ、進ムデ十年度ノ繭ヲ買入ヲ爲スデアリマセウ、併ナガラ今マデノ經歷、又今後ノ内外ノ經濟事情カラ考ヘテ見マスト云フト、急ニ大正十年度ニ絲ガ高ク賣レルトハ思ハレヌデアリマス、故ニ此製絲家タル者ハ、十年度ノ製絲ヲ爲スニ當ッテハ、新ラシキ繭ノ買入ニハ餘程慎重ノ考慮ヲ要スルデアアル、果シテ一千五百圓ノ價格ガ維持サレルモノデアアルナラバ、或ハ一貫目六圓五十錢ノ繭ヲ買入レタルコトガ出來マセウ、併ナガラ若シ此價ガ帝蠶會社ヲ保護スル爲メニ維持サレルモノデアアル、而シテ十年度ノ絲ニハ此保護ガ無イト云フコトニナリマシタナラバ、製絲家ハ左様ナル無謀ナル千五百圓ノ價ガ、必ズ持續スルモノデアルト云フ大膽ナル計算ヲ以テ、繭ノ買入ヲ爲スコトガ出來マセウ、餘程新シキ十年度ノ繭ハ廉イ値段デ之ヲ買フニ非ラザレバ、製絲業者ハ非常ナ破綻ニ陥ラナケレバナラヌ、新シイ繭ハ非常ナ下落ヲ爲スモノデアアル、繭ノ下落ハ養蠶家ヲ非常ナ窮地ニ陥レルト云フコトニナルデアリマスカラ、此九年度

ノ絲ヲ買フト云フコトハ、決シテ十年度ノ繭、即チ養蠶家ニ對シテ救済ノ實ヲ舉ゲルモノデナイト云フコトハ、私ハ斷言ヲ致シテ憚ラヌデアリマス、斯様ナ次第デアリマストバ、政府ハ此十年度ニ於ケル所ノ養蠶家ノ窮狀ヲ救フコトニ就テハ、如何ナル方法ヲ御執リニナル御考デアアルカ、之ヲ承リタイ、第二ハ政府ハ製絲業ノ救済ト云フコトニ對シテ非常ナル努力ヲ御拂ニナッテ居ルヤウナ御言明ヲ屢、承ッテ居ルガ、本員ノ見ル所デハ、唯ダ僅ニ帝蠶會社ニ對シテ低利資金ト申シマシテモ、而モ五朱六厘ニ當ル所ノ其金ヲ、興業銀行ヨリ今日マデ僅ニ二千八百萬圓ノ融通ヲセシメタト云フ事ヨリ外ニハ、別ニ見ルベキ所ノ御施設ガ無イデアアル、世人ハ政府ノ蠶絲業救済ト云フコトニ對シテハ、多大ノ希望ヲ持ッテ居ッタデアリマス、然ルニ僅ニ帝蠶會社ハ五千萬圓ノ低利資金ヲ融通サレルト云フコトデ非常ニ失望ヲシタ、併ナガラ此失望ハマダ宜シイ、五千萬圓ダケモ實際ニ融通ガ出來マシタナラバ、今日ヨリモヨリ以上救済サレタデアリマセウ、然ルニ政府ガ帝蠶會社ニ對シテ、非常ナ重大ナル所ノ義務ヲ負ハシメテ居ル、是ハ先日早川龍介君ヨリ此壇上デ御述ベニナリマシタカラ、私ハ重ねテ申シマセウ、政府ハ帝蠶會社ノ事業ヲ監督スルガ爲メニハ、態々二人ノ官吏ヲ出張セシメテ其監督ヲ爲シ、隨分煩瑣ナル所ノ干渉ヲ爲シ、此居ラル、ニ拘ラズ、實際ニ今日マデ帝蠶會社ガ利益ヲ受ケタコトハ、八百萬圓ノ持込ヲ爲シ、此拂込ナル所ノ金ヲ頭金トシテ、尙ホ其ノ上ニ買入レマシタ所ノ蠶絲ヲ擔保ニ入レ、興業銀行カラ七掛ノ金ヲ借リタ、而カモ此七掛デハ不足デアリマスカラ、八掛トシテ即チ一分丈ケノ金ヲ融通ヲ受ケルガ爲メニ、帝蠶會社ノ重役個人ガ個人保證ヲ爲シテ此金ヲ持ッテ居ル、而シテ之ガ爲メニ僅ニ豫定ノ五萬圓ノ中三萬圓ダケヲ買入レタ、今日ハ全ク停頓ノ姿ニ陥ッテ居ルデアリマス、故ニ政府ガ救済ヲスルト云フ其觸出シハ頗ル壯大ナモノデアリマシタケレドモ、其實ニ於テ救済ヲサレタル真相ハ、斯ノ如キモノガアル故ニ、此帝蠶會社ナルモノハ今日ニ於テハ殆ド全國ノ蠶絲業救済ト云フコトニ向ッテハ何程ノ貢獻ヲ爲シタモノデハナイ、或ハ政府ハ千五百圓ノ價格ヲ維持シテ居ルカラ、之ヲ帝蠶會社ノ功績ナリト稱ヘラレテ居リマスケレドモ、實際千五百圓ノ價格ガ維持サレテ居ルデアリマセウ、此價格ヲ造ルガ爲メニ、全國ニ於ケル製絲業ト云

ブモノヲ二箇月ノ間休業セシメテ、今日社會政策ヲ行ハネバナラヌト云フ場合ニ於テ、無數ノ失業者ヲ生ゼシメテ、而シテ纔ニ其生産ヲ制限シ、而モ之ガ爲メニ千五百圓ト云フ價格ハ僅ニ外國ニ賣行キマスル所ノ一部分ノ生絲ニ過ギナイ、生絲全體カラ申シマスレバ、僅カナモノデアアル、ソレダケノモノガ表面上千五百圓ノ價格ヲ維持シテ居リマスケレドモ、實際ハドウデアアルカ、今日迄モ千五百圓トハ表面ノミデ、事實ニ於キマシテハ内實ニ於テ、ソレ以下ノ價格ヲ賣買ヲサシテ居ルノデアリマス、之ヲ稱シテ闇商ト稱ヘラレル、今日闇商ハ公々然ト行ハレマシテ、千三百圓若クハ千四百圓デ以テ商ハレテ居ル、是ハ已ムヲ得ナイ、今日ノ蠶絲業救済ト云フモノガ、不徹底デアアルガ爲メニ、唯ダ一ノ帝蠶會社ノミヲ頼リニスルコトガ出來マセヌカラ、已ムヲ得ズ此闇商ヲシテ、是等ノ資金ノ融通ヲ求メナケレバナラヌト云フコトニナツテ居ルノデアアル、故ニドノ點カラ申シマシテモ、此帝蠶會社ト云フモノハ成功ナリトハ申サレマセヌ、又成功シナイ筈デアアル、之レ政府ハ五千萬圓ノ金ヲ融通セシムルト聲言シナガラ、其事實ニ於テハ前述ベタル如キ僅ニ二千八百萬圓ノ金ヲ、ソレモ重役ノ個人ノ保證マデ致シテ、今日得テ居ルト云フヤウナ有様デアリマス、ダカラ此會社ガ到底十分ノ働ヲ爲スコトガ出來ナイト言フノハ當然デアリマス、然ルニ之ヲ以テ帝蠶會社ハ成功ヲシタナドト仰セラレルコトハ甚ダ其當ヲ得ナイ事デアリナイカト思ヒマス、併ナガラ兎ニ角ニモ今日迄政府ハ餘リ多キヲ救済ニ盡シテ居ラヌノデアアルカ、效果ノ擧ラナイノハ仕方ガアリマセヌガ、併ナガラ責任ハ政府ガ有タナケレバナラヌ、帝蠶會社ノ失敗致シマシタル責任ハ帝蠶會社ヲ監督スルガ爲メニハ、種々ノ條件ヲ之ニ課シテ監督官迄モ派遣シテ居ラレル以上ハ責任ダケハドウシテモ政府ガ有タナケレバナラヌ、今日此失敗シテ居ルト云フ事實ハ、既ニ五千萬圓ノ低利資金デモ十分ニ供給スルコトガ出來ヌ更ニ又今日三千万圓ノ此金ヲ融通シナケレバ、帝蠶會社ガ成立タナイト云フコトハ明カナ失敗デアリマス、然ラバ此失敗シタル所ノ責任ハ兎ニ角政府ニ於テ此責任ヲ御感ジニナツテ、責任ニ對スル所ノ相當ノ措置ヲ爲サツテカラ、而シテ後ニ新シイ所ノ此三千万圓融通ノ金ヲ御講ジニナラナケレバナラヌ筈ノモノデアアル、故ニ一ツノ帝蠶會社ニ對シテモ、政府ハ責任ヲ負ハレナケレバナラヌモノ

ト私ハ考ヘマスルガ、政府ハ此責任ヲ御感ジニナラナイカドウカ、而シテ又此帝蠶會社ナルモノハ決シテ一般ノ蠶絲業ノ救済トハナツテ居ラヌ、唯ダ製絲業ノミヲ救済シテ居ルノデ、養蠶家其者ハ餘リ恩惠ヲ受ケテ居ラヌト云フコトヲ御認ニナツテ居リマセヌカ、次ニ私ノ御尋シタイノハ三千万圓ノ金ヲ以テ、大正九年度ノ蠶絲ノ救済ヲ爲サツテモ十年度以降ハ如何ナサルノデアアルカ、政府ハ果シテ十年度以降ニナリマシタナラバ、必ズ千五百萬圓以上ノ價格ヲ維持スルモノト御認ニナツテ居ルノデアリマス、又是迄ノ救済ノ方法ハ前申上ゲタル通り時期ヲ失シテ居ルノデアリマス、故ニ假リニ此三千万圓ノ金ヲ御支出ニナルト致シテモ、之ヲ補償サレルトシテモ、果シテ養蠶家即チモウ二三箇月後ニハ、新シイ繭ガ出テ來ルノデアリマス、二三箇月ノ中ニ出テ來ル所ノ此新シイ繭ニ對シテモ、政府ハ此三千万圓支出ニ依ツテ養蠶家ニマデ救済ノ效果ヲ及ボスノ成算ヲ存シテ居ラレルヤ否ヤ、要スルニ私ノ御尋スル所ハ今日窮境ニ陥テ居リマス所ノ蠶絲業ハ救済ヲ致サナケレバナリマセヌ、是迄ノ政府ノ爲サレ方ハ失敗デアラウト成功デアラウト此ニ至ツタ以上ハ之ヲ傍觀スルコトハ出來マセヌカラ、救済ヲシナケレバナリマセヌ、救済シナケレバナラヌガ、併シ仕方ガナイカラ救済ヲスルト云ツテ其此ニ至ラシメタ所ノ責任ハ、政府ニ於テ當然御執リニナラナケレバナラヌコト、思フ、而シテ又之ヲ唯タヤッタバケデハイカヌ將來ニ於テ效果ノアル、方法デナケレバナラヌト思ヒマス、故ニ此點ニ就テ政府ノ將來ニ對スル將來ト申シテモ遠イ將來デアリマセヌ、此二三箇月後ニ起ル新シイ繭新シイ絲ニ對シテハ、果シテ如何ナル見解ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

山本國務大臣ノ應答

途中カラ參リマシテ、前ノ事ハ承知シマセヌガ、大體ニ就テ御答ヲ致シマス、此帝蠶會社ニ對シマシテ、政府ガ五千萬圓ノ低利資金ヲ貸シマスルコトニ就テ、餘リ帝蠶ノ方ガ十分ナル恩澤ヲ受ケズシテ非常ナル拘束ヲ受ケテ義務ヲ負ウテ居ル、而シテソレニ就テハ效果ガ無イデハナイカト云フコトノヤウニ承知致シマシタガ、而シテ帝蠶ニ就テハ、實ニ氣ノ毒ナル事デアアル、是ハ最

初ヨリ政府ニ於キマシテハ、其當局者ノ請求ヲ必要ナリト致シマシテ、サウシテ此五千萬圓ノ低利資金ヲ貸付ケルト云フコトニシタノデアリマス、併シナガラ政府ハ之ニ就テ、損得ト云フモノヲ負擔スルコトハ出來ナイ、唯ダ低利資金ヲ貸與ヘルノデアルカラシテ、十分確實ナル抵當ヲ取ツテ、サウシテ之ヲ與ヘナケレバナラス、ソレニ就テハ會社ヲ組織シテサウシテ、會社ガ當然責任ヲ持ツカ持ツナラバ、斯ウ云フ約束ニ於テ金ヲ貸與ヘルト云フコトノ相談ニナリマシテ、千六百萬圓ノ會社ヲ組織サレマシテ、サウシテ正當ナル拂込ヲシテ、ソレニ對シテ五千萬圓ヲ限テ貸與ヘルコトニシテアリマス、併ナガラ元トサウ云フ低利資金ヲ調達スル損得ハ、彼等ニ依ッテ負擔スル、政府ハ此損ハ負擔シナイト云フコトデアリマスル故ニ、ドウシテモ資本ヲ以テ此仕事ニ掛ル又其間ニ就テ之ヲ負擔スベキ特殊ノ銀行ガナケレバナリマセヌカラシテ、此間ニ勸業興業ト此二ツノ特殊銀行ヲ中ニ立テマシテ、サウシテ約束ヲサセマシタノデアリマシタ、政府ハ此ニ至リマスト云フト、唯ダ其五千萬圓ヲ其約束ニ依ッテ貸與ヘルト云フコトダケデアッタ、サウシテ此中ニ入ッテ居ル銀行ナルモノハ、自身ニ損ヲスル譯ニ參リマセヌカラ、其絲ニ對シテ七掛又ハ八掛ト云フ價ヲ以テ貸付ヲシタノデアリマス、然ルニ此會社ガ千六百萬圓ヲ立チマシタガ、經濟社會ノ不景氣ニ依リマシテ、十分ノ拂込ヲスルト云フコトハ頗ル困難デアアル、昨年ノ十一月カラ、此一月二月ノ數箇月ノ間ニ半額ノ拂込ヲ爲シタノデアリマス、隨分時勢ニ考ヘテ見マスルト云フト、容易ナラヌ責任ヲ以テ拂込ヲ爲シタノデアアル、併シ此後ニ至ッテ尙ホ半額ノ剩餘ガアルガ、是ハ拂込ト云フコトハ餘程困難ニ感ズルノデアリマス、ソコデアリマスル故ニ、此五千萬圓ノ約束ヲシテ居ッテモ之ヲ引出スコトガ出來ナイサウ云フヤウナ状態デアリマスカラシテ、此五千萬圓ハ尙ホ半分以上マダ約束ノモノヲ受取り得ナイ状態デアアルデス、是ガ今日ノ状態デアリマスガ、扱其會社ガ成功シタカ不成功ニ終ツタカ責任ガ如何カト云フコトデアリマスカ、初メヨリ今日ノ約束ヲシテ必ズ其價ヲ千五百圓ニシナケレバナラス、之ヲ政府ヨリ命ジテ此價ヲ定メマシタカト云フト、彼等ニ於テ千五百圓ハ適當ナルモノデアッテ、是デ其生産費ヲ償フノニハドウシテモ是ダケナイト困ルト云フ最下點ノ價ヲ以テ迄ハ買入レルト云フコトニ致シマシタ、サウシテ政府ハソレニ同意致シテ

今日迄行キマシタガ、此社會ノ起ル前ニハ價ハ千二百圓三百圓ノ間ヲ上下シテ居ッタモノデアリマスガ、會社ノ成立ツニ付キマシテ、其價ガ千五百圓以上千六百圓内ト云フ價ニナッタノデアアル、而シテ其後今日迄ソレノ實行シテ參ッテ居リマスガ、千五百圓ト云フ下ニ於テ賣買ガアル、是ハ恐ラクハ信州上一番ノ外國ニ送ルベキ品物ニ非ラズシテ、内地ニ使フ地遣ノ價デアラウト信ジマスナゼナレバ此千五百圓デアリマシタナラバ、成ベク此會社ガ買入レルト云フコトニナッテ居ル而シテ定期市場ニ於キマシテモ千五百圓以上維持シテ居リマス——居ルノデアッテ今日マダ其以上投賣ヲシテ、非常ナル相場ヲ崩シタト云フコトハ、未ダ聞カナイノデアアル、先ヅ今日迄ソレダケ維持シテ居リマスルカラシテ、決シテ是迄ハ失敗ハ致シテ居ラヌト云フコトヲ申シテ居ルノデアリマス、而シテ是カラ後ハ如何ニスルカ、是ハ此議場ニ於テ最初ニ質問ヲ受ケマシタトキニ今日迄ノ價格ヲ維持シテ居リマスガ、併シ今日ハ製絲家ハ生産ヲ中止ヲシテサウシテ此維持ヲ圖ッテ居ルノデアリマス、二月十五日後ニ於テハ、各市場ニ於テノ製絲ヲ始メマスカラ、サウシマスルト云フト是カラマダ絲ハ此後ニ於テ出テ來ルノデアアル、其後ヲ維持スルト云フコトハ、是ハ餘程考慮シナケレバナラヌノデアリマス、斯ウ云フコトヲ最初カラ申シテ居ッタ次第デアリマス、先ヅ政府トシテハ自身ノ低利資金ノ程度ニ於テ貸シテ、ソレデ實業者ガ行ケルコトニナレバ幸デアアル、若シ行ケナイナラバ如何ニスルカト云フコトニナリマシテ、行カヌナラバ政府ハ捨テ、置クカト云フト、此價格ヲ維持スル上ニ於テ、尙ホヨリ多クノ力ヲ國家ガ用キテサウシテ此價ヲ維持スル、サウシテ彼等ノ目的ヲ遂ゲルコトニ就テ政府ハ相當ナル力ヲ用キテ行クノガ適當デアアル、其力ガ何デアアルカト云ヘバ、之ニ由ッテ生ジマシタ其損ノ補償ヲ爲ス、斯ウ云フコトガ一番利キ目アリ、又力ガアリマス、故ニ政府ハ最初ノ目的ヲ遂行スル上ニ於テハ、今後其損ノ補償ヲ或ル程度ニ於テヤリ、サウシテ彼等ノ目的ヲ達セシムルコトノ方法トシテ、此三千萬圓ヲ限リマシテ、御協賛ヲ得タル次第デアリマス、此事ガ成就スルカシナイカト云フコトハ、何人ガ考ヘマシタ所デ、大正九年度ニ於テノ絲ガ、ソレガ昨年八月九月デマダ一部ホカ取レナイ、是カラ後ニ繭——製絲ト云フモノニナッテ市場ニ現レテ參ルノデアリマスカラ、是デ以テ先キノマ

ダ長イ間ノアルモノヲ、是デ必ズ成效スルト信シタ人ハ、ソレハ恐ラクナイダラウト思ヒマス、其間ニハ如何ニナルカト云フコトハ、是ハ長イ月日ノ間ニ定マル事デスカラ、其場合ニ依ッテハ又別ニ維持ノ途ヲ取ラナケレバナラス、即チ彼等ガ千六百萬圓デヤッテ見タガ、力ガ竭キタ故ニ、政府ニドウカシテ都合シテ呉レト云フコトガ來タ譯デスカラ、政府ハソレデヤッテ來タノデアリマス、是カラ後ニ於テ如何ニナルカト云フコトニ於テ、始メテ是ガ失敗スルカ成效スルカト云フコトガ今後ニ定マルノデアリマス、今日マデハ何モ之ニ付テ失敗ト云フコトハ見出シ得マセヌ、而シテ此三千萬圓ヲ今日貸スト云フコトニシテ置クト、大正十年度ニ於ケル繭ガ又近ツイテ來ル、是ハ如何ニスルカト云フコトデアリマス、是ハ豫算總額ニ於テモ度々述ベマシタ如ク、今日三千萬圓デ補償スルト云フコトハ、大正九年度ニ於ケル製絲ニ限ッテ居ルノデアリマス、——此五月末マデニ製絲ニナリマシタモノニ限ルノデアリマス、其後ノモノニ就テハ、即チ十年度ノ養蠶絲業ニ就テハ、政府ガ此所マデ世話シテ參リマス、言ハ、實際ノナイコトデアリマス、サウシテ九年度ニ於テハ是マデ四千圓以上ノモノガ千二百圓ニナルト云フ經濟狀態ニ於テ、非常ニ激變ヲ起シテ來マシタガ、サウ云フコトキニ於テハ臨時ノ仕事トシテ政府デスルノガ相當デアアル、大正十年度ニナリマス、絲ガ今幾ラシテ幾ラ殘ッテ居ル、サウスレバ此養蠶ハ此位ノ程度ニ於テ制限ヲ付ケヤウトカ、ドウ斯ウト云フコトニ就テハ、十分ニ考慮シテサウシテ新タニ爲ストキデアリマス、カラシテ、此ハ養蠶家ガ能ク今日ノ狀況ヲ見テ、徐ロニ繭ノ買入方ヲ殖ストカ減ストカ云フコトヲ能ク考ヘテヤルノガ必要デアリマス、之ニ就テハ相當ニ當局者モ注意ヲ致ス積リデアリマスガ、此程度デ此案ヲ定メテ置キマシタナラバ、ソレニ依ッテ是カラ絲ノ出ルト云フコトニ就テハ、相當ナル考ヲ以テ爲シ得ルコト、存ジテ居リマス

早川龍介君ノ質疑

私ハ極ク簡單デアリマスカラ、此席カラ申上ゲマス、只今ノ農商務大臣ノ御辯明デ能ク判リマシタカラ、前途ノ事ハ伺ヒマセヌガ、既往ニ於テハ非常ニ大ナル五千萬圓ヲ貸スト云フ——救濟ト

云フ聲ト同時ニ、其實體ノ上ニ於テハ帝蠶ガ唯ダ窮地ニ陥ッタト云フダケデ、救濟ト云フコトハ唯ダ大キイ聲ヲ擧ゲテ救濟ト云ハレタダケデ、唯ダ利子ハ五朱六厘デアアル、當リ前ノ利子ナラバ、六朱カ六五厘ノモノガ、一朱カ一朱半安ク借リラレタト云フコトニ止マル話デ、非常ニ救濟ノ恩澤ガアルカノ如ク言ハレテモ、其實ハサウデナカッタト云フコトニ、既往ノコトガナルノデアリマスガ、其通りデアアルカト云フコトヲ一口承リタイノデアリマス

山本國務大臣ノ應答

是ハ最初ヨリ政府ハ世ノ中ニ公言致シマシタル通りニ行ッテ來ツ、アルノデアリマス、決シテソレガ爲メニ、政府ハ斯ウシヤウト思ッタコトヲシナカッタ、約束シタコトヲ約束通りニ行ハナカッタト云フコトハ何ニモナイノデアリマス

討論ニ入り津原武君及植原悦二郎君ハ警告附ノ賛成、櫻内幸雄君ハ賛成ノ演説ヲ爲ス
津原武君ノ警告賛成演説

諸君私ハ吾々ノ同志ヲ代表致シマシテ、只今上程セラレタル各案ニ就テ、其所見及ビ態度ヲ聲明スル必要アリト感ジテ居ル次第デアリマス、大正九年度歳入歳出總豫算追加、此金高ハ實ニ五千八百三十八萬圓デゴザイマス、而モ其八割四分八厘ト云フ金高、即チ四千九百餘萬圓ト云フモノハ、全ク陸海軍關係ノ費用デアリマス、即チ大正九年度ノ豫算ハ故意デアアルカ、或ハ偶然デアアルカ、軍事關係ノ費用ニ就テハ甚シク杜撰デアッタト云フコトガ、即チ此追加豫算ニ依ッテ證明セラレタ譯デアリマス、此事實ヨリ致シマシテ、將來ヲ類推致シマスルナラバ、吾々ハ大正十年度ノ豫算ニ於テ、若クハ其以降ノ豫算ニ於テ、陸海軍ニ關スル所ノ經費ガ如何ニ我ガ財政ヲ壓迫スルモノデアアルカト云フ事實ヲ茲ニ覺悟致シテ置カナケレバナラヌ次第デアリマス、物價騰貴ノ責任即チ、此豫算ナルモノハ前ニ委員長ガ報告セラレタル如ク、全ク物價騰貴ニ關スル所ノ豫算デアリマス、此物價騰貴ニ關スル責任ニ就テハ、吾々ノ同志ハ幾度カ此壇上ニ於テ其意見ヲ聲

明致シテ、政府ト屢、應酬致シテ居ルガ故ニ、今茲ニ之ヲ論ズル必要ナシト考ヘマス、併ナガラ私ガ茲ニ指摘致シテ置キタイ事柄ハ、此豫算中五千八百餘萬圓ノ追加豫算ナルモノノ數字ハ、其三十七百餘萬圓ト云フモノハ、實ニ軍艦製造費ニ關スル所ノ經營デアリマス、昨年ノ臨時議會ニ於キマシテ、此軍艦製造費ハ既ニ七割ノ物價騰貴ヲ見越シテ、吾々ハ協賛ヲ致シタノデアアル、而モ半年經ツカ經タザル今日ニ當ッテ、更ニ其二割ノ追加要求ヲ餘儀ナクセラル、ニ至リタル所ノ政府ノ責任如何、是レ私ガ主トシテ茲ニ指摘シテ置キタイ事柄デアリマス、之ニ對スル政府ノ辯解ハ先程委員長ニ依ッテ紹介セラレタル如ク、昨年ノ軍艦製造ニ關スル所ノ豫算ハ其編成ノ時即チ昨年ノ四月ノ物價ヲ基準ト致シテ、計算シタルモノデアアル、而シテ更ニ三割ノ追加要求ヲ爲スノ已ムラ得ザルニ至リタル事實ヲ發見致シタノハ、昨年ノ十月デアアルト云フコトヲ聲明セラレマシタ、而シテ吾々ノ考フル所ニ依レバ、昨年ノ物價ガ當時如何ナル趨勢ニアリタルヤ否ヤ、最近ニ官報ノ附録トシテ日本銀行ヨリ吾々ノ手ニ與ヘタル所ノ物價指數表、此物價指數表ニ依リマシレバ、昨年四月ノ物價指數ハ二百九十七デアッタ、其後ニ漸落ノ步調ヲ歩ミマシテ同年ノ十月ニ在ッテハ實ニ二百九十八、即チ九十九ト云フ指數ガ下落致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク一般ノ物價ハ漸次低落ノ步調ヲ歩ンデ、實ニ此六箇月間ニ於テ九十九ト云フ所ノ指數ヲ減ジテ居リマスルニ拘ラズ、軍艦ノ製造ノ費用ニ限ッテ、獨リ三割ノ騰貴ヲ見テ居ルト云フノデアリマス、之ニ對スル大藏大臣ノ説明ハ日本銀行ノ物價指數表ナルモノハ、參考トシテ之ヲ見ルコトハ出來ルケレドモ、必シモ之ヲ信ズルコトヲ得ヌト云フ所ノ御答辯デアッタ、果シテ然ラバ吾々ハ此日本銀行ノ物價指數表ニ對シテ絶大ノ信任ヲ拂フコトガ出來ナイノデアアルカ、私ハ此點ニ關スル大藏大臣ノ御答辯ハ其當ヲ得ザルモノト信ズルノデアリマス、抑、政府者ノ常ト致シマシテ、初メニハ故意ニ極メテ低キ數字ヲ提出致シテ、其事業ノ協賛ヲ求メ、議會ト國民トガ僅カナル金高ト思ウテ之ニ協賛ヲ致ス、即チ議會ト國民トガ殆ド拔差ノ出來ナイ所ノ窮地ニ陥リタルトキニ當ッテ、更ニ追加豫算ヲ提出致シテ、其協賛ヲ餘儀ナカラシムル所ノ一種ノ奸譎ナル手段ハ、獨リ現内閣ト言ハズ、過去ノ政府者ニ於テ吾々ガ屢見タル所ノ事實デアリマス、併シナガラ斯ノ

如キ奸譎ナル手段ハ實ニ豫算ノ信用ニ重大ナル關係ヲ持ツモノデゴザイマスガ故ニ、吾々ハ極力之ヲ排斥セザルベカラザルト同時ニ、若シ本件ノ豫算ニ就テモ亦斯ノ如キ事實ガゴザイマスナラバ、吾々ハ更ニ鼓ヲ鳴ラシテ之ヲ責メナケレバナラヌノデアアル、而シテ物價騰貴ノコトニ就キマシテハ、政府ハ斯ノ如キ答辯ヲ與ヘタノデアアル、若シモ軍艦ノ製造ガ請負ト云フ形式ニ依ッテ居ルモノナラバ、斯ノ如キ追加豫算ヲ提出スルコトノ結果ニハ陥ラナイノデアアル、獨リ奈何セン軍艦ノ製造ハ一種ノ官業ナルガ故ニ、而シテ其軍艦ノ主タル材料デアアル所ノ鋼材ハ、多種多樣、異形ノモノガ多イカラシテ、必シモ一般物價ト同一ノ步調ヲ辿ルモノデアナイ、隨テ四月ノ豫算編成期ニ於テ、其當時ノ物價ヲ其當時ノ價格ヲ標準ト致シテ豫算ヲ組ンダケレドモ、ソレガ十月ニ至ッテ意外ノ騰貴ヲ見ルト云フコトハ、蓋シ餘儀ナキモノデアアルト云ウタノデアリマス、併ナガラ諸君軍艦ノ製造ニ限リマシテ、六箇月ノ後ヲ見越スコトノ出來ナイ政府ガ、如何ニシテ一年二年三年ノ後ヲ見越スコトガ出來マスカ、而モ吾々ハ昨年ノ臨時議會ニ於キマシテ、政府ノ國防充實計畫ヲ是認致シテ十億何千萬圓ト云フ所ノ所謂八八艦隊ノ計畫ニ向ッテ協賛ヲ致シタノデアリマス、當時經濟界ノ現況ハ皆様御存知ノ通り、商工業者ハ相踵イデ破産ヲ致シ、失業者續出ノ時ニ當リマシテ、而モ彼等ノ苦痛ヲモ忍バセテ吾々ハ増稅ノ計畫ニ向ッテマデ協賛ヲ致シタノデアリマス、然ルニ六箇月ノ後スラ見越スコトノ出來ナイ政府、此政府ノ作リタル所ノ豫算ニ向ッテ、吾々ハ協賛ヲ致シタモノデアアルト致シマスナラバ、吾々ハ先ヅ國民ニ對シテ其不明ヲ謝シマスト同時ニ、其不明ヲ謝シマス以前ニ於テ、宜シク政府ノ責任ヲ問フコトガ至當デアルト考ヘルノデアリマス、諸君、此豫算ハ僅ニ五千八百萬圓ノ豫算デアアル、而シテ軍艦製造ニ關スル所ノ經費ハ三千七百餘萬圓デアリマス、併ナガラ諸君、霜ヲ履ンデ堅氷ノ至ルト云フコトヲ知ルナラバ、大正十年度ノ豫算ニ就テハ更ニ大ナル追加ヲシナケレバナラヌト云フコトヲ覺悟シナケレバナラヌ、而シテ大正十一年度以後ニ於キマシテハ、更ニ大ナル數字ヲ吾々吞込マザル餘儀ナキ立場ニアルト云フコトヲ覺悟致サナケレバナラヌノデアリマス、今ヤ繰越金ハ大ニ減少ヲ致シ、將來ニ於ケル所ノ公債ノ募集モ甚ダ不安デアアル、或ハ事業ヲ繰延ベナケレバナナルマイ、或ハ増稅スラ致サナケレバナナルマイカ

ト云フ心配ヲシツ、アル場合ニ於キマシテ、私ハ此案ハ僅カデゴザイマスケレドモ、將來ヲ推想致シマシテ、甚シク恐ル、所ガアリマス、此意味ニ於キマシテハ私ハ此案ニ協賛ヲ致シマスルト同時ニ政府ニ向ッテ一ツノ警告ヲ提出シテ置キタイト思フノデアリマス、要スルニ政府ハ此豫算ノ執行ニ就キマシテ、深ク其責任ノ重大ナルコトニ顧ミテ、最善ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ希望致シマスル譯デアリマス、尙ホ將來ノ豫算編成ニ就キマシテハ、斯ノ如キ事實ノ再ビ發生致シ繰返サバルコトヲ希望致スト云フ意味ノ警告デアリマス、次ニ蠶絲救済ニ關スル案件ニ就キマシテ其意見ヲ聲明致シマス、元來此案ハ過日本院ヲ通過致シマシタ米穀法案ト其重要ノ程度ヲ稍等シク致シテ居リマス所ノ姉妹案デアリマス、勿論一面ニ於キマシテハ、輸出貿易ノ大宗デアアル所ノ生絲貿易ノ消長ニモ關係致シマスレバ、一面ニ於テハ二百萬ノ養蠶家ノ運命ニモ重大ナル關係ヲ持ッテ居リマス故ニ、私共ハ極メテ慎重ナル態度ヲ以テ本案ヲ待遇致シテ居リマスル次第デアリマス、而モ吾々ノ研究致シマシタル結果ニ依レバ、本案ハ帝蠶會社ヲ保護セントスルトシテハ、徹底致シテ居ラヌ、又養蠶家ヲ救済スルト致シテハ、甚シク效驗ノ薄キコトヲ虞ル、ノデアリマス、私ハ此點ニ就テ四箇ノ事實ヲ掲ゲ、結局二箇ノ警告ヲ政府ニ提出致シマシテ、本案ニ贊成スル所ノ意思ヲ表明致シマス、第一ニ指摘致シマスル事項ハ、本案ニ依ル蠶絲ノ救済ハ、九年度生産ノ生絲ト十年度生産ノ生絲トノ間ニ差別待遇ヲ致スノデアリマス、此差別待遇ヲ致シマスル所ノ結果、本案ニ依ル所ノ救済ガ、主トシテ製絲家及生絲商人ニ偏重デアッテ、養蠶家ニ偏輕デハナイカト云フ一點デアアル、諸君ハ豫算委員會ニ於テノ質問應答、竝ニ只今此壇上ニ於テ農商務大臣ガ聲明セラレタルコトニ依ッテ御存知ノ通り、此本案ニ依ル所ノ蠶絲業救済ナルモノハ、全ク大正九年度生産ノ製絲ニ限ルノデアッテ、大正十年度ノ繭及絲ト云フコトニ就テハ、何等ノ考慮ヲ拂ハレテ居ラナイト云フ一點デアリマス、勿論政府ハ考慮ヲ拂ハナイト言ハヌ、何等ノ手段ヲ執ラスト云フノデアアル、蓋シ相場ノ安定維持賣行ノ増進、是ハ繭ノ相場ニ重大ナル關係ヲ持ッコトハ、今更申シマスマデモナイノミナラズ、又九年産ノ生絲ヲ兎ニ角モ十萬捆ヲ買入レルト云フコトニナリマスナラバ、ソレニ依ッテ得タ所ノ資金ガ製絲業者ノ手ニ廻リ、製絲業者ヨリソレガ養蠶家ニ

廻ルト云フ事實ハ是ハ否定シナイノデアアル、併ナガラ是ハ直接ニ帝蠶會社ヲ保護致シ、仍テ以テ間接ニ養蠶業者ヲ保護セントスル所ノ方法デアッテ、吾々ガ蠶絲業ヲ救済スルニ當リテハ、先ヅ二百萬ノ養蠶業者ヲ主義ニ置カナケレバナラヌト云フ所ノ主張トハ多少ノ距離ノアルト云フコトヲ認ムルノデアアル、言フマデモナク製絲業者モ養蠶業者トハ、唇齒輔車ノ關係アルコトハ勿論デアアル、勿論デハゴザイマスレドモ、一面ニ於テ賣人ト買人トノ關係デアアル、必シモ利害ガ常ニ一致シタリトハ認ムルコトガ出來ナイノデアリマス、隨ヒマシテ此本案ノ救済ガ果シテ製絲家ニ於キマシテ、無條件ニ養蠶家ニ此保護ノ實益ヲ割讓スルカ否ヤト云フコトニ就テ、多少ノ疑ガアリマス、此點ニ就キマシテハ過去ノ帝蠶會社ニ對スル養蠶業者ノ怨嗟ノ聲、養蠶業者ガ如何ニ帝蠶會社ヲ呪ヒツ、アリシヤト云フ過去ノ事實ヲ茲ニ語ルコトハ、餘リニ事古リタリト思ヒマスカラ申上ゲマセヌ、即チ製絲業者ト養蠶業者トハ唇齒輔車ノ關係ニ互ッテ居ルケレドモ必ズ利害ガ一致シナイノデアアルト致シマスナラバ、私ハ本案ノ救済ガ養蠶業者ニ及ブト云フコトニ就キマシテハ、多少ノ疑懼ヲ持タザルヲ得ザル次第デアリマス、此點ニ就キマシテ去月二十二日ニ、此壇上ニ於テ我同志ノ早川君竝ニ山邊君アタリヨリシテ、其意見ヲ詳密ニ陳述サレテ居リマスカラ、茲ニ私ハ繰返スコトヲ避ケマス、要スルニ吾々ノ希望ヲ露骨ニ申シマスナラバ、絲價ハ製絲ノ費用ヲ四百圓ト見テ、私ハ此四百圓ト云フモノニ就テ多少ノ疑ヲ持ッ、或ハ今日ノ物價ヨリ、スルナラバ今少シ此製絲費用ハ安クテモ宜イト思フガ、兎ニ角製絲費用ヲ四百圓ト見、サウシテ絲ノ相場ヲ千五百圓ト見マスルトキニ於キマシテハ、繭ハ必ズ六圓三十七錢五厘デアリ、買ハナケレバナラヌ等デアアルガ故ニ、若シ政府ガ本案ニ依ッテ養蠶業者ヲ眞ニ救済セント欲スルナラバ此點ニ就テ相當ノ考慮ヲ拂ハレテ、帝蠶會社ニ向ッテ或一種ノ條件ト云フコトハ出來ナイニシテモ一ノ諒解ヲ得ルト云フコトノ手段ヲ執ララ、ガ相當ナリト信ジテ居ル次第デアリマス又政府ハ委員會ニ於キマシテ斯ノ如キコトヲ言ハレタノデアリマス、是ハ委員長ノ報告ニハナカッタガ、政府ハ養蠶業者ニ對シテ大正十年度ノ計畫ニ就テ其自製心ヲ喚起スベキ所ノ何等カノ

手段ヲ取ル積リデアルト云フコトヲ明言セラレタノデアリマス、惟フニ其意思ハ掃立ヲ制限スルノデアル、或ハ生産費ヲ節約スルコトニ就テ養蠶業者ノ自制ヲ喚起スルコトデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ私共ノ見ル所ニ依リマスレバ、供給ヲ制限スルコト云フコトハ價格ヲ維持スル上ニ於テ固ヨリ必要ノ手段ニハ相違ナイケレドモ、之ヲ農村ノ實狀ニ就テ見マスルト、養蠶家ノ設備ト云フモノハ、既ニ定マツテ居リマスカラ急激ニ之ヲ制限スルト云フコトハ甚ダ困難ナル事情デアリマス同時ニ、又極度ニ之ヲ制限致シマスルトキニ於キマシテハ、勢ヒ桑園ヲ荒廢ニ陥ラシメルト云フ所ノ危険ガアル、又生産費ヲ節約スルト云フコトハ、是ハ農村ノ自覺ニ依ッテ當然目的ヲ達スルコトガ出來マスケレドモ、直ニ此目的ヲ徹底的ニ達セントスルニ當リテハ先ヅ一般ノ物價ヲ下落セシムル手段ヲ講ズルコトガ當前デゴザイマス、併シ是ハ中々容易ナラザル問題ト思フ、政府デ誠意ヲ以テ養蠶家ノ自制ニ訴ヘルト云フコトハ固ヨリ必要ト思ヒマスケレドモ、此手段ニ依ッテ供給ヲ制限致シ、政府ノ所期ノ目的ヲ達セシムルト云フコトハ、甚シキ困難寧ロ不可能デハナイカト思フデアリマス、是ガ第一ノ本案ニ對スル憂懼ノ點デアアル、第二ノ點ハ此案ハ帝蠶會社ヲ保護スルト致シテハ、甚シク徹底ガ缺ケテ居リハセヌカト考ヘルノデアル、帝蠶會社ガ本案ノ救済ヲ受ケル、假ニ之ヲ恩惠ト致シマセウ、本案ノ恩惠ニ浴スルニ就キマシテハ、其要件ト致シマシテハ、第一ニ大正九年度ノ絲十萬圓——現在已ニ三萬圓買付ケテ居ルト云フコトデゴザイマスカラ、更ニ七萬圓デアリマスガ、結局帝蠶會社ハ十萬圓ノ絲ヲ買付ケナケレバ、此恩惠ニ浴スルコトハ出來ナイノデアアル、又更ニ此三萬圓ト云フ金ヲ政府カラ貰ハウト思フナラバ、先ヅ自分等ガ拂込シテ居リマス千六百萬圓ノ株金ヲ全損致シマシテ、即チ事實上破産ノ状態ニ陥リタルトキニ於テ、初メテ此三萬圓ト云フ政府ノ補償ヲ受ケルコトガ出來ルノデアアル、故ニ帝蠶會社ト致シマシテハ十萬圓ヲ買付ケント欲スルナラバ、千六百萬圓ト云フ自分等ガ出資シタル金ヲ全損スル危険ヲ冒サナケレバナラナイ、然ラバ全損ヲ免レヤウト致ス、即チ自分等ノ株金全部ヲ失ハナイトスルナラバ、此案ノ恩惠ニ浴スルコトハ出來ナイノデアアル、然ラバ則チ帝蠶會社ト致シマシテハ、斯ノ如キ案ガ出マシテ、斯ノ如キ恩惠ヲシキ案ガ出マシタ

所デ、此恩惠ニ浴スベキヤ浴スベカラザルヤハ、所謂痛シ痒シト云フ立場ニ在ルノデハナカラウカ、勿論帝蠶會社ニ出資シタル諸氏ハ、極度ノ國家的見地ニ立ッテ、其犠牲心ヲ發揮致シテ自己ノ利害ヲ無視致シテ、十萬圓ノ絲ヲ買付ケルモノデアルト云フコトニ就テハ、吾々ハ深ク之ヲ信用致スノデアリマス、併ナガラ其十萬圓ノ絲ヲ買付ケタル結果ハ、本案ニ依ル所ノ恩惠ニ浴セントスルニ當ッテ、先ヅ其金ヲ全部損シテシマハナケレバナラヌト云フノデアアル、生絲ノ相場ノ前途ト云フモノガ旨ク參リマスナラバ、洵ニ結構デアルガ、若シ悲觀ノ状態ニデモ陥リマシタナラバ帝蠶會社諸君ノ犠牲ノ大ナルト共ニ、政府ガ斯ノ如キ案ニ依リテ帝蠶會社ヲ或意味ニ於テ挑發シタリト云フ所ノ責任モ之ヲ辭スルコトハ、出來ナイモノデアアルマイカ、私ハ帝蠶會社ヲ助成スルト云フ意思ガゴザイマスナラバ、今一層徹底的ニ他ノ方法ニ依ルベカリシモノデアルト云フコトヲ是ハ私一個ト致シマシテ考ヘテ居ル次第デアアル、第三ニ十萬圓ノ滯貨ヲ造ルト云フコトハ、新絲——大正十年度産ノ即チ新絲ノ相場ニ對シテ一ツノ脅威壓迫ヲ加ヘルモノデハナイカト云フ點デアアル、昨年以來日本銀行總裁ガ各地ニ於テ爲シタル所ノ演說ヲ讀ミ、又過日當院ニ於テ大藏大臣ガ斷片的ニ爲シタル所ノ演說ニ依リマシテモ、頻リニ輸出ノ獎勵ヲ致シ、滯貨ヲ一掃シ、若クハ其滯貨ヲ減少スルト云フコトガ今日ノ經濟上ノ急務デアルト云フコトヲ公表セラレテ居ル、然ルニ此計畫ニ依リマスレバ——政府ノ保證ノ下ニ生絲十萬圓ト云フ所ノ滯貨ヲ造ル案デアリマス、而モ此十萬圓ノ滯貨生絲ハ、先ヅ帝蠶會社ノ資本ノ千六百萬圓ト、第二ニ本案ニ依ル所ノ三萬圓ト二重ノ保護ヲ受ケル所ノ滯貨デアリマス、極端ニ申シマスナラバ、此十萬圓ノ生絲ナルモノハ、所謂二重三文ニ賣飛バシテモ厭ハナイト云フ所ノ一種ノ絲貨デアルトマデニ言ヒ得ル所ノ滯貨デアリマス、而シテ政府ノ言フ所ニ依リマスレバ、此滯貨ハ二箇年ニ於テハ必ズ之ヲ處分シナケレバナラヌモノデアアル、隨ッテ此滯貨ハ二箇年ト云フモノハ生絲市場ニ君臨シテ居ルノデアリマス、其後二箇年後ニ於テハ如何ニ相場ガ下落致シマシテモ、賣放タルベキ所ノ運命ニ居ルモノデアアル、果シテ然ラバ此二重ノ特殊待遇ヲ受ケル所ノ生絲ハ如何ニシテ新絲相場ヲ脅威壓迫セズシテ措クベキヤ、否ヤ、私ハ深ク此點ニ就テ將來ノ新絲ノ増加ニ就テ憂慮

致シテ居ル者デアリマス、而モ此憂慮ハ實ニ本案ニ原因スルモノデアルト云フコトヲ考ヘ來リマシテ、甚シク憂ヘテ居ル次第デアリマス、第四ノ點是ガ最後デアアル、此案ハ絹業者ノ利害ヲ閑却シタモノデハアルマイカ、此點デアリマス、人爲ニ依ッテ即チ本案ニ依ッテ生絲ノ價格ヲ維持スルト云フノデアアル、或意味ニ於テ不自然ニ生絲ノ價格ヲ維持セントスルノデアアル、然ラバ之ニ依リテ製造シタル所ノ絹織物モ亦同一ノ比例ヲ以テ其價格ヲ維持セザルベカラザル運命ニ在ルノデアリマス、然ルニ織物ニ就キマシテハ一ツノ代用品ガアル——多クノ代用品ガアリマス、御存知ノ通り人造絹絲ト云ヒ、或ハ羊毛ト云ヒ、或ハ近頃綿絲ハ非常ニ慘落ヲ致シテ居ル、又支那ノ絹細ハ銀塊安ト共ニ甚シク日本ノ織物市場ヲ壓迫致シテ居リマス、隨ヒマシテ今絹織物業者ノ立場ハ所謂内外ノ市場ニ於キマシテ、挾撃ヲ受ケテ居ルト云フ現況デアルト云フコトハ多少絹業ノ事ニ關係ヲ御持チニナッテ居ル諸君ハ、必ズ御存ジノ事デアラウト思フノデアリマス然ラバ不自然ナル若クハ人爲的ニ造ラレタル所ノ相場ニ依ッテ織出シタル所ノ織物ハ、ドウシテモ此挾撃ニ對シテ自己ノ領域ヲ保護セントスルナラバ、之ヲ不自然ナル低價ニ賣下ゲナケレバナラヌト云フ關係ニナッテ居ルノデアリマス、即チ輸出織物ノ絹業ト云フモノニ就テ深ク皆様ガ御考ニナリマシタナラバ、此狀況ヲ見出スコトガ出來ルダラウト思フノデアリアス政府ノ考慮ヲ請ウテ居ルノデアアル、ソレカラ皆様ガ御存ジデアラウト思ヒマスガ、近頃米國ノ關稅ノ引上問題ガ起ッテ居リマス、絹織物ニ對スル所ノ米國ノ關稅引上問題ガ起ッテ居ル、是ハ斯ウ云フ事モ一ツノ原因デアルト思フノデアリマス、輸出絲ト地遣絲ノ間ニ於テ先程何方カラ指摘サレタヤウデアッタガ、相當値開キガアリマス、即チ輸出絲ニ對シテ特殊ノ待遇ヲ致シテ居リマスルガ爲メニ、其報復手段ト致シテ輸出絹織物ニ向ッテ關稅ノ増率ヲ圖リツ、アルモノデアルト云フコトノ疑ガアリマス、此點ニ就テハ政府ニ於テモ相當ナ手段、若クハ考慮ヲ執ラレツ、アルト考ヘマスルガ、本案ガ通過致シテ不自然ナル絲ノ相場ヲ維持スルモノデアルト云フガ如キ事ニ相成リマスルト云フト、此關稅ノ増率問題ト云フ事ニ就テ相當ニ有力ナル刺戟ヲ與ヘルト云フ關係ニ立至ルベキコトヲ虞レルノデアアル此四點ガ私共ガ本案ニ對シテ甚シク憂慮ヲ致シテ居リマスル點デアアル、併ナガラ——事ハ免ニ

角多クノ養蠶業者ニモ間接ナガラモ效益アル事ト信ズルガ故ニ、本案ニ就テハ全然贊成致スノデアアル冷靜ニ——冷靜ニ私共ハ考ヘテ居ルノデアアル、私共ハ今申シタヤウナ四ツノ心配ヲ致シテ居ルノデアアル四、ツノ心配ヲ致シテ居リマスガ故ニ、本案ニ就テ政府ニ對シテ二ツノ警告ヲ發シテ、其考慮ヲ請フノデアリマス、其第一ノ警告ハ、本案ノ救濟ハ製絲業者及ビ絲商人ニ偏重シ、養蠶家ニ偏輕ナルモノト認ム、政府ハ宜シク二百萬養蠶家ニ對シテ本案ノ救濟ヲ徹底的ニ均霑セシムベク最善ノ努力ヲ爲サンコトヲ望ムト云フノデアアル、ソレカラ第二ハ本案ハ絹業者ノ利益ヲ閑却スル所ノ嫌ガアル、輸出絹織物ニ關シテハ、米國ノ關稅増率問題ニ關シテ相當ノ手段ヲ執ラレンコトヲ望ムト云フノデアアル、私ハ本案ニ對シマシテハ前ニ申シタルガ如ク四ツノ心配ヲ持チ居リマスガ故ニ、即チ只今申シマシタル所ノ二ツノ警告ヲ發シ、政府ニ對シテ相當ナル手段、及考慮ヲ執ラレンコトヲ望ミマス次第デアリマス

植原悦二郎君ノ警告附贊成演說

私ハ茲ニ議題ニナッテ居リマスル大正九年度總豫算追加豫算案ニ附キマシテ、贊成ノ意ヲ表スルモノデアリマス、併シナガラ之ニ贊成スルコトハ萬已ムヲ得ズシテ贊成スルノデアリマシテ、決シテ之ヲ以テ満足シテ贊意ヲ表スルモノデアリマセヌ、其理由ハ若シ眞ニ政友會諸君ガ——追加豫算案ト致シマシテモ五千八百萬ノ巨額ニ登ッテ居ルモノデアリマス故ニ、是等ノ問題ニ附キマシテハ縱令政府與黨デアラウトモ、國家國民ノ爲メニ慎重ナル態度ヲ以テ御取扱ヒアランコトヲ希望シテ已マナイノデアリマス、此ノ追加豫算ノ細密ニ互ッテ批評致シマスレバ幾多ノ批評スベキ點ガアル、併ナガラ細目ニ互ッテ批評スルコトヲ姑ク避ケマシテ其主ナルモノニ就テ何故ニ私ガ萬已ムヲ得ズシテ之ニ贊成スルカト云フ理由ヲ申上ゲマス、五千八百萬ノ追加豫算ノ内三千七百萬ハ海軍ノ主トシテ製艦費ノ追加デアリマス、私ガ申上ゲル迄モナク、海軍ノ製艦費ハ昨年ノ特別議會ノ七月ノ際ニ定メタモノデアリマス、御承知ノ如ク七月ハ物價騰貴ノ立場カラ行キマシテモ殆ド絶頂ニ達シテ居ッタト云フコトハ、寧ロ下リ坂ニ掛ッテ居タ時デアリマス、其時ニ出マシタ

追加豫算案ニ對シテ、三千七百萬圓ノ物價騰貴ニ對スル所ノ追加豫算ヲ請求シテ居ルノデアリ
 マス、之ニ就キマシテ吾々ノ同僚ガ政府當局者ニ對シテ質問ヲ試ミマシタ、昨年ノ特別議會ニ於
 テ海軍ノ製艦費ニ對スル所ノ豫算ヲ審議スルニ當ッテ、吾々ハ政府當局者ヨリ斯ノ如ク言ハレテ
 居ル、是ハ國防上重大ナル事デアアル、而シテ之ヲ遂行スルガ爲メニハ、所得稅ノ增稅モシナケレ
 バナラヌ、酒稅モ增稅シナケレバナラヌ、國民ニ多額ノ增稅ヲ要求ヲシタノデアリマス、吾々ハ已
 ムヲ得ズ國家ノ爲メニ是モ忍ンデ之ニ贊成シタノデアリマスケレドモ、昨年ノ七月カラ今年ノ
 三月、僅カ五六箇月ノ間ニ海軍ニノミニシテ三千七百萬圓ノ追加豫算ト云フモノハ容易ナラザ
 ルモノデアアル、何故ニ海軍ニ於テハ斯ノ如キ豫算違ヒガ出來タノデアアルカ、昨年ノ特別議會ニ於
 テ海軍ノ製艦費ハ物價ニ對スル所ノ七割ノ騰貴ヲ見越シテ原案ヲ立テ、居ルノデアアル、然ルニ
 其七割ニ尙ホ或ルモノニ於テハ三割、鋼材ノ如キニ於テハ七割二分五厘、普通ノモノニ於キ
 マシテハ十割、鋼ニ對シマシテハ十四割二分五厘ト云フガ如キ增額ヲ餘儀ナクサレト云フ
 コトハ、如何ナル理由デアアルカト云フコトヲ、我が同僚大口君ヨリ海軍當局ニ尋ネタノデアリマ
 ス、之ニ對シテ海軍當局ハ斯クノ如ク答ヘテ居ル、誠ニ御尤ナ質問デアリマス、併ナガラ海軍ニ
 於キマシテ特別議會ニ提出シタ豫算案ヲ編成シタノハ昨年ノ四月デアリマス、昨年ノ四月ニ於
 テ豫算ヲ編成致シマシテ、大藏省ニ廻シテ四月ニ定メタモノガ漸ク七月ニ決定ヲ見タ譯デア
 ルカラシテ、其間ニ於テ多少ノ見積違ヒノアルト云フコトハ已ムヲ得ナイコトデアアル、併ナガ
 ラ海軍當局ニ於テモ之ヲ海軍大臣ハ立派ニ御認ニナッテ居リマス、寔ニ斯ノ如キ追加豫算ヲ國民
 ノ前ニ出シテ協贊ヲ仰グト云フコトハ、海軍自ラモ遺憾千萬ト考ヘテ居リマス、併ナガラ今日ノ
 状態ニ於テハ如何トモ致方ガナイ、殊ニ物價ノ如キモノニ對シテ是ハ大口君モ同情シテ、海軍
 大臣ハ經濟ノ事ニハ餘リ明ルクアルマイ故ニ、斯ノ如キ見積リヲ爲スッタノデアラウカラ、ソレ
 ニ對スル大藏大臣ノ所見ハ如何デアアル斯ウ云フコトヲ大藏大臣ニ質問シタノデアリマス、之ニ
 就テ大藏大臣ハ斯ノ如ク御答ニナッテ居リマス、寔ニ大口君ノ御質問ハ御尤千萬デアアル、併ナガ
 ラ今日ノ豫算ノ編成上デハ斯ウ云フヤウナ破目ニ陥ルノハ已ムヲ得マセヌ、寔ニ遺憾千萬ナル

コトデアアルケレドモ、今日ノ大體ノ豫算計畫ノ上ニ於テハ、斯ノ如キ状態ニ陥ルノデアアルノミ
 ナラズ大藏大臣ハ外國ノ如ク軍艦ヲ民間ニ請負ハシテ造ラセルト云フコトニナレバ、斯ウ云
 フ違算ハ出ナイノデアアル、然ルニ今日ニ於テ海軍ノ製艦ニ對シテハ、政府ノ專賣ト云フヤウナ狀
 態ニ居ルガ故ニ斯ウ云フヤウナ已ムヲ得ナイ羽目ニ陥ルノデアアル、斯ウ云フコトデアリマシタ、
 斯ウ政府當局自ラ御説明ニナッテ居ルノデアリマス、シテ見ルト云フト私共ハ此場合ニ於テ一言
 無カルベカラザルデアアル、敢テ私共ハ長イ時間ヲ皆様方ニ煩ハス次第デアリマセケレドモ、
 此事實ヲ國家國民ニ明カニ致サナケレバナラヌノデアリマス、斯ノ如キ状態ニ立至リマスコト
 ニ就キマシテハ、第一ニ今日ノ日本ノ財政計畫其者ガ、根本カラ誤ッタ上ニ樹テラレテ居ルト云
 フコトデアリマス、斯ウ云フコトデアリマスナラバ、政府當局自ラ其非ヲ悟ッテ居リナガラ、マダ
 今年度ニ出マシタ所ノ豫算ニ對シテモ、其基礎ガ革マテ居ラナイノデアリマス、故ニ私共ハ大正
 十年度ニ對スル所ノ豫算、是ハ編成換ノ請求ヲ政府ニ求メテアルノデアリマスケラシテ、之ニ對
 シテ私共ハ彼此申ス譯デアアリマセケレドモ、國民ノ前ニ是ダケノ事ハ明瞭ニシテ置カナケ
 レバナラナイ、昨年七月定メタ所ノ豫算デサヘモ僅カ五六箇月ノ間ニ、海軍ノ製艦費ニ於テ七割
 ノ物價騰貴ヲ見越シテ基本トシタ所ノ豫算ニ、尙ホ三割、品物ニ依ッテハ七割二分五厘ノ增額ヲ
 追加豫算トシテ提出シナケレバナラナイト云フヤウナ、今日ノ日本ノ豫算ヲ以テ、國民ハ安ソジ
 テ租稅ヲ負擔スルコトハ容易デナイト云フコトデアリマス、而巳ナラズ今年度ノ只今貴族院デ
 審議中ノ豫算ニ對シテモ、是等ノ立場カラ私共考ヘマスケレバ、頗ル不安ヲ感ズルノデアリマス、
 政府ノ爲ス所ノ豫算ハ、全ク今日ニ於テハ、政府當局ガ惡イノデアリマスマイガ、豫算編成ノ基
 礎其者ノ誤レルガ故ニ、其場凌ギノ一時通レノ豫算ヲ國民ノ前ニ提出シテ、其協贊ヲ求メルト云
 フガ如キ不安状態ニ在ルノデアリマス、併ナガラ大正九年度ノ追加豫算ハ、既ニ政府トシテハ買
 フベキ物ハ買テ居ルノデアリマス、此三月ヲ以テ支拂ヲ致サナケレバナラナイモノモ澤山アル
 ノデアリマス、是ハ政府當局説明ノ如クデアリマス、將來ノ事ナラバ私共反對致シマス、併ナガラ
 過去ニ於テ起ッタ事ヲ、國家ノ重大ナル事ニ對シテ私共ハ誤リデアアルカラト云ッテモ政府ノ機關

ヲ止メ或ハ軍艦ノ製造ヲ遲延セシムルガ如キコトハ、國家ヲ憂フル者ノ敢テ爲シ能ハザル所デアリマス、此意味ニ於キマシテ私共ハ已ムヲ得ズシテ、此追加豫算ニ對シテハ贊成ヲ致シマスケレドモ、政府ト致シマシテハ將來斯ノ如キ事ヲ先ヅ第一ニ繰返サナイヤウニ、今年度ノ豫算ヲ編成換シテハ如何デス、而已ナラズ、將來ニ於テ根本的ニ豫算ノ編成ヲ御變更ニナル御計畫ヲ御樹テニナツテ、國民ノ前ニ提出スル所ノ豫算ニ對シテハ、國民ガ安シテ之ニ信賴出來ル所ノ計畫ヲ、責任アル政府トシテハ採ラナケレバナラナイト云フコトヲ政府ニ警告致ス者デアリマス、次ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ所ノ案ニ就キマシテモ、私共ハ已ムヲ得ズ贊成致シマス、併ナガラ之ニ就キマシテモ政府ニ對シテ十分ナル警告ヲ與ヘテ置ク必要ガアルノデアリマス、委員長モ政府當局モ、帝國蠶絲株式會社ハ今日迄成功セルモノデアアル、失敗致シタモノデナイ、斯ウ云フコトヲ豫算會議ニ於キマシテモ、只今此席ニ於テモ申サレマシタケレドモ、若シ失敗デナイモノナラバ、何故政府ハ三千萬圓ヲ補償スル必要ガアルノダ、此經過ニ就テハ簡單ニ諸君ニ申上ゲテ置ク必要ガアルノデアリマス、私ガ申ス迄モナク、諸君御分リデアラバ——蠶絲業ハ日本ノ國民ニ對シテ最モ重大ナル事業デアリマス、諸君ガ御分リニナリマシテモ、此場合ニ此席カラ天下ノ國民ニ此事ヲ明瞭ニ、知ラシテ置ク必要ガアリマス、ソレヲ妨ゲルト云フガ如キ者ハ、國家國民ヲ念ハザル、日本ノ重大ナル所ノ蠶絲業ニ對シテ、多大ノ注意ヲ拂ハザル者デアルト謂ハナケレバナリマセヌ、諸君、御承知ノ如ク帝國蠶絲業ノ成立スル由來ニ就テハ、此席上ニ於テ屢、説明モサレ議論モサレタコトデアリマスカラ、御承知デモゴザイマセウ、併ナガラ帝國蠶絲業ノ組織スル場合ニ於キマシテ、帝國蠶絲業ガ一千六百萬圓ノ資本ヲ以テ作り、政府カラ五千萬圓ノ低利資金ノ融通ヲ得テ、其當時生絲ノ市場ハ普通ニ於キマシテ千二百圓或ハ三百圓ヲ往來シテ居ッタノデアリマス、ソレヲ人爲的ニ千五百圓ヲ維持シナケレバナラナイ、之ヲ維持スルコトガ日本蠶絲家、絹業者、養蠶家、蠶絲業家ノ爲メニ利益ニナルモノデアアルノミナラズ、帝國蠶絲業ト致シマシテハ、政府カラ五千萬圓ノ低利資金ノ融通サヘ出來レバ、千五百圓ト云フ所ノ市場ヲ人爲的ニ維持出來ルモノデアアルト云フコトヲ天下ニ聲明シタコトハ、諸君御承知デアリマセウ、政府デハ勿論アリマセヌ、政府ハ其言フ

コトヲ信ジテ五千萬圓ノ低利資金ヲ出スト云フコトヲ承知シタト、農商務大臣自ラ言明シテ居ラレドモ、ハナイデスカ、シテ見レバ農商務大臣モ同シキ見解ヲ以テ此計畫ニ出立シタト考ヘナケレバナラヌノデアリマス、而シテ諸君、今日私ハ帝國蠶絲業ガ成功シタカ、失敗シタカト云フコト議論ヲ申スモノデハアリマセヌ、事實ヲ諸君ノ面前ニ提出シテ、諸君ノ判斷ヲ願ヒマス、昨年ノ九月末即チ十月頃ニ於キマシテ、政府カラ五千萬圓ノ資金ノ融通サヘ出來レバ、千五百圓ノ絲價ハ明ニ維持出來ルモノト主張シタニモ拘ラズ、今日ソレヲ維持シテ居ルコトガ出來ルカト申シマスレバ、殆ド外國ノ輸出ハ止マツテシマッタノミナラズ、諸君、此五月三十一日迄ニ春挽ノ繭ガ全部調ヘバ、二十一萬箇以上ノ滯貨ヲ横濱ニ於テ見ナケレバナラナイ状態デアリマセウ、若シ政府ノ主張スルガ如クニ帝國蠶絲業ガ成功ノモノデアリマスナラバ、今日政府ニ向ッテ三千萬圓ノ損失補償ヲ願出ル必要ハ無いノデアリマス、又政府トシテハ之ヲ致ス必要ハ無いノデアアルケレドモ、之ヲシナケレバナラナイ、受ケナケレバナラナイト云フコトハ、如何ニ言フ左右ニ致シマシテモ、今日迄帝國蠶絲業ノ失敗ニ終レリト云フコトハ蔽フベカラザル事實デアリマス、此事實ニ依リマシテ、此場合私共ガ考ヘルコトハ斯ウ云フ事デアリマス、此五月二十一日迄ニ全部ノ製絲家ガ春挽ヲ終リマシテ、其春蠶ノ繭ガ横濱ノ市場ニ出マスル場合ニ於テハ、横濱ニ於テ多額ノ滯貨ヲ見ルト云フコトデアリマス、此場合ニドウナルカト政府ニ問ヒマスレバ、斯ウ云フコトニナルト思フ、六七萬圓ハ此三箇月ノ間ニ亞米利加ヘ輸出サレ得ルト思フ、アト三萬圓ハ内地ニ於テ消費サレ得ルト思フ、アト十萬圓ノ問題デアアル、然ルニ帝國蠶絲業ハ今日三萬圓ヲ持ッテ居ル、之ニアト七萬圓ヲ買足シテ、之ヲ所有シテ居ル、サウスレバ將來ニ於テ生絲市場ヲ安定セシムルコトガ出來ルト申サレマシタケレドモ、私共ハ此點ニ於テハ甚シキ見解ヲ異ニシテ居ルモノデアリマス、當ニ見解ヲ異ニシテ居ルノミナラズ、政府ノ既ニ帝國蠶絲業ガ成功スルモノナリ、千五百圓ノ絲價ヲ維持出來ルモノナリト思フト、見込ニ於テ政府ハ既ニ誤ッテ居リマス故ニ今日ハ政府ノ見込モ亦私ハ甚ダ誤レルモノデアアルト云フコトヲ此壇上カラ明言シテ憚カラザル者デアリマス、何故ナラバ二十三萬圓——此三箇月ノ間ニ七萬圓ガ外國ヘ輸出サレルト云フガ如キコトハ、昨年帝國蠶絲業成立以來カラ今日迄ニ至ル

所ノ五箇月間ノ經過ヲ見テモ明カナル事實デアリマスノミナラズ、米國ノ經濟界ノ事情ヲ見マシテ、米國ノ財界ノ狀態ガ此二三箇月ノ間ニ恢復セラレルナド、ハ思ハレマセヌ、若シ諸君ガ米國ノ財界ノ事ヲ御承知デアラナラバ、米國ニハ棉花ト綿絲サヘ滯貨シテ居リマス、南部諸州ノ棉花地ニ於テモ昨年ノ綿花ヲ餘程今日持堪ヘテ居ル所ノ狀態デアリマス、ノミナラズ此度就任シタ所ノ大統領「ハーディング」ハ何ト云ッテ居リマス、吾々ハ米國ノ國民ノ生活ヲ安定ニセシムル爲メニ、出來ルダケ物價ヲ戰前ノ狀態迄引下ゲル方法ヲ講ジ得ラレルモノナラバ、講ゼナケレバナラナイト聲言致シテ居リマス、此場合ニ於キマシテ、米國ニ於キマシテ七萬圓ノ生絲ガ、而モ日本ガ政府デ補助シタ、其補助ニ依ッテ維持シテ居ル千五百圓ニ依ッテ外國ニ輸出サレルト云フガ如キコトハ、逆モ想像ノ出來ナイ事デアリマス、如何ナル立場カラ考ヘテモ、此二三箇月ノ間ニ千五百圓以上ノ價格ヲ以テ、米國ニ日本ノ生絲ガ輸出サレルナドトハ思ヒモ寄ラザルコトノミナラズ諸君、若シ私ノ豫想ノ如クニ、此六七萬圓ガ米國ニ輸出サレルコトナク、帝蠶會社ニ於テ政府ノ豫期スルガ如ク、又要求スルガ如クニ、十萬圓ノ生絲ヲ持ツタト致シマシテモ、此十萬圓ノ生絲ハ、政府カラ出シマシタ三萬圓ノト帝蠶會社ノ一千六百萬圓ノ損失ヲ覺悟シテ居ル所ノ生絲デアリマスヨ、言ヒ換ヘレバ、茲ニ十萬圓ノ生絲ガアル、此生絲ハ政府ノ言明ニ依リマシテ二年ノ間ニ四千六百萬圓ヲ損シテ賣ッテモ宜シイト云フ札ヲ附ケテ居ル所ノ生絲デス、若シ諸君ガ經濟ノ原則ヲ知ッテ居ルトスラバ、此十萬圓ノ生絲ガ、如何ナル諸君ガ言論ヲ以テマシテモ、將來ニ於ケル生絲市場ヲ不安ナラシメ、日本ノ蠶絲業界ヲ脅威シナイモノダト云フコトハ、如何ナル立場カラ行ッテモ言明出來ナイコトデアルト私ハ信ジテ居リマス併ナガラ私ヲシテ簡單ニ言ハシムレバ、私共帝蠶會社其モノハ豫メ帝蠶ハ私共初マリニ經濟ノ原則ニ悖ッテ出發シテ居ルモノト信ジテ居リマス、併ナガラ政府ハ既ニ五千萬圓ノ低利資金ヲ融通シテ、今日迄ソレヲ擁護シ、而カモソレニ對シテ三萬圓ノ買入ヲナサシメテ居ルノデアリマス、而シテ此三千萬圓……(中略)御承知ノ如ク其十萬圓ト云フ所ノ生絲ガ申ス迄モナク、只今申上ゲタ通り政府カラ三千萬圓ノ損失ヲ保證シテ居リマス、此保證ハ帝蠶會社ガ千六百萬圓ト云

フ、現在ニ於テハ八百萬圓拂込シテアル、其アトノ八百萬圓ト云フ金ヲ拂込マナケレバ、其損害ヲ填補シナイコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ此四千六百萬圓ト云フ所ノ損失ハ、常ニ此十萬圓ノ生絲ニ附添ッテ居ルト云フコトヲ御承知シナケレバナリマセヌ、ノミナラズ、政府ニ於キマシテハ此生絲ヲ二箇年間ニ處分セシムルモノデアルト云フコトヲ言明サレテ居リマス、十萬圓ト云フ生絲ガ二箇年間ニ、四千六百萬圓損ヲシテ迄モ之ヲ市場ニ投出サナケレバナラヌト云フモノヲ存在セシメテハ、ソレデ生絲市場ヲ脅威シナイト云フコトハ、如何ナル立場カラ見マシテモ、私共ハソレヲ信ズルコトハ出來マセヌ而シテ諸君、政府當局ノ說明ニ依リマスレバ之ヲ以テ本年度ノ六月以降ニ出ル所ノ生絲ニ對シテハ、成行ニ委セルト云フテ居リマス、是マデ帝蠶會社ハ千五百圓ノ値ヲ維持スルガ爲メニ、繰業短縮ヲシテ居リマスケレドモ、五月三十一日迄ニ出來ル所ノ生絲ニ對シテハ、政府デ損失ヲ保證シテ、千五百圓ノ値段デ以テ買入レルト云フ場合ニ於キマシテ、今迄繰業短縮ヲシテ居ッタコトハ何ノ意味ヲ爲スノデアリマス、今迄有シテ居タ所ノ、今堆積シタル所ノ繭ハ、悉ク五月三十一日迄ニ生絲トサレテ、サウシテ是ガ市場ニ投出サレルト云フコトハ疑ナイ事デアリマス、斯様ニ考ヘマスルト、私共ハ此政府ノ三千萬圓ノ損失補填ト云フコトヲ極ク簡短ニ申シマスレバ、是迄帝蠶會社ガ五千萬圓ノ低利資金シテ積リデアッタケレドモ、勸業銀行興業銀行ガ商取引ノ上カラ品物ヲ持テ行ッテ、七掛ニシカ貸與ヘラレナンダガ故ニ、帝蠶會社ハ其成立當時ト全ク見込ヲ違ヘテ、五千萬圓ヲ借入レベキモノガ、今日ニ至ッテマダ二千數百萬圓ヲ借入レタニ過ギナイ、斯ウ云フ場合デアリマスカラシテ、政府カラ、此三千萬圓ノ損失ヲ補填シテ貰ヒマスルト云フト、アト帝蠶會社ニ於テハ二千五六百萬圓即チ五千萬圓ノ程度ニ至ル迄低利資金ノ融通ヲ仰グコトガ出來ル、茲ニ此案ノ根本ノ成立シタル所以ハ蠶會社ガ現在陥ッテ居ル所ノ窮境ヲ脱シ得ルコトガ出來ル、茲ニ此案ノ根本ノ成立シタル所以ハ何ト云ッテモ經濟ノ原則ニ悖ルモノト認メナケレバナラヌト思ヒマス、而シテ是ガ非常ニ帝蠶會社ニ對シテ有利デアアルカト申シマスレバ御承知ノ如ク此三千萬圓、八千六百萬圓ノ帝蠶會社ノ總テノ資本金ヲ投出シテ——言葉ヲ換ヘテ言ヘバ政府當局モ之ヲ認メテ居リマス、帝蠶會社ガ破綻

ニ瀕スル場合デナケレバ此三千萬圓ハ效力ヲ有サナイ譯デアリマス、斯ウ云フモノデアリマスナラバ、帝蠶會社ガ破産ノ場合ニ政府カラ三千萬圓ヲ補助サレルト云フモノデアレバ、帝蠶其ノモノニ對シテモ非常ナルイ力ナ補助トナルモノデアルト私ハ信ジマセヌ、併ナガラ今日ノ場合ニ若シ政府ガ此補助ヲ致サナケレバ、帝蠶ガ成功デアルト申シマシテモ、政府當局者自ラ之ヲ言フテ居リマス、帝蠶會社ヲ若シ此ノ場合ニ三千萬圓デ補助シナケレバ、當ニ帝蠶會社ハ破綻ノ域ニ瀕スルノミナラズ、日本全國ニ於テ何百ト云フ所ノ製絲家ヲ破綻セシムルト云フガ如キ状態ニ陥ルカラ、已ムヲ得ズ政府トシテモ之ヲ致スノデアルト斯ウ申サレマス、洵ニ此點ニ於テハ御尤千萬デアル、問題ハ斯ウ云フ事デス、今日帝蠶會社ヲ潰シテシマツテ、サウシテ日本ノ製絲家ヲ非常ニ窮地ニ陥レルコトガ、日本ノ蠶絲界ニ對シテ今日ノ場合トシテ有利ナル事デアルカ、若クハ此場合既ニ帝蠶會社ト云フモノハ、或ル意味カラ云ヘバ阿片中毒ニ罹ツテ居ル阿片癮者ノ如キモノデアルト云ツテ、之ニ阿片ヲ止ムレバ即チ死セシメナケレバイケナイ、此慘酷ヲスルヨリハ、洵ニ良策デハナイケレドモ、已ムヲ得ズシテ政府ハ國庫カラ三千萬圓ノ支出ヲ爲シテ、此救濟ヲ圖ラナケレバナラナイト、實ニ不健全ナル政策デアルケレドモ、事情既ニ申述ベタルガ如キ今日ノ場合、帝蠶會社ニ破綻ヲ生ゼシメ、日本ノ蠶絲界ヲ一時ニ急激ニ混亂紛糾セシムルト云フコトニ就テハ、私共頗ル憂慮ニ堪ヘザル者デアリマス、此點ニ於テ私共ハ已ムヲ得ズ此案ニ贊成ノ意ヲ表スルノデアリマス、而シテ當ニ之ニ贊成ノ意ヲ表スルノミナラズ、政府ニ對シテ此場合ニ警告スベキ理由ハ、前條申上ゲタ如ク、政府ガ帝蠶會社ニ五千萬圓ヲ支出シテ、千五百圓ト云フ絲價ヲ維持スルト云フ見込ヲ立テタ、見込ハ全部裏切ラレタモノデアルガ故ニ、今日ニ於テ政府ガ此三千萬圓ヲ保證シサヘスレバ、大正十年ノ養蠶家ガ成行ニ委セテ置イテ差支ナイト思ハレル所ノ政府ノ此見解モ誤レルモノト私共ハ考ヘルノデアリマス、故ニ政府トシテハ此三千萬圓ヲ補助スルニ於キマシテハ、先ヅ第一ニ帝蠶會社ニ對シテ——十萬圓ノ生絲ヲ三箇月ノ間ニ買収セシメテ、而モ之ヲ二箇年ノ間ニ市場ニ出ス場合ニ於テハ、非常ナル警戒ヲ要スルノデアリマス、政府トシテハ二箇年ニ於テ帝蠶ノ收支決算ヲセシメルト申シテ居リマスケレドモ、十萬

圓ノ生絲ヲ二箇年以内ニ市場ニ投ゲ出スト云フコトハ、日本ノ養蠶界ニ於テ、二箇年ノ間不安ナル品物ヲ抱ヘテ居ルガ如キ状態デアルガ故ニ、之ニ就キマシテ、政府ハ此十萬圓ヲ帝蠶會社ニ處分セシメルニ就キマシテハ、政府ガ力分セシメルニ就テハ——私共ハ此十萬圓ヲ帝蠶會社ニ處分セシメルニ就キマシテハ、政府ガ力メテ蠶絲業界ノ將來ヲ脅威セシメザルヤウニ、十分ナル所ノ警戒ヲ以テセザレバ、此三千萬圓ノ補助ニ依テ起ル所ノ日本ノ過去數年間ノ蠶絲界ノ不安ナル所ノ状態ニ對シテ、全責任ヲ負ハナケレバナラナイト云フコトヲ警告シテ、此壇ヲ降ルモノデアリマス

櫻内幸雄君ノ贊成演說

只今上程サレマシタル各般ノ議案ニ就キマシテ、私ハ贊成スルモノデアリマス、而シテ本案ニ對シテハ平素常ニ多ク反對、若クハ修正セラル、所ノ憲政會ノ諸君、並ニ國民黨ノ諸君ニ於テモ、之ヲ贊成セラレテ居ル以上ハ、本員ニ於テ之ヲ詳シク贊成意見ヲ述ベル必要ハ無イノデアリマス、併ナガラ只今諸君ノ此演壇ニ於テ贊成意見ヲ述ベラレタ所ヲ見マスルト、殆ト是ハ反對演說デアル、是ニ於テカ本員ハ一言ナカルベカラズデアリマス、併ナガラ私ハ極メテ簡單ニ要領ノミヲ申上ゲマス、殊ニ植原君ノ如キ、私ハ學者デハアリマセヌ、又津原君ノ如キ此問題ニ對シテ、左程ノ玄人デモアリマセヌカラ、要點ノミヲ申上ゲテ、諸君ノ警告、並ニ諸君ノ注意事項ガ果シテ此問題ニ對シテ正鵠ヲ得テ居ルヤ否ヤト云フコトニ就テ、申上ゲタイト思フノデアリマス、第一追加豫算ニ就キマシテ最モ力ヲ入レテ論ゼラル所ノ方ミノ意見ハ、昨年臨時議會ニ提出セラレタル所ノ大正九年度ノ製艦費、即チ今回提出セラレタル所ノ追加豫算五千八百三十八萬圓中、二千七百萬圓程ノ問題デアリマスルガ、何故ニ昨年ノ七月ニ於テ七割デアッタモノガ、只今十割ノ要求ヲシナケレバナラヌカ、是ハ政府ガ豫算編成ニ就テ注意ヲ怠ッタノデアアルカ、若クハ豫算ノ編成ニ於テ故意ニ斯ノ如キ提案ヲシタモノデハナイカト云フコトノ議論ガ、最モ力アル論據ノヤウニ思ハル、ノデアリマス、諸君、昨年臨時議會ニ於ケル豫算ノ編成ハ、昨年ノ四月頃デアッタト思フノデアリマス、即チ此當時ニ追加豫算トシテ、臨時議會ニ提出セラル、所ノ案ニ對

スル豫算ヲ編成スル時ノ物價ハ、戰前ノ豫算ニ對スル七割程度ノモノデハナカッタノデアリマ
 ス、豫算總會ニ於テ海軍大臣ノ説明スル所ニ依レバ、海軍省ガ此編成ヲスルノニ就テ參考トシ
 テ集メタル所ノモノ、是等ハ七割デハナカッタモット多カッタノデアアル、併ナガラ當時物價ハ將
 ニ下落セントスル所ノ狀況デアッタガ故ニ、其下落ヲ多少見、即チ經濟界ノ大勢ヲ參酌シテ豫
 算ヲ編成シタノデアアル、斯ウ云フコトヲ明確ニ言ハレタノデアアル、然ルニ其後勞働賃銀ハ御承
 知ノ如ク思フ通りニ下ラナカッタ、又鋼材ノ如キモ比較的下ラナカッタ、斯ノ如キ事ノ結果トシ
 テ、此度ノ追加豫算案ガ出タノデアリマス諸君、只今政府ノ不明ナリト云フコトヲ言ハレタ方
 ガアリマスガ、若シ其時ニ豫算委員總會ニ於ケル憲政會ノ濱口君ノ意見ノ如ク當時ノ物價ヲ基
 礎トシテ豫算ヲ編成シタナラバ、成程今日ハ餘剩ガ出テ居ルノデアリマセウ、併ナガラ其當時
 ハ戰前ニ比シテ十割十五割、甚シキニ至テハ二十割ノ物價ノ騰貴ヲ示シテ居ッタト云フコト
 ハ、諸君ガ夙ニ御承知デアラウト思フ併ナガラ其騰貴ヲシタル所ノ基礎ヲ以テ、豫算ヲ編成シ
 タナラバ、一面歲入ノ上ニ於テ、或ハ増稅ヲシナケレバナラナカッタカモ知レナイノデアアル、故ニ
 政府トシテハ此前途ヲ見越シ、又經濟界ノ狀況ニ顧ミテ、而シテ前途此位下ルデアラウ、此位ノ
 豫算ヲ組ンデ居ッタナラバ宜カラウト云フノデ、此豫算ヲ組ンダモノト思フノデアリマス、又不
 明デアルト云フコトヲ言ハレマスケレドモ、政府トシテハ多少辛イ豫算ヲ組ンデ置クノガ必要
 デアル、諸君ガ一家ノ經濟、若クハ關係セラル、所ノ會社ノ經濟ヲ組マル、ニ方ツテ餘裕アル所
 ノ豫算ヲ組ンダナラバ、其豫算タルヤ必ズ豫算以上ニナルノデアアル、政府ハ此點ニ於テ十分ニ注
 意シテ、出來ルダケ詰メテ豫算ヲ組ンデ居ラル、デアリマス、現ニ諸君ノ手許ニ廻ッテ居ル所ノ
 今回ノ豫算追加案、其計算ノ基礎トナッテ居ル所ノ數字ヲ見マセルト、海軍省ガ吾々ノ手許ニ出
 シタ所ノ表ニ依ルト、十一割三分ニナッテ居ルノデアリマス、此十一割三分ノモノヲ十割ノ追加豫
 算案ヲ出シタト云フコトハ、即チ昨年ノ追加豫算提出ノ調ヲシタ十一月以後、尙ホ物價ノ下ルト
 云フコトヲ見越スト同様ニ、出來ルダケ節約ヲシテ、十割ニ上ゲルト云フコトノ方針ヲ執ッタノデ
 アリマス、私ハ豫算ノ編成ニ就テハ、成ルベク豫算ニ間違ノナイヤウニ作ルコトハ勿論必要デア

リマスケレドモ、一昨年ノ如キ、非常ナル物價ノ大變動ノアル時代ニ於テハ、政府トシテ斯ノ如
 キ僅ニ三千七百萬圓ノ如キ數字デ濟ンダト云フコトハ、大出來デアルト私ハ考ヘルノデアリマ
 ス、故ニ此豫算ニ就テハ、是以上申上ゲル必要ハ無カラウト思フ、次ニ帝蠶ノ問題デアリマスガ、
 勿論私ハ簡單ニ申上ゲル積リデ居リマス、併ナガラ反對セラレタ所ノ諸君ニ向ッテ其反對ノ事項
 ニ對シテハ、一應簡單ニ反駁シタイノデアリマス、第一番ニ、勿論反對デハナカッタセウ、
 併ナガラ意見ハ反對意見ニ聞エルノデアリマス、即チ此蠶絲業救済貸金ノ補助ガ、果シテ養蠶家
 ニマデ及ブヤ否ヤ、是ハ蠶絲業者並ニ貿易業者ニ偏スルモノデハナイカト云フ所ノ一ノ點デア
 リマス、是ハ諸君ガ一寸御考ニナレバ能ク判ルコトデアルト思フ、若シ生絲業者ガ潰レ、貿易業
 者ガ潰レタナラバ、ドウ云フ結果ニナルデアリマセウ、延テハ養蠶業者ニ大ナル打撃ヲ與ヘル
 コトハ申スマデモナイ、又之ニ對スル銀行家、或ハ家庭的ニ養蠶ヲヤッテ居ル所ノ農家ニ對シ
 テ、非常ナル影響ヲ與ヘルノデアリマス、詰リ生絲業者ト申ス者ハ、今爰ニ此問題ガ解決シテ生
 絲ガ買ハレルナラバ、其收入シタル所ノ代金ハ何ニ使フカト申シマスルト云フト、先祖代々營業
 シテ居ル所ノ生絲業ヲ更ニ繼續シテ行クノデアリマス、生絲ガ賣レタラ、ソレニ依ッテ自分ノ生
 絲業ヲ止メテシマウト云フ者ハ一人モ無イノデアリマス、既ニ生絲業者ガ此救済ニ依ッテ資金ヲ
 得ルニ至リマスレバ、大正十年度ニ於ケル繭ノ買入ヲスルト云フコトハ、當然ノ結果デアリマ
 ス、繭ノ買入ヲスルナラバ、事業全體ニ好影響ヲ與ヘルコトハ、當然ノ結果デアリマス、是以上申
 ス必要ハ無イノデアリマス、次ニ帝蠶ヲ救済スルニ徹底的デハナイト云フ意見デアリマス、併ナ
 ガラ本案ハ帝國蠶絲會社ヲ救済スル意味デナイノデアリマス、即チ帝國蠶絲會社、並ニ養蠶業者
 ヲ救済スル意味ニ依ッテ、本案ヲ提出セラレタノデアリマス、帝蠶保護ヲシナイト云フ證據ハ、先
 刻植原君津原君ノ言ハル、若シ三千萬圓ヲ帝蠶ガ補償セラレ、ニハ、帝蠶ガ自分ノ資金全部
 ヲ提供シタ後デナケレバ救済セラレヌノデアリマス、要スルニ此問題ハ、此蠶絲業者ヲ株主トシ
 テ居ル所ノ帝國蠶絲會社ト、政府ト協力シテ此事業ヲ救済スルト云フノ外ナラヌノデアアル、次ニ
 政府ガ帝蠶會社ガ買收スベキ所ノ十萬圓ノ荷物ガ、二箇年以内ニ於テ、賣捌ク爲メニ非常ナル脅

威ヲ與ヘヤシナイカ、即チ製絲業者ニ向ッテ大ナル脅威ヲ與ヘテ、是ガ爲メニ非常ナル影響ヲ與ヘヤシナイカト云フ點デアリマスルガ、是ハ尙モ帝國蠶絲會社ガ營利會社デアル以上、誰ガ政府ノ三千萬圓ヲ損ヲサセル爲メニ自分ノ千六百萬圓ノ資金ヲ損サセルノガアリマセウカ、即チ自己ガ全部ノ財産ヲ提供シタル後ニ非ザレバ、政府ノ救濟ヲ受ケルコトハ出來ヌノデアリマス、是ニ至レバ此當業者、即チ橫濱貿易商、並ニ製絲業者ニ依ッテ組織セラレタル帝國蠶絲會社ノ重役ト云フモノハ、極力其時機ヲ見計ラヒ又此絲價ヲ下ゲナイ程度ニ於テ處理スルト云フコトハ、論ヲ俟タナイ所デアルト思フノデアリマス、其他絹業界ニ影響ヲ與ヘル云々等ノ問題ガアリマシタケレドモ、是ハ殆ド私ハ論ズルニ足ラヌト思フノデアリマス、終リニ帝國蠶絲會社ノ設立ガ蠶絲業救濟ニ對シテ效果ガ有ツタカ無カッタカト云フコトニ就テ大分議論ガアリマス、併ナガラ私共ノ見ル所ニ依リマスルト、昨年九月帝國蠶絲會社ガ出來マシテカラ以來、將ニ破綻セントシ、將ニ恐慌ヲ來サントシテ居ッタ所ノ製絲業者並ニ貿易業者ニ對シテ、非常ナル是ガ清涼劑デアッタト云フコトハ、殆ド同業ニ關係ノアル諸君ノ皆ナ認ムル所デアリマス、現ニ今日迄千五百圓ト云フ絲價ハ維持シテ居ルノデアアル、即チ今日提出セラレタル案ハ、今後尙ホ之ヲ繼續シテ維持センガ爲メニ提出セラレタル所ノ案デアリマス、要スルニ此案ト云フモノハ、單ニ帝國蠶絲會社ノ爲メデハナイ、即チ製絲業者、並ニ貿易業者、養蠶者延テハ農家經濟ニ向ッテ十分ナル融通ヲ與ヘタイ、即チ救濟ヲシタイト云フノガ本案ノ目的デアアルノデアアル、斯ノ如キ案デアル以上ハ、諸君ガ何等ノ警告ヲ用キズ、何等ノ注文ヲ爲サズシテ、贊成セラレルノガ當然ト思フ、若シ諸君ニ於テ先刻述ベラレタ如ク、堂々タル御意見ガアルナラバ、何故ニ反對サレテイナイノデアアルカ、私ハ諸君ガ斯ノ如キ警告ヲ附スルナラバ、諸君ハ宜シク之ニ對シテ修正、若クハ反對セララル、ノガ當然ダラウト思フ、私ハ是レ以上申ス必要ハ無イノデ、即チ本案ニ贊成ノ意思ヲ爰ニ表明シタ次第デアリマス

院議全會一致ヲ以テ各原案ノ通可決シ即日四案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十三日可決奏上シ三月二十九日孰レモ公布セララル

一〇 (特第一號)大正十年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

各特別會計豫算

大正十年度大藏省所管國債整理基金ノ歲入歲出追加額、農商務省所管米穀需給調節ノ歲入歲出豫算額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

大藏省所管

國債整理基金

歲入

第一款 國債整理基金收入

一九五、四三八

歲出

第一款 國債整理基金支出

一九五、四三八

農商務省所管

米穀需給調節

歲入

第一款 米穀需給調節收入

四、九七六、〇三四

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

歲出

第一款 米穀需給調節費

四、九七六、〇三四

右ハ十年三月八日之ヲ提出ス

委員ハ直ニ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ再ヒ本案ヲ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

簡單ニ委員會ノ成績ヲ御報告致シマス本案ハ特第一號大正十年度各特別會計歲入歲出豫算デアリマシテ、大藏省所管ニ於テハ、國債整理基金、十九萬五千四百三十八圓、農商務省所管ニ於キマシテハ、米穀需給調節費四百九十七萬六千三百五十五圓デアリマス、是ガ歲入ハ國債整理基金ノ收入、米穀需給調節特別會計ヨリ受入レルコトデアリマス、又歲出ハ此國債整理基金カラ支出ラヌルノデ、是ガ國債整理基金ノ歲入歲出デアリマス、又農商務省ノ方ノ米穀需給調節ノ收入ハ、米穀需給調節カラ收入ヲ得マシテ、是ハ借入金デアリマス、此借入金ハ四百九十六萬三千三百四十四圓デアリマス、其他雜收入一萬五千圓、是ガ歲入總額デアリマス、本案ニ對シテ政府ノ説明ハ、米穀ノ需給調節借入金ノ利子、及ビ國債ノ雜費等ノ増加ニ伴フ案デアリマシテ、此經費支辨ノ爲メニ借入金ヲ爲シ、是ガ利子ヲ要スルト、及米穀買入ノ爲メニ發行スル證券ノ製造費デアリマス、又米穀法ノ發布ニ伴ッテ、米穀ノ需給ヲスルノ必要ガアツテ、是ガ經費ヲ見積ッタモノデアリマス、之ニ對シテ委員會ニ於キマシテハ、極メテ簡單ナル質問應答ガアリマシタ、其要點ノ一二ヲ申上ゲマスレバ、買入ノ場所、全國ノ倉庫ノ數ハ如何、米穀ノ收容量ハドウデアアルカ、又豫備金ヲ置イテ——此案デ見ルト、十年度ニ於テ豫備金ヲ置カナイト云フト、支障ヲ生ズルノ虞ガアルカラ、モツ

ト、豫備金ヲ置イテ、彈力ノアル支出ヲ何故シナイカト云フ質問ガアリマシタ之ニ對シマシテハ政府ハ買入ノ箇所ハマダ何處ニ置クト定メテナイガ、全國ニ代表の場所ヲ七箇所選ム積リデアアル、又倉庫ノ收容量ハ、東京ヲ首メ全國ノ十三大都市ニ、二百七十萬石ノ收容量ガアル米ヲ容ルルニ足ルベキ倉庫ガアル、其以外ニ農業倉庫等ガ六十萬石ヲ收容量スルモノガアル、斯ウ云フ答辯デアリマス、又此ノ豫備費ヲ置カナイト云フトニ就キマシテハ、豫算ノ範圍ニ於テ流用シ、又繼續的ニ是ガ資本ヲ運用シテ買入ヲ爲スト云フトデアアル、是ガ質問應答ノ趣旨デアリマス、斯様ニ致シマシテ、委員會ハ本日午前ニ開キマシテ分科會ニ移サズ、直チニ討議ニ移リマシテ、滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス

院議異議ナク原案通り可決シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十六日可決奏上シ四月一日公布セラル

一一 (第二號)大正十年度歲入歲出總豫算追加案

豫算

大正十年度歲入歲出追加額ヲ各千七百八拾八萬千五百圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

歲入經常部

第二款 印紙收入

二二六、二七五

歲入臨時部

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

第十款 前年度剩餘金繰入 一七、六四四、七三〇^円
歲入總計 一七、八八一、〇〇五

歲出經常部

外務省所管

第三款 國際會議諸費 三〇四、二七〇

大藏省所管

第一款 大藏本省 一、七三一

第十四款 國債整理基金繰入 一、七五八、六三五

大藏省所管合計 一、七六〇、三六六

文部省所管

第一款 文部本省 一六、〇五一

農商務省所管

第二款 特許局 一三八、五三二

第九款 植物檢査所 二八、七三〇

第十二款 獸疫調査所 三六、二五四

農商務省所管合計 二〇三、五一六
歲出經常部合計 二、二八四、二〇三

外務省所管

第一款 營繕費 二〇〇、〇〇〇

第四款 補助費 二五〇、〇〇〇

第十款 講和條約實施委員派遣費 二、三六一、一五〇

第十一款 國際勞働會議參列費 四五〇、二七八

第十二款 國際聯盟事務局費分擔金 四〇一、五八八

第十三款 在奧國公使館設備費 三〇、〇〇〇

第十四款 在外公館臨時諸費 一七〇、〇〇〇

外務省所管合計

三、八六三、〇一六

內務省所管

第一款 補助費 二二、八四八

第二十三款 臨時外國行諸費 六、三四三

第二十七款 災害費 七、五二五、一二二

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案及豫算追加案 四百九十一

第二十八款	移殖民保護費	一〇〇,〇〇〇
	內務省所管合計	七,六五四,三三三
	大藏省所管	
第三款	調查費	四六,七〇三
第三十二款	國勢調查記念章調製費	四八八,六八〇
	大藏省所管合計	五三五,三八三
	陸軍省所管	
第十八款	災害費	四一七,三二〇
	海軍省所管	
第十三款	災害費	一四七,〇四一
	司法省所管	
第六款	供託局設置準備費	一五〇,二七〇
	文部省所管	
第五款	臨時調查費	一〇,九七一
第九款	臨時試驗費	三五,七七六
第十款	補助費	一五〇,〇〇〇

第十二款	臨時外國行諸費	四五,五〇六
第十三款	臨時萬國協約分擔金	三三,一九五
	文部省所管合計	二七五,四四八
	農商務省所管	
第三款	營業費	一,七八四,四〇〇
第十五款	國際勞働會議參列準備費	六,八五〇
第十六款	災害費	一六二,九〇〇
	農商務省所管合計	一,九五四,一五〇
	遞信省所管	
第二款	電信電話營業費	八二,六三一
第四款	營業費	三〇〇,〇〇〇
第二十款	災害費	六一七,二三〇
	遞信省所管合計	九九九,八六一
	歲出臨時部合計	一五,五九六,八〇二
	歲出總計	一七,八八一,〇〇五

一二 (特第二號) 大正十年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

各特別會計豫算

第一條 大正十年度大藏省所管造幣局、國債整理基金、賠償金、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳ノ各歲入歲出追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ其規畫スル所ニ隨ヒ大正十年度以降ノ繼續費ト爲ス

甲號

大藏省所管

造幣局

歲入

第一款 造幣局 作業 收入

一一八、九〇〇_円

歲出

第一款 造幣局 作業 費

一〇七、五五四

國債整理基金

歲入

第一款 國債整理基金 收入

一、七五八、六三五

歲出

第一款 國債整理基金 支出

一、七五八、六三五

賠償金

歲出

第一款 賠償金 支出

二、〇三二、七六七

朝鮮總督府

歲入

臨時部

第五款 前年度剩餘金繰入

三五五、六〇〇

歲出

臨時部

第四款 調查及試驗費

五〇、〇〇〇

第二十六款 災害費

一二五、六〇〇

第二十七款 平和記念博覽會出品費

一八〇、〇〇〇

臨時部 合計

三五五、六〇〇

臺灣總督府

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

歲入	臨時部	前年度剩餘金繰入	二〇五、〇三〇 ^円
歲出	經常部	總督府	二五、〇三〇
臨時部	勸業費	臨時部	一八〇、〇〇〇
合計	關東廳	臨時部	二〇五、〇三〇
關東廳	歲入	臨時部	一二二、九九二
歲入	臨時部	前年度剩餘金繰入	一二二、九九二
臨時部	歲出	臨時部	

第四款	ハスト防遏費	一三二、九九二
樺太廳	歲入	
臨時部	臨時部	
第五款	前年度剩餘金繰入	九二、〇〇〇
歲出	臨時部	
臨時部	臨時部	
第一款	事業費	九二、〇〇〇
乙號	大藏省所管	
朝鮮總督府	大邱裁判所廳舍其他火災復舊及新營費	
總額	總額	
款	災害費	二五六、七〇〇
項	大邱裁判所廳舍其他火災復舊及新營費	二五六、七〇〇
第二章 議事	第四節 議案	第二款 議案ノ討議
		第一項 豫算案及豫算追加案
		四百九十七

年 額(大正十年度及十一年度繼續費並説明ハ之ヲ略ス)

一三 (追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件

一般會計

文部省所管

萬國理學文書目錄編纂費分擔金

萬國理學文書目錄編纂費分擔金ニ付テハ現在契約額ト併セテ大正十年度以降毎年英貨千九百四磅ヲ限リ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得

説明ハ之ヲ略ス

右三案ハ孰レモ十年三月十七日之ヲ提出ス

委員ハ直ニ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十八日報告書ヲ議長ニ提出セリ同日議事日程ヲ變更シ再ヒ三案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニ供セラレマシタ第二號大正十年度歲入歲出總豫算追加、特第二號大正十年度各特別會計歲入歲出豫算、追第三號豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル件、此三案ヲ豫算委員會

ニ於キマシテハ、本日午前ヨリ午後ニ引續キマシテ審査ヲ致シマシタ、其結果ヲ爰ニ御報告申セゲマス、第二號大正十年度歲入歲出總豫算追加案ノ歲入經常部ニ於キマシテハ、印紙收入ノ増加二十三萬六千二百七十五圓、又歲入ノ臨時部ニ於キマシテハ、前年度ノ剩餘金繰入ノ増加千七百六十四萬四千七百三十圓ヲ計上サレマシタ、歲出ニ於キマシテハ、經常部臨時部各省ニ涉リマシテ其主ナルモノハ、特許法其他ノ改正ニ伴フ經費、又講和條約實施委員派遣費、國際勞動會議ノ參列費、國際聯盟事務局費分擔金、茨城縣外九縣災害土木費、臨時教育行政調查會諸費、是等ガ此主ナルモノデアリマス、特第二號ノ各特別會計ノ歲入歲出ノ部ニ於キマシテハ、大藏省所管ノ醫務局國債整理基金賠償金、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳、是等ノ各歲入歲出額ヲ計上サレタモノデアリマス、詳細ナル數字ハ省略ヲ致シマス、又豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スルモノハ、此第二號ノ大正十年度歲入歲出總豫算案ノ中ニ、此文部省ノ部分ニ掲載サレテ居リマスカラ是モ説明ヲ省キマス、委員會ニ於ケル質問應答ハ、高橋大藏大臣ノ説明ヲ聽キマシテ、之ニ對シテ憲政會ノ濱口君、國民黨ノ大口君カラ發セラレマシタ質問ハ、此追加豫算ノ第四回目ニナテ居ッテ、サウシテ其金額モ多額ニ上テ居ッテ、之ガ爲メニ大正十一年度ノ豫算ハ支障ハ無イカ又是等ノ數字ヲ以テ示スコトガ出來ルナラバ、數字ヲ以テ答辯ヲ望ムト云フコトデアリマシタ、政府ハ將來ノ豫算ニ對シテ、數字ヲ以テ答ヲスルト云フコトハ避ケタイ、又大正十一年度ノ財政ガ行詰マルト云フコトデアラウガ、政府ハ決シテ行詰マルト思フテ居ラヌ、斯ウ云フ應答ノ要旨デアリマス、其外問題ニナリマシタノハ、臨時教育行政調查會デアリマシタガ、是ハ既ニ本議場ニ於キマシテモ建議案ガ出テ居リマス、其建議案當時ノ質問應答ト異ル事ハアリマセヌカラ省略ヲ致シマス、討論ニ移リマシテ、憲政會ヲ代表シテ樋口君ヨリ修正ノ動議ガ出マシタ、其修正ノ要旨ハ、歲出臨時部ニ於テ、大藏省所管ニ屬スル第三款ノ第十項ノ臨時教育行政調查會諸費金三萬九千五百三圓ヲ、全部削除スルト云フコトデアリマシタ、其理由ハ本會ニ於テ述ベルト云フコトデアリマシタ、又國民黨ノ小橋君ハ、此追加豫算ノ三案ニ對シテ全然贊成ヲスルガ、臨時財政經濟調查會ヲ根本的ニ調査ヲ進メテ、財政稅制ノ根本整理ヲ行フコトヲ希望スルト云フ、熱心

ナル希望條件ヲ添ヘラレマシタ、又臨時教育行政調査會ニ對シテハ、政府ノ提案ハ、此程ノ建議案トハ其趣旨モ異ナル點ガアルヤウデアラカラ、此意味ニ於キマシテ贊成ヲスルト云フコトデアリマシタ、又政友會ヲ代表シテ長田君ハ、此三案ハ全然政府案ニ同意スル、庚申俱樂部ノ井内君カラモ右同様贊成ヲサレマシテ、採決ノ結果樋口君ノ修正案ハ少數ヲ以テ否決サレマシタ、原案ハ大多數ヲ以テ可決サレマシタ、此段御報告ニ及ビマス

樋口秀雄君外二名ハ(一)案ニ對シ修正案ヲ提出シ提出者(樋口秀雄君)ハ趣旨ヲ辯明セリ

樋口秀雄君ノ修正案趣旨辯明

私ハ本日上程致サレテ居リマスル大正十年度ノ第二號ノ追加豫算、大藏省所管ノ臨時部ニ屬シテ居リマスル調査費用ノ中、第十項ノ臨時教育行政調査會諸費ト云フモノ、三萬九千五百三圓ヲ削除致シタイト云フ修正案ヲ提出シテ居ルノデアリマス、此案ハ頗ル重大視サレテ居ルノデアリマシテ、只今委員會ニ付託ニナツテ居リマスル所ノ、義務教育費國庫負擔額ニ關聯シテ居リマス、又同委員會ニ付託サレテアリマスル所ノ、井上角五郎君外十二名ノ御提案ニナリマシタ市町村教育費整理ニ關スル建議案ト云フモノト密接ナ關係ガアルノデアリマス、サウシテ諸君ノ御承知ノ通り、此地方自治體ノ經費ニ於キマシテ、教育費ガ非常ニ多額ニ達シマシタガ爲メニ今ヤ全國ノ自治體ノ、財政上ノ破綻ニモ及バンカト云フコトヲ憂慮サレテ居ル時デアリマスカラ、此案ニ就テハ、今回提案ニナリマシタ此調査會ノコトニ就テハ、吾々ハ極メテ慎重ニ考ヘタノデアリマス、而モ其考慮ノ結果、遺憾ナガラ此調査會ト云フモノ、設置ノ費用ヲ削除シタイト云フ結論ニ到達致シタノデアリマス、只今簡單ト云フ御希望モアリマシタガ、出來得ル丈ケ簡單ニハ申述ベマスガ、之ニ對シテ已ムヲ得ズ反對ヲ致スニ至ツタ理由ダケニ就キマシテ、是ヨリ逐一申述ベマシテ諸君ノ御同意ヲ得タイト思フノデアリマス、先ヅ私共ガ此調査會ト云フモノ、設置ニ對シテ、不必要デハナカラウカト云フ感ジヲ持チマシタノハ、嚮ニ豫算會其他ノ際ニ於キマシテ、原總理大臣カラモ屢、御言明ガアリマシタ、市町村ノ教育費ガ非常ニ多額ニ上リマシタ

ニ就テハ、諸種ノ建議案若クハ請願等モアツテ、増額ノ必要ハアルカモ知レマセヌガ、財政ノ現狀ガ之ヲ許サナイ、又一方ニ於テハ、若シ調査會ヲ設ケテ十分ニ調査ヲ致シタナラバ、此教育費ト云フモノノ或程度マデ節約スルコトガ出來ルカモ知レヌ、又其趣旨ニ依ツテ調査會ヲ設ケル積リデアルト云フ言明ガアリマシタ、又二月十三日ニ、先程申述ベマシタ井上君ノ市町村教育費ノ整理ニ關スル建議案ガ出マシタトキ、同君ノ御説明ニ依ツテ見マシテモ、教育整理ノ爲メノ調査會デアルベキ等デアリマス、然ルニ本日上程セラレマシタ所ノ豫算ノ款ニ於キマシテハ、名目ガ臨時教育行政調査會トナツテ居リマシテ、教育費ノ節約ノ爲メニスル調査會ト全然同一デアルヤ否ヤト云フコトハ、多少疑ハレルノデアリマス、此點ニ就キマシテ、然ラバ如何ナル事項ヲ御調査ニ相成ルカト云フコトヲ、國民黨ノ小橋君カラ當局ノ文部大臣ニ御尋ニナリマシタ所ガ、其内容ニ就テハ精密ニ御陳述ニナルコトヲ御避ケニナツタト伺テ居リマス、然ラバ當局ニ於テ御説明ノナイ以上ハ、私共ハ之ヲ先日原總理大臣ガ申述ベラレタ意味ノ調査會、又委員會ニ御提案ニナツテ居ル意味ノ調査會、斯ク了解スルヨリ外ナイノデアアル、果シテ然ラバ地方ノ自治體ニ屬スル教育費——市町村ノ義務教育ニ關スル教育費ノ上デ縱ンバ調査會ヲ設ケマシテモ、幾何ノ整理ガ出來ルカト云フコトガ、第一問題ニナラナクテハナラヌノデアリマス、此點ニ關シマシテハ、先日提案者ノ井上君ト吾々トノ間ニ質問應答ヲ重ネマシタ、其際井上君ハ委員會ニ於カレテモ、四割ト云ウタノハ誤リデアツタケレドモ、三割位ハ出來ルト思フテ原稿ニモ書イテ居ルト云フテ其原稿ヲ御示ニナツタ程デアアル、サスレバ此一億五百萬圓ニ達シテ居リマスル義務教育ヲ致シマスル教員ノ俸給費ノ中デ、是カラ三割ノ節約ガ出來ルト云フコトハ、何等カ根柢ノアル御考慮ノ下ニ御發表ニナツテ居ルト存ジマス、然ルニ吾々ハ之ニ對シテ絕對ニ反對ノ意見ヲ持ツテ居リマス、如何ナル方法ヲ執リマシテモ、或ハ御陳述ニナリマシタ如ク、學校ノ併合ト云フヤウナコトヲ致シタリ、或ハ校長ノ兼任ト云フヤウナコトガ其效果ガ教育上ニ於テ果シテ善イカ惡イカハ姑ク別問題ト致シ、經費ノ節約整理丈ケニ就テ考ヘマシテモ、到底斯ノ如キ多大ノ節約ヲ致スコトガ出來ナイ、況ヤ現内閣ノ國務大臣諸君ハ、臨時教育委員會、及前身タル教育調査會ノ決議ハ、

十分ニ尊重致スト云フ御言明ニナツテ居リマスガ、果シテ然ラバ大正七年ニ於テ兩院ヲ通過致シタ所ノ義務教育費ノ國庫補助ニ關スル建議案、是ハ當時ノ教員費ノ總額三千七百萬圓ト云フモノニ對シテ、約半額ノ二千萬圓ヲ國庫ニ於テ負擔スベシト云フ決定ヲ致シタノデアアル、全員一致ノ決定デアリマス、是ト時ヲ少シク違ヘマシテ、教育委員會ニ於テモ同ジク此義務教育ニ從事シマスル教員ノ俸給ノ半額マデハ、國庫ニ於テ補助ガアツテ然ルベシト云フ意味ノ決議ヲ爲サレタノミナラズ其決議ニ附帶致シテ希望條件ノ中ニ——本日其原文ヲ持參致シマセヌガ、意味ハ間違テ居リマセヌ、其希望條件ノ中ニ、政府當局ハ速ニ教育費ノ整理ニ努メテ貫ヒタイト云フ意味ノ事ガ明カニ謳ハレテ居リマシテ若シ果シテ、此教育委員會ノ決議ヲ非常ニ御尊重ニナリマスナラバ、現内閣トシテハ成立以來既ニ二年有半、此間十分此整理ニ關スル御調査ガアツタコト、思フ、今更地方ノ市町村ノ代表者ガ請願ニ參レバトテ、急ニ更メテ御調査ニナル程ノ、御油斷ノアル政府デアアルマイト私ハ思フ、果シテ然ラバ茲ニ臨時教育行政調査會ナルモノヲ設ケズトモ、考慮中考慮中ト云ツテ常ニ御考慮ニナツテ居ル政府トシテハ、二年有半ノ歲月ノ間ニ、未ダ御調査ガ出來ナイ等ハ斷ジテ無カラウト思フ、何ノ意味ニ於テ更メテ斯ノ如キ調査會ヲ設ケラレタカ、其趣意ヲ私共ハ之ヲ了解スルコトガ出來ナイ、加之本年ノ通常豫算ヲ見マスルト云フト、臨時教育委員會ノ經費ハ其儘計上シテアリマス、又臨時教育會ガ了リマシタナラバ、新タニ教育調査會ノ如キモノ——廣キ意味ニ於ケル教育會ノ如キモノヲ設ケルト云フコトハ、當局ニ於キマシテ御説明ニナツテ居ル、然ラバ其教育委員會ノ任期ガ終了致シ、更メテ教育調査會ガ起ルトシマシタナラバ、縱ンバ只今マデ御調査ノ結果ガ、尙ホ其方面ニ堪能ナル人々ノ意見ヲモ併セテ聽ク必要ガアラバ此教育調査會ニ付議サレテ、少シモ心配ハ無イコトデアルト私ハ思フ、然ルニ何ゾヤ今ニ於テ蒼惶トシテ教育行政調査會ナルモノヲ設ケルト云フ趣意ハ、私甚ダ了解ニ苦シム、加之尙此政府當局ノ言明ニ於キマシテモ、此教育費ノ調査會、若クハ教育行政調査會ト云フ銘ヲ打ツテ現レマシタル本調査會ニ於テ、調査致シタ後ニ、地方民ノ要求セル——熱望セル國庫負擔額ノ増額ニ取掛ルト云フ意味ハ、在リ——ト現ハレテ居ルノデアリマスカラシテ、此會ハ恐ラク地方——要求ガ

盛ナルニ困ジ果テラレテ、暫ク調査會ニ隱レテ、國庫負擔額ノ増加ヲ御遁ゲニナラウト云フ案デアアルマイカト私ハ思フ、加之此教育行政調査會ガ出來マシテモ、之ヲドノ位ノ期間ニ於テ果シテ御決定ニナラウト云フコトニ就テハ私ハ疑ガアル、御承知ノ通り貴族院ニ於テ問題ニナツテ居リマシタ昇格問題ニ就キマシテハ、政府部内ニ於テ——新タニ別ニ人選ヲ爲サラズニ、政府部内ノ各大臣若クハ各政府委員ガ調査會ヲ造ラシテ、急速ニ其結果ハ既ニ御報告ニナルマデニ運ンデ居ルト云フコトヲ承ツテ居ル、若シ同一ノ御誠意ガアルナラバ、貴族院ニ對シテ會期中ニ既ニ調査會ナルモノヲ急造セラレテ、結了ニ近ツイタ程ノ御盡力ヲ以テ衆議院ノ要求ニ對シテモ亦極メテ短日月ノ間ニ、此調査ヲ爲スツテ戴ケバ宜カラウト思フノデアリマス、所ガ先日政友會ノ總務鵜澤君ガ、小學校教員費國庫負擔額増加ニ關スル建議案ノ委員會ニ於キマシタ、斯ウ云フ事ヲ御述ベニナツタ、何時マデノ間ニ此調査會ハ終了セシムルノデアアルカト云フコトヲ吾々カラ質問致シタ時ニ、ソレハ便々トシテ時日ヲ延バスベキモノデナイ、急速ニヤル、彼ノ昇格問題ニ對スル調査會ノヤウナ手際ヲ以テ、十五日若クハ遅クテモ二十日間位ニ結了シテ貫ツテ、成ルベクハ會期中ニ、其結果ヲ報告シテ貫ヒタイ積リデアルト云フコトヲ御述ニナツテ居ル、果シテ然ラバ是ガ二週間ヤ三週間デ出來ル位ナ調査ナラバ、過去二年有半ノ間何ヲ爲スツテ居ラシタ、又鵜澤君ハ十五日ト云フコトハ後ニ御改メニナリマシタガ、極メテ短時日ノ間ニヤル委員會ナラバ、何モ如何ニ金ガ有餘ツテ居ルカハ知リマセヌガ、約四萬圓ニ近キ經費ヲ支出シテ、斯ノ如キ調査會ヲ設ケテ御調査ニナルベキ内容ニ就テハ、政府ニ必ズ豫メ御成案ガアルニ違ヒナイ、而モ先日政府委員ノ述ベラレタ如ク、或ハ井上君若クハ鵜澤君ノ御申述ニナツタ如ク、學校ノ併合デアルトカ、校長ノ兼任デアルトカ、若クハ複式教授ト云フヤウナモノハ、教育上ノ效果ヲ以テ論ジマスレバ、吾々ガ原則トシテ反對デアリマスルガ、假リニ斯ル節約ヲ爲スツタ所ガ、到底此所謂三割ナドハ出來ル筈ハナイ、竊ニ承ル所ニ於テハ、政府ハ此文部省ガ小學校教員ノ俸給ノ等級表等ヲ作り、此教員優遇ニ努メタ結果、費額ガ増加シタノデアアルカラ、文部省トシテ手ノ付ケ様ガナイ、已ムヲ得ズ内務省及大藏省ノ政府當局者ヲ雇ヒ來ッテ、内閣總理大臣直屬ノ調査會トシ、其協定

ニ依ッテ文部省ノ省議ヲ翻サレタト云フ口實ノ下ニ、小學校教員ノ俸給ヲ非常ニ減額サレテ、之ニ依ッテ三四千萬圓ノ經費ヲ節約ナサラウト云フ、底意ガアルト云コトヲ私ハ承ッテ居ル、斯ノ如キハ吾々ハ絶對的ニ反對セニヤナラス、其意味ニ於テ強テ文部省自身ガ爲シ得ザルガ爲メニ、内務大藏當局ヲ雇ヒ來リ、其他省トノ關係上、果シテ教員ノ優遇ト云フコトヲ逆行致シマシテ、又世間ノ希望ニ反シマシテ、之ヲ一億五千萬圓ノモノヲ急速ニ二二千萬圓ヲ減ズルト云フヤウナ事ナラバ、吾々ハ此小學校教育ト云フモノ、前途ニ對シテ、悲觀的ナ推測ヲシナケレバナラヌト思フ、又縦ンバ假リニ是ガ何等カノ方法ニ依ッテ、三千万圓四千萬圓ノ金ヲ節約ガ出來タト致シマシテモ、當時吾々衆議院全員一致ヲ以テ建議ヲ致シ、教育委員會ガ亦之ヲ認メマシタル所ノ、教員俸給半額マデハ、國庫ニ於テ負擔スベシト云フ此原則ニ對シテ如何デアアルマスカ、假リニ一億五千萬圓ノ中カラ三千万圓ノ節約ガアッタトシテモ、尙七千五百万圓ガアリマス、其半額トシマスレバ、三千六七百萬圓ト云フモノハ、國庫カラ支出スベキガ當然デアアル、是ハ當時ノ建議案ノ精神カラ考ヘマシテモ、二千万圓ト云フモノハ、既定ノ支出セザルベカラザル費額ニ屬シテ居リマス、尙ホ其上假リニ三千万圓ノ節約ヲ致シマシタ所ガ、三千七八百萬圓ダケノ國庫負擔ヲシナケレバナラヌト云フ情勢ノ下ニ在リト致シマスレバ、地方ノ市町村ガ此教育費ノ爲メニ、非常ニ苦シク少クトモ二千万圓、多クレバ三千五六百萬圓、此國庫ニ於テ負擔サル、ダケノ計畫ヲ、何故御立ニナラヌカト云フコトヲ私ガ怪シム、又現文部大臣中橋德五郎君ハ昨年ノ一月二十八日ト記憶致シマスガ、此所ニ持ッテ居リマセヌカラ日ハ違ヒガアルカモ知ラヌ、四十二議會ノ豫算總會ニ於テ一議員ノ質問ニ對シ、今生絲モ高ク米モ高イカラシテ、此狀態ニ在レバ宜シイガ、是ガ若シ絲モ下リ米モ下ッタ曉ニ於テハドウニモシテ救濟ヲセナケレバナラヌト云フコトヲ言明セラレ、又昨年七月ノ臨時議會ノ當時、大學特別會計外數件ノ委員會ニ於テ、中橋文部大臣ハ高田君ノ質問ニ對シ、斯ウ云フ意味ノ事ヲ申シテ居ラレル、米ガ三十圓トナリ二十七圓ニナッタ曉ニハ、如何ナル事ヲシテモ必ズ救濟ヲスルサウシテ其酒造稅若クハ煙草稅、煙草ノ直營ニ依ル稅ト

云フガ如キモノカラデモドウカ致スガ、愈、已ムヲ得ザル曉ニハ他ノ行政費ヲ節約シテモ、救濟スル積リデアルト云フコトヲ言明ナスッテ居ラレル、之ヲ私共ガ屢、申述ベマシタガ、此政友會ノ今回ノ委員ニナラレタ諸君ハ容易ニ御贊成ニナラナカッタ、先日三月二日ノ小學校教育費ニ關スル委員會ニ於テ此事實ヲ申述ベマシタ所ガ、井上君——豫算ニ精通サレテ居リマス井上君ト云ヒ、鶴澤君ト云ヒ、ソナナ事ガ議事録ニアルカト云フ御話デアリマシテ、吾々ノ持ッテ居リマシタ議事録ヲ御覽ニナリ、大臣ト云フ者ハエライ事ヲ言フモノダト言ッテ、驚イテ居ラレタデアリマス、是ハ文部大臣モ必ズ御認ニナラナクテハナラヌ事ダト思フ、果シテ然ラバ其際同ジ文部大臣ガ言ハレタヤウニ、今ノヤウニ教育費ガ嵩ンデ居ルナラバ、四千萬圓ヤ五千萬圓ハドウカシナケレバナラヌカ知ラヌガ、財政ノ現狀出來ナイ、斯ウ仰シヤッタ、然ラバ假令此新タニ四萬圓ヲ費シテ二十日カ二十五日デ濟ムト云フ噂ノアル臨時教育行政調查會ナルモノヲ設ケテ見マシテモ其結論ニ依ッテ無理ヲ致シテ三千万圓節約ヲ致シタ所ガ、尙且ツ三千八百萬圓ノ國庫ノ負擔ヲ免ルベカラザルモノデアリマスカラ、此意味カラ考ヘテ見マシテモ、本年度ニ於テドウシテモ此嚮ノ建議案ノ趣旨ニ從ッテ、今一千万圓ヲ出スコトガ出來ナイト云フ財政狀態デアラレルナラバ何モ蒼惶トシテ斯ル特別ナル委員會ヲ設ケラレズニ、過去二年有半御考慮ノ結果、而シテ教育調查會ノ諮問事項等ニ依ッテ御決定ニナレバ、明年度マデニ無論決マルノデアアル、然ルニ何レノ點カラ見マシテモ必要ノ無イ所ノ斯ノ如キ調查會ヲ設ケテ、此調査ニ名ヲ藉ッテ國民ノ要求タル國庫負擔額ノ増額ヲ御避ケニナル底意デアルト云フコトハ、疑フベカラザル事デアルト私ハ思フノデアリマス、斯ノ如キ意味ニ於テ此調査會ハ設ケズトモ、既ニ豫算ノ確定シテ居リマス教育調查會ガアル筈デアアル、ノミナラズ教育委員會ノ決議ヲ尊重シ、恐怖セラル、所ノ政府ハ、過去二年半ニ於テ十分御考慮ガアッタコト、思ヒマスカラ、更メテ斯ノ如キ蛇足ノ調査會ヲ御設ニナッテ調査ナサラズトモ、十充御成案ハアルコト、信ズル、只ダ缺ケテ居ルハ政府當局中橋文部大臣自ラ、其場ニ於テハ四五千萬圓ノ救濟ノ必要モアラウ、又米ガ三十圓臺ヲ割リ二十七圓ニナレバ、行政費ヲ節約シテデモ救濟スルト仰シヤッタ其言明ニ對シテ、十分ノ御誠意ガアルナラバ、斯ノ

如キ無用ノ調査會ヲ設ケラレズトモ、政府當局ニ於テ、幾多ノ救濟方法ハ既ニ胸中ニ御有リニナルト私ハ思フ、此意味ニ於テ頻リニ財政窮乏ト言ハル、當時ニ於キマシテ、新タニ四萬圓モ投ジテ、二十日ヤ二十五日デ濟ミ得ルト云フ鶴澤君ノ評ノ如キ調査會ヲ、新ニ設ケラル、必要ナシト思ヒマシテ、之ニ屬スル豫算三萬九千五百三圓ヲ、全部削除致シタイト主張致スノデアリマス

討論ニ入り小橋藻三衛君ハ警告附賛成、高田耘平君ハ樋口君修正案ニ賛成、牧山耕藏君ハ原案ニ賛成ノ演説ヲ爲ス

小橋藻三衛君ノ警告附賛成演説
既ニ本豫算ガ通過シタ今日デアアルガ故ニ此追加豫算モ吾々ハ已ムヲ得ズ之ヲ賛成スルノデアリマス、但シ此臨時財政經濟調査會諸費ノ追加ニ就テハ、一言ヲ加ヘテ置カナケレバナラヌト思フノデゴザイマス、即チ我國ノ今日ノ状態ニ於テ、如何ニモ財政上經濟上現下ノ國情ニ適シナイモノデアアルガ故ニ、之ヲ根本カラ整理ヲ致スト云フコトニナリマスレバ、隨テ行政整理稅制整理ト云フモノモ、根本的ニ突込シタル研究ヲ致シ、改善ヲ致サナケレバナラヌト云フコトハ無論デアリマス、此意味ニ於テ吾々同志ガ提案ヲ致シテ、滿場ノ御賛成トナツテ、サウシテ政府ニ於テモ同意セラレタノデアアル、然ルニ今日ノ施設ヲ見レバ、畢竟枝葉末節ノ調査ニ過ギナイノデ、財政經濟ヲ調査シテ行政稅制ノ根本ニ觸レルト云フ仕事ハ、一ツモ出來テ居ナイノデアアル、故ニ吾々ハ政府ガ能ク進ンデ、更ニ其根本ニ觸レル所ノ根柢マデ調査セラレンコトヲ切望スルノデアリマス、ソレカラ臨時教育行政調査諸費ニ就テハ、吾々ハ井上君ガ過日當議場ニ於テ説明セラレタルガ如キ趣意デアレバ、無論反對ヲ致スノデアアル、世間ハ此案ニ對シテ、政府ガ國民ノ要求デアアル所ノ市町村教育費ノ補助ヲスルト云フコトヲ避ケルガ爲メニ、即チ斯ノ如キ機關ニ隱レテ、之ヲ遮ルノデアアルト理解ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ガ吾々甚ダ憂慮ニ堪ヘナイ所デアアル、所ガ文部省内ノ空氣ハドウデアアルカト云フト、大臣連中ハ目ガ醒メテ居ナイ、ソコデ調査ヲスレバ、

却テ節減スベキ餘地ガ無クシテ、補助ヲ増額シナケレバナラナイト云フ得心ガ行クデアラウト云フコトニ、文部省内ニ於テハ、希望ヲ屬シテ居ルト云フノガ今日ノ真相デアアル、ソコデ吾々ハ此事ニ就テハ質問ヲ致シマシタガ、當局ノ意見ハ當ニ市町村ノ教育費ヲ整理節減スルト云フ調査ノミデハナイ、更ニ他ノ教育行政ニモ觸レルト云フ意味ノ説明デアッタガ故ニ、暫ク之ヲ信ジテ賛成ヲ致スノデアリマス、故ニ政府當局ニ於テハ、此帝國ノ十幾億萬圓ト云フ大ナル歲計ノ中デ僅カナル市町村ノ教育補助費ヲ増額スルヤウナ遣線ハ何トデモ出來ル、故ニ宜シク此調査ノ蔭ニ隱レテ補助増額ヲ遮ギルト云フガ如キ陋態ヲ爲サズシテ、眞ニ國論ノ要求ニ應ジテ、速ニ此目的ノ貫徹サルベク、調査會ニ於テ努力サレンコトヲ希望スルノデアアル、吾々ハ此二ツノ希望ヲ切ニ當局ガ同意セラレンコトヲ警告致シテ、此案ニ賛成ヲスルモノデアリマス

高田耘平君ノ修正案賛成演説

私ハ只今ノ追加豫算ノ件ニ就キマシテ、樋口君ノ修正説ニ同意致サウト思ヒマス、只今國民黨ノ小橋君ヨリ御意見ガゴザイマシタケレドモ、是非非常ニ文部大臣ヲ御信賴ナサツタ御話ノヤウニ私ハ思フ、見様ニ依ツテハ、小橋君ノ御意見ノ通りニモ見エルト思フノデアリマス、吾々ハ此問題ニ就キマシテハ、遺憾ナガラ見様ガ小橋君ト違フノデゴザイマス、全體私ハ井上君ガ三割説ヲ主張シタル建議案ノ時ニ申上ゲマシタ通り、吾々ガ見ル所デハ、全然國民教育費ノ國庫負擔額ヲ増加スベシト云フ國民ノ要求ニ堪ヘズシテ、政府ガ斯様ナル通路ヲ作ツタモノト思フノデゴザイマス、何故サウ私ガ申スカト云ヘバ、過般此建議案ニ關スル委員會ノ節ニ、私ハ中橋文部大臣ニ對シマシテ、政府ハ教育費ノ調査會ヲ設ケルト云フ話デアアル、サウシテ整理節約ヲ圖ルト云フ話デアアルガ、何ノ點ニ向ツテ御整理ヲ爲サル御意見デアアルカ、斯ウ云フ事ヲ委員會デ伺ヒマシタ、所ガ中橋君ハ答ヘテ曰ク、又言質ヲ取ラレルカラ、御答シナイ方ガ宜イデセウト、是ハ速記録ニアリマス、私ハ國務大臣トシテ甚ダ誠意ノ無イ御答デアルト同時ニ、又其内容ニ於テ、何等節約シ得ベキ途ガ無イト云フコトヲ、文部大臣ガ委員ニ公言シテ居ルモノデアアルト思フノデアリマス、更ニ又再

々言フ通り、建議案ニ對スル委員會ノ時ニ、政府委員モ、建議案ノ提出者タル政友會ノ鶴澤君及井上君等モ、何等整理節約ノ餘地アリトハ申サヌノデアリマス、唯ダ私ノ質問ニ對シテ政府委員ガ、一ツノ問題ガアル、ソレハ一學級七十人或ハ七十五人以上トシテモ差支ナイガ、或極メテ小部分ノ山間僻地ノ場所ニ於キマシテ、一學級二十人或ハ三十人位ノ編成ヲ以テシテ、代用教員ヲ以テ之ニ充テ、居ルト云フ所ガ幾ツモアル、之ヲ整理シテ、詰リ文部省ガ示シタル相當ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編成スレバ、或程度ノ削減ハシ得ル、是ダケ以外ニ何モアリマセヌ、委員會ニ於テ政府委員ノ御話トシモテ、三割ノ整理節約ヲ爲シ得ルト稱シタル、政友會ノ提案ノ説明者ニモ是以外何モアリマセヌ、少シモ無イ、而シテ此問題ニ就キマシテ、私ハ政府委員ガ左様ナル事ガアッタトシテモ、是ハ何モ特別ニ委員會ヲ開カズトモ、只ダ文部大臣ガ地方長官ニ命ジテ、而シテ郡視學或ハ縣視學ヲ以テ實行セシメレバ出來ルデハナイカ、之ガ爲メニ調査機關ヲ設ケル必要ガ無イト斯ウナイカト云フ質問ヲ致シマシタ、所ガソレガ爲メニハ、敢テ調査機關ヲ設ケル必要ハ無イト斯ウ言明ニナツテ居ル、彼此綜合スレバ、何レノ點カラ言ヒマシテモ、整理節約ノ餘地ハゴザイマセヌ、唯ダ小橋君ノ御話ニナツタコトハ私能ク知りマセヌガ、文部大臣ハ斯ウ云フ事ガアルノデハ、私ガ委員會ニ於テ、文部大臣ガ——此問題ハ、貴方ガ衆議院議員タル時代ニ於テ、教員給ノ半額マデハ、國庫ノ負擔ニシロト云フコトヲ要求スル一人トナツテ、而シテ御承認ニナツタ問題デアル、而シテ大正九年七月ノ特別議會ノ時ニ於テハ、先程樋口君ノ言フ通り是ガ半額ニナリ、或ハ倍額ニナツタナラバ、何ヲ置ニ置イテモ此問題ヲ解決シナケレバナラヌト仰シヤッタデハナイカ、故ニ貴方ハ此問題ハ文部大臣トシテ、全ク國民教育ニ忠實デ在ラセラレルナラバ、何故ニ此問題ニ對シテ職ヲ賭シテ争ハレナイカト云フコトヲ、私ガ委員會ニ於テ聽キマシタ、所ガ文部大臣ハ答ヘテ曰ク、文部大臣トシテハ之ヲ爲サントスレドモ中ニ出來ナイ、政黨内閣デアアルカラ職ヲ賭シテ争フト云フコトハ出來ナイノデアアル、唯ダ御推量ヲ願ヒタイノデアルト、斯ウ仰シヤッタノデアアル、是ハ速記録ニ明カニ在リマス、其御推量ヲ願ヒマスト云フコトハ、詰リ教育費ノ國庫負擔ヲ増額スルト云フコトハ、文部大臣ハ必要ハ認メテ居ル、併ナガラ大藏省或ハ内務省ノ諒

解ヲ得ルコトガ出來ナイ、所謂諒解ヲ得ルコトガ出來ナイノハ、文部大臣トシテノ威信ガ無イ爲メニ結局已ムヲ得ズ調査會ナド、云フモノ、名ヲ藉リテ之ヲ解決セントスルニ非ズヤト私ハ思フノデアアル、若シ文部大臣ガ實際ニ誠意ガアツテ此問題ヲ解決セントスレバ出來ナイ事ハナイノデアアルケレドモ、誠意ガ無イト同時ニ、他ノ各省ニ向ツテ此問題ヲ解決スルダケノ、文部大臣トシテノ威信ガ無イノデアアルト思フ、唯ダ此威信ノ無イコトヲ掩ハンガ爲メニ、而シテ國民ノ要求ニ追ハレテ、其通路ヲ造ランガ爲メニ、斯ノ如キ整理節約不可能ナル所ノ豫算ヲ政府ガ、提出シタルモノデアルト私ハ斷言スルノデアリマス、以上ノ理由ヲ以テ本案否決ニ同意致シマス

牧山耕藏君ノ原案賛成演説

本員ハ憲政會ノ臨時教育行政調査ニ關スル經費ノ削除説ニ反對ヲ致シマシテ、委員長ノ報告ニ賛成ノ意ヲ表明致ス者デアリマス、我ガ帝國ニハ、教育ニ關スル種々ノ調査會ガ設ケラレテ居ルノデアリマス、初等教育ニ關シマシテ、十分ナル調査ヲ致シタル機關ハ是マデ無イノデアリマス、尤モ臨時教育會議ニ於キマシテ、學制ニ關シテハ大分調査ヲサレタノデアリマス、財政經濟ノ見地ヨリシテ、十分ナル所ノ調査ヲ遂ゲラレタ事ハナイノデアリマス、然ルニ今回設ケラレマスル所ノ調査會ハ、主トシテ此初等教育ニ關スル調査ヲ目的ト致シタモノデアリマス、只今樋口君並ニ高田君ヨリ色々御議論ヲ伺ヒマシタガ、結論ニ於テハ之ニ反對ヲサレテ居リマス、ルケレドモ、御議論ノ内容ヲ伺ヒマス、矢張調査ヲシテ見ナケレバ、判ラナイト云フ意味ガ含マレテ居ルヤウニ思フノデアリマス、何等教育費ニ關シテハ殊ニ義務教育費國庫補助増額ニ關スル建議案ノ委員會ニ於テモ、色々論議サレテ居リマス、高田君ノ如キモ、矢張調査ヲシテ見タラバ、節約ノ餘地モアルデアラウト云フヤウナ御議論モアッタノデアリマス、此調査會ト云フモノハ、必ズシモ教育費ノ整理節約ノミヲ目的ト致シテ居ルノデアリマス、即チ現在ニ於キマシテハ、市町村教育費ノ總額ハ約一億七千萬圓、此巨額ナル教育費ノ爲メニ、市町村ハ非常ニ苦ンデ居ルノデアリマス、又國庫ヨリハ——大正六年ノ議會ニ於テ我立憲政友

會ヨリ、教育費ニ對スル國庫補助ノ建議ヲ致シテ、其建議ニ基ヅイテ寺内内閣ハ大正七年ニ於テ一千萬圓ノ補助ヲ議會ニ要求シ、之ニ對シテ御互ハ協贊ヲ與ヘタノデアリマスルガ、之ニ就キマシテモ一千萬圓ノ内譯ハ、百萬圓ヲ貧弱町村ニ割當テ跡ノ九百萬圓ノ内四百五十萬圓ヲ正教員並ニ准教員ノ數ニ比例割當テ、残り四百五十萬圓ヲ、兒童數ニ依ッテ割當テタト云フコトニ相成ッテ居リマス、尤モ果シテ公平ナル割當方法デアルカドウカト云フコトハ、尙ホ大ナル研究ノ餘地ガアルト思フノデアリマス、貧シキ町村ニ於キマシテ、准教員若クハ正教員ヲ雇フコトガ出來ナイデ、代用教員ヲ澤山使ッテ居ルノデアアル、然ルニ此割當ノ方法デハ、却テ其貧シイ村ハ恩典ニ浴スルコトガ出來ナイト云フヤウナ疑モアルノデアリマス、斯様ナ點ニ就キマシテモ、尙ホ調査會ヲ設ケテ、十分ニ調査研究致ス必要ガアラウト思フノデアアル、又調査會ノ目的ハ、同シ金ヲ使ヒマシテモ、即チ一億七千萬圓ト云フ經費ヲ學校教育ノ爲メニ使ッテ居ルノデアリマスルガ、之ヲ有效ニ使フ、詰リ教育ノ效果ヲ増進スル上ニ於テモ、尙ホ大ニ研究ヲ致ス必要ガアラウト思フノデアリマス、又整理ノ問題ニ關シマシテハ、成程教員ノ俸給ヲ減ラスト云フコトハ出來ナイノデアリマス、又制度及法規ノ改廢整理、其他ノ方法ニ依ッテ、教育ノ效果ヲ損セザル範圍内ニ於テ、學校教育費ヲ節減シ得ラレル途ガ無イト、此所ニ於テ斷ズルコトハ出來ナカラウト思フノデアリマス、又此調査會ヲ設ケルノハ、何カ政府ガ初等教育ニ冷淡デアッテ、教育費ノ國庫補助ヲ増額スルノヲ避ケル爲メニ、其陰ニ隱レテ、之ヲ口實トシテ、此委員會ヲ設ケルノデアルト云フヤウナ説ヲ爲サレルノデアリマスルガ、是ハ非常ニ調査會設置ノ目的ヲ、誤解シテ居ラレル所ノ議論デアラウト思フノデアリマス、現在ニ支出シテ居ル所ノ補助一千萬圓ハ勿論、一億七千萬圓ト云フ教育費ヲ如何ニ有效ニ使フカト云フコトガ、矢張此調査ノ目的ノ一ツデアリマシテ、尙ホ増額ヲ致スト致シマスレバ、其増額シタル補助金ヲ如何ニ有效ニ使ッテ、教育ノ效果ヲ増進セシメルカト云フコトモ、更ニ此調査會ニ於テ研究ヲシナケレバナラスト存ズルノデアリマス、憲政會ノ諸君ハ、文部省ガ極メテ怠慢冷淡ト言ハレルノデアリマスルガ、市町村教育費ノ問題ハ唯ダ更ニ文部省ノ調査ノミニ依テ出來ナイノデアアル、事柄ハ大藏省及内務省ニモ關係ヲ致シテ居ル

ノデアリマスカラ、此調査會ヲ設置致シテ、整理スベキハ整理シ、増加スベキハ増加シ、サウシテ帝國國民教育ノ效果ヲ十分ニ發揮セシメルト云フコトハ、極メテ必要ナリト信ジマシテ本案ニ賛成ヲ致スノデアリマス、
 他ニ討論無ク先ツ修正案ニ付起立表決ノ結果賛成者少數ニテ修正案ヲ否決シ次ニ院議多數ヲ以テ三案ヲ各原案ノ通可決シ即日三案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十六日可決奏上シ四月一日孰レモ公布セラル

一四 (第三號) 大正十年度歳入歳出總豫算追加案

豫算

大正十年度歳入歳出追加額ヲ各五萬九千五百拾五圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳入臨時部

第十款 前年度剩餘金繰入 五九、五一五

歳出經常部

陸軍省所管

第二款 軍 事 費 四五、八二八

第二章 議事

第四節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

海軍省所管

第二款 軍事費

一三、六八七

歲出總計

五九、五一五

一五 (第四號) 大正十年度歲入歲出總豫算追加案

豫算

大正十年度歲入追加額ヲ百萬千四百四拾五圓歲出追加額ヲ四拾七萬五千四百五拾圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

歲入經常部

第一款 租稅

九八一、八二五

第四款 雜收入

一九、三二〇

歲入經常部合計

一、〇〇一、一四五

歲出經常部

大藏省所管

第一款 大藏本省

一八、二三九

第十款 稅關

九八、四四六

歲出經常部合計

一一六、六八五

歲出臨時部

大藏省所管

第十四款 稅關臨時諸費

三一、九四四

農商務省所管

第一款 產業獎勵費

二五四、一一一

遞信省所管

第二款 造船鐵材調查費

七二、七一〇

歲出臨時部合計

三五八、七六五

歲出總計

四七五、四五〇

一六 (特第三號) 大正十年度特別會計歲入歲出豫算追加案

特別會計豫算

大正十年度大藏省所管朝鮮總督府ノ歲入歲出追加額及其ノ款項ノ金額ハ別冊歲入歲出豫算ニ據

第二章 議事

第四章 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案及豫算追加案

ルヘシ

大藏省所管

朝鮮總督府

歲入

經常部

第一款

朝鮮 歲入

五九、四二八

歲出

臨時部

第五款

補助 費

四五、〇〇〇

右三案ハ孰レモ十年三月二十二日之ヲ提出ス

委員ハ直ニ審査ノ末各原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月二十三日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同日議事日程ヲ變更シ再ヒ三案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ委員會ノ經過及結果ニ
付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニ供セラレマシタ第三號大正十年年度歲入歲出總豫算追加案、第四號大正十年年度歲入歲
出總豫算追加案、特第三號大正十年年度特別會計歲入歲出豫算追加案、此三案ヲ豫算委員會ニ於キ
マシテハ、本日午前審査ヲ進メマシテ、會期切迫ノ折柄分科ニ移サズ、政府ヨリ説明ヲ求メ質問

應答ヲ致シマシタ、而シテ此大正十年年度歲入歲出總豫算追加ハ、陸軍省及海軍省ノ所管ニ於キマ
シテ、軍法會議ノ實施準備ニ要スル經費デアリマス、之ガ歲入ハ臨時部ノ前年度剩餘金ノ繰入ノ
増加カラ求メマシテ、其金額ハ歲入各五萬九千五百十五圓デアリマス、第四號大正十年年度
歲入歲出總豫算追加ハ、此歲入ハ關稅ノ增加カラ九十八萬一千八百二十五圓、關稅ノ雜收入ノ增
加カラ一萬九千三百二十圓、此合計金額ハ百萬千四百四十五圓デアリマス、之ガ歲入ハ經常部ニ於
キマシテ、大藏省ノ所管關稅定率法中改正ニ伴フ經費、又同シク大藏省ノ所管造船鐵材取締ニ要
スル經費、又農商務省ノ所管ニ於キマシテハ、製鐵業獎勵法改正ニ伴フ經費、遞信省ノ所管ニ於
キマシテハ、造船鐵材ノ調査費、之ガ歲出ニナツテ居リマス、特第三號ノ大正十年年度特別會計歲入
歲出豫算追加ハ、大藏省ノ所管ニ於キマシテ、朝鮮總督府ノ經常部ニ於キマシテ、歲入ハ五萬九
千四百二十八圓デアリマス、是ハ租稅カラ仰ギマス、歲出ハ臨時部ニ於キマシテ、此製鐵獎勵ノ
補助費ニ充テマス、四萬五千圓デアリマス、質問ノ要旨ハ極ク簡單デアリマシタガ、製鐵事業ト
關稅ニ伴フ關係ニ就キマシテ應答ガアリマシタガ、其結果政府ヨリ製鐵事業ノ現在及將來ノ說
明及關稅トノ關係ニ就テ答辯ガアリマシタガ、詳細ハ速記録ニ依ッテ御覽ヲ願フコトニ致シマス
討議ニ移リマシテ、此三案ニ對シテハ、別段異議ハアリマセヌガ、國民黨ノ植原君ヨリ警告ヲ發
セラレマシタ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ本院ニ於テ可決スベキモノナリト決定致シマシタ、此段
御報告ニ及ビマス

院議異議ナク各原案ノ通可決シ即日三案全部ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十六日可決奏上シ四
月一日孰レモ公布セラル

第二項 決算

一 大正七年度歳入歳出總決算

二 大正七年度各特別會計歳入歳出決算

右ハ大正十年二月二十四日之ヲ提出ス

(決算ハ浩瀚ナルニ依リ茲ニ掲載ヲ略ス)

是レヨリ先本院ハ大正九年十二月二十八日各部ニ於テ決算委員ヲ選舉ス委員ハ同日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ次テ大正十年一月二十六日全委員ヲ分チテ四科ト爲シ各分科主査及所屬員ヲ選定ス委員ハ審査ノ末三月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)(内容浩瀚ナルヲ以テ報告書ノ前
文ノミヲ提ケ尙附帶決議ヲ附ス)

大正七年度歳入歳出總決算及同各特別會計歳入歳出決算中不法又ハ不當ナリト議決シタル事項
左ノ如シ

不當ナルモノ

一般會計歳入ニ於テ

課税標準ノ決定其ノ宜シキヲ得サルモノ 十三件

租税ノ徴收不足ニ屬スルモノ 百一件

租税ノ徴收過ニ屬スルモノ 二十六件

其ノ他不當ナルモノ 一件

合計 百四十一件

同 歳出ニ於テ

工事施行上周到ノ注意ヲ缺キ國庫ニ損失ヲ及ホシタルモノ 一件

物件ヲ購入スルニ當リ請託ノ爲國庫ニ損失ヲ及ホシタルモノ 一件

設計ニ違背シ且粗造工事ニ對シ工費ヲ仕拂ヒタルモノ 一件

粗造工事ニ對シ工費ヲ仕拂ヒタルモノ 一件

虚構ノ事實ニ對シ支出ヲ爲シタルモノ 四件

其ノ他不當ナルモノ 一件

合計 九件

特別會計歳入ニ於テ

公用ヲ名トシ隨意契約ニ依リ物件ノ拂下ヲ爲シタルモノ 一件

租税ノ徴收過ニ屬スルモノ 一件

合計 二件

同 歳出ニ於テ

工事施行ニ際シ監督其宜シキヲ得サルモノ 一件

事實ニ反スル證明ヲ爲シ所屬年度ヲ混同シタルモノ 三件

虚構ノ事實ニ對シ支出ヲ爲シタルモノ 一件

其ノ他不當ナルモノ 三件

合計 八件

官有物ニ於テ

多額ノ資金ヲ以テ買收セル土地ヲ多年ニ涉リ其ノ目的ニ使用セス管理宜シキヲ得サルモノ 一

件 坏數價格不同ノ土地ヲ交換シ且建物拂下ノ價格其當ヲ得サルモノ 一件

馬匹ノ管理其ノ宜シキヲ得サルモノ 一件

合計 三件

不法ナルモノ

一般會計歳出ニ於テ

未竣功ノ工事ニ對シ年度内ニ竣功シタルモノトシテ工費ヲ支出シタルモノ 二件

競争入札ニ付スヘキ工事ヲ隨意契約ニ依リタルモノ 一件

豫算目的外ノ支出ヲ爲シタルモノ 一件

合計 四件

總計 百六十七件

既往年度(大正六年度)未確定金額ノ検査確定セルモノノ内不當ナリト議決シタル事項左ノ如シ

一般會計歳入ニ於テ

租税ノ徴收不足ニ屬スルモノ 四件

租税ノ徴收過ニ屬スルモノ 一件

合計 五件

(附帶決議)

決議

大正七年度ニ於テ鐵道院カ多數ノ船舶ヲ購入シ燃料炭運搬自營ノ途ヲ立テタルハ計劃其ノ宜シ
キヲ得タルモノニ非スト認ム

三月二十四日本案ヲ院議ニ付シ決算委員長木下謙次郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

大正七年度歳入歳出總決算、大正七年度各特別會計決算、右二案ニ就キマシテ、審査ノ經過並ニ結果ヲ御報告シヤウト考ヘマス、委員會ハ總會ヲ開クコト六回、分科ヲ通ジテ分科會ヲ開クコト十六回ニ及ビマシタ、慎重審議ヲ盡シタノデアリマスガ、審査ノ結果ハ大體ニ於テ此決算ヲ是認シ、決算中不法不當ト認メラレテ居ル事件並ニ其理由ハ、報告書ニ纏メテ御手許ニ差出シテアリマスカラ、ドウカソレニ就テ御覽ヲ願フノデアリマスガ、唯ダ此所ニハ不法不當ト算ヘラレタ件數ヲ列舉シテ、皆様ノ御參考ニ供シタイト考ヘマス、ソレハ不法不當ト認定サレマシタノガ、大正七年度歳入歳出總決算中、歳入ニ於テ不當ナルモノ百四十一件、歳出ニ於テ不法ナルモノ四件不當ナルモノ九件、官有物ニ於テ不當ナルモノ三件、大正七年度各特別會計歳入歳出決算中、歳入ニ於テ大藏省所管朝鮮總督府不當ナルモノ一件、文部省所管東京帝國大學不當ナルモノ一件、歳出ニ於テ京帝國大學不當ナルモノ五件、總計百六十七件、既往年度歳入ニ於テ不當ナルモノ五件、右ノ通リデアリマスルガ、斯ノ如ク不法不當ト認定サレマシタル件數ハ百六十七件、前年來ノ決算ニ較ベマスレバ、其件數ガ非常ニ多イノデアリマスルガ、七年度ニ於テ斯ク決算ニ不法不當ノ件數ノ多イ理由ハ、大藏大臣ノ説明ニ依レバ、七年度ハ我が帝國ノ經濟界ガ俄ニ膨脹致シ、經濟界ガ膨脹ヲ致シタノミナラズ、戰時利得稅ト云フガ如キ新稅法ガ實施サレマシテ、其内容頗ル複雑錯綜ヲ極メタル爲メニ收稅官吏ナド取扱上ニ或ハ不慣ノ結果、斯ノ如ク件數ノ多キヲ招イタノデアラウト云フ説明デアリマシタガ、委員會ハ大體ニ於テ大藏大臣ノ説明ヲ是認致シタノデアリマス、私ハ——説明スルコトハ以上ノ事ニ止メマシテ、詳細ナル事ハ報告書ニ就テ御覽ヲ願ヒタイト考ヘルノデアリマスルガ、爰ニ省略スルコトノ出來ナイ事ガ一箇條アリマスカラ、此事ノミハ諸君ニ特ニ申上ゲテ置キタイト考ヘルノデアリマス、ソレハ何デアアルカト云ヘバ、此報告書ノ末尾ニ載ッテ居リマス所ノ決議文デアリマス、今其決議文ヲ朗讀致シマス「大正七年度ニ於テ鐵道院ガ多數ノ船舶ヲ購入シ燃料運搬ノ自營ノ途ヲ講ジタルコトハ計畫其ノ宜シキヲ得タルモノニ

非ス」此意味ハ前内閣ノ鐵道院ノ當局者ガ、石炭運搬ノ爲メニ船舶ヲ購入シタト云フ事柄ヲ非難致シタノデアリマスル、鐵道院ハ從來石炭ノ運搬ハ、請負人ニ任セテ運搬ヲ致サセテ居ッタノデアリマスルガ、大正七年度ニ於テ急ニ其方針ヲ一變致シマシテ、自ラ燃料ヲ運搬スルト云フコトニ變更ヲ致シタノデアリマスルガ、而モ其方針ヲ變更スルニ就テ、相當ト認ムベキ理由ガ更ニ無イノミナラズ、此方針ヲ變更スルニ就テ、相當ト機關ヲ經テ利害得失ヲ研究審査致シタト云フコトノ證據ガ少シモ無イノデアリマス、而モ適當ノ手續ヲ經ザルノミナラズ、船舶ノ購入ノ方法ニ就テモ、官署ガ相當ナル注意ヲ拂ッテ買入レルコトノ手段ヲ少シモ履ンテ居ラヌノデアリマス、漫然トシテ數百萬圓ノ金ヲ船舶購入ノ爲メニ支出シテ居ルノデアリマス、而モ此數百萬圓ヲ支出シテ買入レタル船舶ノ中ニハ、買入レタル後ニ於テ船舶ノ用ヲ爲サナイモノガ頗ル多クアリマシテ、結局ハ鐵道院ノ持餘シ物トナッタ船舶ガ少クナイノデアリマス、此故ニ大正七年度ニ於テ買入レタル船舶ヲ、翌年度即チ大正八年度ニ於テハ、之ヲ處分シテ賣拂ハナケレバナラヌト云フヤウナ結果ニ陥リマシテ、其中ノ大部分ヲ賣拂ヒマシタノデアリマスガ、其賣拂ッタ代金ハ僅ニ二十八萬圓デアリマス、而シテ二十八萬圓デ賣拂ッタ其買入レタル原價ヲ調ベテ見マスレバ二百五萬圓ニ相當致シテ居ルノデアリマスカラ、此部分ダケニ就テモ、鐵道省ハ二百萬圓ニ近イ金錢ノ損害ヲ招イテ居ルノデアリマス、而シテ委員中船舶並ニ海運ノ事ニ精通致サレテ居リマス人ノ意見ニ依レバ、二十八萬圓ニ賣リマシタ代金ノ廉キニ非ズシテ、最初買込シタル時ノ船舶ノ代價ガ、不當ニ高價ニ過ギタノデアルト云フ意見デアアルノデアリマス、斯ノ如ク漫然タル處置ヲ以テ漫リニ方針ヲ變更シ、適當ナ處置ヲ執ラズ、或ハ適當ナ手續、適當ナ形式ヲ執ラズシテ船舶ヲ買入レ、斯ノ如キ多額ノ損失ヲ招イタコトノ結果ガ判然致シマシタ以上ハ、爰ニ曩ニ申シマシタ警告文ヲ發スルコトノ已ムヲ得ザル次第ニ相成ッタノデアリマス、尙ホ是ヨリ遡ッテ委員會ノ經過ノ事ヲ申上ゲヤウト考ヘルノデアリマスガ、大體ニ於テ委員會ノ經過ハ、平穩無事ノ進行ヲ執ッテ居リマシテ、荒立テ、申上クベキ事柄ハ甚ダ少イノデアリマスガ、參考ノ爲メニ一二御注意致シテ置キタイ事ガアルト考ヘマス、開會ノ劈頭ニ於テ委員ノ一人ハ、議院並ニ政府ニ對シテ希望ヲ述ベタノデア

リマス、其希望ノ要旨ハ、從來決算ノ審査ナル事業ニ向ッテ兎角之ヲ輕視シ、或ハ之ヲ閑却スル傾ガアルコトヲ遺憾トシ、將來決算ノ審査ニ向ッテハ、之ヲ或權威アルモノタラシムルコトノ方法、並ニ其理由ニ就テ萬丈ノ氣焰ヲ吐イタノデアリマス、委員ノ一人ハ直チニ之ニ贊成シテ、憲法或ハ會計法ノ精神ヲ引用シテ、大議論ヲ試ミタノデアリマスルガ、此等侃諤ノ議論ヨリシテ委員會ハ俄ニ緊張味ヲ増シ、此委員會ガ緊張味ヲ増シタ結果トシテ、種々ナル質問ヲ喚起スルコトニナツタノデアリマス、其質問ノ主ナル二三ヲ試ミニ之ヲ紹介スレバ、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、七年度決算ニ於テ検査院報告ニ現ハレタル不法不當ノ件數、並ニ金額ノ巨多ナル事ニ付、官吏ノ怠慢又ハ法規ノ弛緩ニ原因セシニ非ズヤトノ點、又剩餘金繰越金ノ餘リニ多キニ過グルコト、其原因、及豫算編成上ノ注意、或ハ西伯利出兵費用支出ノ形式ニ就テ、或ハ西伯利經濟援助費ノ支出ニ就テ、或ハ外米管理補給費等、各省各般ニ涉リ、微ニ入り細ヲ穿テ議論百出、費ス所數萬言デアッタノデアリマス、而シテ政府ノ之ニ對スル答辯ハ多クハ懇切丁寧ヲ極メテ、質問者ニ満足ヲ與ヘタコトガ多イヤウニ認メテ居リマスノデアリマスガ、私ハ本日は等有益ナル應答辯論ヲ一々皆様ニ紹介スル時間ノ餘裕ヲ持タヌコトハ甚ダ遺憾デアリマスガ、是等應答辯論ハ冀クハ速記録ニ就テ御覽ヲ願フコト、致シマシテ、最後ニ一言申添エテ私ノ報告ヲ了ラウト考ヘルノデアリマス、委員會ガ斯ク熱心ナル審議ニ十分ナル勉強ヲ示シマシタコトハ、前ニ申上ゲマシタ通りデアリマス、而モ應答或ハ答辯ニ依テ委員會ノ疑問ガ解釋ヲセラレマスレバ、各派ノ委員諸君ハ直チニ黨派ノ感情ヲ超越シテ、公平ナル立場ニ立テ、條理ノ命ズル所ニ依テ、此決議事項ハ滿場一致ヲ以テ決定致サレマシタノデアリマス、可否ヲ起立ニ問ヒ、少數多數ニ依テ決定致シマシタ事項ハ、僅ニ第五分科中、臺灣ニ關スル費目ノ一箇條アルノミデアリマシテ、他ハ總テ滿場一致ノ決定デアアルデアリマス、隨テ私委員長ノ報告トシテ、其形式ニハ或ハ不十分ノ點ガアルカハ存ジマセヌガ、併ナガラ其内容ノ決議事項ニ對シテハ、希クハ皆様十分ナル信用ヲ置カセラレテ、速ニ報告ノ通リニ御承認アラシムコトヲ希望スル次第デアリマス、大體以上ノ通り報告ニ及ビマス

院議異議ナク委員會報告ノ通是認スルニ決ス

第三項 承諾ヲ求ムル議案

一 大正九年勅令第五百三十四號

勅令第五百三十四號

大正九年勅令第七十一號ハ奧地利國又ハ其ノ國人若ハ法人ニ屬スル政府管理財産ヲ以テ同盟及聯合國奧地利國トノ平和條約第二百四十九條ニ規定スル支拂ニ充ツル場合ニ之ヲ準用ス

右ハ大正十年二月二日本院ニ之ヲ提出ス二月十日日本案ヲ院議ニ付シ大木國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題ニ上リマシタ所ノ緊急勅令ノ事後承諾ノ件ニ就キマシテ、聊カ説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、對奧條約實施ニ伴ヒマシテ、帝國政府ハ一日モ速ク其ノ管理財産ヲ以チマシテ、帝國臣民ガ奧地利國政府、又ハ其臣民ニ對シテ有スル所ノ損害賠償ノ請求權、並ニ其他ノ債權ノ仕拂ニ充當スルノ必要ガアルノデアリマス、殊ニ帝國臣民ノ財産回收ノ請求ニ就キマシテハ、條約ニ期限ノ定ガアリマシテ、一日モ早ク之ガ請求ヲ爲スコトガ最モ肝要デアアルノデアリマス、此故ニ政府ハ曩ニ此勅令ヲ公布シタ次第デアリマス、而シテ此勅令ハ將來尙ホ其效力ヲ有セシメルノ必要ガアルノデアリマシテ、帝國憲法第八條第二項ニ遵ヒマシテ、本會議ニ承諾ヲ求メル爲メニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウゾ慎重御審議ノ上、御協賛アラシムコトヲ願フノデアリマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ二月十二日委員會ヲ開キ委

員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末後ニ併セ付託セラレタル次案(二)ト共ニ孰レモ承諾ヲ與フベキモノト決シ二月二十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ
二月二十六日再ヒ本案及次案(二)ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長小田切磐太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニナリマシタ大正九年勅令第五百三十四號承諾ヲ求ムル件、竝ニ大正九年勅令第四百八十五號承諾ヲ求ムル件ノ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ報告致シマス、勅令第五百三十四號ハ、奧地利國トノ平和條約實施ニ就キマシテ、我が帝國政府ニ於テ管理致シマスル所ノ奧地利國、竝ニ奧地利國人ノ財産ヲ以テマシテ、我が帝國臣民ガ奧地利竝ニ其法人ニ對シテ有シマスル損害賠償ノ請求竝ニ其他ノ債權ノ支拂ニ充當スル必要ガアルノデゴザイマス、殊ニ我帝國臣民ノ財産回收ノ請求ニ就テハ、條約ニ依ッテ一定ノ期限ガアルノデゴザイマスカラ、成ルベク早ク之ヲ請求スルト云フ必要ガアルノデゴザイマス、而シテ是ニ關スル規定ハ、曩ニ獨逸國トノ平和條約實施ノ際ニ公布セラレタル所ノ勅令第八十一號ヲ準用スル爲メニ、必要緊急已ムヲ得ナイモノトシテ發布セラレタ勅令デゴザイマス、勅令ノ内容ハ損害賠償請求債權ノ申立等ノ期間ヲ定メ、其他調査ニ關スル簡易手續ノ事、管理財産ノ上ニ存スル特別ノ擔保處理ノ方法、其他財産回收ニ就テ必要ナル規定ヲ定メテアルノデゴザイマシテ、此勅令ハ尙ホ將來ニ於テ效力ヲ存セシメル必要アリシテ、本議會ニ承諾ヲ求メラレタノデゴザイマス、委員會ニ於テハ政府委員ノ説明ヲ聽イタ上ニ、多少ノ質問ガアッタノデアリマス、ソレハ帝國政府ニ於テ管理スル財産ヲ以テ、果シテ帝國臣民ノ奧地利國竝ニ其法人ニ對スル損害賠償、又ハ其他ノ請求權ヲ満足セシムルコトガ出來ル否ヤト云フ事デゴザイマシタガ、之ニ對シテハ政府委員ハ、満足セシムル事ガ出來ルト云フ答辯デアッタノデアリマス、其他ニ多クノ質問ガ無ク、全會一致承諾ヲ與フベキモノナリト議決ヲ致シタ次第デゴザイマス、次ニ勅令第四百八十五號デゴザイマス、此勅令ハ奧地利國トノ平和條

約實施ニ伴ヒマシテ、帝國ト奧地利國トノ間ニ混合仲裁判所ヲ設置スル必要ガアルノデゴザイマス、此裁判所ヲ設置致シマスルト、其裁判所ノ爲シタル判定ノ效力及其裁判所ガ要求シマスル種々ノ法律上ノ補助ニ關シテ、我が帝國ニ於テ殊ニ規定ヲスルモノガアルノデゴザイマス、而シテ是等ノ事項ハ法律事項デゴザイマスルガ、此事ハモウ曩ニ獨逸帝國トノ平和條約實施ノ時ニ、日獨混合仲裁判所ニ關シテ、勅令第八十七號ガ公布シテアルノデアリマス、此勅令ヲ準用スル爲メニ、緊急必要ナリトシテ公布セラレタ所ノ勅令デアアルノデアリマシテ、是亦將來ニ其效力ヲ存セシムル必要ガアルノデゴザイマスルカラ、本會議ニ其承諾ヲ求メラレタノデゴザイマス、委員會ニ於テハ何等ノ質問ナク、全會一致承諾ヲ與フベキモノナリト可決シタ次第デゴザイマス、此段御報告ヲ致シマス

院議異議ナク兩案共ニ承諾ヲ與フルニ決シ即日本案(一)ヲ貴族院ニ送付ス同院亦三月十六日本案ニ承諾ヲ與ヘ直ニ奏上スルト同時ニ本院ニ其ノ旨ヲ通知ス(二)案ニ對シテハ本院ヨリ直ニ奏上シ同時ニ其ノ旨ヲ貴族院ニ通知セリ

二 大正九年勅令第四百八十五號

勅令第四百八十五號

大正九年勅令第八十七號ハ同盟及聯合國ト奧地利國トノ平和條約第二百五十六條ノ規定ニ依リ帝國ト奧地利國トノ間ニ設置スル混合裁判所ニ關シ之ヲ準用ス

附則

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ款議 第三項 承諾ヲ求ムル議案

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ大正十年一月十九日貴族院ニ之ヲ提出ス同院ハ本案ニ承諾ヲ與ヘ二月二十一本院ニ之ヲ送付ス本院ハ二月二十四日本案ヲ院議ニ付シ内田國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

本案事後承諾ヲ求メマスル件ハ、日獨混合仲裁判所ニ關シマスル大正九年勅令第八十七號ノ規程ヲ、帝國ト墺地利トノ間ニ於ケル混合仲裁判所ニ準用セントスルモノデアリマス、本件勅令ハ元來法律ヲ以テ定ムベキモノデアリマス、然ルニ右日獨混合仲裁判所ハ、同盟及聯合國ト墺地利トノ平和條約實施ノ日、即チ大正九年七月十六日ヨリ起算致シマシテ三箇月後、即チ昨年十月十五日マデニ設置ヲ要スルノデアリマス、隨テ其期日マデニ本案規程ノ如キ事項ニ就キマシテ規程ヲ設ケルコトハ、帝國政府ノ責務ニ屬スル事柄デアリマス、當時議會開會デアリマセヌ、憲法ノ規程ニ依リマシテ、勅令ヲ以テ昨年十月十五日ニ公布セラレタ次第デアリマス、此勅令ハ將來ニ向ッテモ效力ヲ存續セシムル必要ガアリマスニ依ッテ、本日帝國憲法第八條第二項ニ依リマシテ、議會ノ承諾ヲ求ムル次第デアリマス、何卒御審議ノ上ニ承諾ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ前案(一)委員ニ併セ付託スルニ決ス委員ハ審查ノ末本案ニ承諾ヲ與フヘキモノト決シ同日報告書ヲ議長ニ提出セリ

二月二十六日再ヒ本案及前案(一)ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長小田切磐太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付報告ヲ爲ス(議事ノ經過及奏上ハ本項(一)參看)

- 三
- 一大正八年度豫備金支出ノ件
 - 一大正八年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
 - 一大正八年度特別會計豫備金支出ノ件
 - 一大正八年度會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件
 - 一大正八年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件
 - 一大正八年度大正三年臨時事件豫備費外ニ於テ豫算外支出ノ件
 - 一大正八年度帝國鐵道特別會計積立金支出ノ件
 - 一大正八年度帝國鐵道特別會計積立金外ニ於テ豫算超過支出ノ件
- (内容ハ浩瀚ナルニ依リ茲ニ掲載ヲ略ス)

右案ハ大正十年二月二十四日本院ニ之ヲ提出ス二月二十六日本案ヲ院議ニ付シ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

只今上程ニナリマシタル事後案ニ關シマシテハ、簡單ニ説明致シマス、大正八年度ニ於ケル一般會計及各特別會計ノ豫備金及豫備金外支出、大正三年臨時事件ノ豫備費及豫備費外支出、帝國鐵道會計積立金及積立金外支出ニ關スル事後承諾ヲ求ムル爲メニ、爰ニ本案ヲ提出致シタル次第デゴザイマス、大正八年度一般會計第一豫備金ノ豫算額三百萬圓デアリマシテ、在外公館電信料、海

港檢疫傳染病豫防檢疫諸費、税關臨時勤勞手當、諸拂戻金、其他必要避クベカラザル豫算ノ不足ニ對シマシテ、其全部ヲ充用致シタノデゴザイマス、大正八年度一般會計第二豫備金ノ豫算額ハ五百萬圓デアリマシテ、各廳風水害及火災復舊費、輸入獸類檢疫上應急設備費、航空勤務遭難者保護賜金、其他緊急措キ難キ豫算外ノ支出ニ對シマシテ、之ガ全部ヲ充用致シタノデゴザイマス、大正八年度大正三年度臨時事件豫備ノ豫算額ハ、一億七千二百萬圓デアリマシテ、臨時事件ニ關シテ各省所管ニ於テ、豫算外ニ支出スルコトヲ要シタル諸般ノ費途ニ對シマシテ、其全部ヲ充用致シマシタ、大正八年度一般會計第二豫備金、並ニ大正三年度臨時事件豫備費ノ豫算額全額拂切リトナリマシタガ爲メ、警察費連帶支辨金、諸拂戻金、陸軍精米精麥及馬糧費、在監人費、染料及火藥爆發物製造獎勵金、各省臨時事件費、流行性感胃治療諸費、軍艦製造費補足、其他必要ナル費途ニ對シマシテ、國庫剩餘金ヲ以テ豫算超過及豫算外ノ支出ヲ爲シタル金額ハ、一億七千四百三十九萬餘圓デアリマス、大正八年度帝國鐵道會計積立金勘定ニ於ケル補填金ノ豫算額ハ、四百五十萬圓デアリマシテ、收益勘定ニ於ケル鐵道作業費豫算ノ不足ニ對シマシテ、之ガ全部ヲ充用致シマシタ、右ノ外尙ホ歳出豫算ノ不足スルモノアルガ爲メニ、取益勘定及資本勘定ニ就キマシテ、各、其歳入ヲ以テ豫算超過ノ支出ヲ致シタノデアリマシテ、收益勘定ニ於テハ二千八百四十七萬餘圓、資本勘定ニ於テハ千五百餘萬圓デアリマス、右ノ外各特別會計ニ在ッテモ、亦必要已ムヲ得ザル費途ニ對シマシテ、豫備金又ハ豫備金外ニ其歳入若クハ剩餘金ヲ以テマシテ、豫算超過及豫算外ノ支出ヲ致シタノデザイマス、以上ハ何レモ緊急避クベカラザル事項ト認メマシテ、之ガ支出ヲ爲シタル次第デゴザイマスカラ、御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレンコトヲ切望致シマス

次ニ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ二月二十八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ニ承諾ヲ與フヘキモノト決シ三月十日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ再ヒ本案ヲ院議ニ付シ委員長熊谷直太君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題ニ上ッテ居リマス、大正八年度豫備金支出ニ關シ承諾ヲ與フル件外七件ニ關シマシテノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シタイト存ジマス、本案ハ御承知ノ如ク大正八年度ニ於キマスル所ノ、豫算超過及豫算外ノ支出ノ案件デアリマス、案自體ニ於テ既ニ重要ナル所ノ法案デアリマスルコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、即チ帝國憲法第六十四條第二項ニ依ッテ、承諾ヲ求メラルル所ノ案件デアリマスノミナラズ、此八件ニ於テ承諾ヲ求メラレル所ノ金額ト云フモノハ、實ニ莫大ノ金額デアリマス、即チ一般會計大正三年度臨時事件費ヲ併セマスルト云フト、實ニ三億五千四百三十九萬某ト云フ高額デアリマス、又特別會計ノ額ハ一億四千八十餘萬圓ノ多額ニ上ル所ノ承諾案デアリマス、故ニ委員會ニ於キマシテハ、數回之ヲ開會シ或ハ午後ニ互ッテ審議ヲ凝ラシマシテ、慎重審議ヲシタノデアリマス、委員會ノ經過ハ詳シク申上ゲルコトヲ要シマセヌガ、憲政會ノ諸君ヨリ、米穀管理並ニ講和會議ノ費用ニ就キマシテハ、最モ詳細ナル所ノ御質問ガアッタノデアリマス、殊ニ米穀管理ニ就キマシテ外米管理ノ——買入ノ時期ニ關シマシテハ、多少ノ御意見モ御漏シニナッタヤウデアリマス、併ナガラ委員會ハ此八案ニ對シマシテ、承諾ヲ與フベキモノデアルト云フコトヲ、殆ド大多數ヲ以テ決定シタノデアリマス、右御報告ニ及ブ次第デアリマス

院議異議ナク本案ニ承諾ヲ與フルニ決シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院亦三月二十六日本案ニ承諾ヲ與ヘ其ノ旨奏上セリ

第四項 法律案

第一 政府提出法律案

一 國有財產法案

國有財產法

第一條 本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ不動產並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動產及權利ヲ謂フ

第二條 國有財產ヲ分テ左ノ四種トス

- 一 公共用財產 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 二 公用財產 國ニ於テ神社ノ用又ハ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財產 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財產 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財產ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之

ヲ管理スヘシ

第四條 國有財產ハ雜種財產ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財產ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

- 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若クハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
- 二 公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ
- 三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ共用ヲ止メタル國有財產ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財產ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財產ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得
前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者境界査定ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前項ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解

除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ開拓ヲ爲サシムル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムリ所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨ

リ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、

第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動

報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約ノ其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規

定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別

ノ定ヲ爲スコトヲ得

右案ハ大正十年一月十九日本院ニ之ヲ提出ス同月二十五日(二十二日二十四日延會)本案ノ第一讀會ヲ開キ高橋國務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題トナリマシタル所ノ國有財産法案ニ就キマシテ、大體ノ説明ヲ致シタイト存ジマス、國

有財産ニ關スル現行ノ法規ハ、何レモ久シイ以前ニ制定セラレタルモノデ、時勢ノ推移ニ伴ヒマシテ、改正ヲ加ヘネバナラヌ點ガ少カラズアルノデゴザイマス、殊ニ其ノ統一的管理ノ點ニ關シマシテ、頗ル不備デアリマスノデ、本院ニ於キマシテモ、第一議會以來之ニ關スル法案ガ屢、提案セラレマシテ、政府ニ於テモ、亦屢々之ガ改正ニ就テ調査ヲ致シタノデゴザイマスケレドモ、何時モ成案ヲ得ルノ運ビニ至ラナカッタ次第デゴザイマス、然ルニ本院ノ建議ニ基キマシテ設置セラレタル官有財産調査會ニ於キマシテハ、國有財産ノ整理ニ當リテハ、之ガ管理ノ根本法ヲ作ルノ必要アリト認メラレマシテ、之ニ關スル法案ヲ立案議決致シタ次第デアリマス、政府ニ於キマシテハ洵ニ至當ナ事ト見マシテ、之ヲ成案ト爲シマシテ、第四十二議會ニ提出シタノデゴザイマスルガ、衆議院解散ノ爲メニ議了ニ至ラナカッタデアリマス、仍ツテ茲ニ再ビ諸君ノ御審議ニ俟ツコト、ナッタデアリマス、今此法案ニ就テ申上グベキ重要ナル點ハ五點アリマス、第一點ハ、立法ノ形式ヲ執ツタルコトデアリマス、國有財産ニ關スル現行ノ法規ハ、國有林野法ト一ノ例外ヲ除キマスルガ、多クハ勅令ノ形式ニ依ツテ居ルノデアリマスガ、元來國有財産ノ管理ハ、國家財政上ノ重要事項デアリマシテ、歲計豫算ト密接ナル關係ヲ有スルノミナラズ、其管理ニ就キマシテハ、一般ノ施行ニ對シテ、特別ノ規定ヲ置ク必要アルノデゴザイマス、隨テ其根本法規ハ、特ニ法律ノ形式ニ依ルコト、致シタ次第デアリマス、第二點ハ國有財産ノ管理上ニ關スル事デアリマシテ國有財産管理ノ事務ハ、從來ハ各省大臣ノ主管ニナツテ居リマシテ、特ニ之ガ統一總轄ニ關スル規定ヲ缺イテ居ルノデゴザイマス、ソレデ各省ノ取扱ガ自ラ區々ニナツテ居マシテ、議會ニ報告致シマスル官有財産目錄、及其増減異動ノ報告書等ノ如キモ、各省各別デアリマシテ總括的ニ之ヲ見ルコトガ出來ナイト云フ状態デアアル、是ハ即チ現行法ノ著シキ缺點デゴザイマス、仍テ本法案ニ於キマシテハ、此國有財産ニ關シマスル事務モ、亦會計事務ト同ジク、國ノ事務ノ一部トシテ、大藏大臣ニ其總轄事務ヲ管理セシムルコト、致シタノデゴザイマス、第三點ハ國有財産ノ處分ニ關スル事デアリマス、國有財産ノ處分ハ、一般ニ其取扱ヲ嚴正ニスルノ必要ガアリマスノデ其讓與交換ノ場合ヲソレ々限定致シマシテ、又國有財産ヲ以テ出資ニ充テル場合ニ

於テハ、總テ法律ノ規定ニ依ラネバナラヌコト、致シタノデゴザイマス、第四點ハ帝國議會ニ對シマスル諸報告ニ關スル事柄デアリマシテ、此報告ノ仕方ニ就テ改正ヲ加ヘタル主ナル廉ハ三ツアルノデ、現行法ニ於キマシテハ、十年毎ニ各省ニ於テ官有財産ノ目錄ヲ作りマシタ、又年々其増減異動ノ報告書ヲ作ツテ、帝國議會ニ報告致スコト、ナツテ居リマスルガ、之ヲ此點ニ就テ三ツノ重要ナル改正ヲシタノデ、第一ハ是等ノ書類ハ、何レモ舊時ノ目錄式デ各省々々舊時ノ目錄式デ各省各個ニ分レテ、之レヲ統合整理スル方法ガナカッタ爲メニ、之ヲ通覽シテ財産全體ノ狀況ヲ知ルコトガ出來ナイト云フ遺憾ガアッタデアリマス、本法案ニ於キマシテハ、總テ之ヲ計算書ニ改メマシテ且ツ、各省ノ分ヲ取纏メテ、總計算書ヲ調製スルコトニ致シタノデアリマス、第二ハ從來財産目錄ノ調製ヲ十年ニ一回トシテアリマシタガ、是ハ餘リニ長キニ失スルヤウデアリマスノデ、之ニ相當ナ現在額總計算書、是ハ十年ヲ改メマシテ、五年毎ニ調製スルコト、致シタノデ、第二ハ、從來其財産價格ハ常ニ不動ノ臺帳價格ニ依ッテ作ッタモノデアリマスルガ、是ハ財産全體ノ狀況ヲ窺フ上ニ於キマシテ、甚ダ遺憾ガアリマスノデ土地其他重要ナルモノニ就キマシテハ、現在額總計算書調製ノ都度、出來得ル限リ其價格ヲ改訂スル見込ミヲ立テタノデアリマス、第五點ハ會計検査院ノ検査ニ關スル事デアリマス、會計検査院法ニ依リマス、官有ニ財産ニ關スル事項モ亦會計検査院ニ於テ検査スルコト、ナツテ居ルノデアリマスガ、從來之ニ關スル手續ガ不十分デアリマス爲メ、其検査モ亦十分ナルヲ得ナカッタノデアリマス、本法案ニ於テハ、政府ヨリ帝國議會ニ報告スル現在額總計算書、及其増減計算書ハ、總テ之ヲ會計検査院ノ検査ヲ經ベキコト、致シタノデゴザイマス、要スルニ本法案ハ、國有財産ニ關スル現行諸法規ヲ統一シテ、其不備缺點ヲ補正シマシタノデ、國有財産ノ管理ノ根本成規ヲ確立スルノ趣旨ニ出タノデゴザイマス、何卒御審議ノ上、御協賛アランコトヲ希望シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ即日議長之ヲ指名ス委員ハ翌二十六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正スヘキモノト決シ二月十二日報告書ヲ議長ニ提出セ

（委員會報告書）

國有財産法案中左ノ通修正ス

第十三條 隣接地所有境界査定ニ○其ノ他對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ

訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

又委員高木正年君外四名原案ヲ修正スヘキモノト認メ別ニ少數者意見書ヲ提出セリ

（少數者意見書）

國有財産中左ノ通修正ス

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ司掌國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之

ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其

ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ

通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者ハ境界査定ヲ請求スルコトヲ得

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十三條

隣接地所有者境界査定ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ境界確定ノ訴ヲ提起セサルトキハ其ノ境界確定ヲ承認シタルモノト看做ス
訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十四條

從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ^{下付}貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ上地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ^{下付}貸付スルコトヲ得

前二項ノ下付並其ノ監督ニ關スル手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

二月二十四日再ヒ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長清水市太郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今ノ議題ニナリマシタ國有財產法ノ委員會ノ經過ヲ御報告スルニ先ダチマシテ、本案ノ内容ニ就テ多少要點ヲ申上ケルノハ、御參考上便利カト考ヘルノデゴザイマス、本案提出ノ理由ハ、既ニ大藏大臣ガ本會議ニ於テ述ベラレタ通りデアリマシテ、其點ヲ申上ケル必要ハ無イト思フ、本案ノ内容ニ於キマシテハ、國有財產ノ範圍ヲ第一ハ規定シマシテ、不動産、動産及權利ト致シマシテ、其權利ハ地役權若クハ鑛業權等ヲ含ムノデアリマス、第二ニ國有財產ノ分類ヲ致シマシテ、公共用財産、公用財産、營林財産、此三ツノ中ニ入ラナイ其他ノモノヲ、總テ雜種財産ト致シマシタ、各省ノ國有財産ヲ不用ニ歸シタモノハ總テ雜種財産ニ組替ヘテ、大藏大臣ノ管轄ニ歸スルト云フコトデアリマス、從來ハ各省ガ有ッテ居ル國有財産ハ、各省デ所管致シテ居リマシタ是ガ不用ニ歸シテ處分スルトキニ當リマシテハ、内務省ニ歸セシメテ、或ハ賣買或ハ交換ヲスルノデアリマス、今度ノ法案ニ依リマスレバ、大藏省ニ其雜種財産ノ管理ニ歸シテ、サウシテ、大藏省ニ於テ自然處分スルコト、考ヘルノデアリマス、其他本案ニ於キマシテハ、國有財産ハ十年ニ一回帝國議會ニ報告シタモノデアリマス、而モ其價格ト云フモノハ、ソレヲ所有シタ當時ノ値段デアリマシテ、甚ダ適切ナラザル報告デアッタノデアリマス、本法ニ依リマスレバ五年ニ一回國有財産ノ計算書ヲ作リマシテ、而シテ此價格ハ時價ニ於テ見積リマシテ、サウシテ之ヲ帝國議會ニ報告スル前ニ、會計検査院ノ検査ヲ經テ帝國議會ニ報告スルノデアリマスカラ、此報告ハ從來ノニ比シテ甚ダ明確ノモノデアリマシテ、大ニ精密且ツ一目瞭然ニ、之ヲ見ルコトガ出來ルト云フ便宜ガアリマス、一段ノ進歩改良ニ相違ナイト思フノデアリマス、其他國有財産ノ境界査定、或ハ國有財産ノ使用收益、寺院ノ上地、國有財産ノ臺帳、國有財産ノ總計算書、本法施行ニ關スル規定、他ノ法令ト國有財産トノ關係規定ト云フヤウナモノガ書イテアルノデゴザイマス、斯ノ如キ法案デアリマシテ、此法案ヲ委員會ニ於テ慎重審議ヲ致シマスニ方リマシテ、第一質問ハ國有財産ノ主ナルモノガ、土地森林原野デアラダケ、問題ノ主ニ起リマシタノモ亦此土地、森林、原野ニ就テデアリマシタ、ソレデ國有財産ノ森林原野中ニ、從來人民ノ所有デアリ、又御維新前ニ於キマシテハ、人民ノ使用收益ノ慣行ノアッタモノガ、國有ニ編入サレタモノガ澤山アル、甚シキモノハ民家ノ軒下ヨリ官有ニ編入サレテシマッテ、木一本取ッテモ、薪一荷ヲ取ッテモ、盜伐ニ依テ處分セラレルト云フヤウナ状態ニ陥ッテ居リマス、斯ノ如キモノハ、本案ニ依ッテ何トカ人民ノ從來ノ慣行ニ依ッテ、使用收益ヲ得タダケノ權利ヲ認メルヤウナ方法ハ、出來ナイカト云フヤウナ質問モ起ッタノデゴザイマス、之ニ對シテ政府委員ハ、サウ云フ事實ガ成程アルコトハアルト認メル、併ナガラ斯ノ如キ事ヲ本法ノヤウナ、重大ナ國有財産ヲ永久ニ國有財産トシテ國ガ所有スルモノヲ規定スル法案ニ書クノハ困ル、矢張他ノ下戻トカ、緣故拂下トカ云フヤウナ法令ニ依ッテ書

ク方宜カラウト思フ、併ナガラ從來ノ勅令等ヲ出來ルダケ活用シテ、人民ノサウ云フヤウナ權利ヲ、或程度迄ハ行使スルコトノ出來ルヤウナ便宜ヲ與ヘルト云フ意味ノコトハ、政府委員ガ言明サレタノデアリマス、ソレカラ又第二ニ起リマシタノハ寺院ノ土地デアリマス、寺院ノ土地ト云フモノハ、從來是ハ寺ノ物ハ國家ガ捲上ゲタノデアルカラ、寺ニ返シタラ宜カラウト云フ意味ノ質問ガアリマシタ、而シテ此點ニ就イテハ政府委員ハ、矢張國有法案ハ、國家ノ財產トシテ永久國家ノ有ツモノヲ規定シタノデアアル、人民ノ物ヲ誤ッテ有タモノガ此中ニアッテ、ソレヲ人民ニ下ゲルト云フヤウナコトハ、本法案ニ於テ規定スルノハ適當デナイト考ヘル、他ノ法律勅令等ヲ以テ規定スルコトハ特別、此法案ニ於テ規定スルコトハ適當ト認メナイカラ、贊成スルコトハ出來ナイト云フ趣味ノ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、惟フニ此本法案ノ調製セラレル以前ニ、既ニ官有財產調査會ト云フモノガ出來テ居リマシテ、其官有財產調査會ニハ各派ノ議員諸君ガ選抜サレテ委員ニナッテ居ラレ、政府委員ト屢々委員會ニ於テ質問應答ガアリ、意見ノ交換ガアリマシテ、サウシテ只今ノ問題ノ寺院ノ土地等ニ關シマシテモ、或ル程度迄ハ諒解ガアツタモノ、ヤウニ見ユル、其點カラ致シマシテ、他ノ法令ヲ以テ寺院ノ土地ヲバ云々スルト云フヤウナコトニ就テ規定スルノハ特別デアアルガ、本法案ニ於テサウ云フ事ヲ書クト云フコトハ適當ト認メナイ、同意スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フヤウナコトハ、自然官有財產調査會ニ於テモ意見ノ交換ガアツタモノト見ユル、ソレカラ其意味ニ於テ本法案ノ第二十四條ノ、「從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸附スルモノト看做ス」即チ從前カラ寺ガ用キテ居ル所ノ雜種財產、ソレハ無償デ寺ニ貸タモノト看做ス、斯ウ云フ成文ニ就テ、之ヲ無償デ呉レテシマウ、無償ニテ下附スト云フ風ニ修正スルコトハ出來ヌカ、又其第二項ノ寺院佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ、之ヲ無償デ其寺ニ下附スルコトハ出來ヌカト云フコトヲ質問サレテ、詰リ只今ノ意味ノ質問應答ガアリマシタノデゴザイマスガ、政府ハ之ニ應ズルコトハ出來ヌト云フ意見デアリマス、ソレカラ又本法第五條ニ雜種財產ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得」ト云フ箇條デアリマシテ、ソレガ一ガ帝

室用公共團體、ニガ公共用財產、三ガ神社、寺院又ハ佛堂ノ併合シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財產ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキト云フ箇條ガアリマス、其次ヘ持ッテ行ッテ第四項ヲ加ヘテ「寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル國有財產ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキト云フ」ト云フ一箇條ヲ加ヘテ「雜種財產中寺院又ハ佛堂ニハ或場合ニ於テハ之ヲ讓與スルコトヲ得」ト云フ斯ウ云フ一項ヲ加ヘヤウト云フ意見モ質問モ出タノデアリマス、是等ノ質問ニ對シマシテモ、政府委員ハ矢張り先刻申上ゲルヤウナ理由ニ依リマシテ應ズルコトノ出來ヌト云フ意見デアリマシタ、ソレカラ此質問ガ更ニ境界査定ノ件ニ關シテ起リマシタ、境界査定ハ第十條カラ第十三條ノ間ニ規定シテアルノデアリマス、此第十條ハ「國有財產ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムベシトアル、然ルニ此隣接地所有者ニ通知シテ立會ヲ求ムベシトアルガ、隣接地ノ所有者ニ通知ラシナカッタ場合、通知ラサレナイデ、知ラヌデ居ル間ニ境界ガ査定セラレルト云フトキニハドウスル、斯ウ云フ問題ガ質問サレタ、ソレニ對シテハ政府委員ハ、通知ラシナイ場合ハ、ソレハ法律ノ所謂境界査定ノ無イモノト看做ス、苟モ境界査定ヲスル以上ハ、通知スルノダ通知ラシナカッタナラバ、其物ニ對シテハ未ダ境界査定ガ無イノデアアル、サウ云フトキニハ此第十一條ノ「境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ」ソレカラシテ第十三條ノ「隣接地所有者ガ境界査定ニ對シ不服アルトキハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ請願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得」トアルガ通知ヲ受ケタル者ガ六十日デアアルガ、通知ヲ受ケナイ者ハドウスル、斯ウ云フコトニナル、ソレデ第一此十條ノ「隣接地所有者」ト云フノハ、境ヲ國有財產ト接シテ居ルモノデアアルガ、國有財產ノ中ニ全部人民ノ財產ガ包含サレテシマッテ居ルトキハドウスル、サウ云フモノハ通知ラシナイコトガアルト云フヤウナコトモ質問ニ起リマシタ、故ニ其隣接地所有者デアッテ、境界査定ヲ爲ストキノ通知ヲ受ケナイ者、或ハ全部國有財產ノ中ニ包含サレテ居ッテ、サウシテ其國有財產ト他ノ境界ヲ接シテ居ルモノトノ境界査定ヲ爲スト云フヤウナ場合ニハ、其包含サレテシマッテ居ル者ニハ通知ラシナイコトガアル、總テサウ云フ風ナ事ニシテ、通知

ヲ受ケナカッタ者ハ、此明文ニ於テハ境界査定ニ就テ異議ヲ言フト云フコトガ甚ダ不明瞭ニナツ
 テ來ル、通知ヲ受ケナイデ知ラヌデ居ル中ニ査定ニナル、斯ウ云フ場合ハドウスルト云フコトカ
 ラ、第十條ニ對シテハ、ドウシテモ、通知ヲ受ケナカッタ者ハ、國有財産ニ就キ境界査定ヲ更ニ請
 求スルコトヲ得ル、斯ウ云フ意味ニナラナケレバナラヌ、ソレガ明瞭ニ此所ニ書イテナケレバナ
 ラヌ、ト意見デアッタ、之ニ對シテ政府委員ハサウ云フト云フ意見デアッタ、之ニ對シテ政府委員ハサ
 ウ云フトコトガナクテモ、通知濡レニナツタナラバ、勿論境界査定ハ其者ニ對シテハマダ無イノデ
 アルカラ、當然境界査定ハ請求スルコトガ出來ルカラ、明文ニ此所ニ謳フ必要ガナイト云フコト
 デアリマシタ、併ナガラ此點ニ就キマシテハ、大ニ委員諸君ハソレヲ以テ満足シナイ、ドウシテ
 モ此所ニ何カ書カナケレバイケナイト云フコトデアリマシタ、ソレデ之ニ對シテハ小委員會ヲ
 開クコトニナリマシタ、同ジク只今ノ第十三條ヲ併セテ小委員會ニ付スルコトニナツタ、十三條
 ニハ隣接地所有者ダケ書イテアルガ、隣接地所有者デナイ、只今ノヤウナ全部國有財産ノ中ニ
 包含サレテ居ル所ノ地所ノ所有者ナド、云フ者ハ、通知ヲ受ケナケレバナルマイト云フコト
 リマシテ、是亦隣接地所有者ダケデハイカヌカラ、其他ノ者ヲ決メナケレバナラヌト云フコト
 ニ就テ此第十條乃至第十三條ニ對シテ修正ヲスベキモノトシテ之ヲ如何ニスルカト云フコト
 ハ、小委員會ヲ設ケテ決メルコトニナリマシタ、ソレハ修正ノ方ニ於テ申上ゲマスガ、サウ云フ
 質問ガ起ツタ、ソレカラシテ、更ニ質問ノ中ニ北海道ノ未開地處分ニ關シテハ、公平嚴正ニ行ハレ
 ヌト云フヤウナ虞ガアル、十分是ハ公平嚴正ニ行ハネバナラヌト云フヤウナ注意ヲ澤來太郎君
 ガセラレマシテ、政府委員ハ之ニ對シマシテ、何所マデモ公平嚴正ニ行ッテ居ルガ、尙ホ澤來太郎
 君ノサウ云フ注意モアルコトデアルカラ、益々公平ニ嚴正ニ行フヤウニスル殊ニ其競願者ノ多イ
 場合、公入札ノ場合ト云フヤウナコトニ就テハ、十分公平ニ且ツ嚴正ニ行フコトヲ注意スルト云
 コトヲ言明セラレタ、又清峯太郎君カラ、樺太ノ「バルプ」ノ製造ノ株式會社ガ、「バルプ」製造ノ
 原料ニ供スル爲メニ、樺太ノ森林ヲ凡テ壟斷スルヤウナ状態ニナツテ、悉ク伐リ拓イテシマウ虞ガ
 アル、斯ノ如クンバ、保安林、若クハ地方備林、ソレカラシテ工業備林ト云フヤウナモノ……他ノ

目的ニ必要ナル森林ヲ悉ク伐リ荒ラシテシマウ、虞ガナイカ、サウ云フモノガ他日必要フトキニ、樺
 太ガ發展シテサウ云フ森林ガ必要ニナツテ來タトキニ、缺乏ヲ感ジハシナイカト云フ警告の注意
 ガアリマシタ、ソレニ對シマシテハ、樺太長官ハ、十分用意ガアッテ保安林ヤ、地方林ヤ、工業備林ト
 云フヤウナモノハ備ヘテアル、且ツ八十年乃至百年ノ輪伐法ヲ是デ經營シテ居ッテ、サウ云フ缺
 乏ハ來タサヌヤウニシテ居ルガ、尙ホサウ云フ御注意モアルコトデアルカラ、即チ特ニ今後氣ヲ
 付ケテ清君ノ警告ノ意ニ副フヤウニ努ムルト云フヤウナ答辯モアッタ、ソレカラ終リニ此質問ノ
 部ニ於キマシテハ、國有財産ト云フモノハ凡ソ何程アル今回ノ法案ニ依ッテ、從前ハ各省區々ニ
 ナツテ居リマシテ、一目瞭然ノモノガ無カッタノデアアルガ、今回ノ法案ニ從ッテ出ルベキ性質ノモ
 ノデ、如何ナル調査ガ出來テ居ルカ見タイト斯ウ云フ事ニ對シテ、政府委員ハ官有財産ノ調査ヲ
 持ッテ見エマシタ、之ニ依リマスト土地ノ部ニ於キマシテハ、二千七百七十八萬九千九百七十八町
 歩ト云フ官有ノ國有ノ土地ガアル、此價額ガ十二億七千七百八十六萬四千五百六十七圓ト云フ
 價額ノ土地ガアル、ソレカラ營造物、家屋、船舶ト云フモノガ金額ニ見積リマシテ、十五億七千五
 百六十四萬千八百一圓ト云フ國有ノ財産ガアル、斯ウ云フヤウナ質問應答ガアリマシタ、ソレカ
 ラ次ニ其修正ノ意見——討論修正ニ入りマシテ小委員會ノ報告ガアリマシタ、小委員會ハ宮古
 啓三郎君、澤來太郎君、竹上藤次郎君、中川幸太郎君、高木正年君ノ各派代表の委員ヲ選ミマシテ
 小委員會ガ出來マシテ、其小委員ニ於テ只今ノ境界査定ニ關スル第十條、乃至第十三條ニ就テ十
 分ニ意見ノ交換討論ガアリマシタ、サウシテ其得タル所ノ結果ハ斯ウ云フ事ニナリマシタ、第十
 條ニ對シテハドウシテモ其通知ヲ受ケナンダ者ナドガ、國有財産ノ境界査定ヲ更ニ請求スルコ
 トヲ得ルト云フ文字ガ、何等カノ意味ニ依ッテ明ニセネバイカヌ、ソレハ勅令ヲ以テ政府ヲシテ
 出サシメタナラバ宜カラウト斯ウ云フコトデ、政府委員モ是ニハ同意ヲ表セラレマシテ、サウ云
 フ通知洩レヲシタリ、或隣接地所有者ト云フコトニスツカリ當籤マラヌガ、ソレニ似タヤウナ關係
 者ハ、境界査定ヲ更ニ政府ニ請求スルコトガ出來ルト云フ勅令ヲ出スト云フ言明ガアリマシタ、
 ソレカラ第十三條ヲ修正致シマシテ、十三條ハ「隣接地所有者」ト云フ下へ持ッテ行ッテ、「其ノ他」

ノ三字ヲ加ヘマシテ、其他境界査定ニ對シ不服アルトキハト云フ「トキ」ト云フ「字」ヲ者ト改メマシテ、ソレカラ其下ノ「其ノ通知ヲ受ケル日ヨリ六十日內」ニト云フ十七字ヲ削ルノデアリマス、ソレデ修正シタ文句ヲ申シマスレバ、第十三條「隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得」ト斯ウ云フ風ニ改正ニナルノデゴザイマス、此改正ハ小委員會ノ報告ハ多數デ可決セラレマシタ、更ニ野田文一郎君カラ、第二十四條ノ寺院ノ領地、及寺院ガ引續キ用ニ供シテ居ル雜種財産ヲ無償ニテ貸附スルト云フ所ヲ「無償ニテ下付ス」土地ノ方モ「無償ニテ下付ス」斯ウ云フ修正ガ出マシタ、併ナガラ是ハ少數デアリマシテ、委員會ハ否決サレマシタ、斯ノ如ク致シマシテ、此ハ法案デアリマスルガ、先刻申上ダマス通りニ、官有財産調査會ニ於テ、各派ノ選拔ノ委員ガ政府委員ト意見ヲ交換シ、十分研究セラレタ結果デモアリ、旁持チマシテ、此大法案ニ對シテ唯ダ一箇條十三條ノ修正ヲシタノミデ、跡ハ全部原案ノ儘デ可決確定致シマシタノデゴザイマス、此段御報告ヲ致シマス、尙ホ野田文一郎君ハ、少數意見ヲ本會議ニ於テ述ベルト云フコトヲ留保セラレテ居リマス

上島益三郎君ハ質疑ヲ爲シ田中政府委員之ニ應答ス

上島益三郎君ノ質疑

本案ハ非常ナ重大ナ法律案デゴザイマスカラ、此場合ニ於テ聊カ自分ノ疑ヲ述ベテ、委員長或ハ政府委員、何レデモ宜シウゴザイマスカラシテ、其御答辯ヲ伺ヒタイト思ヒマス、其第一ハ本法案ノ第十三條ニ關シテデアリマスガ、法案ノ第十三條ハ、隣接地所有者ハ境界査定ニ對シ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴ガ出來ル、即チ境界査定ヲ以テ、一箇ノ行政處分トシタノデアリマス、此法案ハ是マデノ國有林野法第七條ニ基イタモノデアリマシテ、國有林野法ノ第七條ニハ、矢張隣接地所有者ノ境界査定ニ不服アルトキハ行政訴訟ガ出來ルト書イテアリマス、併ナガラ茲ニ吾々法律家トシテ最モ慎重ニ注意シナケレバナラナイト云フノハ、從來ノ國有林野法ハ、唯ダ此國有林野ニ限ルノデアアル、原野及森林ニ限ッテ、此行政處分ヲ以テ境界ヲ査定スルト

アツテ、第六條モ殆ド同様ノ權利ヲ與ヘテ居ルノデアアル、所ガ此國有林野法ノ第六條ニ於キマシテハダスナ、今申上ゲマシタヤウニ單ニ、此林野ニ限ッテ居ルノデアアル、然ルニ本件ハ矢張之ヲ都市街地及田畑ニ及ボシテ居ル、ソレト共ニダスナ、國有林野法ハ單ニ此障害トナルベキ木石ヲ伐採スルノ必要ガアル場合ニ、木石ヲ伐採スルダケヲ認メテ居ル、本法案ハ總テノ障害物ヲ除去スル權利ヲ認メテ居ル、ソレデ此障害物ノ除去ト云ヘバ、竹木ノ伐採ヨリハ非常ニ廣大ナル權利デアリマシテ、之ヲ極端ニ解釋スレバ、建物モ除去スルコトガ出來ル、墓石モ除去スルコトガ出來ルノデアアル、斯ノ如ク墓石ヲ除去シ、建物ヲ除去シドシナ貴重ナ物デモ悉ク除去スルダケノ、重大ナル所ノ權利ヲ附與シテ居ルノデ、是ハ餘リニドウモ此人民ノ權利ヲ度外視シタ所ノ立法デアアルマイカト云フコトヲ虞レルノデアアル、矢張斯ノ如ク餘リニ廣大ナル所ノ權利ヲ行政官ニ與ヘルト云フコトハ、一面ニ於テ人民ノ權利ヲ非常ニ縮小スルト云フ危害ヲ生ズルダラウト思フ、尤モ此法ノ運用ハ人ニ在ルノデアリマスカラ、左様ナ非常識ナ事ハシナイ、當事者ヲ信賴セヨト云フ議論モアラウト思ヒマスガ、併シソレモ程度ニ依ルモノデアツテ、一體立憲政治ト云フモノハ、吾々ノ權利ノ保障ヲ、單ニ行政官ノ行爲又ハ其手心ニ持タズシテ、直接ニ法律其モノ、上ニ吾々ノ安心ノ出來ル權利ノ保障ヲ求ムルト云フコトガ、即チ立憲政治ナンデス、此故ニ本法案ニ於キマシテモ、徒ニ當業者ニ信賴セヨト言ッテ、斯ノ如キ廣大ナル權利ヲ與ヘルト云フコトハ、吾々ノ甚ダ解シ兼ネルコトデアアル、加之實際此非常ナル廣大ナル權利ヲ與ヘルト云フコトハダス、時トシテ之ガ爲メニ官吏ガ其職權ヲ濫用シテ、其私曲ヲ營ムト云フヤウナ弊害ヲ生ズル虞ガアルノデアリマス、況ヤ此法案ヲ實際ニ當ッテ運用スル人間ハダス、高々此最下級ノ技手ヤラ、或ハ雇ガ人足ヲ連レテ歩クノデアツテ、高等ナル教育ヲ受ケテ、高等ナル智識ヲ持ッテ居ラルル所ノ政府委員ノヤウナ方ミガ、決シテ境界査定ヤ或ハ測量ノ爲メニ、人足ヲ連レテ人ノ家ニ行クノデハナイデスカラ、斯ノ如ク廣大ナル權利ヲ下級ノ官吏ニ與ヘルト云フコトハ、小兒ニ剃刀ヲ與ヘルガ如キ危險ヲ生ズルモノト私ハ考ヘルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ次第デゴザイマシテ、私ハ此特別委員デゴザイマシタガ、特別委員會ノ最終日ニ於テ、私ハ請暇歸省ヲ致シテ居

云フコトニ定メテ居ルノデアリマス、然ルニ此改正ニ係ル所ノ今般ノ國有財産法案ノ第十三條ハ之ヲ二層擴張シタノデアリマス、國有ノ森林及原野ニ限ラズシテ、田畑デアレ、或ハ市街宅地デアレ、有ユル土地ハ悉ク此境界ヲバ、行政處分ヲ以テ確定スルト云フコトニ是ハ改正致シタノデ是ハ此立法上吾ミノ此司法ヲ研究スル者ノ立場カラ言ヘバ、非常ナル大革命ト言ッテ宜シイ、今日ニ於キマシテハデス、森林原野ダケハ此技手ヤ雇ガ勝手ニ線ヲ引張ッテ、是ダケノ土地ハ官有デアルト決メタ所ガ仕方ガナイ、併シ田畑ナリ宅地ナリハ、サウ云フ譯ニハ行カナイ、是ガ若シ官有カ民有カト云フ争ガアレバ、田畑宅地ニ就テハ雙方原告トナリ被告トナリ、サウシテ對等ノ關係ニ立ッテ、攻撃防禦ノ方法ヲ盡シテ、公平ナル所ノ裁判所ノ裁判ヲ受クルコトガ出來タノデス、然ルニ本法案ハ之ヲ非常ニ擴張シテ、原野ノミナラズ、森林ノミナラズ、田畑宅地ニ至ル迄、此極ク最下級ノ技手ヤ雇ガ線ヲ引張ッテ、是カラ此方ハ官ノ用地デアルト云フコトヲ認定スレバ、直チニ吾ミノ住ンデ居ル所ノ宅地住宅ガ、悉ク官ノ所有權ニ移轉スルト云フ、是非ハ非常ナ大變ナ事ニナッテ居ル、ソレデ固ヨリ是ハ行政訴訟ハ許サレテ居ルケレドモ、併ナガラ行政處分ト云フモノハ、訴訟ニ拘ラズ其效力ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、技手ヤ雇ガ數千數十萬ノ澤山ノ土地ヲ線一ツ引張ッタラ、ソレデ直チニ官有地トシテ效力ガ發生シ、直チニ其日カラ吾ミノ所有權ガ消滅スルト云フコトニナル、デ從來斯様ニ保護ノ方法ヲ盡シテ居ル所ノ田畑並ニ此宅地ニ就テ、何故ニ今日此法案ニ於テ斯ノ如ク人民ノ權利ヲ非常ニ縮少シ、サウシテ行政官ノ權利ヲ非常ニ擴張シテ、總テノ土地ノ所有權ヲ行政官ノ一存ニ委ネルト云フガ如キ改正ヲ致シタト云フノハ、果シテ是ハ如何ナル理由デアラウカ、斯ノ如クセザレバ今日ノ行政權ト云フモノハ、其運用ヲ全ウスルコトガ出來ナイカ、斯ノ如ク重大ナル所ノ殆ド人民ノ所有權、不可侵ノ權利ヲ事實ニ於テ中止スルダケノ多大ノ權利ヲ持タナケレバ、今日ノ行政官ハ官有財産ノ管理ガ出來ナイカ、此點ヲ一ツ御伺致シタイノデアアル、ソレカラ第二ハ本法案ノ第十四條デアアル、第十四條ハ國有財産ニ付境界ノ査定又ハ測量ヲ爲ス爲メ、政府ニ於テハ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ建設シ、又ハ障害物ヲ除去スルノ權利ヲ與ヘテ居ル、是ハ國有林野法ノ第六條ニ基イタモノデア

田中政府委員ノ應答

リマシテ、此點ヲ聞キ漏シマシタ、研究スレバ研究スルダケ、本法案ハドウモ甚シク官僚臭味ヲ帶ビテ、訂正ヲ要スル所ガ多イト思ヒマス、其一例トシテ此質問ヲシテ、サウシテ此點ニ對スル所ノ政府委員、或ハ特別委員長ノ私ハ御辯解ヲ求ムル次第デアリマス

只今ノ御質問ニ就テ私カラ御答辯致シマス、第一ノ境界査定ノ事ニ就テノ御議論デゴザイマシタガ、此境界査定ノコトニ就キマシテハ、現行法ニ於テモ一ツノ行政處分トシテ、總テ其爭議ノ決定ハ、之ヲ訴願或ハ行政裁判所ノ判決ニ待ツコトニナッテ居リマス、獨リ境界査定ノミナラズ、皆サ御承知ノ通り、官民有其所有權其モノ、決定ノ事サヘモ、我國ノ法制ニ於テハ行政處分トナッテ居ルノデアリマス、況ヤ些細ナ境界査定ノ如キモノハ、此行政處分ヲ認メルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ヌノデアリマス、併ナガラ御懸念ノ如キ境界査定ヲ不當ニスルトカ、或ハ不法ニスル、ソレニ就テ異議ノアル者ハ今申上ゲマシテ通り、之ヲ上級官廳ニ訴願スルトカ、或ハ行政裁判所ニ出訴致シマシテ嚴正確實ナル判決ニ依ッテ、其當否ヲ決スルノデゴザイマスカラ、サウ云フ御心配ハ毫モ無イコト、存ジマス、ソレカラ第二ノ測量ノ場合ニ於テ、障害物ヲ除却スルト云フコトニ就テ、從來ハ障害ノ竹木ト書イテアッタノヲ、今度ハ廣ク障害物ト書イテアルコトニ就テ御懸念ガアルヤウデゴザイマスガ、其法文ヲ前後續イテ御讀ミ下サレバ能ク判ッテ居ルコトデ「正當ナル理由ナクシテ拒ムコトヲ得ス」ト書イテアル、所謂其測量ノ爲メニ此物ガ邪魔ニナルト云フヤウナコトヲ測量者ガ申シマシテモ、其所有者ニ於テ不當ナリト認メマシレバ、即チ正當ナル理由ガアレバ、之ヲ拒ムコトヲ得ルノデアリマス、而シテ其實際問題ト致シマシテハ、モウ殆ド總テ竹木ノ場合ニ限ルト私ハ思ヒマス、ト云フノハ、實際ノ適用問題ト致シマシテハ、モウ殆ド總テ竹木ノ場合ニ限ルト私ハ思ヒマス、例ヘバ或建物ノ在ルヤウナ場所ヲ測量スルトキニハ、必シモ其建物ヲ見透シヨシテ測量シナケレバナラヌト云フコトハ無イノデアリマス、測量ハ斯ウ廻ッテモ測量ハ出來ルノデアアル、必シモ一線ナラ一線ヲ通ラナケレバ測量ノ出來ヌト云フモノデハナイ、測量ヲ知ッテ居ル人ニハ能ク判

ルノデアリマス、併ナガラ山林等ノ廣イ場合ハドウシテモ之ヲ測量スルトキニ、山林ヲグルノ木ノ無イ所マデ遠廻リヲシテ測量スルト云フコトハ、是ハ技術上無駄ナ事デアアル、又困難ナ事デアアル、サウ云フ山林ノヤウナモノヲ測量スル場合ニハ、ドウシテモ見透シノ爲メニ木ノ枝ヲ拂フトカ何トカスル必要ガアルノデス、是ハ測量上ノ實地問題デアリマシテ、是ハ御懸念ノ如キ測量ノ爲メニ必要デアルト言ッテ、人家ヲ壊ストカ云フコトハ、日本帝國ノ官吏ニハ無イコトデアリマスカラ、是モ御心配ハ無イコト、御承知ヲ願ヒマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ野田文一郎君ハ同君外四名提出ニ係ル本案ニ對スル修正案ノ趣旨辯明ヲ爲ス

本案ニ對シマシテハ、嚮ニ清水委員長ヨリ御報告ノ如ク、委員會ニ於テ少數意見ヲ保留致シテ置キマシタガ、少數意見ハ撤回ヲ致シマシテ、更メテ修正ノ動議ヲ提出スル次第デアリマス、修正ノ箇條ハ本案ノ第十條、第十三條、第二十四條ノ此三箇條ニ互ッテ居リマス、元來國有財産ノ管理ヲ統一スル爲メニ、統一ノ立法ヲ致スト云フコトハ、吾々ハ異存ガ無イノデゴザイマシテ、隨テ大體ニ於テハ本案ニ對シテ、贊成ノ意ヲ表スルニ各ナルモノデハナイ、併ナガラ此法案ノ内容ヲ調べテ見マスト云フト、先刻上昌君ノ質疑ニモゴザイマシタ通り、矢張り國有ノ財産ト個人ノ財産トノ接觸點ニ於テ、一種ノ慣習ヲ脱スルコトガ出來ナイ、官僚ノ臭氣ガ尙ホ遺ッテ居ル法案デアルト云フコトハ、本法案ノ爲メニ甚ダ遺憾ニ存ジマス、併ナガラ其等ノ事ヲ細カク修正ノ意見ヲ提出致シタイノデゴザイマスルガ、成タケ雅量ヲ以テ原案ヲ傷ケザランコトヲ努メマシテ、能ク能ク國民ノ權利ヲ擁護スル上ニ於テ、必要缺クベカラザルモノト信トジタ點ニ向ッテ修正ノ意見ヲ提出スル次第デアリマス、先ヅ第一ニ修正致シタ箇條ハ、第十條ノ第二項ニ持ッテ參ッテ隣接地所有者ハ境界査定ヲ請求スルコトヲ得ト云フ事ヲ入レマシタ、本案ニ依レバ境界査定ハ政府ノ御都合次第政府ガ査定スルコトヲ欲スレバ査定ヲスル、若シ査定ヲ爲スコトヲ欲セザレバ、何時マデモ抛ッテ置イテモ差支ナイト云フコトニナリマス、而モ境界査定ト云フ本案

ノ看テ居ル所ハ、一種ノ行政處分ガ先ヅ前提トシテナケレバ、之ニ對シテ訴願若クハ行政訴訟ト云フヤウナ權利ノ救濟方法ガ無イト云フコトニナルデアッテ、要スルニ國有財産ト境界ヲ接シテ土地ヲ持ッテ居リマスル者ガ、境界ノ明カナラザル場合ニ、一方國有デアアルガ爲メニ、政府ガ何時マデモ抛ッテ置ケバ如何トモスルコトガ出來ナイト云フコトハ、是ハ甚ダ不公平デアアル、境界査定ノ性質ノ問題ハ、第二段トシテ、兎モ角モ人民ノ側カラモ矢張境界査定ノ必要アリト信ジ政府ニ請求スルナラバ、政府ハ之ニ應ジテ境界査定ヲシナケレバナラヌ、斯様ニ致サナケレバ公平デアリト云フ考ヨリ挿入ヲ致シマシタ、尤モ委員會ニ於テ、政府ハ此點ハ勅令ヲ以テ決メル筈デアアルカラ、原案ノ儘ニシテ貫ヒタイト云フ意見デアッタ、既ニ勅令ニ於テ同様ノ趣旨ノ規定ヲ致スナラバ、此根本法タル本案ニ於テ、人民ノ方ノ側ノ權利トシテ、斯様ナ明確ナル規定ヲ置クト云フコトハ、立法ノ體裁ヨリ申シマシテモ如何ナル點ヨリ見テモ、本案ニ規定スルコトガ相當デアアル斯様ニ私ハ信スルノデアアル、ソレカラ第十三條デゴザイマスガ、言フマデモナク國ガ一ツノ不動産ヲ所有致シテ居リマスレバ、其所有權者トシテハ、全然個人ト對等ノ地位ニ立ツベキモノデアッテ、國ガ財産ヲ所有シテ居ル爲メニ、國ノ所有スル所有權ガ、個人ノ所有スル所有權ヨリモ優越ナル權利ニナルト云フコトハ斷シテ無イ、民法上ノ所有權ノ性質範圍ハ、總テ國ガ所有ヲ致ス場合ト雖モ、同様デナケレバナラヌト云フコト勿論デス、ソレ故ニ若シ境界ニ就テ爭ガアルト云フコトデアレバ、則チ所有權ノ一種ノ爭デアアル、所有權ノ爭ハ所謂民法上ノ爭議デゴザイマスルカラ、此爭議ヲ判斷シテ之ヲ確定スル權能ヲ持ッテ居ル者ハ是ハドウシテモ司法機關デナクテハナラヌ、行政機關ガ民法上ノ私權ニ關スル爭ヲ、確定的ニ裁判ラスルト云フ權能ハアルベキ筈デハナイノデアアル、斯様ニ考ヘマスト、境界査定ト云フコトヲ元來行政處分ト見タノガ誤デアアル、是ハ舊キ思想デ所謂官地——御上ノ土地デアルト云フ舊キ思想カラ段々參ッテ來テ、ソコデ官民有土地ノ區分ニ關スル私權ト云フヤウナモノヲ、訴願法ノ第一條ニ持ッテ、參ッテ行政處分トシテ從來扱ヒ來ッテ居ルノデゴザイマスガ、併ナガラ前申ス如ク、元來ガ民法上ノ私權ニ關スル爭デアアル以上ハ、是ハドウシテモ司法機關ノ司法權ノ發動ニ俟タナケレバナラヌト云フコトハ當然デアアル、勿

論國家ノ權力ガ最高ナルノデアアルカラ、ドチラニスルモ差支ガ無イト言ヘバ言ヒ得ルカモ知レヌ、殊ニ司法事件ト行政事件トノ區別ハ、憲法ニ於テハ消極的ニ行政裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ司法裁判所ガ裁判ガ出來ナイ、斯様ニシテ司法事件ト行政事件トヲ區別致シテ居リマスカラ、無理ニ言ヘバ如何ヤウニモ出來マセウガ、併ナガラ本來法律上ノ法理論ノ性質トシテ、私權ニ關スル争ハ司法裁判所ガ判斷ヲスルト云フコトハ當然デアアル、サウスレバ此訴願法ノ第一條ニゴザイマスル土地ノ官民區分ニ關スル事件ト云フガ如キ、舊キ思想ノ遺ッテ居ルト云フコトハ、斯様ナル立法ノ機會ニ於テ、之ヲ改正ヲスルト云フコトハ當然デナケレバナラヌ、若シ左様ニ致サナケレバ、隣地所有者ノ實際ニ於テモ、權利ノ擁護ト云フコトハ出來マセヌ、以上申シタノハ專ラ法理上ノ觀察ニ基イタノデゴザイマスガ、更ニ此實際ノ點ヨリ考ヘテ見マシテモ、若シ之ヲ矢張行政事件ト致シテ、行政裁判所マデ一々持ッテ來ナケレバナラヌト云フコトニ致シマスレバ、遠隔ナル地方ヨリハヨク重大ナル事件ニ非ズンバ、實際ニ於テ出訴スルコトガ出來ナイ、サウスルト先刻上島君ガ申シタ如ク、下級官吏ノ致シタ唯ダ圖面ノ上ナドデ、實際ノ狀況モ何モ知ラズシテ境界ノ査定ヲ致シテ、事實ニ於テハ之ニ服從シナケレバナラヌト云フコトニナルノデアアル、斯様ナル事ハ權利ノ保護ヲ全ウスル道デハ斷ジテナイト思ヒマス、ソレカラ又人民ノ側ヨリ申セバ左様デアアルガ、之ヲ裁判スル方ノ側ヨリ觀察シテモ、行政裁判所ヘ持ッテ參ッテ、斯様ナル民法上ノ純然タル私權ニ關スル争ヲ裁判セシムルト云フコトハ、是ハドウシテモ專門デナイカラ方角違デアアル、境界ノ如キ問題ハ裁判所構成法ニ於テモ、現ニ區裁判ノ管轄トシテ、一般現場ノ檢證ヲスルニ便宜ノヤウニ、實際ノ事情ガ最モ明カニナルヤウニト云フ意味ニ於テ、區裁判所ノ管轄ニ屬セシメテ居ルト云フヤウナコトデアアル、斯様ナル點カラ考ヘテモ行政事件ト云フコトヲ止メテ、普通事件トシテ境界確定ノ訴ヲ起サシムルト云フコトニ改メルコトハ、ドウシテモサウシナケレバナラヌ、此點ハ委員長タル清水君ノ如キ、或ハ委員ノ宮古君ノ如キモ在野法曹ノ御方ハ恐ラク御賛成デアッタト云フコトハ私ハ十分ニ察シテ居ル、唯ダ原案ヲ傷ケナイト云フコトノミヲ考ヘズシテ、斯様ナ問題ハ所謂政黨ノ争ニ屬スベキ問題デナク、純然タル法律上ノ問題デ

アリマスカラ、政友會ノ諸君モ此點ニ就テハ法律家ノ意見ニ重キヲ置カレテ、黨派問題トセズシテ、私ノ說ニ御賛成下サルト云フコトガ最モ適當デアラウト思ヒマス、其次ハ第二十四條ノ寺院ノ土地ニ係ル問題デアリマスガ、是ハ第二十七議會以來、數回或ハ請願ノ形式ニ依リ、若クハ法律案ト致シテ本議場ニ現ハレマシテ、小川平吉君、或ハ鶴澤總明君ノ如キ、只今ノ議長奥繁三郎君ノ如キモ、矢張其提出者若クハ贊成者トシテ御盡力ニナッタ方デアリマスカラ、此問題ニ就テモ詳細ニ論ズル必要ハナイト思ヒマスガ、要スルニ寺院ノ土地財產ナルモノハ、明治ノ初年、今日ノ如ク所有權ト云フヤウナ法律上ノ觀念ノ未ダ發達セザル時代ニ於テ、一面ニハ官憲ノ力ヲ以テ如何ナル事モ爲シ得ルト云フ時代ニ於テ、時ノ政府ガ亂暴ニモ之ヲ取上ゲタモノデアルト云フコトハ、是ハ天下周知ノ事實デアアル、而シテ之ヲ今日ノ法律家ノ研究ヨリ申シマシテモ、矢張寺院ハ一個ノ人格者デアッテ、元ト明治以前ニ持ッテ居タモノハ、矢張寺院一個ノ所有權デアルト云フコトハ、既ニ學者ノ定論ニナッテ居ルノデアアル、斯様ナルモノヲ今日國有財產トシテ其範圍ヲ定メル機會ニ於テ、元ノ所有者ノ返シテヤルト云フコトハ最モ機宜ヲ得タルモノデアッテ我國ノ宗教ハ明治維新前ヨリ文化ノ中心ハ、實ニ佛教デアッタノデアアル、諸君モ御承知ノ如ク今日全國何レノ所ヘ參リマシテモ、津、浦、ニ到ルマデ、寺院ト云ヘバ高ク聳エテ、或ハ風景トナルベキコトモアルシ、兎モ角モ此佛教ノ偉大ナル力ト云フコトハ、矢張寺院ト云フ此建築物其物が既ニ之ヲ語ッテ居ルノデアアル、今ヤ我國ノ思想界ノ現狀ハ、床次内務大臣ハ浪花節ヲ高等官待遇トシテマデモ、國民ノ思想ノ善導ニ努メナケレバナラヌト云フヤウナ時節デアアル、此時ニ當ッテ是等ノ寺院等ハ相當保護ヲ加ヘテ、矢張社會ノ爲メ、國家ノ爲メニ貢獻セシムルト云フコトニスルコトハ、今日ノ政略ノ問題ヨリ申シテモ、當ニ時機ヲ得タルモノデアルト私ハ信ズル、元來ガ寺院ノ所有デアルト云フコトガ明確ニナッテ居ルノニモ拘ラズ、尙ホ強テ明治初年ニ致シタル亂暴ナル遣方ヲ何所迄モ貫クト云フコトハ、是ハ明ニ誠意ノ觀念ニ反スルノミナラズ、只今申ス如ク政略ノ問題ト致シテモ、甚ダ探ルベキ事デナイト云フコトハ勿論デアルト思ヒマス、要スルニ尙ホ其點ニ就テ申シマスルガ、此第二十四條ハ改正ヲ致シマシテ附則ノ中ニ入レマシタ、是

ハ先刻委員長ノ報告ニモゴザイマスル通り、一時的ノ事ヲ本則ノ中ニ入レルト云フコトハ穩カデ
ナイ、斯様ニ考ヘマシタカラ、附則トシテ此法律ノ力ヲ發生セシメテ、之ニ依ッテ寺院ヲシテ永ク
其所有權ヲ取得セシムル、斯様ナル意味ニ於テ此點ハ特ニ注意ヲ致シテ、附則ノ中ニ加ヘタノデ
ゴザイマス、以上ノ修正ニ對シテハ、何レモ諸君ニ於テモ其理由精神、何レノ點ヨリ見テモ、反對
ヲセラルベキ理由ハ無イモノト信ジマスカラ、黨派心ニ囚ハル、コトナク、雅量ヲ以テ是非御贊
成アラシコトヲ此機會ニ於テ切望致シマス

討論ニ入り宮古啓三郎君ハ左ノ如ク委員長ノ報告ニ贊成ノ演說ヲ爲ス

私ハ特別委員ト致シマシテ、委員長ノ報告案ニ贊成ヲ致シマシタ關係ガゴザイマスカラ、只今野
田君等ヨリ修正案ガ提出ニナリマシタ以上ハ、一應其理由ノ無イコトヲ辯駁シ置クノ必要ガア
ルト存ズルノデアリマス、野田君等ノ案ノ第一ノ修正ヲセント致シマスノハ、本案ノ第十條ノ中
「隣接地所有者ハ境界査定ヲ請求スルコトヲ得」ト云フ一條ヲ加ヘタイト云フ趣意デアリマス
此點ニ就キマシテハ委員會ニ於テ質問應答ガアリ、結局不必要ナリトシテ止メルコトニ致シタ
ノデアリマス、其趣意ハ元來此法律ハ、何人カラ境界査定ヲ要求スルカト云フコトヲ規定シタモ
ノデハナイノデアアッテ、人民側ノ要求ニ係ラウトモ、官ノ都合ニ依ルトモ、孰レニシテモ境界査定
ヲスルトキニハ、斯ミ致サウト云フ所ノ案デアアルノデアリマス、ソレデアリマスルカラ、是ニ人
民側ノ方カラ境界査定ノ請求ヲスル權利ヲ規定スルト云フコトハ、此條文ノ性質ニ副ハナイモノ
デアアル、其故ニ此點ニ就キマシテハ、別ニ勅令ヲ以テ定ムルト云フコトガ至當デアラウト云フコ
トデ、政府ニモ交渉ヲ致シ政府ニ於テモ之ニ同意ヲ致シテ、此點ニ就キマシテハ、勅令ヲ以テ明
ニ規定スルト云フコトヲ聲明サレタノデアリマス、ソレデアリマスルカラ是ヨリ後ニ於キマ
シテ必ズ政府カラシテ勅令トシテ此點ハ出ルノデゴザイマスルカラシテ、此法律ニ之ヲ規定ス
ルノ必要ハ無イノデゴザイマス其次ノ問題ハ第十三條ヘ持ッテ、行ッテ、人民ノ方カラシテ司法裁
判所ニ訴ヘルト云フノ權利ヲ認メルコトニ致シタイ、行政訴訟ト云フコトニ必ズシモ限定スル

ヤウナコトデナク、寧ロ行政裁判所デハナク、司法裁判所デ裁判スルコトニ致シタイト云フノガ
修正案ノ骨子デゴザリマスル、是ハ一應御尤デハゴザリマスルガ、元來今日迄境界査定ト云フコ
トニ對シマシテハ、總テ行政訴訟デ救濟ヲ致シテ來タノデアリマス、勿論此點ニ就キマシテハ、
土地ト云フコトハ寧ロ入ラズシテ、國有林野デアッタノデゴザリマスルガ、國有財産ノ中デハ、森
林原野ト云フモノガ一番多イノデゴザリマシテ、唯ダ單ニ土地ト云フ名目ノ付クモノハ、極メテ
小部分デゴザリマスル、デアリマスルカラシテ國有財産ノ大部分ト云フモノハ、今日矢張官ニ於
テ査定ヲ致シ、而シテ之ニ對シテ不服ノアル場合ニハ、行政裁判ヲヤリ來ッタノデアリマス、其今
日迄ノ例ヲ引イテ此法律案ニハ矢張境界査定ニ對シマシテハ、行政訴訟ノ途ヲ開クト云フコト
ニ致シタノデアリマス、ソコデアリマスモナク、境界査定ト云フコトハ一ツノ行政處分デアアル、行
政處分ニ對シテハ、行政訴訟ノ途ニ依ルト云フノガ、是ガ正當ナ方法デアリマス、ソレデアリ
マスカラシテ、司法裁判所ヘ行クコト必ズシモ不可ナリト云フ譯デアリマス、今日迄ノ
ヤリ來リ並ニ査定ト云フモノハ行政處分デアリマスル以上ハ、之ニ對シテ行政訴訟ニ依ッテ救濟
ヲスルト云フコトハ、決シテ惡イ事デハナカラウト思ヒマスル、加之行政裁判所ト云フモノヲ、
野田君ハ非常ニ輕ク御覽ニナッタヤウデアリマスルガ、行政裁判所ガ、必ズシモ司法裁判所ニ
劣ルモノデアリナイノデアリマス、今日ノ行政裁判所ガ、若シ惡カッタラバ、是ハ大ニ改善スルヲ
必要トスルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ何モ行政裁判所ガ、司法裁判所ニ劣ッテ居ル
譯デアリマス、ゴザイマセヌカラシテ、行政裁判所ニ依ッテ之ヲ判決スルコトガ、不可ナリト云フ理窟モ
無カラウト存ジマスカラ、此分モ敢テ修正ノ必要ハ無イト存ジマスル、而シテ又吾ミガ委員トシ
テ、此第十三條ヲ修正スルト云フコトニ致シマシタノハ、元ノ案ニ於キマシテハ洵ニ其範圍ガ狹
クテ唯タ單ニ「隣接地所有者」ト云フダケニ限ラレテ居ッタノデゴザリマスルガ、之ニ對シマシテ
ハ政府ノ見ル所、隣接地所有者トシタイト云フヤウナモノデゴザリマスルシ、自分等ガ見テ隣接
者ト思フテモ、政府ノ方デハ左様ニ考ヘタイト云フヤウナモノデゴザリマスルカラシテ、左様ナ
利害關係ノアリマスルモノハ、救濟スルノ至當デアルト云フノデ、此所ニハ「隣接地所有者」ト云

フ所へ「其ノ他」ト云フ文字ヲ入レマシテ、如何ナルモノデアツテモ、此査定ニ利害關係ノアル者ハ、行政裁判所ニ訴ヘルコトガ出來ルト云フコトニ致シタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府モ同意致シタイノデアリマス、其故ニ原案ヨリ之ヲ較ベテ見マスルト云フト、人民ノ權利ハ餘程廣ク相成ツテ居ルノデアリマス、爰ニ一言後日ノ爭ヲ防グ爲メニ申上ゲテ置キタイ事ガアリマス、ソレハ隣接地所有者ト云フ者ニ對シマシテハ通知ヲ致ス、併ナガラ隣接地所有者ト政府ガ見ナイ所ノ人ニ對シテハ、通知ハシナイノデアアル、通知ヲ受ケナイ所ノ人ハ、何時カラ起算シテ六十日內ニ訴ヲ起スコトガ出來ルカ、是ガ一ツノ問題デアリマス、此點ニ就キマシテハ、通知ヲ受ケナイ所ノ人ハ、通知ニ依ツテ査定ト云フコトハ、分リマセヌノデゴザイマスルカラシテ、査定ト云フ事實ヲ知ツテカラ六十日ト云フ期日ヲ起算スルノデアアル、斯様ニ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、是ハ委員會ニ於キマシテモ質問應答ヲ致シマシタノデアツテ、政府ニ於テモ敢テ異論ハ無カタノデアリマス、必ズ此點ニ於キマシテハ、後日爭ガ起ルヤウナ事ガアラウト思ヒマスルカラ、故ラニ爰ニ一言致シテ置クノデアリマス、モウ一ツノ修正案ハ、本案ノ第二十四條ノ修正案デゴザリマスル、此點ニ就キマシテハ、私共モ大ニ野田君等ニ同情ヲ致スノデアアル、此點ニ就キマシテハ野田君ヨリモ今説明モゴザリマシタ通り、本院ニ於テモ度々議論ニナタコトガアルノデアリマス、之ニ同情ヲ致シマスル理由ト云フモノハ、元來社寺ノ舊境内地ト云フモノハ、其社寺ノ所有デアタモノガ多カッタノデアリマス、民有デアツタモノガ多カッタノデアリマス、其故ニ其民有デアツタ所ノ社寺ノ舊境内地ヲ政府ニ取上ゲタ形ニ相成ツテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ社寺ニ還付スルト云フコトハ、一應ノ理窟ハアルノデアリマス、併ナガラ此社寺ノ舊境内地ト云フモノガ、殘ラズ民有地ダト云フコトハ言ヘナイノデアアル、中ニハ無論民有地デナカッタモノモナケレバナラヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ此點ニ就テハ、殘ラズ民有地デアルト云フコトハ出來ナイノデアアル、而シテ此國有財産法ト云フ法律ハ、是ハ國有財産ニ對スル管理ノ方法ヲ規定シタ所ノ法律デアアル、國有ノ財産ト云フモノハ、實體上ノ權利如何ト云フコトヲ定メタモノデナイ寧ろ國有財産ノ運用ヲ定メタ法律デアリマス、其故ニ舊境内地デゴザイマシテモ、此物ハ官有ナ

リト云フコトノ趣意ヲ以テ立案シタ法律デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、此管理ノ事ヲ規定シマスル此法律案ニ持ツテ行ツテ、社寺ノ境内地ト云フモノハ、讓與シタモノト看做スト云フコトヲ書クト云フコトハ、此法律ノ本來ノ趣意デハナイノデアリマス、此本來ノ性質ニハ副ハナイノデアリマスカラ、此點ニ就テハ私共モ同情致シマスルガ、是ハ他ノ法律ヲ以テ規定スル方ガ、至當デアルト考ヘルノデゴザイマス、デアリマスルカラ此法案ニ持ツテ行ツテ——直チニ社寺ノ舊境内内地ト云フモノヲ持ツテ行ツテ、社寺ニ讓與シタモノト看做スト云フコトノ規定ヲ置クト云フコトハ適當ナリト云フコトガ出來ナイノデアリマスカラ、此點ニ於キマシテ、此修正案ニ同意ヲ致スコトガ出來ナイノデアリマス、モウ一ツハ本日ノ日程ニ上ツテ居リマスル國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案ト云フモノガ、戶狩權之助君ヨリ提出ニ相成ツテ居リマス、此法律案ハ社寺ニモ大ナル關係ヲ持ツテ居リマス、即チ社寺——ノ舊境内地デアツテ土地トナッタモノガ、元來其社寺ノ所有デアリマシタモノハ、此法律ニ依ツテ下戻スコトヲ得ルト云フコトニ相成ルノデアリマスカラ、野田君等ノ申サル、如クニ此舊社寺ノ境内地ナルモノガ民有デアツタカラ、之ヲ讓與スル必要ガアルト云フ御意見デアラバ、此國有土地森林原野下戻ニ關スル法律案ノ方ニ、即チ別段ナ法律ノ方デ、之ヲ其社寺ニ下戻スト云フコトニスルノガ至當デアルト考ヘルノデアリマスカラ、此點ヨリ致シマシテモ、此修正案ナルモノハ必要ガ無イモノデアラウト信ズルノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ此修正案ニ對シマシテハ、同意致スコトガ出來ナイト云フコトヲ言明致シマス

他ニ討論ノ通告ナク修正案ニ付起立表決ノ結果少數ニテ之ヲ否決シ次テ委員長ノ報告ニ付表決ノ結果起立多數ニテ之ヲ可決ス

院議異議ナク本案ノ第三讀會ヲ開クニ決シ引續キ第三讀會ヲ開キ第二讀會議決(委員會修正)ノ通修正議決ヲ爲シ即日之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ三月二十三日日本案ヲ可決奏上シ四月八日法律第四十

三號ヲ以テ公布セラル

少年法案

第一章 通則

第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ

第二條 少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第三條 本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條第九條ニ掲ケタル者ニ之ヲ適用セス

第二章 保護處分

第四條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 訓戒ヲ加フルコト

二 學校長ノ訓誡ニ委スルコト

三 書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト

四 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト

五 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

六 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

七 感化院ニ送致スルコト

八 矯正院ニ送致スルコト

九 病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章 刑事處分

第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス

刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第八條 少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條 懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄内ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人十八歳ニ達シタル雖ト二十三歳ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條 少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一 無期刑ニ付テハ七年

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年

三 第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條 少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其處分ヲ取消サルルコトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行ヲ終リタルモノトス

少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ處分ヲ取消サルルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條 少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 少年ニ對シテハ勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十四條 少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行免除ヲ受ケタルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス
前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ

付テハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

第四章 少年審判所ノ組織

第十五條 少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク

第十六條 少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコトヲ得

第十八條 少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條 少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條 少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督ス

二人以上ノ少年審判官ヲ置キタル少年審判所ニ於テハ上席者前項ノ規定ニ依ル職務ヲ行フ

第二十一條 少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官ハ判事ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十二條 少年審判官審判ノ公平ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事由アリト思料スルトキハ職務ノ執行

ヲ避クヘシ

第二十三條 少年保護司ハ少年審判官ヲ輔佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年保護事業ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スル

コトヲ得

第二十四條 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ従事ス

第二十五條 少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲

シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章 少年審判所ノ手續

第二十六條 大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條 左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判

所ノ審判ニ付セス

一 死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

二 十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第二十八條 刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條 少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審

判所ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條 通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齢、

職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ
通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ
職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行
境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ
心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條 少年審判所ハ少年保護司ニ命シテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條 少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命シ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得
保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條 少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシ
ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條 參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得
第三十六條 少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ
得

第三十七條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 條件ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預クルコト
- 二 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
- 三 病院ニ委託スルコト
- 四 少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得
第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條 前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ
第四十條 少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日
ヲ定ムヘシ

第四十一條 審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ
第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條 少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲附添人ヲ附スルコ
トヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得
附添人ハ辯護士、保護事業ニ従事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツ
ヘシ

第四十三條 審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ
呼出ササルコトヲ得

第四十四條 少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコ
トヲ得

第四十五條 審判ハ之ヲ公行セス但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ従事スル者其ノ他
相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條 少年審判所審理ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處
分ヲ爲スヘシ

第四十七條 刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴追ノ必要アリト
認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲ヘシ
前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ
檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ
通知スヘシ

第四十八條 訓誡ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘ
キ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條 學校長ノ訓誡ニ委スヘキト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本
人ニ訓誡ヲ加フヘキ旨告知スヘシ

第五十條 改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約者ヲ差出サシム
ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條 條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護
監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條 寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スヘシ

第五十三條 少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條 感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條 刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條 少年審判者ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作り審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ處分ヲ爲シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 少年審判所第五十一條及第五十二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ視察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二

十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六十一條 第三十五條及前條ノ費用並矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章 裁判所ノ刑事手續
第六十二條 檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第六十三條 第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該

ルヘキ事件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ付刑事訴追ヲ爲スコトヲ得ス但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ

少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十五條 裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條 勾留狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス

拘留監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ

第六十八條 少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ

第六十九條 少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ

第七十條 裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第七十一條 第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ

檢事ハ前項ノ決定ニ對シ三日内ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第七十三條 第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第七十四條 少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三 矯正院法案

第二章 議事 第四節 議案 第二款 議案ノ討議 第四項 法律案

矯正院法

- 第一條 矯正院ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル十二歳以上ノ性狀特ニ不良ナル者ヲ收容スル所トス
- 第二條 矯正院ニ收容スヘキ者ハ少年審判所ヨリ送致シタルモノ及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタルモノニ限ル
- 第三條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十三歳ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第四條 矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク
- 第五條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク
- 第六條 十六歳ニ滿タサル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス
- 第七條 矯正院ハ之ヲ國立トス
- 第八條 矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ囑ス
- 第九條 司法大臣ハ少クトモ六月毎ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ
- 少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ
- 第十條 在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必要ナル

實業ヲ練習セシム

- 第十一條 矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得
- 第十二條 矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ
- 第十四條 矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得
- 假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス
- 第十五條 假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得
- 第十六條 在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得
- 少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第十七條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム